

第435図 豎穴状遺構 (SK-270・398・409・470) 実測図

第270号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 4 黒褐色 炭化物・ローム大ブロック・ローム粒子少量

第398号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量, 炭化物・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量, 炭化物少量

第409号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム中ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子極少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子中量, 炭化物少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量

第470号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, ローム大ブロック極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック極少量
- 5 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック・ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量

② 粘土張り遺構

第360号土坑 (第444図)

位置 調査区の中央部やや東側, C18f5区。

重複関係 第86号住居跡を掘り込んでいる。

長径方向 N-16°-W

規模と平面形 長径1.12m, 短径0.95mの楕円形で、深さ52cmである。

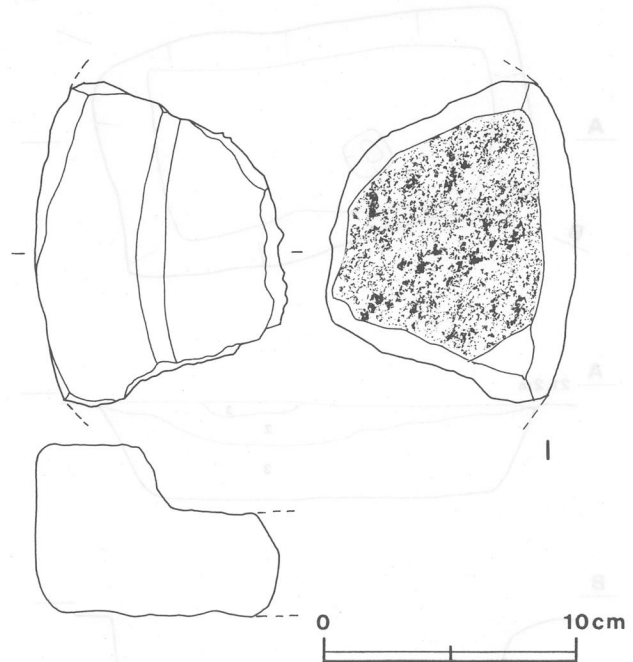
壁 外傾して立ち上がる。

底面 厚さ10cmほどの粘土張りで、平坦である。

覆土 4層からなる。ロームブロックを含み、人為堆積と思われる。

遺物 覆土中から第436図1の石臼が出土している。

所見 時期を判断する遺物は出土してないが、遺構の形態から近世の「流し溜」と思われる。



第436図 第360号土坑出土遺物実測・拓影図

第360号土坑出土石製品観察表

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第436図1	石臼	(12.8)	(10.0)	6.9	(1204.7)	花崗岩	Q38 副溝 欠損品 覆土

第362号土坑（第444図）

位置 調査区の中央部やや東側，C18f4区。

重複関係 第82号住居跡と第363号土坑を掘り込んでいる。

長径方向 N-81°-E

規模と平面形 長径1.17m，短径1.04mの楕円形で，深さ30cmである。

壁 垂直に立ち上がり，粘土張りである。

底面 平坦である。粘土ブロックを含んでいる。

覆土 いずれの層にも粘土が含まれている。

遺物 なし。

所見 本跡の東側で第363号土坑，北東側で第364号土坑が確認されている。いずれも粘土張り遺構で，第363号土坑は本跡の後に作られたものと思われる。遺構に伴う遺物は出土していないが，遺構の形態から近世の墓壙と思われる。

第363号土坑（第444図）

位置 調査区の中央部やや東側，C18f4区。

重複関係 北側部分が第364号土坑に，西側部分が第362号土坑に掘り込まれている。

長径方向 N-67°-E

規模と平面形 長径1.55m，短径1.44mの円形で，深さ47cmである。

壁 垂直に立ち上がり，粘土張りである。

底面 平坦である。粘土は張られていない。

覆土 1層からなり，一挙に埋め戻されたと思われる。

遺物 なし。

所見 本跡の北側で第364号土坑，西側で第362号土坑が確認されており，いずれも粘土張り遺構である。どちらも本跡の後に作られたものと思われる。遺構に伴う遺物は出土していないが，遺構の形態から近世の墓壙と思われる。

第364号土坑（第444図）

位置 調査区の中央部やや東側，C18f4区。

重複関係 第82号住居跡と，南側部分で第363号土坑を掘り込んでいる。

長径方向 N-41°-E

規模と平面形 長径0.80m，短径0.70mの楕円形をしている。

底面 厚さ10cmの粘土張りで，平坦である。

遺物 なし。

所見 本跡の南側で第363号土坑，南西側で第362号土坑が確認されている。いずれも粘土張り遺構で，第363号土坑は本跡の後に作られたものと思われる。本跡の覆土は残存しておらず，底面の粘土が確認できただけで，壁の立ち上がりは不明である。遺構に伴う遺物は出土していないが，遺構の形態及び粘土張りの第362，363号土坑が近接していることから，本跡は近世の墓壙と思われる。

第367号土坑（第444図）

位置 調査区の東部，C18c9区。

長径方向 N-0°

規模と平面形 径0.80mの円形をしている。

底面 厚さ10cmの粘土張りで，平坦である。

覆土 覆土は削平されて残存していない。土層1は底面に粘土を張った後埋め戻されたものである。

遺物 なし。

所見 本跡の覆土は残存しておらず，底面の粘土が確認できただけで，壁の立ち上がりは不明である。遺構に伴う遺物は出土していないが，遺構の形態から近世の「流し溜」と思われる。

第369号土坑（第444図）

位置 調査区の中央部やや東側，C18d5区。

重複関係 第93号住居跡を掘り込んでいる。

長径方向 N-37°-W

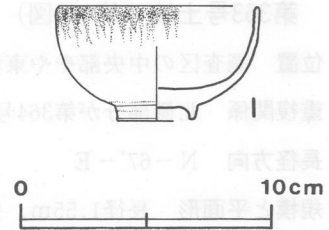
規模と平面形 長径1.10m，短径0.94mの楕円形で，深さ29cmである。

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 粘土張りで，中央部が最も厚く5cmほどで，平坦である。

覆土 3層からなる。土層2は粘土粒子を多量含んでブロック状に堆積しており，人為堆積と思われる。

遺物 第437図1の碗が覆土下層から出土している。



第437図 第369号土坑出土遺物実測図

第369号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第437図	碗	A〔8.0〕	染付の碗。高台は直立し，体部は	ロクロ成形。削り出し高台。	胎土：灰白色	P130 50%
1	磁器	B 4.0	内彎しながら立ち上がる。		釉：透明	覆土下層
		D 3.0			良好	(肥前系) 18c
		E 0.6				

所見 遺構の形態及び出土遺物から近世の墓壇と思われる。

第574号土坑（第444図）

位置 調査区の東部，C19e1区。

重複関係 第573号土坑を掘り込んでいる。

長径方向 N-0°

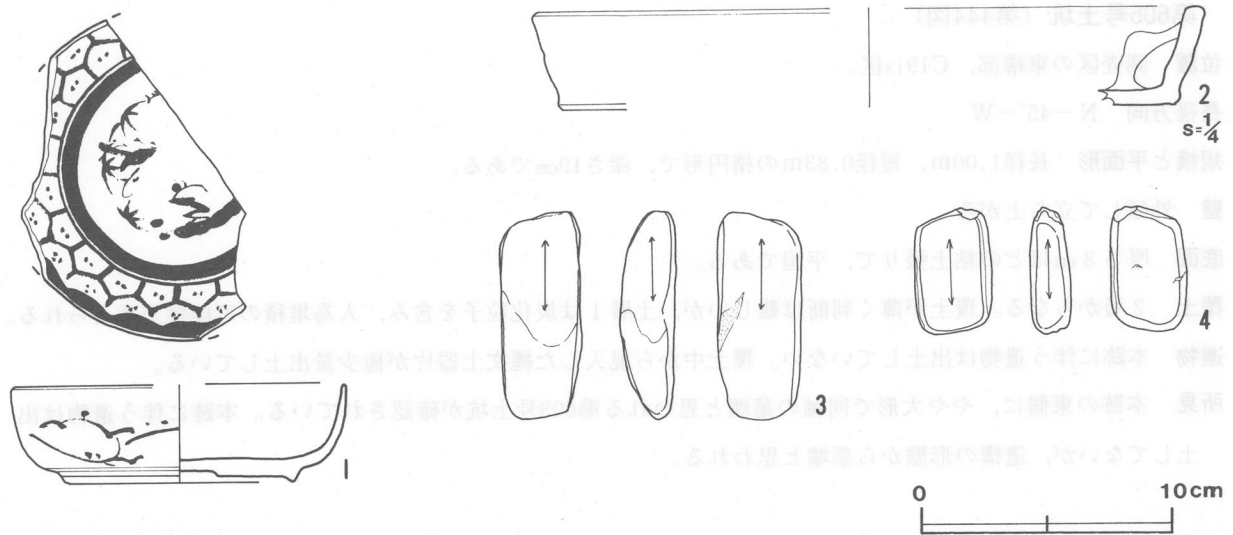
規模と平面形 径1.07mの円形で，深さ46cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 厚さ5cmほどの粘土張りで，平坦である。

覆土 10層からなる。ブロック状に堆積した人為堆積である。

遺物 底面近くから第438図1の皿と2のほうろく及び3，4の砥石が出土している。



第438図 第574号土坑出土遺物実測図

第574号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第438図 1	染付皿 磁器	A [13.4]	染付の皿。蛇の目高台。体部は内 彎しながら立ち上がる。	ロクロ成形。削り出し高台。	胎土：灰白色 釉：透明 良好	P187 40% 底面 (肥前系) 18c
		B 3.9				
		D 9.0				
		E 0.4				
2	ほうろく 土師質土器	A [35.2]	平底で、体部はやや外傾して立ち 上がった後直立する。体部内面上 半から底部に内耳貼り付け。	内・外面ナデ。	砂粒・スコリア にぶい褐色 普通	P188 10% 底面 外面煤付着 近世後半
		B 5.2				
		C [32.0]				

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第438図 3	砥石	8.3	3.3	2.3	85.7	凝灰岩	Q48 底面
4	砥石	(5.1)	3.1	1.6	38.3	凝灰岩	Q49 一部欠損 底面

所見 出土遺物から近世の墓壇と思われる。

第603号土坑 (第444図)

位置 調査区の東端部, C19is区。

長径方向 N-45°-W

規模と平面形 長径1.30m, 短径1.15mの楕円形で、深さ32cmである。

壁 垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。南部に幅12~15cm, 最大厚6cmほどの粘土が弦状に張られている。

覆土 8層からなる。堆積状況から、人為的に埋め戻したと思われる。

遺物 覆土中から縄文土器片が極少量出土しているが、混入したもので本跡に伴うものではない。

所見 本跡の西側に、規模は異なるが同軸の粘土張り遺構の第605号土坑が確認されている。遺構に伴う遺物は出土してないが、遺構の形態から近世の墓壇と思われる。

第605号土坑（第444図）

位置 調査区の東端部，C19i8区。

長径方向 N-45°-W

規模と平面形 長径1.00m，短径0.83mの楕円形で，深さ19cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 厚さ8cmほどの粘土張りで，平坦である。

覆土 2層からなる。覆土が薄く判断は難しいが，土層1は炭化粒子を含み，人為堆積の可能性が考えられる。

遺物 本跡に伴う遺物は出土していない。覆土中から混入した縄文土器片が極少量出土している。

所見 本跡の東側に，やや大形で同軸の墓壙と思われる第603号土坑が確認されている。本跡に伴う遺物は出土していないが，遺構の形態から墓壙と思われる。

第639号土坑（第444図）

位置 調査区の東端部，D19b8区。

重複関係 第165号住居跡を掘り込んでいる。

長径方向 N-0°

規模と平面形 径0.68mの円形である。

底面 厚さ5cmの粘土張りで，平坦である。

覆土 覆土は削平され，堆積状況は不明である。土層1，2は掘り方部分の層で，土層1，2の上に灰白色の粘土が張られている。

遺物 なし。

所見 本跡の北西側に近接して粘土張りの第666号土坑が確認されている。また，1.6mほど西側でも粘土張りの第675号，685号土坑が確認されている。本跡は，底面の粘土張りが確認できただけで，壁の立ち上がりや覆土の堆積状況等は不明である。遺構に伴う遺物が出土しておらず，規模的にもやや小形であるが，周囲の粘土張り遺構との関係から，近世の墓壙と考えられる。

第653号土坑（第444図）

位置 調査区の東端部，D19c7区。

長径方向 N-26°-E

規模と平面形 長径1.30m，短径1.18mの楕円形で，深さ40cmである。

壁 垂直に立ち上がる。

底面 厚さ7cmほどの粘土張りで，平坦である。

遺物 なし。

所見 本跡の1mほど北側に，墓壙と思われる第657号土坑が確認されている。本跡に伴う遺物は出土していないが，遺構の形態から近世の墓壙と思われる。

第654号土坑（第444図）

位置 調査区の東端部，D19c7区。

長径方向 N-66°-W

規模と平面形 長径1.30m, 短径1.09mの楕円形で, 深さ74cmである。

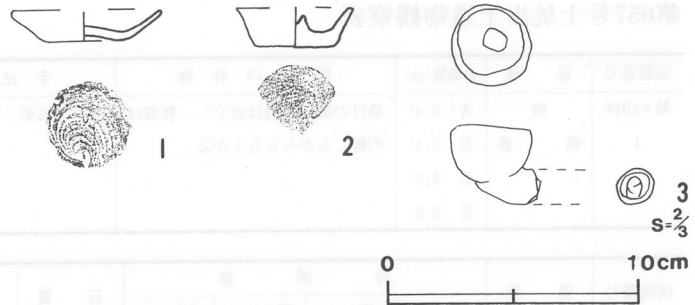
壁 やや外傾して立ち上がる。

底面 僅かに皿状である。

覆土 5層からなる。ロームブロックを含み, 人為堆積と思われる。

遺物 底面近くから第439図1の小皿, 2

の乗燭及び3の煙管が出土している。



第439図 第654号土坑出土遺物実測・拓影図

第654号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第439図 1	小皿 土師質土器	A〔6.0〕 B 1.2 C〔3.4〕	底部から口縁部にかけての破片。 上げ底で, 体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P201 45% 底面
2	乗燭 土師質土器	A〔4.6〕 B 1.6 C〔3.2〕	底部から口縁部にかけての破片。 たんころ形。平底で, 体部は外傾して立ち上がる。底部内面中央に円筒状の芯立てを有し, 一面が縦に溝状に切り込まれている。	体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒 にぶい橙色 普通	P202 40% 底面 内・外面煤付着

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
第439図3	煙管	(1.8)	(1.6)		(3.0)	10	底面 M1 雁首	

所見 本跡は, 粘土張り部分は見られなかったが, 遺構の規模は他の近世の墓壇と類似しており, 出土遺物からも近世の墓壇と思われる。

第657号土坑 (第444図)

位置 調査区の東端部, D19b7区。

重複関係 第656号, 658号土坑を掘り込んでいる。

長径方向 N-19°-E

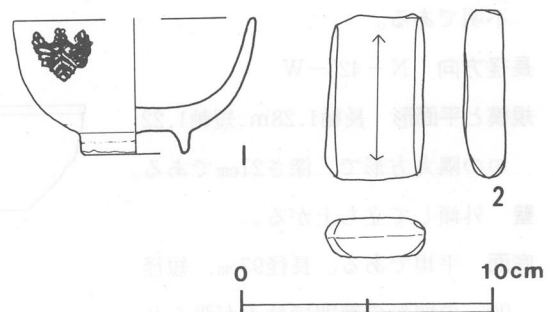
規模と平面形 長径1.18m, 短径1.05mの楕円形で, 深さ55cmである。

壁 垂直に立ち上がる。

底面 僅かに皿状である。底面の中央部を囲むように, 底面の端部から壁面の下部にかけてドーナツ状に粘土が張られている。厚さは最大で10cmほどである。底面中央部に粘土は見られない。

覆土 15層からなる。ブロック状に堆積しており, 人為的に埋め戻されている。土層2には骨粉が極少量含まれている。

遺物 北部覆土下層から第440図1の碗と2の砥石が出土している。他に内耳鍋の破片が極少量出土している。



第440図 第657号土坑出土遺物実測図

第657号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第440図 1	碗 磁器	A〔9.4〕	染付の碗。高台は直立し、体部は内彎しながら立ち上がる。	ロクロ成形。削り出し高台。	胎土：灰白色 釉：透明 良好	P203 60% 覆土下層 (肥前系) 18c
		B 5.4				
		D 4.0				
		E 0.8				

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第440図2	砥石	(6.6)	(3.9)	1.8	(67.3)	凝灰岩	Q58 欠損品 覆土下層

所見 本跡は、遺構の形態及び出土遺物から近世の墓壇と思われる。また、本跡の東西で楕円形状の第656号、658号土坑が確認されている。規模的には本跡とほぼ同規模であるが、粘土張りではなく、遺物も出土していないため性格は不明である。

第666号土坑（第444図）

位置 調査区の東端部，D19a8区。

重複関係 第165号住居跡を掘り込んでいる。

長径方向 N-0°

規模と平面形 径0.60mの円形である。

底面 厚さ5cmの粘土張りで、平坦である。

覆土 覆土は削平され、堆積状況は不明である。土層1は掘り方部分の層で、土層1の上に灰白色の粘土が張られている。

遺物 なし。

所見 本跡の南東側に近接して粘土張りの第639号土坑が確認されている。また、1.6mほど南西側でも粘土張りの第675号、685号土坑が確認されている。本跡は、底面に張られた粘土が確認できただけで、壁の立ち上がりや覆土の堆積状況等は不明である。「規模と平面形」も確認できた粘土張り部分についての形状及び数値である。遺構に伴う遺物がなく、規模的にも粘土張りの径が小さく、「流し溜」という見方ができるが、周囲の粘土張り遺構とのセット関係から近世の墓壇と考えられる。

第675号土坑（第444図）

位置 調査区の東端部，D19b7区。

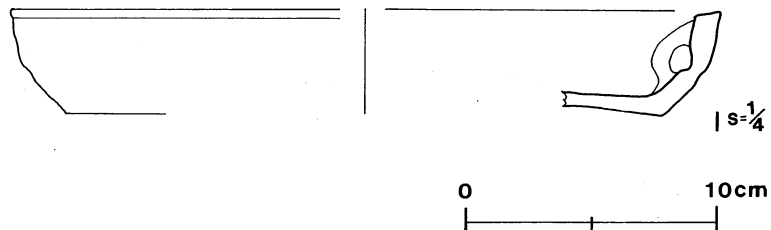
重複関係 第165号住居跡の南西壁を掘り込んでいる。北西側部分で第685号土坑と接しているが、新旧関係は不明である。

長径方向 N-42°-W

規模と平面形 長軸1.28m、短軸1.22mの隅丸方形で、深さ21cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。長径97cm、短径90cmの卵形の範囲で粘土が張られている。厚さは10cmほどで、褐色



第441図 第675号土坑出土遺物実測図

土と灰白色の粘土を混ぜ固めている。

覆土 土層は部分的な確認であったが、一挙に埋め戻した人為堆積である。

遺物 中央部底面から第441図1のほうろくが出土している。

第675号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第441図 1	ほうろく 土師質土器	A (37.0)	底部から口縁にかけての破片。上	内・外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P208 10% 底面 外面煤付着 近世後半
		B 5.5	げ底で、体部は内彎しながら立ち			
		C (31.0)	上がる。体部上位から下位に内耳 貼り付け。			

所見 本跡は北西側で粘土張りの第685号土坑と接しており、また1.6m程北西側で粘土張りの第639号、666号土坑が確認されている。これらのセット関係と出土遺物及び遺構の形態から近世の墓壇と思われる。

第685号土坑（第444図）

位置 調査区の東端部、D19b7区。

重複関係 第165号住居跡の南西壁を掘り込んでいる。南東側部分で第675号土坑と接しているが、新旧関係は不明である。

長径方向 N-42°-W

規模と平面形 長径1.35m、短径1.20mの円形で、深さ34cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。長径86cm、短径62cmの楕円形の範囲で粘土が張られている。褐色土に灰白色の粘土ブロックを少量混ぜて固めている。

覆土 西側を部分的に確認しただけのため土層断面図は割愛したが、ロームブロックを含み、各層がブロック状に堆積しており、一挙に埋め戻した人為堆積である。

遺物 なし。

所見 本跡は南東側で粘土張りの第675号土坑と接しており、また2mほど北西側で粘土張りの第639号、666号土坑が確認されている。本跡に伴う遺物は出土していないが、これらのセット関係と遺構の形態から近世の墓壇と思われる。

第688号土坑（第444図）

位置 調査区の東端部、C19h8区。

重複関係 第166号住居跡の南側部分の床面を掘り込んでいる。

長径方向 N-0°

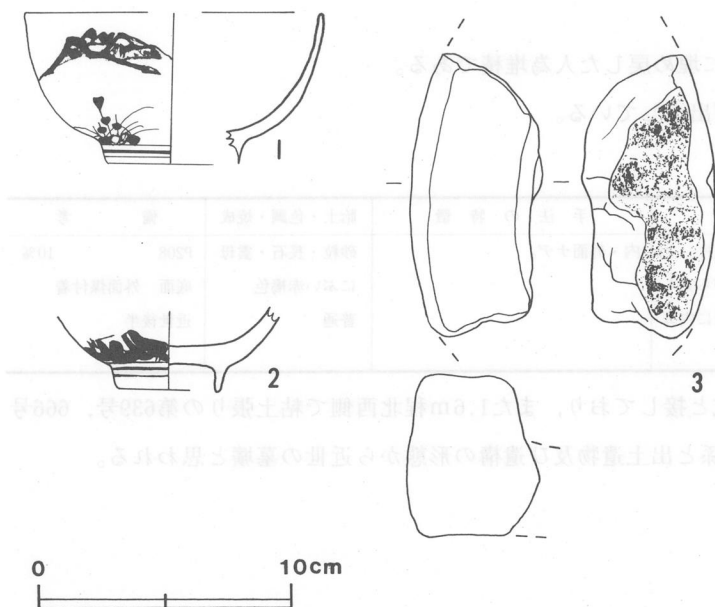
規模と平面形 径0.50mの円形である。

壁 上部削平のため残存していない。

底面 平坦である。褐色土に灰白色の粘土を混ぜ固めた粘土張りで、厚さは7cmほどである。

覆土 覆土は削平され、堆積状況は不明である。

遺物 底面から第442図1、2の碗が、本跡の東側から3の石臼が出土している。



所見 本跡の1.5mほど東側で、墓壙と思われる第689号土坑が確認されている。本跡は上部が削平され、底面に張られた粘土が確認されただけである。小規模で「流し溜」とも考えられるが、底面に張られた粘土の規模だけで、実際の規模等は不明である。出土遺物及び墓壙と思われる第689号土坑が近接していることから、近世の墓壙の可能性もある。

第442図 第688号土坑出土遺物実測・拓影図

第688号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第442図 1	碗 磁器	A [11.8]	底部から口縁部にかけての破片。	ロクロ成形。削り出し高台。	胎土：灰白色 釉：透明 良好	P210 30% 底面 (肥前系) 18c
		B 6.1	染付の碗。高台は直立し、体部は			
		D [5.3]	内彎しながら立ち上がる。			
		E 1.0				
2	碗 磁器	B (3.4)	底部片。染付の碗。高台は直立し、	ロクロ成形。削り出し高台。	胎土：灰白色 釉：透明 良好	P211 20% 底面 (肥前系) 18c
		D 4.2	体部は内彎しながら立ち上がる。			
		E 1.0				

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第442図 3	石 白	(11.3)	(5.3)	6.5	(585.7)	花崗岩	Q61 副溝 底面

第689号土坑 (第444図)

位置 調査区の東端部，C19hs区。

重複関係 第166号住居跡の南側の床面を掘り込んでいる。

長径方向 長径1.02m，短径0.68mの楕円形である。

壁 上部削平のため残存していない。

底面 平坦である。褐色土に灰白色の粘土を皿状に張っており，最大厚は10cmほどである。

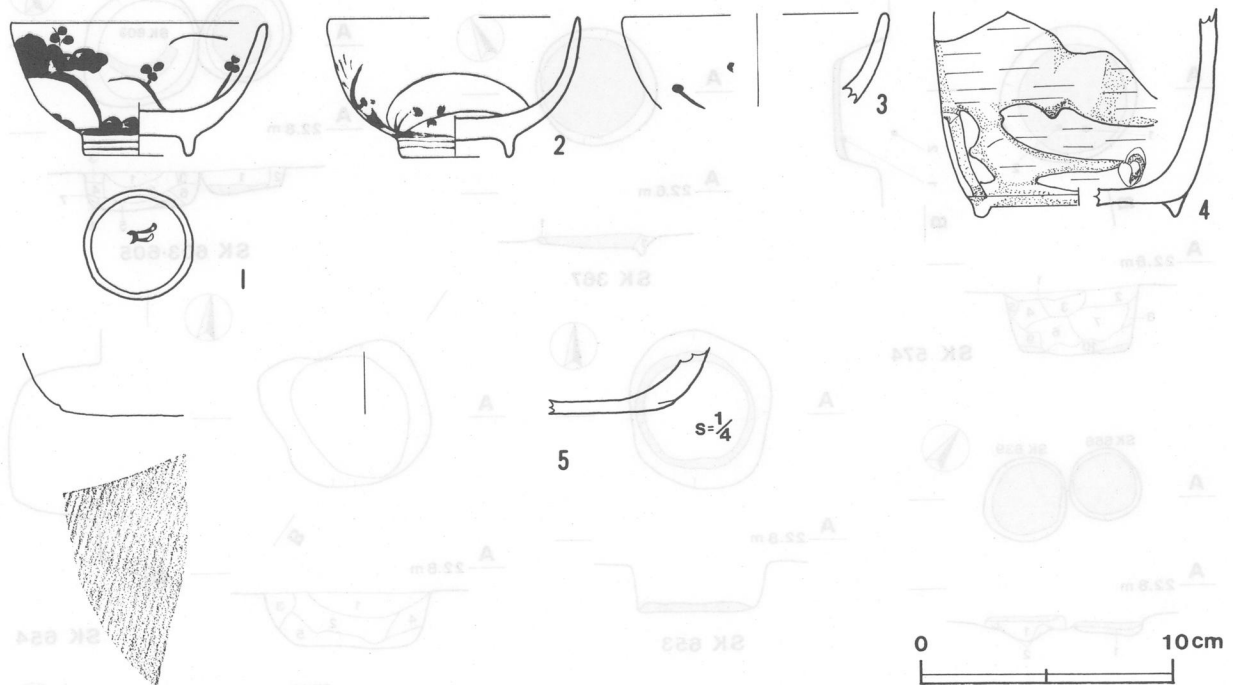
覆土 覆土は削平され，堆積状況は不明である。土層1は掘り方部分の層で，1の上に粘土を張っている。

遺物 底面から第443図1～3の碗と4の壺及び5のほうろくが出土している。

第689号土坑出土遺物観察表

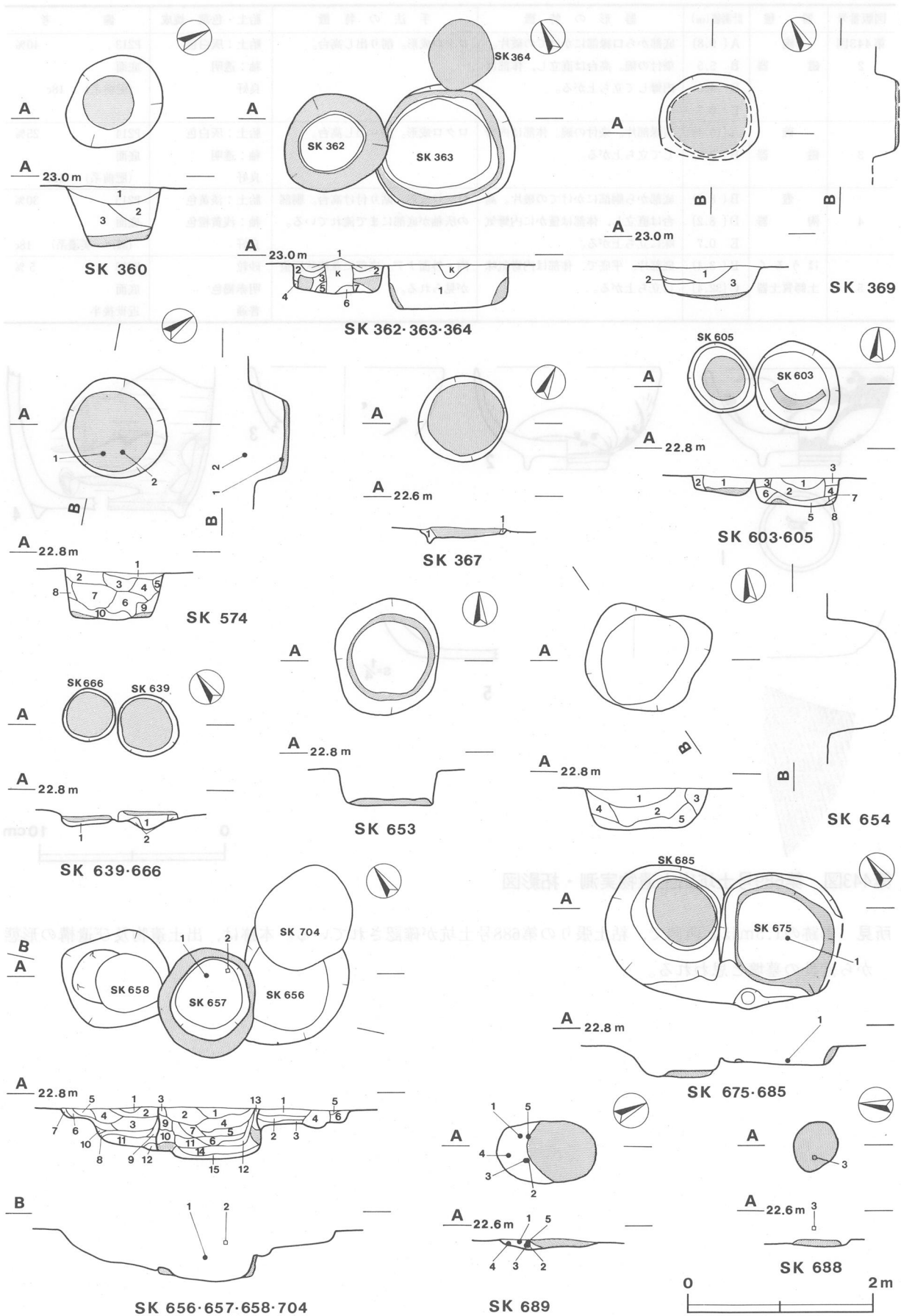
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第443図 1	碗 磁器	A 10.2	一部欠損。染付の碗。高台は直立し、体部は内彎して立ち上がる。	ロクロ成形。削り出し高台。	胎土：灰白色 釉：透明 良好	P212 70% 底面 (肥前系) 18c
		B 5.3				
		D 4.4				
		E 0.7				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第443図 2	碗 磁器	A [9.8] B 5.5 D 4.3 E 0.7	底部から口縁部にかけての破片。 染付の碗。高台は直立し、体部は 内彎して立ち上がる。	ロクロ成形。削り出し高台。	胎土：灰白色 釉：透明 良好	P213 底面 (肥前系) 18c 40%
3	碗 磁器	A [10.4] B (3.7)	口縁部片。染付の碗。体部は内彎 して立ち上がる。	ロクロ成形。削り出し高台。	胎土：灰白色 釉：透明 良好	P214 底面 (肥前系) 18c 25%
4	壺 陶器	B (8.2) D [8.2] E 0.7	底部から胴部にかけての破片。高 台は直立し、体部は僅かに内彎気 味に立ち上がる。	ロクロ成形。貼り付け高台。胴部 の灰釉が底部にまで流れている。	胎土：淡黄色 釉：浅黄橙色 良好	P215 底面 (瀬戸・美濃系) 18c 30%
5	ほうろく 土師質土器	B (3.4) C [32.4]	底部片。平底で、体部は内彎気味 に立ち上がる。	内・外面ナデ。底部に葦簾状圧痕 が見られる。	砂粒 明赤褐色 普通	P216 底面 近世後半 5%



第443図 第689号土坑出土遺物実測・拓影図

所見 本跡の1.5mほど西側で、粘土張りの第688号土坑が確認されている。本跡は、出土遺物及び遺構の形態から近世の墓壙と思われる。



第444図 粘土張り遺構実測図

第360号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 粘土粒子中量

第362号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 粘土小ブロック中量, ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 粘土大ブロック・粘土中ブロック多量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 6 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・粘土粒子少量

第363号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック少量

第367号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・粘土粒子中量, ローム小ブロック少量

第369号土坑 土層解説

- 1 褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子極少量
- 2 褐色 粘土粒子多量, 粘土中ブロック少量
- 3 暗褐色 粘土粒子少量, 焼土小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック極少量

第574号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 極暗褐色 ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化物極少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 9 極暗褐色 ローム粒子中量, 粘土粒子少量
- 10 黒褐色 ローム粒子中量, 粘土粒子極少量

第603号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 粘土小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 炭化物極少量
- 8 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

第605号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量

第654号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック極少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム大ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック・ローム中ブロック中量

第639号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, 炭化物極少量

第656号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, ローム小ブロック極少量
- 4 暗褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量

第657号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・粘土小ブロック少量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・骨粉極少量
- 3 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 5 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 8 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 粘土中ブロック極少量
- 9 褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 10 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量
- 11 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・粘土小ブロック少量
- 12 黒褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック少量
- 13 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック極少量
- 14 黒褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 15 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

第658号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子・粘土小ブロック少量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 5 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 9 褐色 ローム粒子中量, 炭化物極少量
- 10 褐色 ローム粒子中量
- 11 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量
- 12 褐色 炭化粒子・ローム粒子少量

第666号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック少量, ローム粒子多量

第689号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

③ 埋設遺構

埋設遺構は、調査区の西部で1基検出されている。

第553号土坑（第445図）

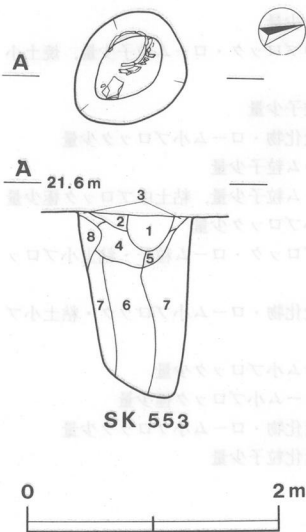
位置 調査区の西部，B16g6区。

重複関係 本跡は、第158号住居跡と第545号土坑を掘り込んでいる。

長径方向 N-4°-E

規模と形状 掘り方は長径0.98m，短径0.83mの楕円形で，最深部は166cmほどであるが，本跡の深さは42cmまでで，それ以下は本跡より古い掘り込みと思われる。

覆土 土層6と7は本跡より古い掘り込みの堆積土で，本跡の層は土層1～5と8である。土層2～5を人為的に埋め戻した後土層1で土器を固定していると思われる。



第445図 第553号土坑実測図



第446図 第553号土坑出土遺物実測・拓影図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量，焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子極少量
- 3 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子極少量
- 4 暗褐色 炭化粒子少量，焼土粒子・ローム小ブロック極少量
- 5 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子極少量
- 7 褐色 ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
- 8 褐色 ローム中ブロック中量，炭化粒子極少量

遺物 胴部中位以下欠損の第446図1の深鉢形土器が，掘り方のやや北寄りから正位の状態で出土している。

第553号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第446図	深鉢形土器	B(19.7)	胴部片。胴部は僅かに曲線を描いて立ち上がる。外面に無節Lが縦位回転で施文されている。	砂粒	P184 30%
1	縄文土器			にぶい橙色 普通	埋設土器 (中期後半)

所見 本跡の覆土に焼土が少量含まれており、土器埋設炉的な用途を果たしていた可能性がうかがえる。時期は、出土遺物から縄文時代中期後半と思われる。

④ 形状及び出土遺物に特徴のある土坑

ここでは、平面形や断面形等形状に特徴の見られる土坑と完形に近い土器や貝等出土遺物に特徴のある土坑64基について、遺構実測図、遺物がある場合には遺物の実測図、拓影図を載せ、さらに解説を必要とするものについては文章で記述する。

第207号土坑（第447図）

深さ98cmの円筒状の土坑で、中央部覆土中層から下層にかけて遺物が出土している。第463図1の深鉢形土器は横位の状態で、2の深鉢形土器は逆位の状態で中央部覆土中層から出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅣ式期と思われる。

第215号土坑（第447図）

深さ102cmの円筒状の土坑で、中央部覆土下層から遺物が出土している。第463図2の胴部片は底面、1の底部片、4の土製円板、5の敲石は覆土下層から出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅢ～Ⅳ式期である。

第463図2、3は縄文土器片の拓影図である。いずれも胴部片で、地文の単節縄文RLが2は微隆起線区画の磨消帯に、3は磨り消しを沿わせた曲線的な隆起線に切られている。2は中期加曾利EⅣ式、3は加曾利EⅢ式の範疇と思われる。

第232号土坑（第447図）

楕円形で、深さ122cmの土坑である。覆土は一挙に埋め戻されたと思われ、覆土中層から下層にかけて投棄と思われる遺物が一括して出土している。第463図1の深鉢形土器は中層と下層から、2の底部片は上層と中層からいずれもばらばらの破片で出土している。第464図7の土製品は攪乱層に伴う混入と思われる。8の石鏃は覆土中層から出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅣ式期前後と思われる。

第464図3～6は縄文土器口縁部片の拓影図である。3は単節縄文を切る磨り消しを伴う隆起線が見られる。4、5は地文の単節縄文を切る微隆起線区画の磨消帯が見られ、6は縄文を切る細い沈線区画の磨消帯が施されている。3は中期加曾利EⅢ式、4～6は中期加曾利EⅣ式に比定される土器と思われる。

第242号土坑（第447図）

深さ95cmの円筒状の土坑で、南東側寄りの底面に長径55cm、短径48cmの楕円形で、深さ75cmの小ピットを有する。中央部を主として覆土中から遺物が出土しており、第464図3の口縁部片は覆土上層、4の口縁部片は覆土中層、1の把手と2の口縁部片、6の把手は覆土下層から出土している。他に5の口縁部片は北西部壁際の覆土下層、7の有孔円板は覆土中から出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期中葉である。

第464図2～6は縄文土器口縁部片の拓影図である。2は波状口縁で、隆帯に沿って角押文、角押文から派生する細沈線と区画を構成する沈線が施され、その内部に鋸歯状沈線が見られる。3も波状口縁で、隆帯に沿って角押文が見られる。4は平縁で、隆帯に沿って爪形文や波状沈線が施されている。5は口縁部無文帯の下に

刻みを加えた隆線が横走し、以下円形、波状及び直線的モチーフが沈線で描かれている。これらは中期阿玉台Ⅲ式に比定される土器である。6は外面に楕円形、内面に2単位の円形の孔を有する立体的の把手で、孔の周囲及び外面の隆帯上には刻みが連続的に施されており、中期勝坂Ⅱ式の手法が見られる。

第402号土坑（第449図）

袋状土坑で、縄文土器が出土している。第465図1の底部片と2は覆土中から出土している。時期は、遺構の形態と出土遺物から縄文時代中期中葉と思われる。

第465図2は縄文土器片の拓影図である。無文の口縁部下に連続爪形文が横走されており、中期勝坂Ⅱ式に比定される土器である。

第408号土坑（第449図）

北側部分が調査区域外に伸びているが、区域内の形状から袋状土坑と思われ、遺物が出土している。第465図1の深鉢形土器は底面から、2の深鉢形土器と4はほぼ同位置で覆土下層から、3は覆土中層からいずれもばらばらの状態で出土している。時期は、遺構の形態と出土遺物から縄文時代中期中葉と思われる。

第465図5～8は縄文土器片の拓影図で、5～7は口縁部片、8は胴部片である。5、6には交互刺突文が見られ、7は縄文を加飾した隆線による区画内に角押文が充填されている。これらは中期中峠式に比定される土器である。8は地文の撚糸文を半截竹管による平行沈線及び弧状沈線が切断しており、大木8a式に比定されると思われる。

第410号土坑（第449図）

袋状土坑で、中央部やや北側の底面に小ピットを2か所有する。覆土中から縄文土器片が出土しており、第466図1も北西壁際覆土下層から出土している。時期は、遺構の形態と出土遺物から縄文時代中期中峠式期と思われる。

第466図4は縄文土器片の拓影図である。胴部片で、横位の隆帯上に円形文が連続している。手法は大木8a式の影響が見られる。

第414号土坑（第448図）

袋状土坑で、覆土中層から下層にかけて縄文土器片が出土している。第466図1の深鉢形土器はばらばらの状態で南西壁際及び北壁際覆土中層から、2の把手片は南西壁際覆土中層から、4は中央部東側の覆土下層から出土している。出土遺物は縄文時代中期中峠式期のものが主体で、遺構の形態からも本跡の時期と思われる。

第466図3～5は縄文土器口縁部片の拓影図である。3、4は口縁部文様体に交互刺突の「コ」字状文が施され、3は粘土貼り合わせにより先端が鋭利に突出する有孔の環状把手が口縁部文様帯に付され、胴部には縄文が施文されている。4は渦状の小突起と短沈線が口縁部に、胴部には櫛歯状施文具による流水状の沈線がやや斜行して施文されている。5は隆帯で区画を施し、隆帯上に縄文施文、区画内には連続爪形文が充填されている。いずれも中期中峠式に比定される土器である。

第417号土坑（第449図）

僅かに壁面が内傾するが、明確な袋状は呈していない。覆土中から第467図1の縄文土器片や2の磨石のほか極少量の遺物が出土している。遺物の時期は縄文時中期中葉が主体で、出土遺物が極少量のため特定は困難であるが、本跡の時期もこの範疇と思われる。

第467図1は縄文土器片の拓影図である。胴部片で、沈線で曲線的なモチーフが描かれ、隙間には刻みあるいは刻み状の短沈線が充填されている。中期中峠式前後の土器である。

第418号土坑（第450図）

楕円形の袋状土坑で、覆土中から第467図1の口縁部片や2の底部片等縄文時代中期中葉の遺物が出土しており、遺構の形態からも本跡の時期と思われる。

第467図2は縄文土器片の拓影図である。底部片で、地文に単節縄文RLが縦位回転で施され、半截竹管による4列の平行沈線が胴上部から斜位に垂下している。底部から5cmほどは無文である。

第421号土坑（第450図）

袋状土坑で、中期中峠式期前後の縄文土器片が極少量出土し、第467図1の磨製石斧も覆土中から出土している。時期は、出土遺物が極少量のため遺物からの特定は難しいが、遺構の形態からも縄文時代中期中葉と思われる。

第422号土坑（第450図）

袋状土坑で、東寄りの底面から径27cmの円形で、深さ25cmの小ピットが確認されている。覆土中から遺物が出土しており、第467図1の把手片は北西部覆土中層から出土している。3の敲石も覆土中からの出土である。中期阿玉台式期の遺物も極少量出土しているが、出土遺物の大半が縄文時代中期中峠式期前後で、遺構の形態からも本跡の時期と思われる。

第467図2は縄文土器片の拓影図である。波状口縁で、波頂部に刻みが施され、波頂部下には隆線が左右から垂下することによる三角形文が見られる。隆線下には連続爪形文と波状沈線が施され、以下単節縄文RLが縦位回転で施文されている。中期阿玉台Ⅲ式に比定される土器と思われる。

第425号土坑（第450図）

袋状土坑で、底面の東西に小ピットを2か所有する。いずれも径43cmほどの円形で、深さは東側が12cm、西側が24cmである。中央部から南側にかけての覆土中から遺物がばらばらの状態で出土しており、第468・469図3の深鉢形土器は覆土上層と中層から、6、9の深鉢形土器と10の把手は覆土中層から、4の深鉢形土器は覆土中層と南壁のオーバーハング部分の下から、同じく南壁のオーバーハングの下から5の深鉢形土器と8の深鉢形土器の口縁部が出土している。7の深鉢形土器も同位置と西部覆土中層から出土している。2の磨製石斧は覆土上層から出土している。時期は、遺構の形態と出土遺物から縄文時代中期中峠式期前後の範疇と思われる。

第467図1は縄文土器片の拓影図である。口縁部片で、口縁部上端に小突起を有し、その下に沈線で渦巻文が施され、両脇は横走沈線で口縁部文様帯が上下2段に区切られ、縦位の短沈線が充填されている。中期加曾利EⅠ式期の古い段階の時期と思われる。

第428号土坑（第451図）

袋状土坑で、底面の北東部に径36cmの円形で、深さ11cmの小ピットと、南東部に径27cmの円形で、深さ17cmの小ピットを有する。東部覆土中層から遺物が出土しており、第469図1の深鉢形土器も覆土中層からの出土である。遺構の形態と遺物が縄文時代中期阿玉台IV式期前後のものが出土していることから、本跡の時期もこの範疇と思われる。

第429号土坑（第451図）

袋状土坑で、南東部底面に長径41cm、短径28cmの楕円形で、深さ25cmの小ピットを有する。覆土中から遺物が極少量出土しているが、いずれも細片である。第469図1の把手片と2、3の磨石は覆土中から出土している。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期中峠式期と思われる。

第435号土坑（第451図）

袋状土坑で、覆土中層から第469図1の深鉢形土器等の遺物が出土しているが、ほとんどが破片である。時期は、遺構の形態と出土遺物から縄文時代中期阿玉台IV式期前後と思われる。

第437号土坑（第452図）

袋状土坑で、覆土中から遺物が少量出土している。第470図1の深鉢形土器口縁部片も覆土中から出土している。遺物の大半は縄文時代中期中葉で、遺構の形態からも本跡の時期と思われる。

第440号土坑（第452図）

袋状土坑で、覆土中から遺物が出土している。第470図1の深鉢形土器はばらばらの状態で覆土中から出土している。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期中峠～加曾利E I式期前後と思われる。

第442号土坑（第452図）

袋状土坑で、覆土中から遺物が出土している。第470図1の小形深鉢形土器は東部壁際覆土下層から横位の状態で出土している。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期加曾利E I式期前後と思われる。

第443号土坑（第452図）

袋状土坑で、底面中央部やや南側に長径42cm、短径38cmの卵形で、深さ58cmの小ピットを有する。第470図1の深鉢形土器はばらばらの破片で覆土中から出土している。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期中峠～加曾利E I式期である。

第470図3は縄文土器片の拓影図である。胴部から口縁部にかけての破片で、口縁部には沈線を沿わせた隆帯による渦巻文と三叉文が彫刻されており、隆帯上には刻みが加えられている。胴部は単節縄文RLが縦位回転で施文されている。中期中峠式に比定される土器である。

第444号土坑（第453図）

袋状土坑で、底面中央部やや北側に径38cmの円形で、深さ25cmの小ピットを有する。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期中峠式期である。

第471図1, 2は縄文土器片の拓影図である。1は胴上部から口縁部にかけての破片で、口縁部文様帯に沈線と隆線による同心円文や交互刺突の連続「コ」字状文が見られ、胴部には沈線が縦位に施されている。2は口縁部片で、交互刺突の「コ」字状文、隆帯上の刻み目が見られる。いずれも中期中峠式に比定される土器である。

第446号土坑（第453図）

袋状土坑で、北西壁際に長径70cm、短径49cmの不定形で、深さ9cmの浅いピットと、中央部南東側に長径46cm、短径42cmの卵形で、深さ52cmの小ピットを有する。西から北にかけての壁際覆土中層から遺物が出土しており、第471図1の深鉢形土器は西壁際から、2の浅鉢形土器は北西壁際から、いずれも覆土中層から出土している。時期は、遺構の形態と出土遺物から縄文時代中期中峠～加曾利E I式期の範疇と思われる。

第471図3は縄文土器片の拓影図である。波状を呈する口縁部片で、口縁部文様帯は沈線を沿わせた隆線で渦巻文やクランク文が描かれ、隙間には縦位の短沈線が充填されている。胴部文様帯は縦位回転の単節縄文RL地文で、直線的な平行沈線及び蛇行沈線が垂下されている。中期加曾利E I式に比定される土器である。

第449号・450号土坑（第454図）

2基とも袋状土坑で、第450号土坑は南東部と北西部の底面に径20～25cmの円形で、深さ20～26cmの小ピットを有する。新旧関係は不明であるが、2基とも覆土中から縄文時代中期中葉の遺物が極少量出土している。時期は、遺構の形態と出土遺物からいずれも縄文時代中期中葉と思われる。

第452号土坑（第455図）

袋状土坑で、第471図1の浅鉢形土器口縁部片は東部壁のオーバーハング部分の下、覆土下層から出土している。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期中葉と思われる。

第471図3, 4は縄文土器片の拓影図で、いずれも口縁部片である。3は口唇部上端の平坦部分を挟んでペン先状の連続刺突文を内側に沿わせた隆線が内外に巡らされている。胴部は同心円状の文様が沈線で施され、連続刻文が充填され、勝坂式の手法が見られる。4は波状口縁波頂部片で、隆帯に沿う連続爪形文と鋸歯状沈線が施されている。中期阿玉台Ⅲ式に比定される土器と思われる。

第453号土坑（第455図）

袋状土坑で、中央部に長径35cm、短径29cmの楕円形で、深さ49cmの小ピットを有する。また、北西部にも深さ53cmと50cmの楕円形小ピットを2か所有する。覆土中及び底面から遺物が出土しており、第472図1の深鉢形土器は東部底面から出土している。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅳ式期～中峠式期の範疇と思われる。

第472図2～5は縄文土器口縁部片の拓影図である。2, 3は口縁部に交互刺突の連続「コ」字状文が見られ、2は中央に沈線を沿わせた隆線で渦巻文と区画文を描き、区画内には縦位の短沈線が充填されている。3は口縁部隆線上に刻みが施され、胴部には縦位回転の単節縄文RLが施されている。これらは中期中峠式に比定される土器である。4は隆帯に沿う連続爪形文と半截竹管による半円状の刺突文が見られ、勝坂式の手法が見られる。5は波状口縁波頂部片で、隆帯に沿い沈線が施され、内部には曲線的な集合条線が描かれている。中期阿玉台Ⅳ式に比定される土器と思われる。

第454号土坑（第456図）

袋状土坑で、覆土中から縄文時代中期中葉の遺物が出土しており、遺構の形態からも本跡はこの時期と思われる。

第472図1は縄文土器片の拓影図である。胴部片で、鋭角的に屈曲する2本の隆線で区画文が描かれ、隆線間には部分的に波状沈線が見られる。内側の隆線には2列あるいは1列の沈線が沿い、区画内及び隆線上には単節縄文が施されている。中期阿玉台Ⅳ式の範疇と思われる。

第467号土坑（第455図）

北壁際に径55cmほどの不整形円形で、深さ55cmの小ピットを有する。覆土上層に最大厚10cmほどの混土貝層があり、主体はヤマトシジミであるがカワアイガイ3点と獣骨片1点を含んでいる。遺物は他に縄文時代中期中葉の土器片が極少量出土しているが、時期の特定は困難である。

第475号土坑（第456図）

袋状土坑で、覆土中から少量の遺物が出土している。第472図3の胴部片は北西部覆土下層から出土している。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅲ式期と思われる。

第472図2、3は縄文土器片の拓影図である。2は波状口縁波頂部片で、連続刻文を加えた隆帯に沿い複列の結節沈線文が施されている。3は胴部片で、爪形文を連続させた隆線、鋸歯状沈線及び半截竹管による平行沈線をセットで斜位に施文し、部分的に縄文が施されている、中期阿玉台Ⅲ式の時期と思われる。

第500号土坑（第457図）

深さ145cmの円筒状の土坑である。覆土中から遺物が極少量出土しており、第472図1の深鉢形土器は北西部覆土上層から出土している。時期は、出土遺物から縄文時代後期堀之内1式期である。

第472図1は縄文土器片の拓影図である。波状口縁で、地文に縄文が粗く施文され、舌状の波頂部両端から垂下する平行沈線が、鋸歯状に描かれた複列の斜行沈線に接続されている。後期堀之内1式に比定される土器である。

第512号土坑（第457図）

円形の土坑で、第473図1の深鉢形土器は覆土中層からばらばらの破片の状態出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅢ式期である。

第534A号土坑（第458図）

袋状土坑で、北西部底面に径46cmほどの不整形円形で、深さ28cmの小ピットを有する。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期中峠式期前後と思われる。

第473図4、5は縄文土器口縁部片の拓影図で、いずれにも口縁部に交互刺突の連続「コ」字状文が見られる。4には沈線を加えた隆帯による渦巻文や胴部の縄文が、5には僅かに曲線を描く斜行沈線が見られる。中期中峠式に比定される土器である。

第538号土坑（第458図）

東側から南側にかけての壁が袋状にオーバーハングするが、北壁はほぼ垂直に立ち上がる。出土遺物は縄文時代中期中峠～加曾利E I式期のものが主体で、本跡の時期と思われる。

第473図1, 2は縄文土器片の拓影図である。いずれも口縁部片で、1は口縁部に上下の隆帯間に交互刺突の「コ」字状文、胴部は縦位回転の単節縄文RL地文が、4列構成の上向き弧状の沈線に切断されている。中期中峠式期に比定される土器である。2も口縁部片で、内面に1単位、外面に2単位の孔をもつ立体把手を有する。口縁部下に直線的に横走された平行沈線が施され、把手下で部分的に交互刺突による「コ」字状文を呈する。中期中峠式の範疇と思われる。

第541号土坑（第458図）

袋状土坑で、底面に深さ23～44cmの小ピットを6か所有する。出土遺物は多量で、縄文時代中期阿玉台Ⅲ式期から加曾利E I式期のものが混在しており、第474図1は南部覆土下層から出土している。時期は、遺構の形態及び主体となる遺物から縄文時代中期中峠式期～加曾利E I式期の範疇と思われる。

第474図1は縄文土器片の拓影図である。口縁部片で、口縁部に交互刺突の連続「コ」字状文、胴部には縦位の沈線が施されている。中期中峠式に比定される土器である。

第545号土坑（第458図）

袋状土坑で、南西部に長径31cm、短径20cmの楕円形で、深さ92cmの小ピットを有する。覆土中から中期阿玉台式期から加曾利E I式期にかけての遺物が出土しており、第474図1の浅鉢形土器底部片はピットの東側覆土中層から出土している。時期は、遺構の形態及び主体となる遺物から縄文時代中期加曾利E I式期前後と思われる。

第563号土坑（第459図）

楕円形の土坑で、深さ82cm。北部壁際に深さ31cmと30cmの小ピットを有する。覆土中から遺物が出土しており、第474図1の深鉢形土器は中央部やや西側覆土上層からばらばらの破片で出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期中峠式期前後と思われる。

第566号土坑（第460図）

楕円形の土坑で、深さ62cm。覆土中から遺物が出土しており、第474図1の深鉢形土器は北西部覆土中層からばらばらの破片で、2の口縁部片も付近から出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期中峠～加曾利E I式期前後と思われる。

第474図2は縄文土器片の拓影図である。口縁部片で、渦巻文及び区画文が隆線で施され、内部には短沈線が充填されている。中期加曾利E I式の範疇と思われる。

第576号土坑（第460図）

袋状土坑で、覆土中から遺物が出土している。第475図1の深鉢形土器は北部覆土下層からばらばらの破片で、2の把手は南部覆土下層から出土している。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期加曾利E I式期である。

第596号土坑（第459図）

径1.48mほどの円形で、深さ77cm。規模に反して多量の遺物が覆土中から出土しており、第474図1、2の深鉢形土器は覆土中層から出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅣ式期である。

第474図3は縄文土器片の拓影図である。波状口縁で、波頂部から派生する微隆起線区画の磨消帯が口縁部に巡らされている。胴部は縄文が施文されている。中期加曾利EⅣ式に比定される。

第600号土坑（第460図）

袋状土坑で、中央部覆土上層から第475図1の石柱が横位の状態で出土している。他に縄文土器が極少量出土しているが、いずれも細片で器形の判別できるものはない。遺物から時期を特定することは困難であるが、遺構の形態から縄文時代中期が本跡の時期と思われる。

第621号土坑（第460図）

本跡は第162号住居跡と第622号土坑に掘り込まれている。覆土中から遺物が出土しており、第475図1の凹石は中央部覆土下層から出土している。他は縄文時代中期加曾利EⅠ式期前後の土器片が出土しており、本跡の時期もその付近と思われる。

第622号土坑（第460図）

本跡は第621号土坑を掘り込んである円形の土坑である。覆土中から縄文土器片が出土しているが、遺物の時期は中期加曾利EⅠ式期～後期堀之内Ⅰ式期までのものが混在している。主体となる遺物は後期堀之内Ⅰ式期であり、本跡の時期もこの前後と思われる。

第476図1、2は縄文土器口縁部片の拓影図である。1は波状口縁で、口縁部は無文である。波頂部に中央に刺突を加えた円形文が貼り付けられ、上向き弧状の沈線が派生している。口縁部下に横走された沈線以下に胴部文様帯が展開され、地文の縄文を切る蕨手文と思われる沈線が描かれている。2も波状口縁で、波頂部の刺突文から口縁部を巡る沈線が派生し、胴部地文の縄文が蛇行沈線に切られている。いずれも後期堀之内Ⅰ式に比定されるものである。

第629号土坑（第461図）

袋状土坑で、覆土中から縄文土器が出土している。第476図1の深鉢形土器は中央部覆土上層から、2の深鉢形土器は北東壁際覆土中層から、いずれも横位の状態で出土している。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期中峠式期と思われる。

第636号土坑（第461図）

袋状土坑で、覆土中層から下層にかけて遺物が出土している。第476図1の浅鉢形土器は中央部覆土中層からばらばらの破片で、2の口縁部片は東部覆土下層から出土している。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期中峠式期である。

第476図3は縄文土器片の拓影図である。口縁部片で、口唇部上端は平坦に作出され、口唇部下に爪形文、細い角棒状の工具を刺突気味に押し付けた縦位の短沈線の順に連続して巡らされ、短沈線は施文後上下に巡らされた沈線で区画されている。以下は横走する隆帯に曲線を描く隆帯が接続する文様が展開され、隆帯上にも

連続爪形文が加飾されている。中期中峠式の時期と思われる。

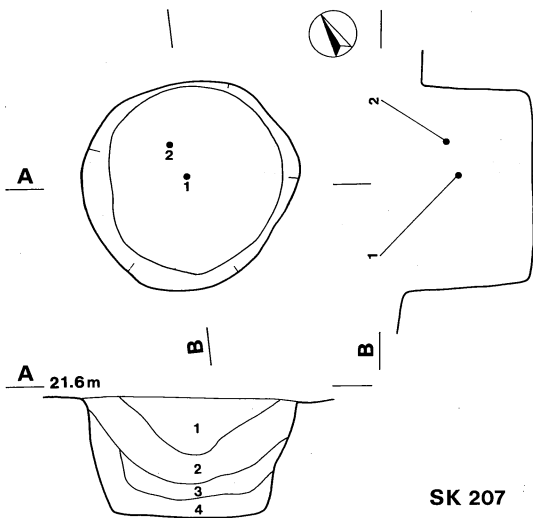
第668号土坑（第461図）

東側部分が調査区域外のため全体の形は不明だが、西側部分から袋状土坑と思われる。覆土中から遺物が出土しており、第477図1～3の深鉢形土器は、中央部覆土中層からばらばらの状態で出土している。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期中峠式期～加曾利E I式期である。

第683号土坑（第462図）

径2.60m程の円形で、深さ90cmの土坑である。覆土中から縄文土器片が出土しており、第476図1の口縁部片は北東部覆土上層と中層から出土している。遺物の時期は中期加曾利E II～IV式期のものが混在しており、本跡の時期もこの範疇と思われる。

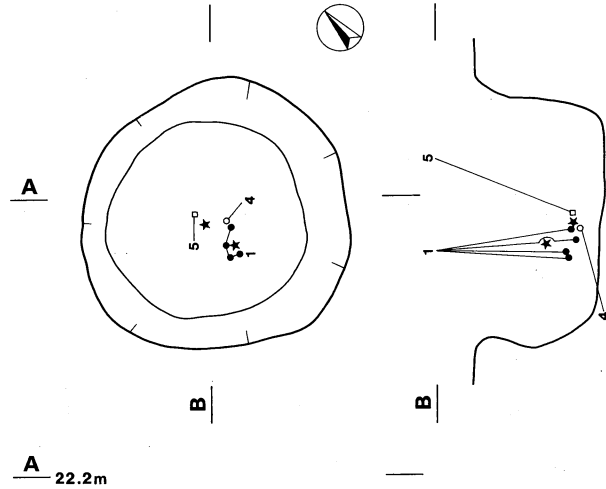
第476図1は縄文土器片の拓影図である。口縁部片で、口縁部及び胴部に施された微隆起線区面の磨消帯に地文の縄文が分断されている。中期加曾利E IV式の範疇と思われる。



SK 207

第207号土坑 土層解説

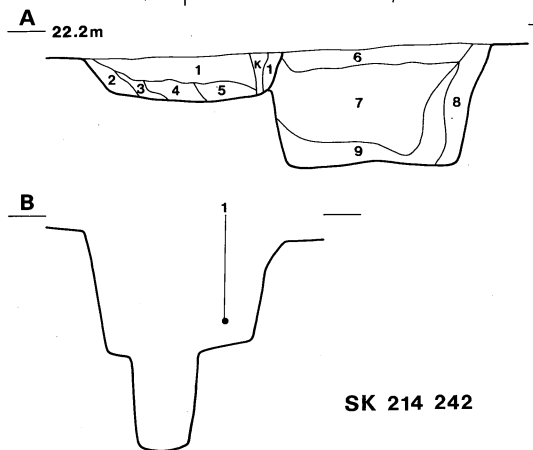
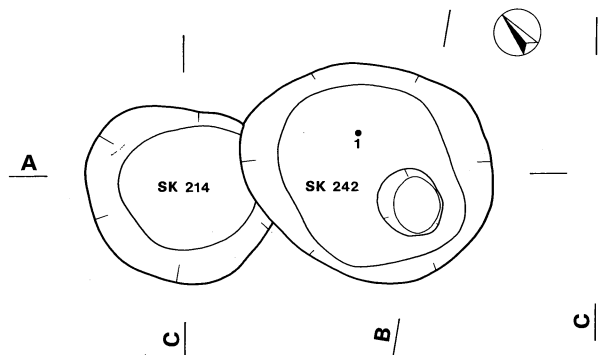
- 1 褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 2 暗褐色 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子極少量
- 4 明褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量



SK 215

第215号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物少量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 4 褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 極暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック中量
- 7 褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム大ブロック少量



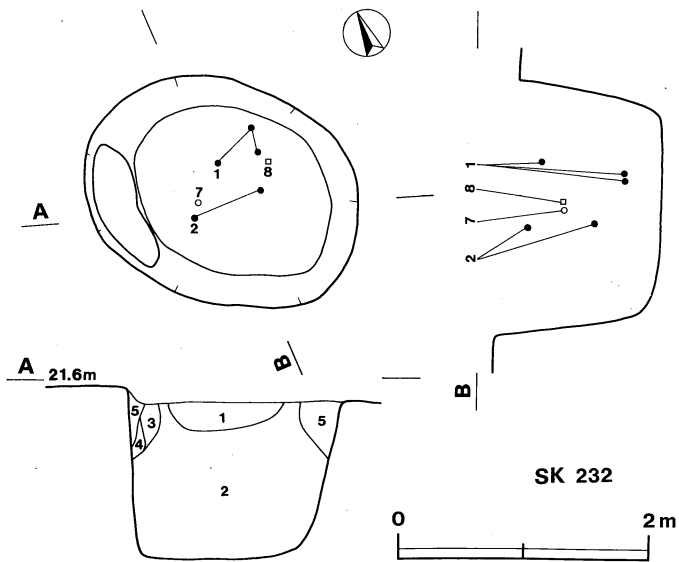
SK 214 242

第214号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子極少量
- 2 明褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム大ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子極少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子焼土極少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子極少量

第242号土坑 土層解説

- 6 褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化物極少量
- 8 明褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック中量
- 9 褐色 ローム粒子少量, 炭化物・ローム小ブロック・ローム中ブロック極少量

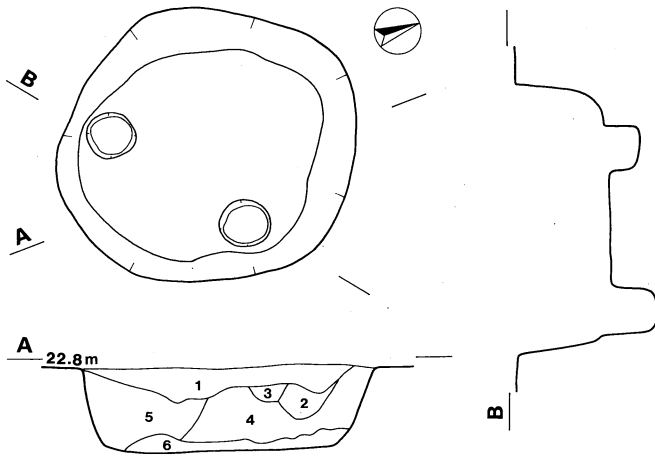


SK 232

第232号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量, ローム中ブロック極少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化材・ローム中ブロック極少量
- 3 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック極少量
- 4 褐色 炭化粒子少量, 焼土粒子・ローム粒子極少量
- 5 褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

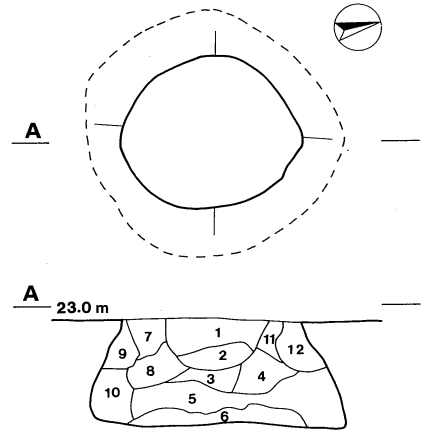
第447図 第207・214・215・232・242号土坑実測図



SK 266

第266号土坑 土層解説

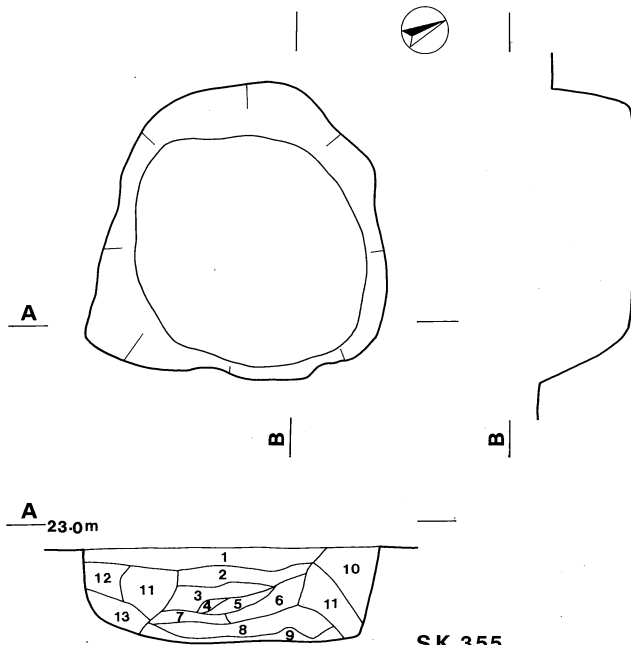
- 1 褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 2 褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 3 にぶい褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 4 にぶい褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム中ブロック少量
- 5 にぶい褐色 ローム中ブロック中量, 炭化物・炭化粒子少量
- 6 明褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子極少量



SK 380

第380号土坑 土層解説

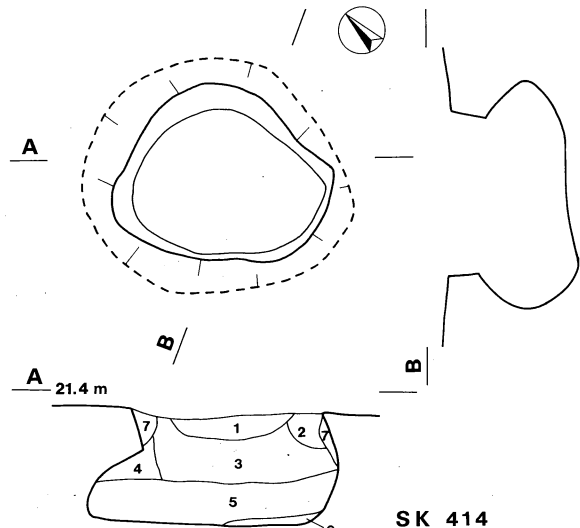
- 1 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・ローム小ブロック極少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック極少量
- 5 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム大ブロック極少量
- 6 褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック多量, ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック極少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 9 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 10 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 12 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量



SK 355

第355号土坑 土層解説

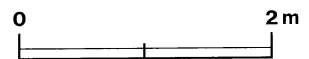
- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック極少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック極少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子極少量
- 5 にぶい赤褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 8 にぶい赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック極少量
- 9 にぶい褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 10 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 11 にぶい褐色 ローム中ブロック中量, ローム大ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 12 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 13 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量



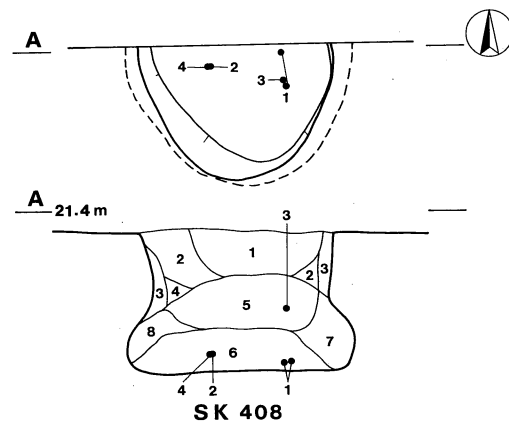
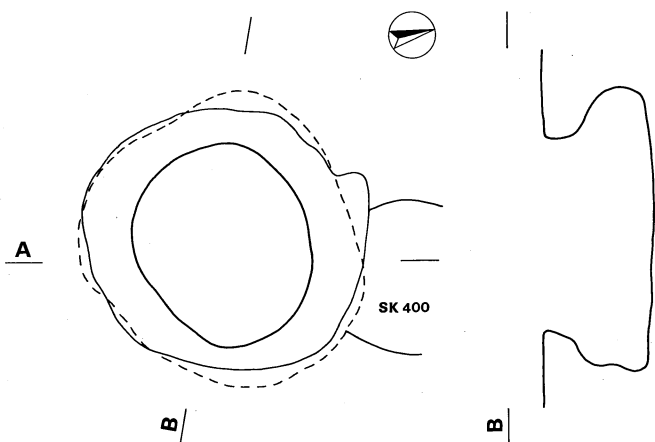
SK 414

第414号土坑 土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック極少量
- 3 暗褐色 炭化物中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子中量
- 7 明褐色 ローム粒子多量

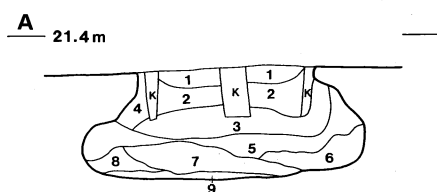


第448図 第266・355・380・414号土坑実測図



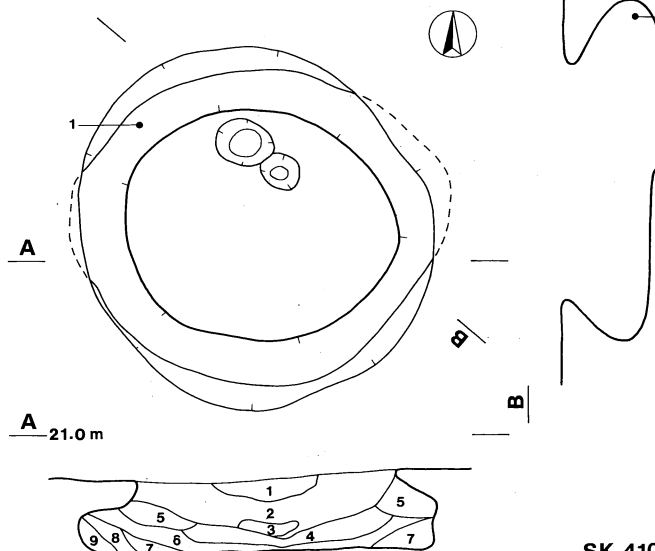
第408号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック極少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 5 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 炭化物極少量
- 8 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子極少量



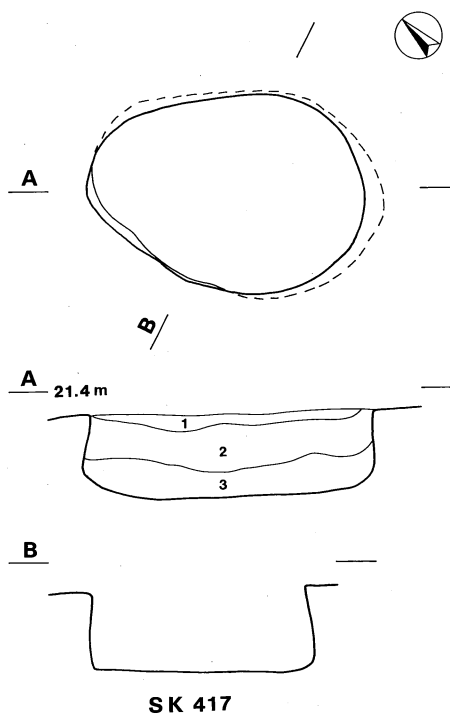
第402号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム大ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量, 炭化材極少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量, 焼土小ブロック極少量
- 6 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 8 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量
- 9 褐色 ローム粒子多量



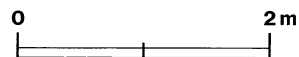
第410号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 2 黒褐色 炭化物中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 焼土小ブロック・炭化物・粘土小ブロック少量
- 4 暗褐色 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 9 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量

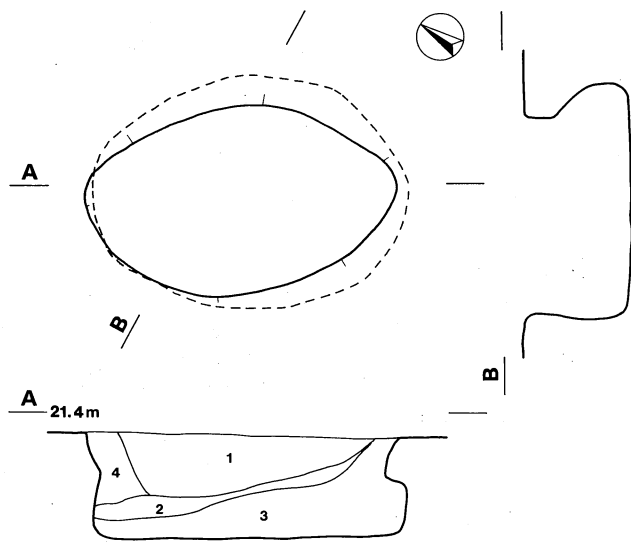


第417号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子極少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック極少量



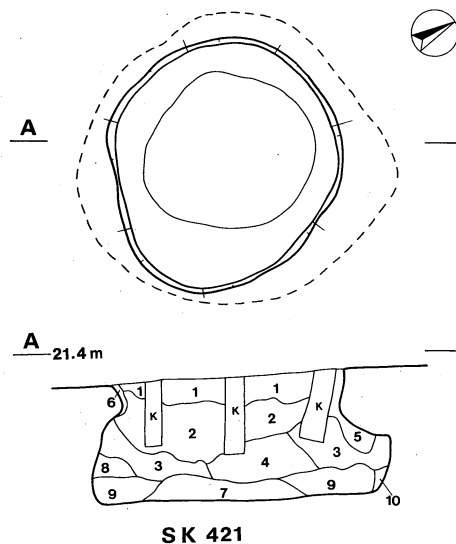
第449図 第402・408・410・417号土坑実測図



SK 418

第418号土坑 土層解説

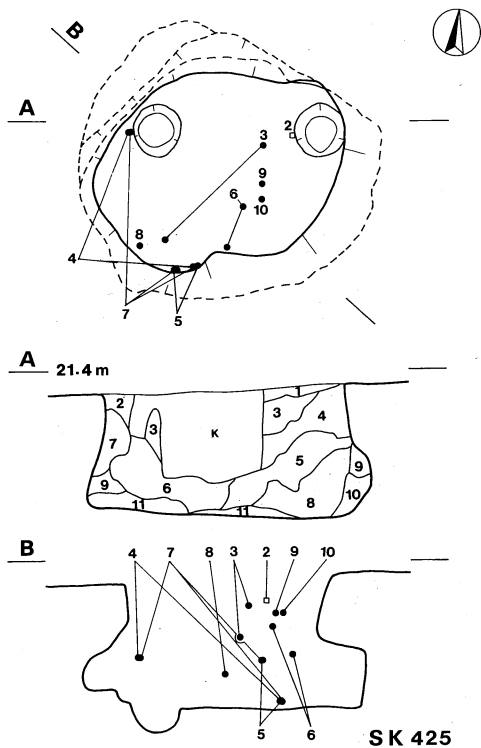
- 1 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化物・炭化粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 3 にぶい褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 4 にぶい褐色 ローム大ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック極少量



SK 421

第421号土坑 土層解説

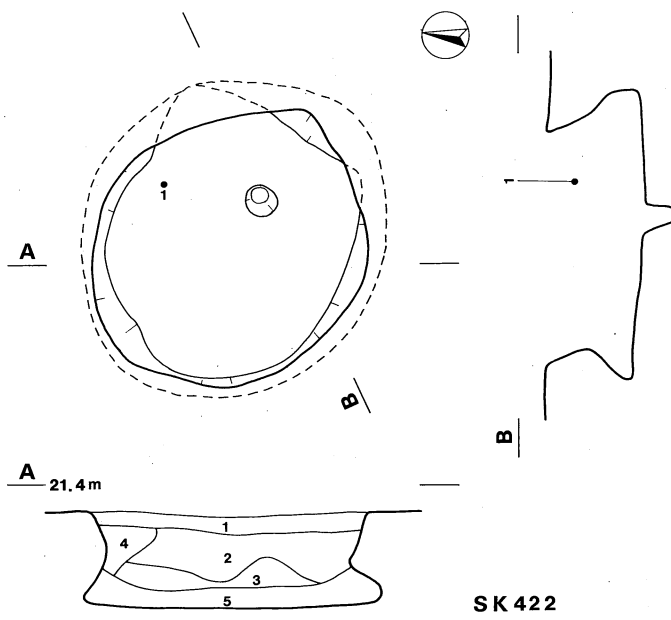
- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子極少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム大ブロック極少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック極少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 7 明褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 8 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 9 にぶい褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
- 10 褐色 ローム小ブロック中量



SK 425

第425号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量
- 8 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 9 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子極少量
- 10 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量
- 11 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子極少量



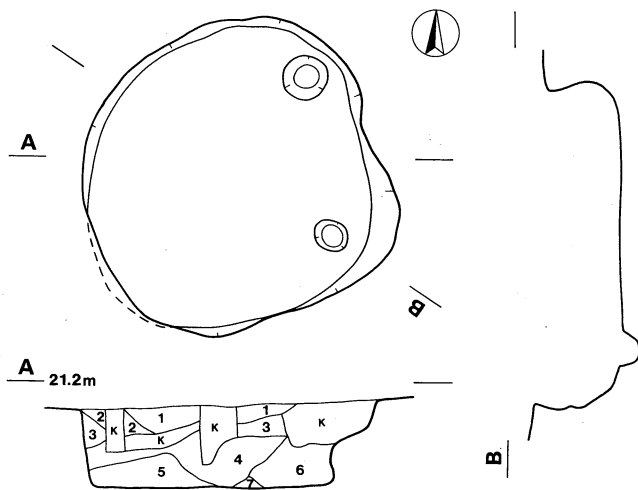
SK 422

第422号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 3 灰褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量, 炭化物極少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量



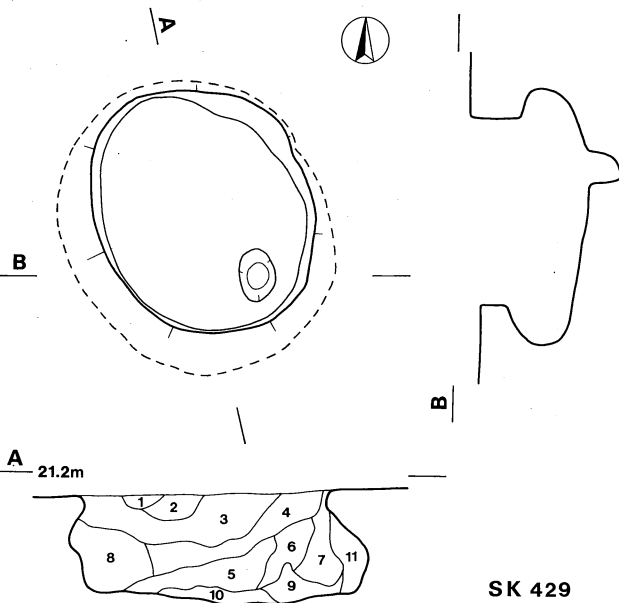
第450図 第418・421・422・425号土坑実測図



SK 428

第428号土坑 土層解説

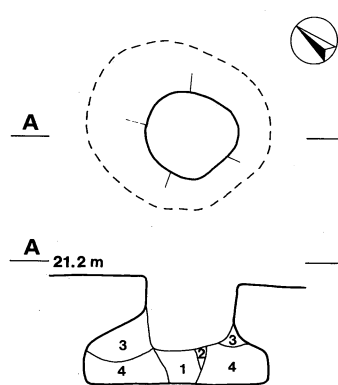
- 1 暗褐色 炭化物中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量



SK 429

第429号土坑 土層解説

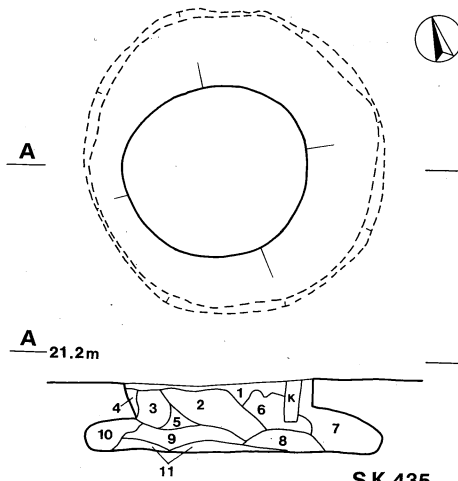
- 1 暗褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 炭化物中量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 7 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 9 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子中量, 炭化物極少量
- 11 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量



SK 434

第434号土坑 土層解説

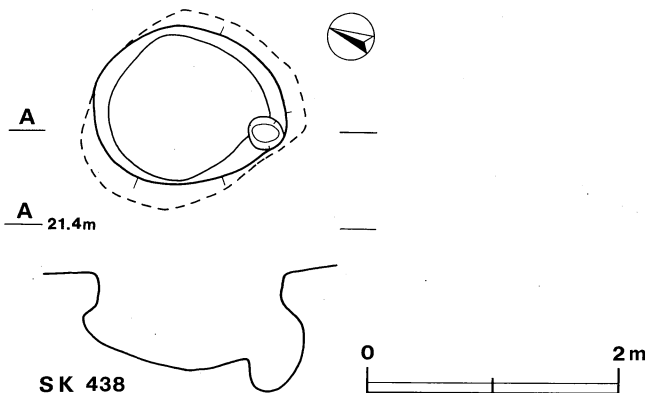
- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子極少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量



SK 435

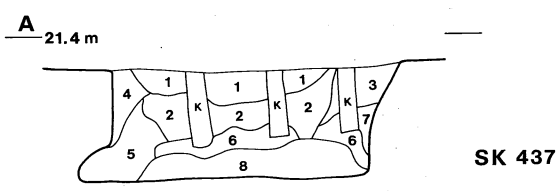
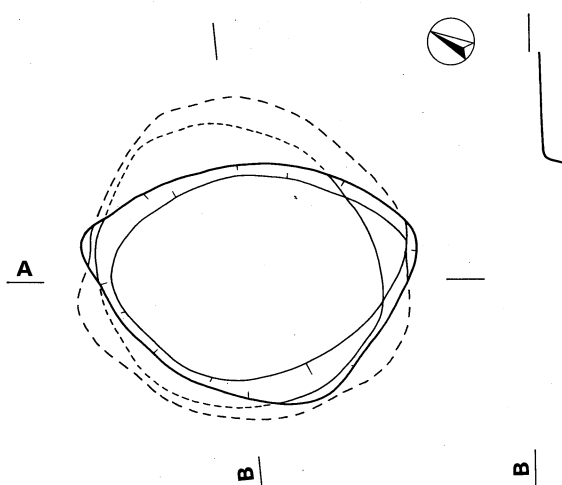
第435号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 5 暗褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐色 炭化物中量, 焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 10 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量
- 11 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子極少量

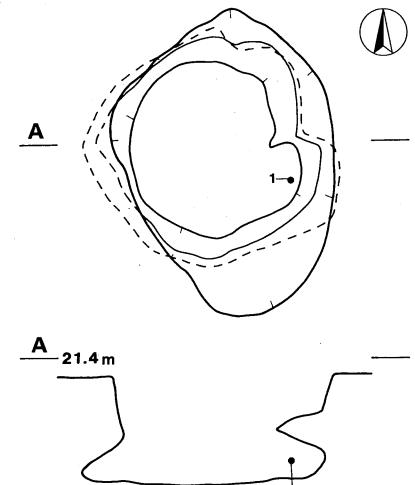


SK 438

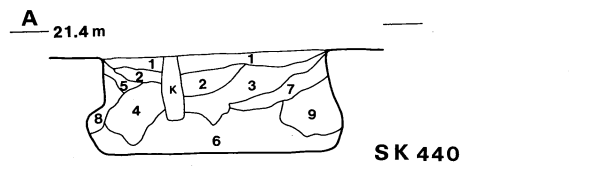
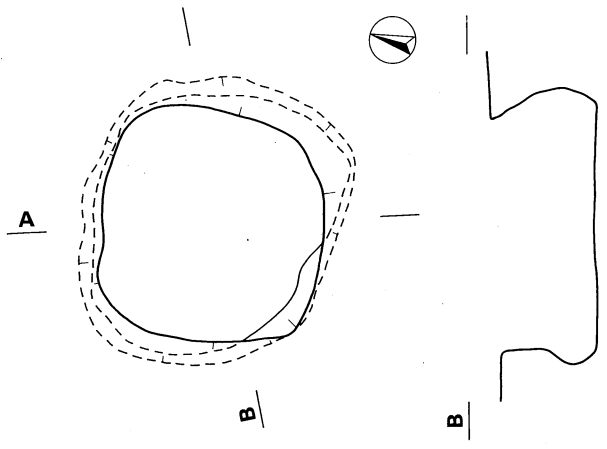
第451図 第428・429・434・435・438号土坑実測図



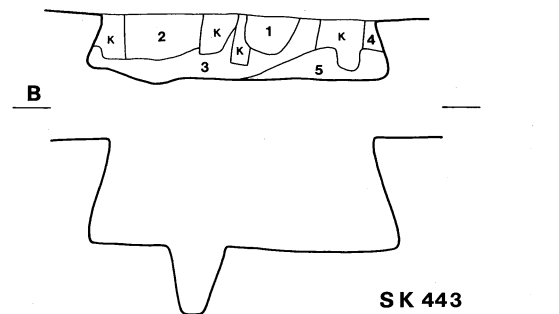
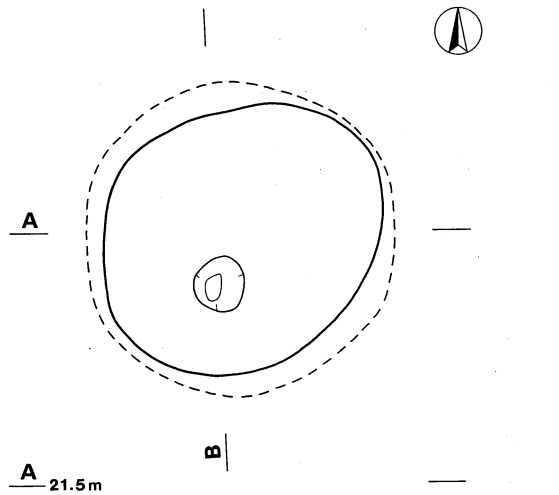
- 第437号土坑 土層解説
- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 - 2 暗褐色 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 - 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
 - 4 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量, 炭化物少量
 - 5 暗褐色 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 - 6 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
 - 7 褐色 ローム粒子中量, 炭化物極少量
 - 8 褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量



SK 442



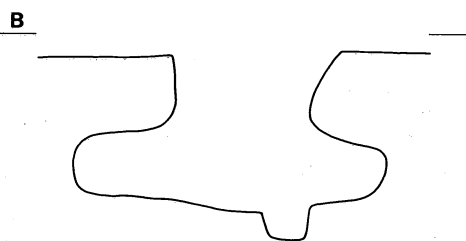
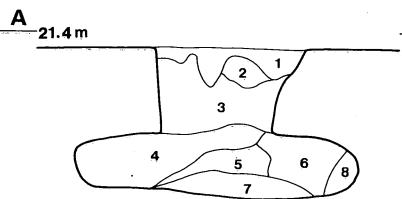
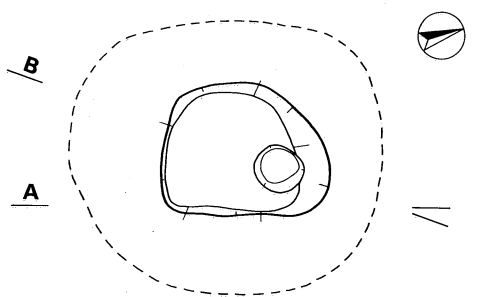
- 第440号土坑 土層解説
- 1 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量
 - 2 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
 - 3 暗褐色 炭化物中量, 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
 - 4 暗褐色 ローム中ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
 - 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
 - 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物少量
 - 7 暗褐色 ローム中ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量
 - 8 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック極少量
 - 9 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量



- 第443号土坑 土層解説
- 1 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
 - 2 暗褐色 炭化物中量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
 - 3 褐色 炭化物・ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量
 - 4 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム粒子少量
 - 5 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子中量



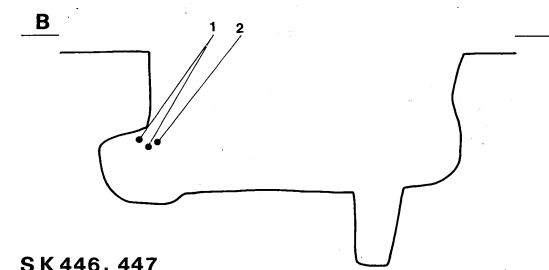
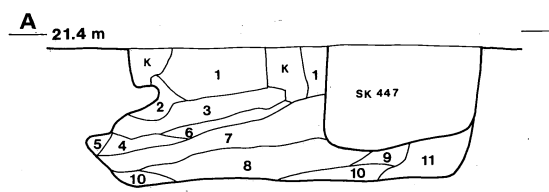
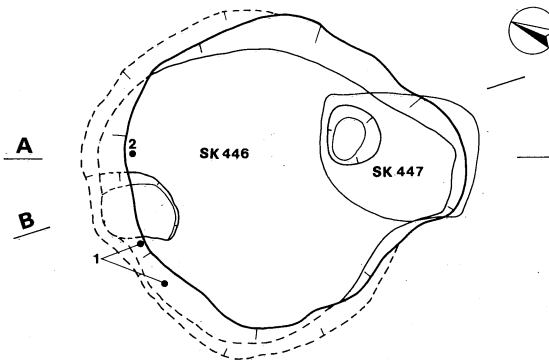
第452図 第437・440・442・443号土坑実測図



SK 444

第444号土坑 土層解説

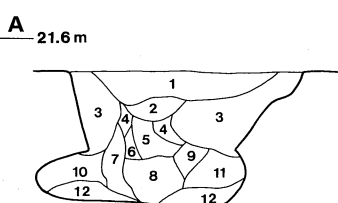
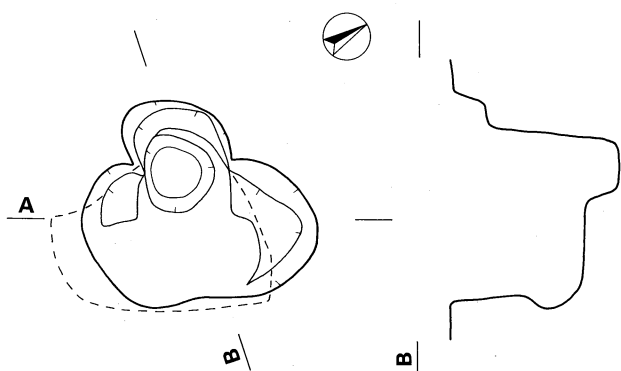
- 1 暗褐色 炭化物中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量



SK 446. 447

第446号土坑 土層解説

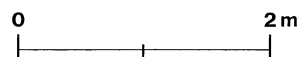
- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 3 暗褐色 炭化物中量; ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物少量
- 8 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物少量
- 10 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量
- 11 褐色 ローム粒子多量, 炭化物少量



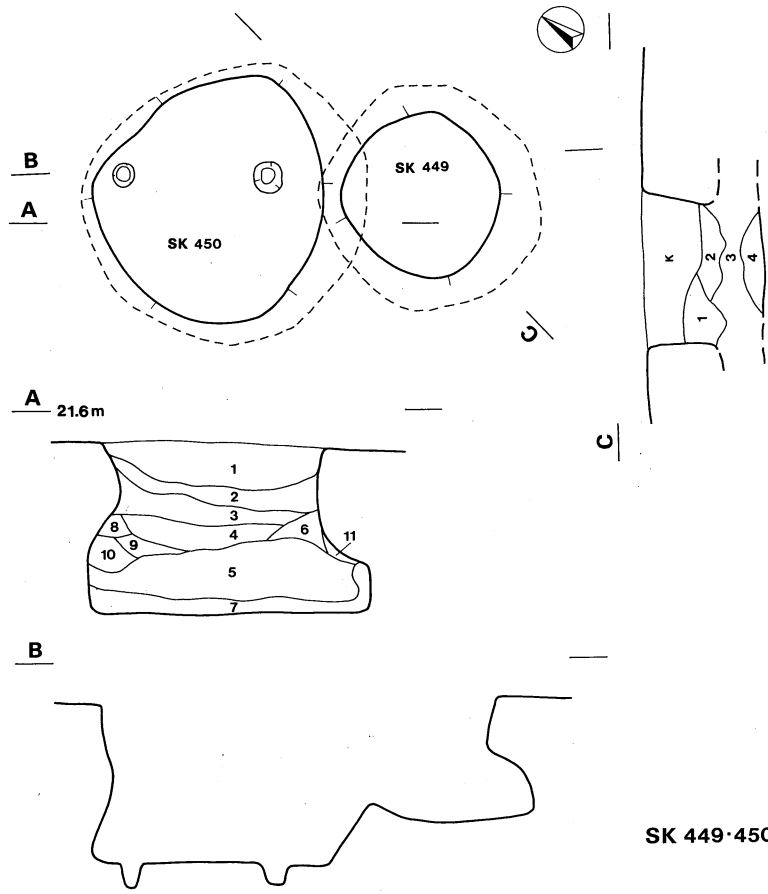
SK 451

第451号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子極少量
- 4 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子極少量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子極少量
- 9 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 10 褐色 ローム粒子中量, 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 11 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 12 褐色 ローム粒子多量, 炭化物極少量



第453図 第444・446・447・451号土坑実測図



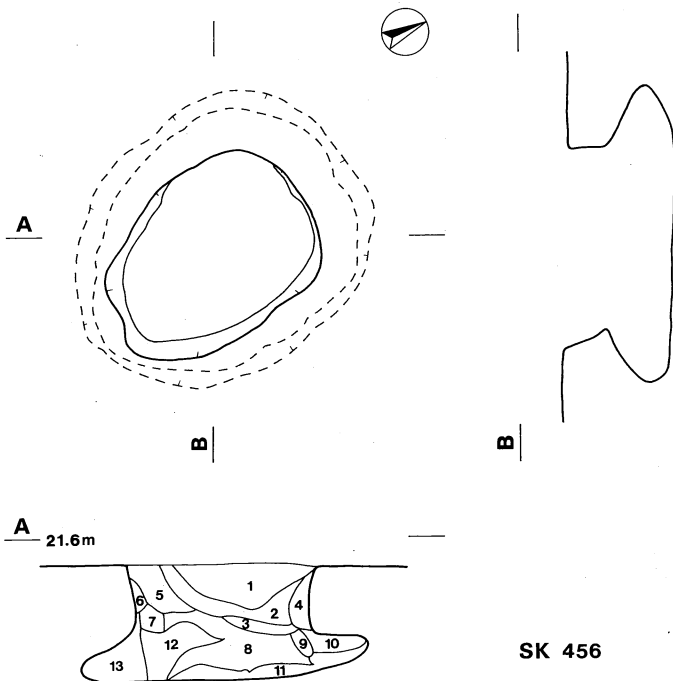
第449号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化隆線による・ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量

第450号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 炭化物中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物・ローム中ブロック極少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 7 褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック中量
- 8 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子極少量
- 9 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 10 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・焼土小ブロック・炭化物極少量
- 11 褐色 ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子極少量

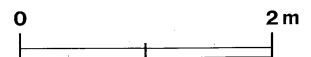
SK 449・450



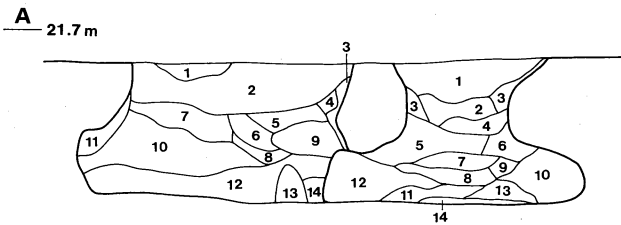
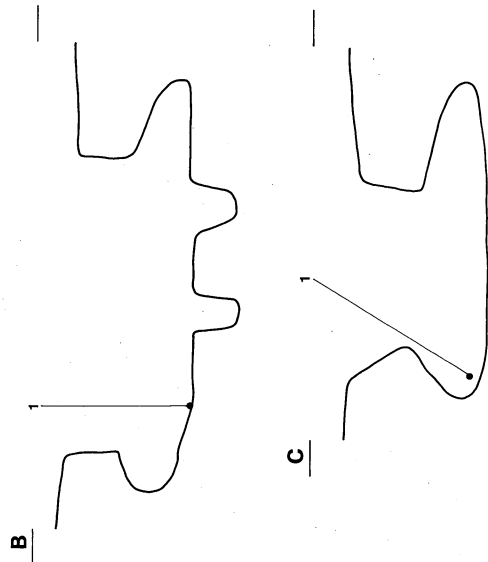
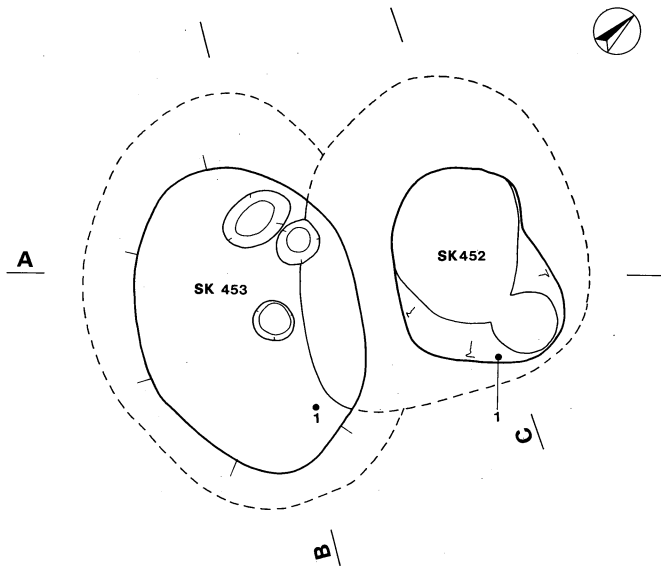
第456号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量
- 5 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 炭化粒子中量, 炭化物・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 9 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 11 褐色 ローム粒子多量, 炭化物極少量
- 12 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子極少量
- 13 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量

SK 456



第454図 第449・450・456号土坑実測図



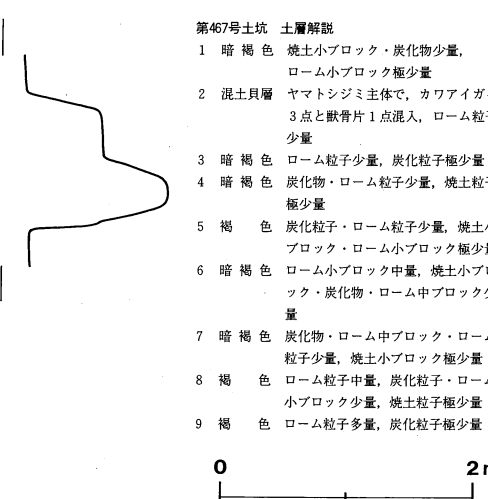
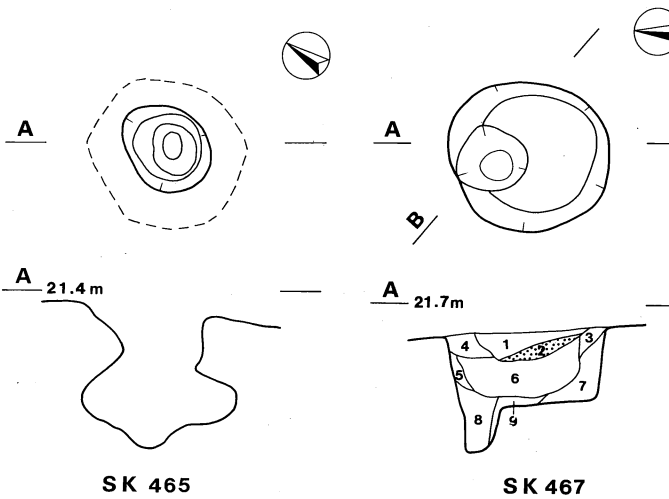
SK 452-453

第453号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック極少量
- 7 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック極少量
- 9 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 10 暗褐色 炭化物・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 11 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子極少量
- 12 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子極少量
- 13 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 14 褐色 ローム粒子中量, 炭化物極少量

第452号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 炭化物中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
- 6 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 8 暗褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量
- 11 暗褐色 炭化物中量, 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 12 褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 13 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 14 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子極少量

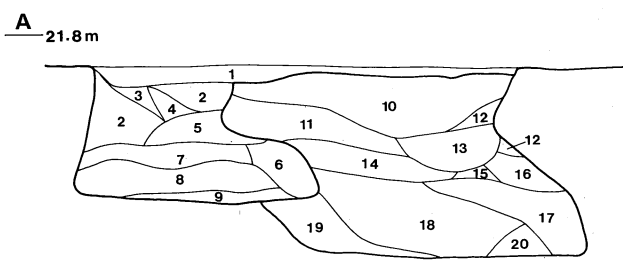
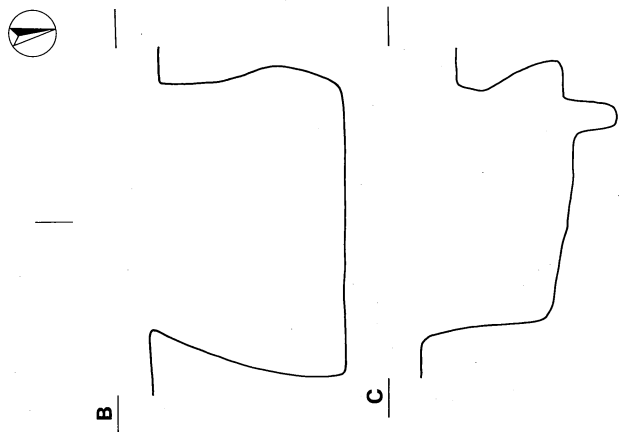
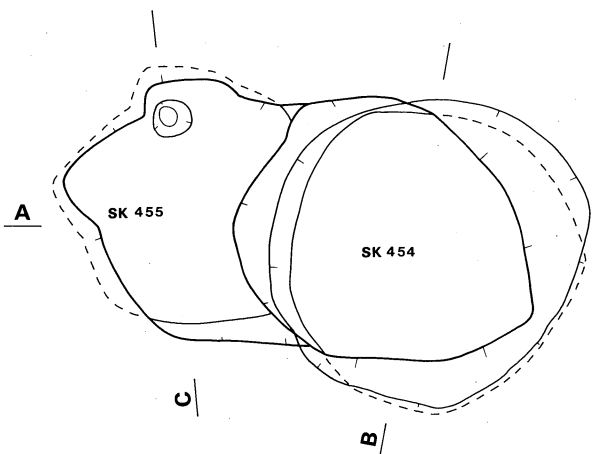


第467号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物少量, ローム小ブロック極少量
- 2 混土貝層 ヤマトシジミ主体で, カワアイガイ3点と獣骨片1点混入, ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子極少量
- 4 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量, 焼土粒子極少量
- 5 褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック極少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム中ブロック少量
- 7 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 8 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 9 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子極少量



第455図 第452・453・465・467号土坑実測図



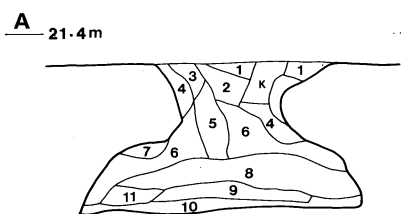
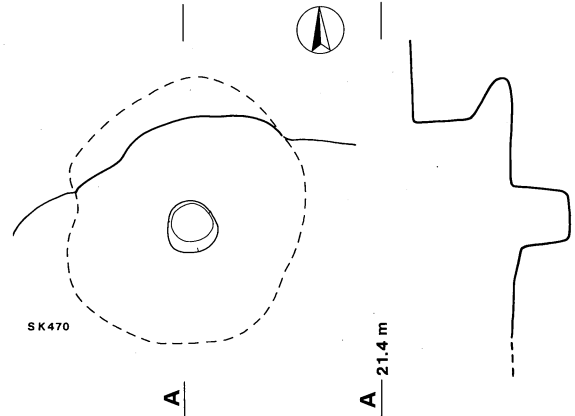
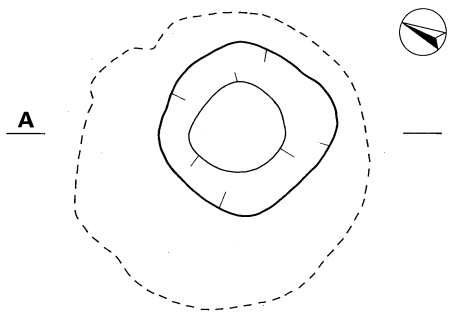
SK 454-455

第455号土坑 土層解説

- 10 暗褐色 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 11 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量
- 12 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 13 暗褐色 焼土粒子中量, 炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量
- 14 暗褐色 炭化粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 15 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 16 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 17 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化物・炭化粒子少量
- 18 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 19 褐色 ローム粒子多量, 炭化物少量
- 20 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量

第454号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子多量, ローム小ブロック・ローム粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム中ブロック少量
- 5 暗褐色 炭化物中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量
- 9 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量



SK 474

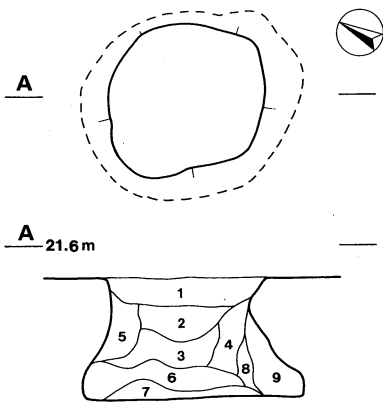
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量, ローム中ブロック極少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物・ローム粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化物極少量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子・ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 9 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 11 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量

第475号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック中量, 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物少量, 焼土小ブロック・ローム粒子極少量
- 3 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック極少量



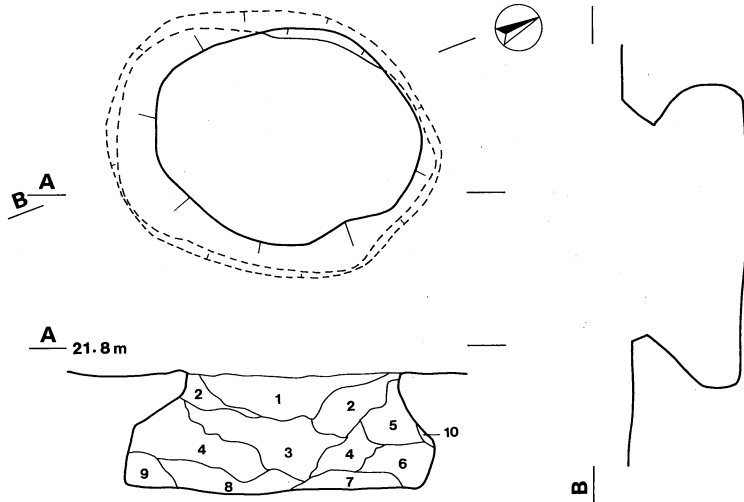
第456図 第454・455・474・475号土坑実測図



SK 491

第491号土坑 土層解説

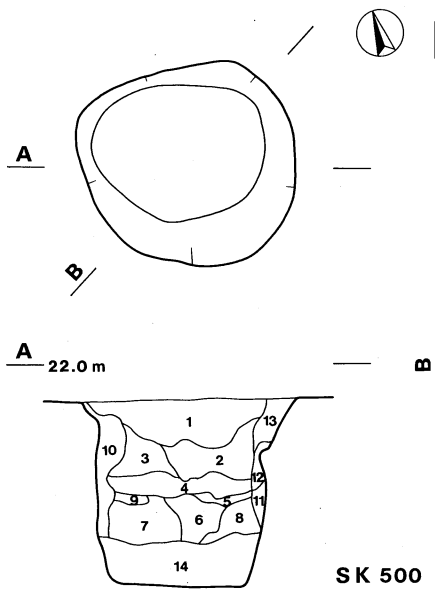
- 1 暗褐色 炭化物中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化物極少量
- 6 暗褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム粒子極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 8 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量
- 9 褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム中ブロック少量



SK 494

第494号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 4 褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量
- 5 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子極少量
- 8 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 9 褐色 ローム粒子中量, 炭化物極少量
- 10 褐色 ローム粒子中量



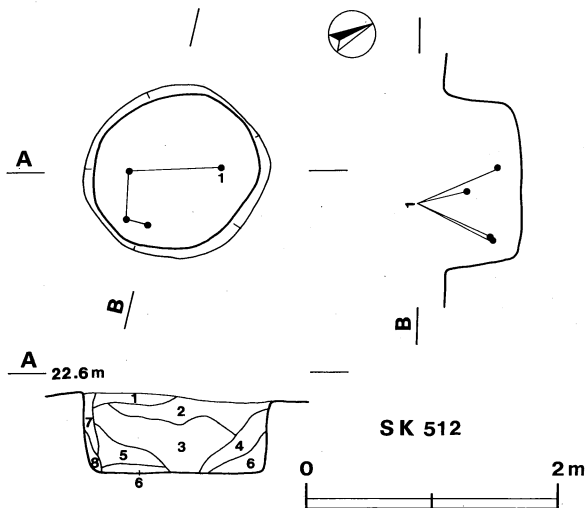
SK 500

第500号土坑 土層解説

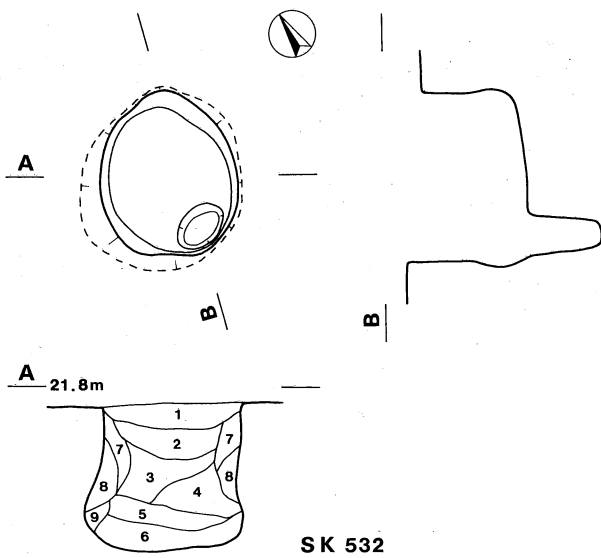
- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック極少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 7 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 9 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック極少量
- 10 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 11 褐色 ローム大ブロック多量
- 12 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 13 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 14 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム小ブロック極少量

第512号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 5 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量



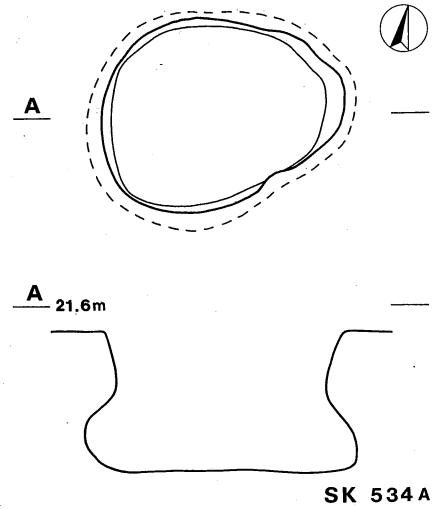
SK 512



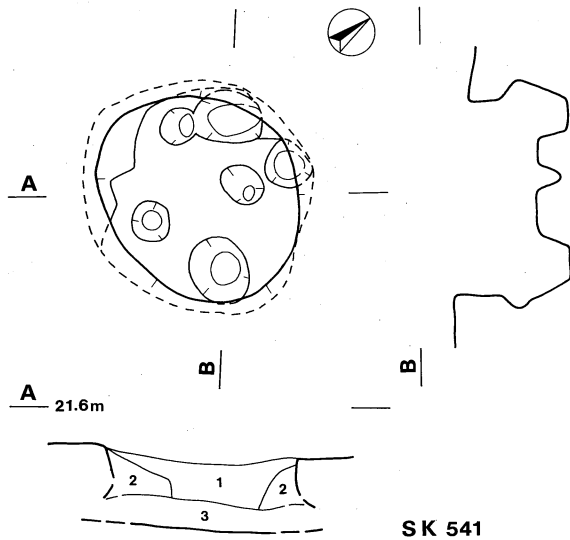
SK 532

第532号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 4 褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 5 褐色 ローム中ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 6 にぶい褐色 ローム中ブロック中量, 炭化粒子極少量
- 7 褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 8 明褐色 ローム中ブロック多量
- 9 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量



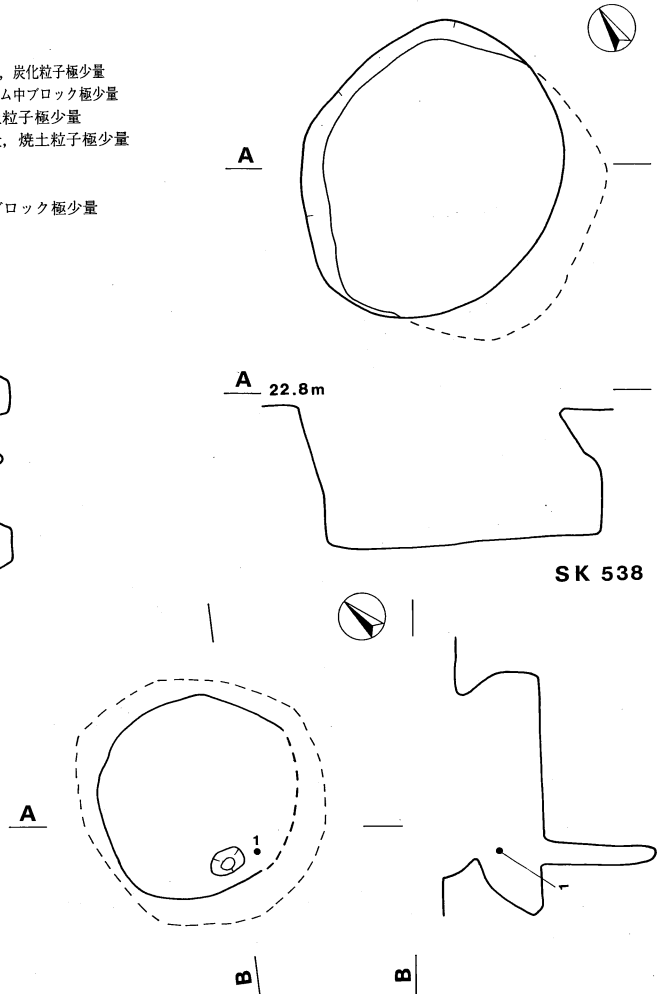
SK 534 A



SK 541

第541号土坑 土層解説

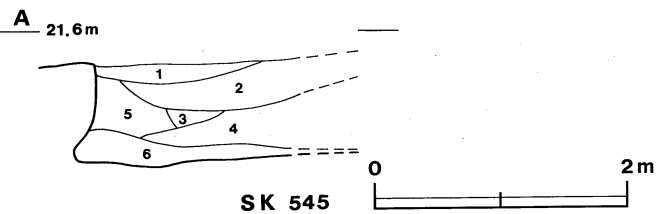
- 1 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量, 炭化粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子・ローム中ブロック極少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック極少量



SK 538

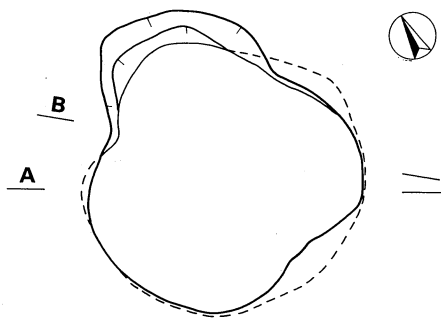
第545号土坑 土層解説

- 1 黒色 焼土小ブロック・ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 4 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 5 極暗褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック中量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量

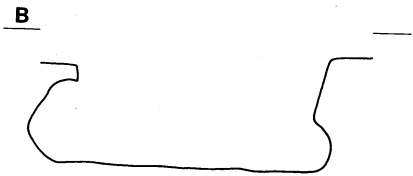
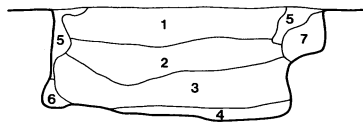


SK 545

第458図 第532・534 A・538・541・545号土坑実測図



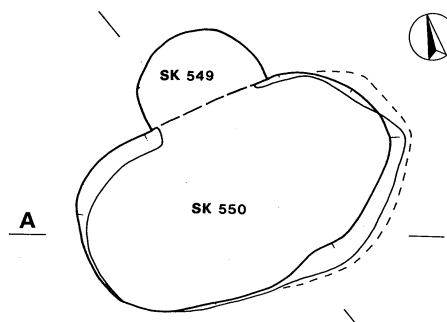
A 21.7 m



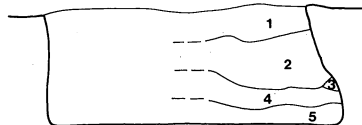
SK 544

第544号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック多量, 炭化物・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 5 褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子極少量
- 7 褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック多量, ローム粒子中量, 焼土粒子極少量



A 21.8 m

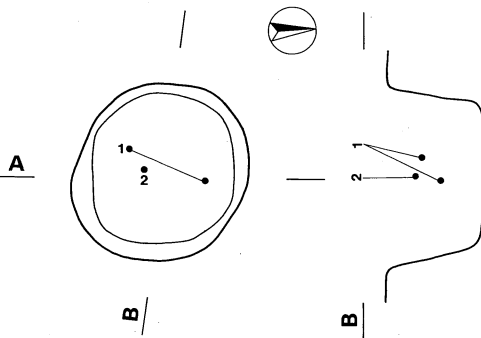


B 21.6 m

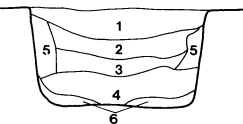
SK 550

第550号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック極少量
- 2 褐色 ローム小ブロック多量, ローム中ブロック中量, 焼土粒子極少量
- 3 褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化粒子極少量
- 5 褐色 ローム中ブロック多量, 炭化粒子極少量



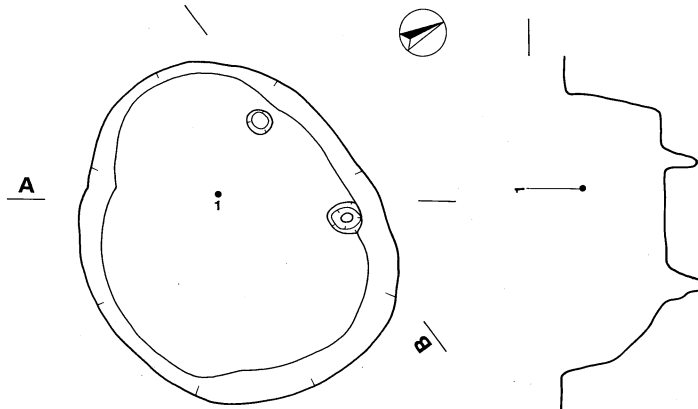
A 22.8 m



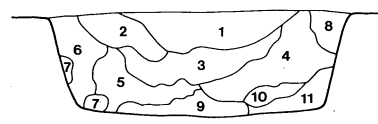
SK 596

第596号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 炭化粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子極少量



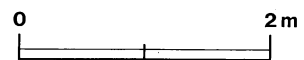
A 22.8 m



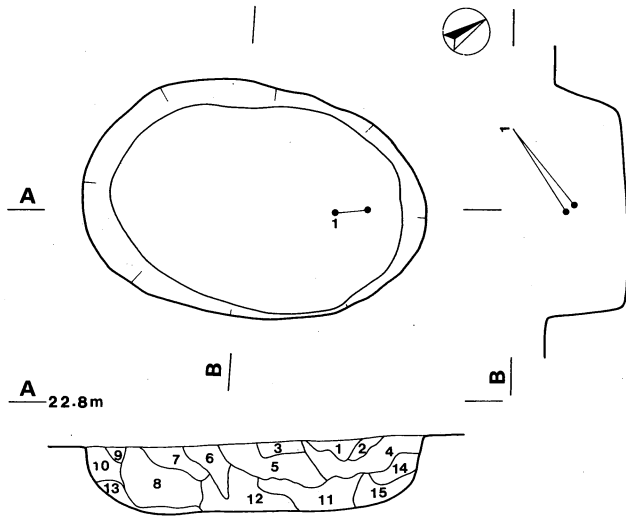
SK 563

第563号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック少量, ローム中ブロック極少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化物極少量
- 7 褐色 ローム中ブロック中量, 炭化粒子極少量
- 8 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 9 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 11 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子極少量



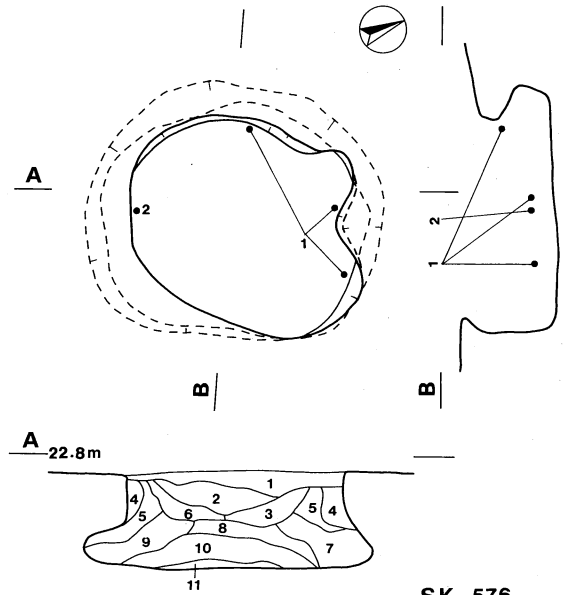
第459図 第544・550・563・596号土坑実測図



SK 566

第566号土坑 土層解説

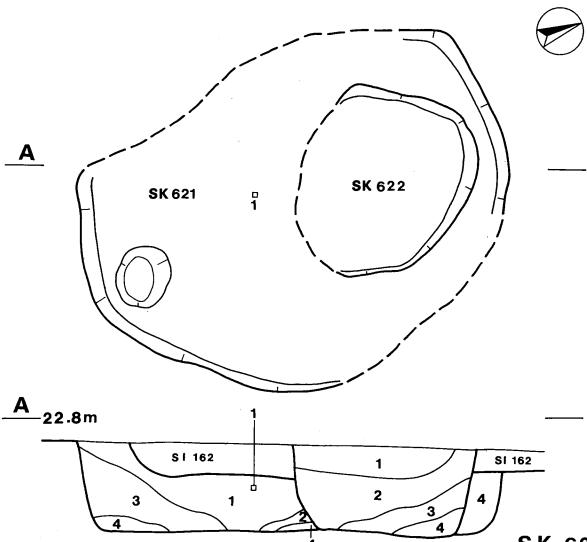
- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 9 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 10 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, ローム小ブロック極少量
- 11 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 12 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 13 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック少量
- 14 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 15 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量



SK 576

第576号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量, ローム粒子極少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土中ブロック極少量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 6 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 8 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 9 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 10 褐色 ローム粒子多量, 焼土小ブロック極少量
- 11 褐色 ローム粒子中量



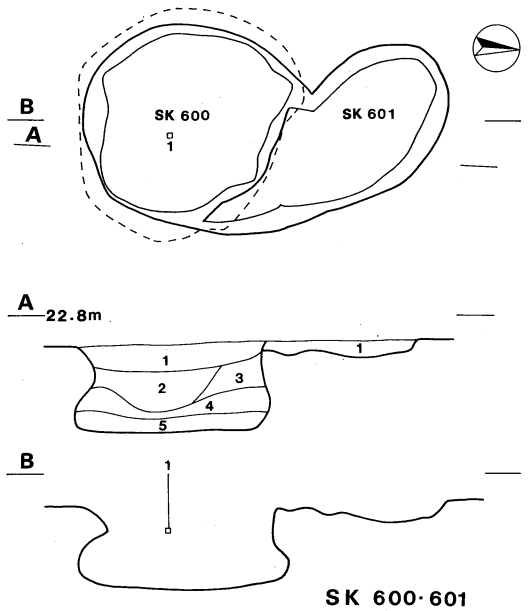
SK 621-622

第621号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 焼土中ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 2 黒褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

第622号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 炭化粒子中量, ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量



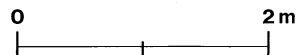
SK 600-601

第600号土坑 土層解説

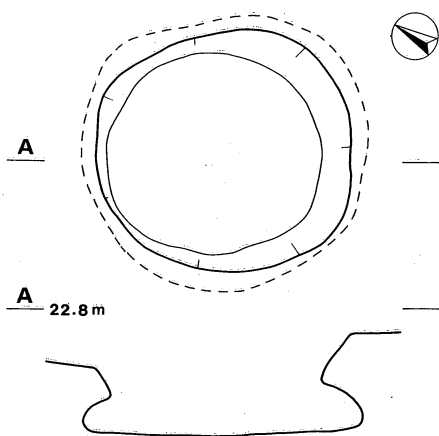
- 1 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子中量, 焼土粒子少量
- 3 褐色 ローム大ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 にぶい褐色 ローム小ブロック多量

第601号土坑 土層解説

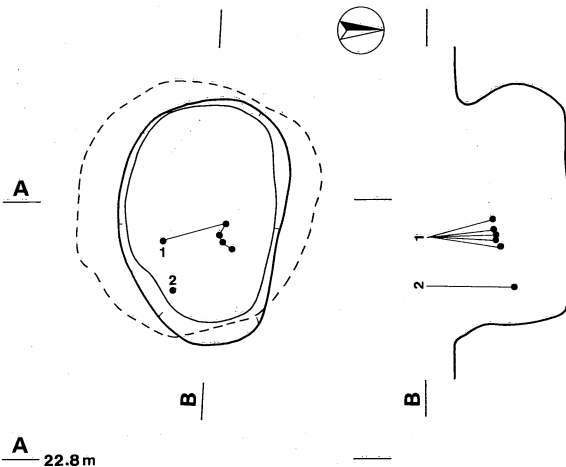
- 1 にぶい褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量



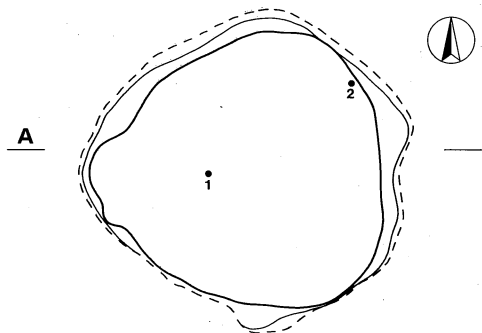
第460図 第566・576・600・601・621・622号土坑実測図



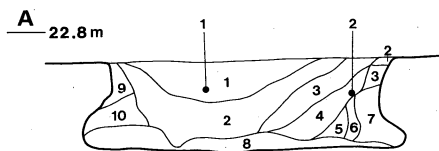
SK 614



SK 636



SK 629

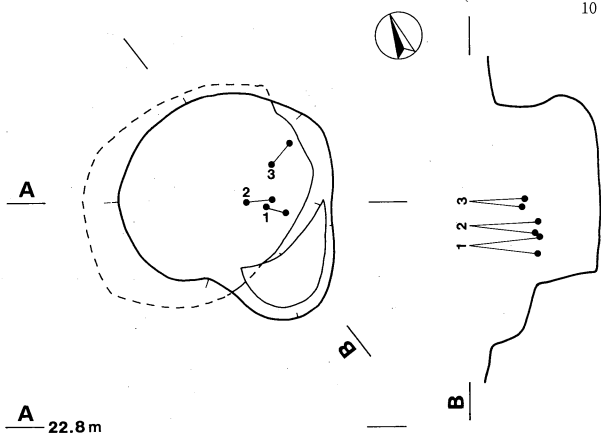


第636号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 5 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量
- 6 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量, ローム小ブロック極少量
- 8 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子中量, ローム小ブロック極少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子中量, 炭化物極少量
- 11 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化物極少量
- 12 褐色 ローム粒子中量, 炭化物極少量, ローム小ブロック極少量

第629号土坑 土層解説

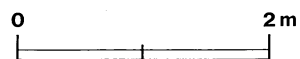
- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量, 焼土中ブロック・炭化物少量, 焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 9 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 10 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量



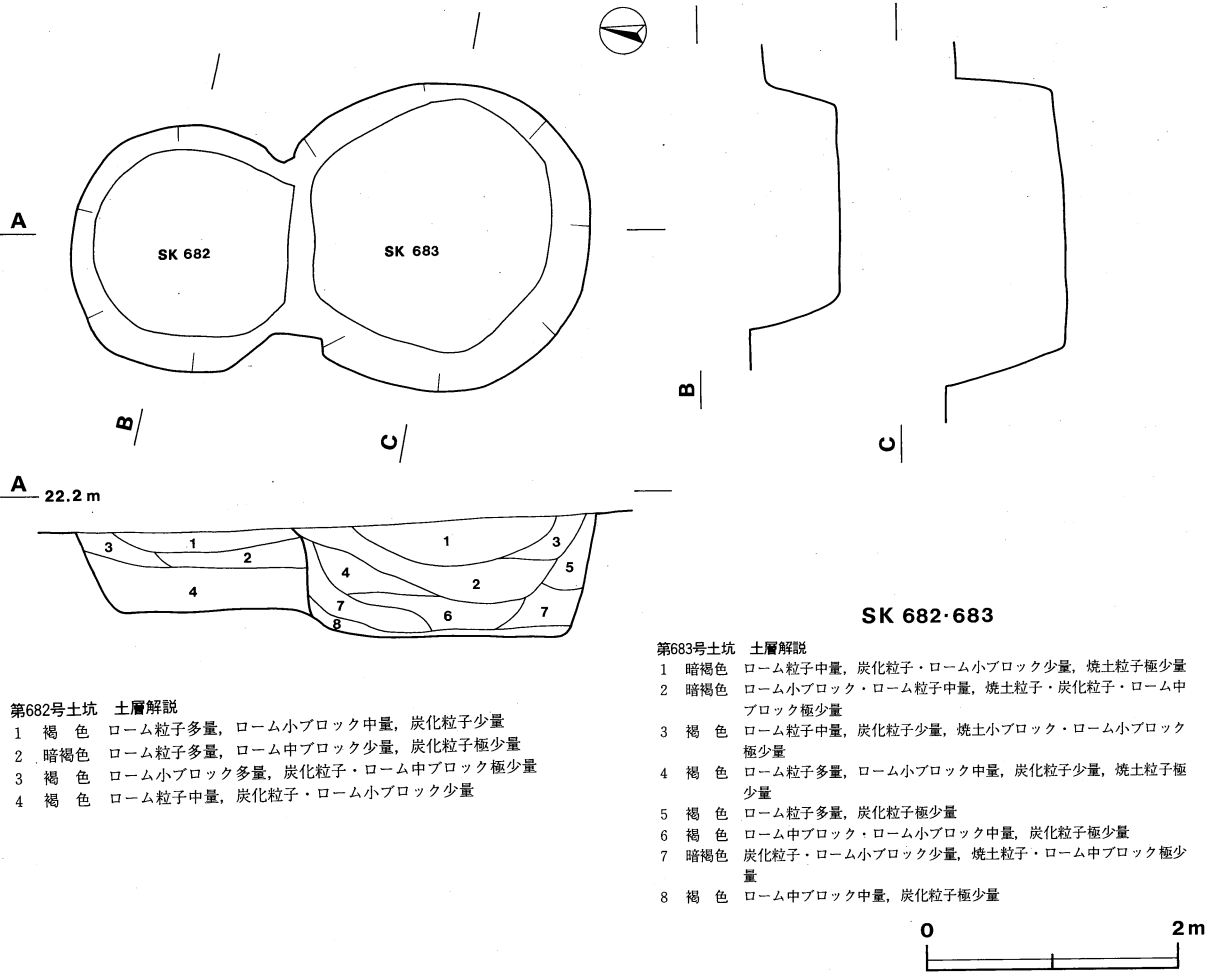
SK 668

第668号土坑 土層解説

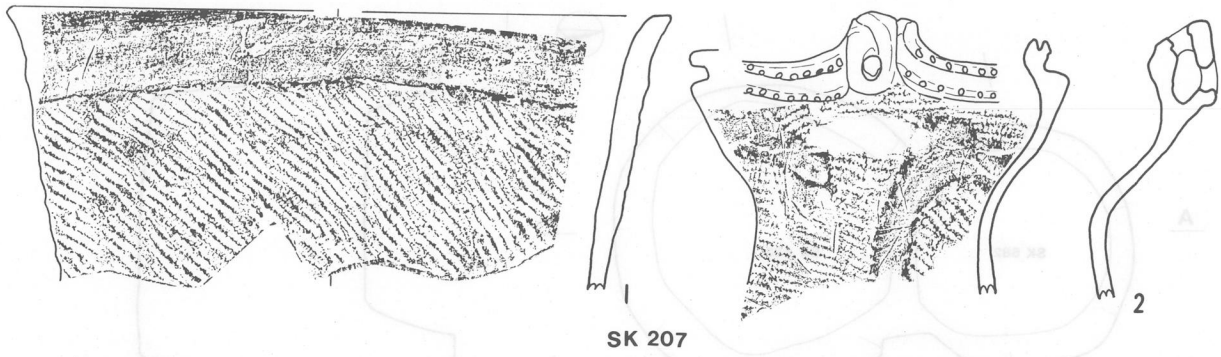
- 1 暗褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 炭化粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 5 黒褐色 炭化粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 9 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 10 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量



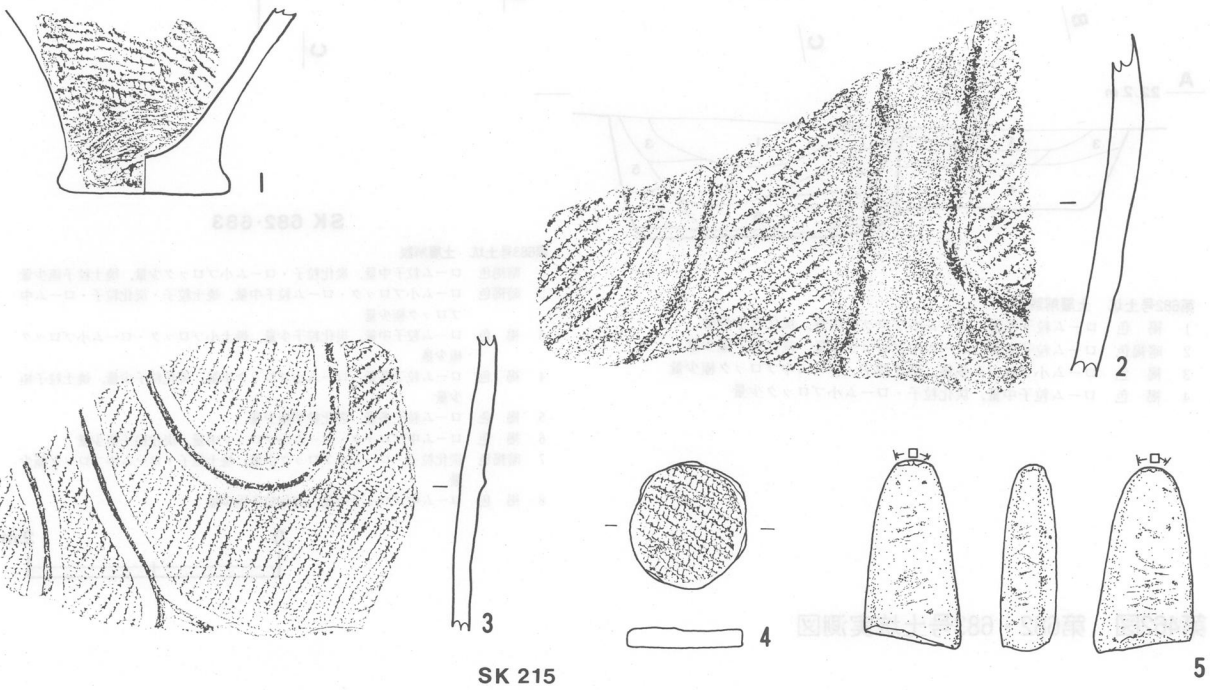
第461図 第614・629・636・668号土坑実測図



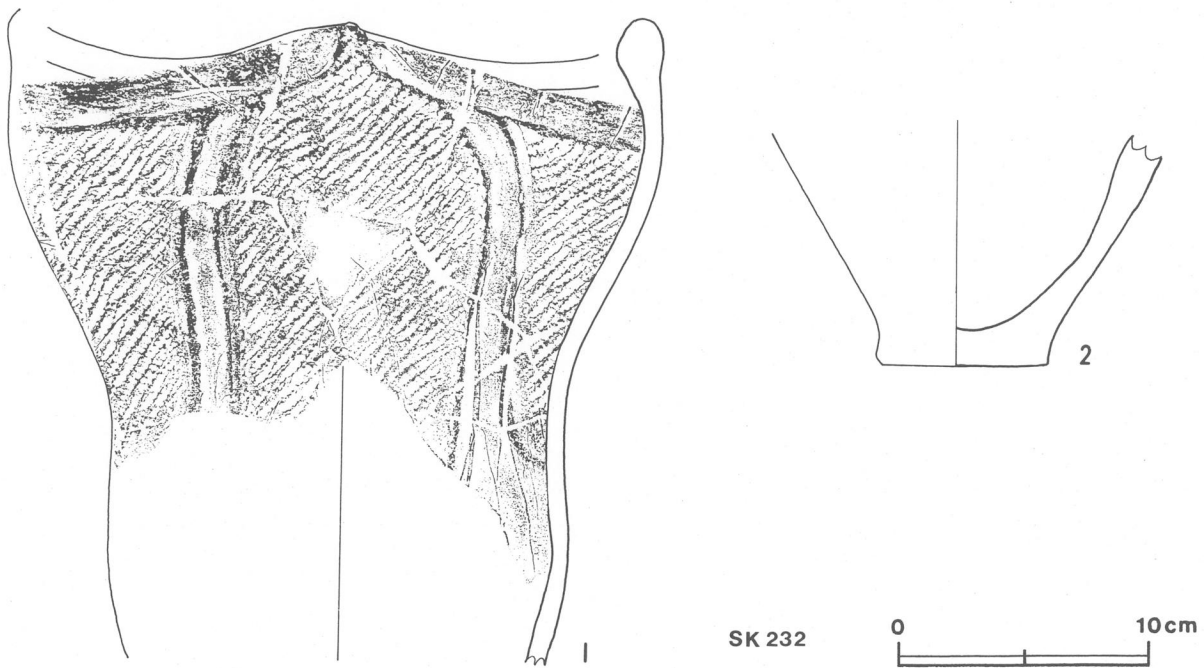
第462図 第682・683号土坑実測図



SK 207



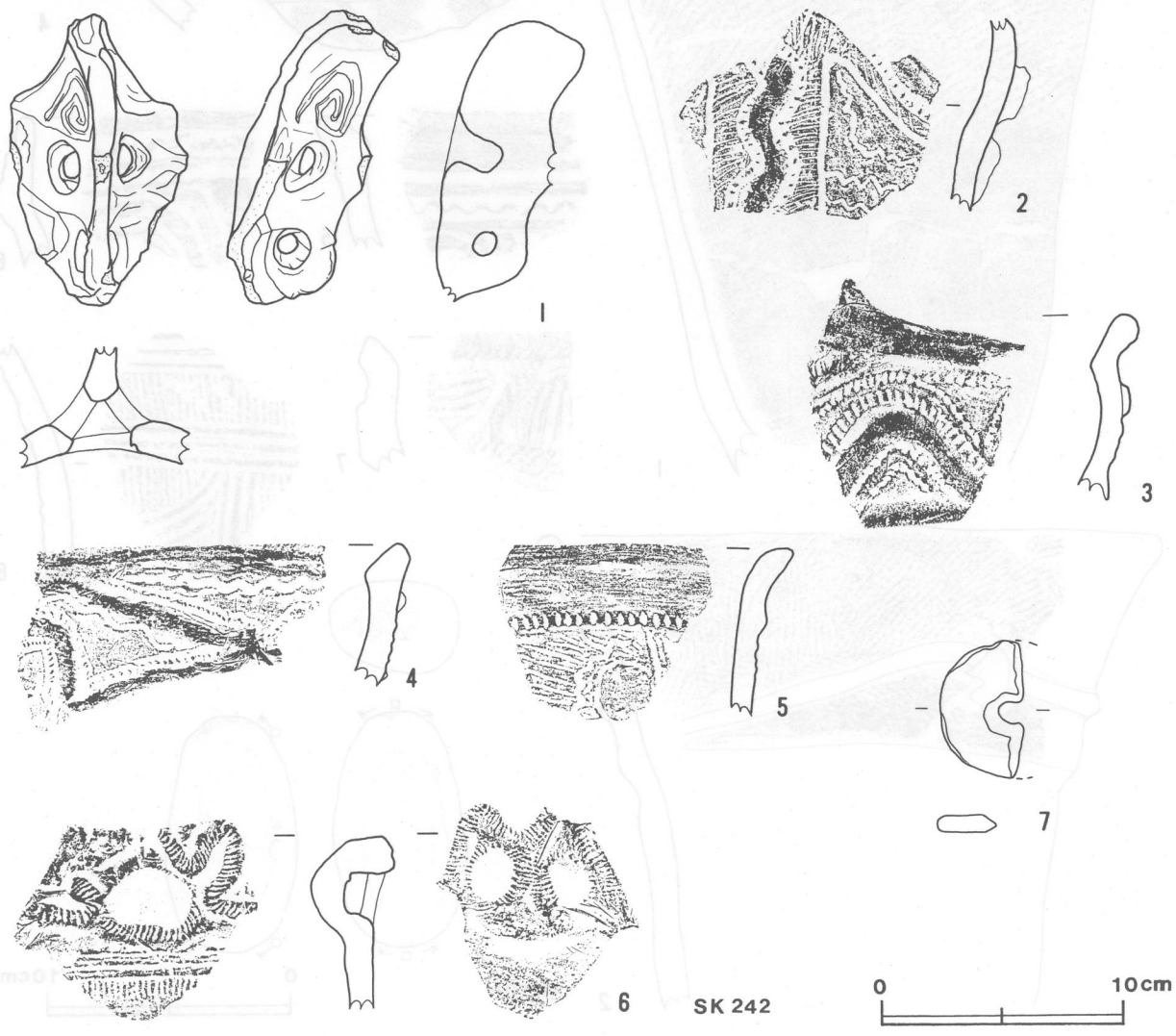
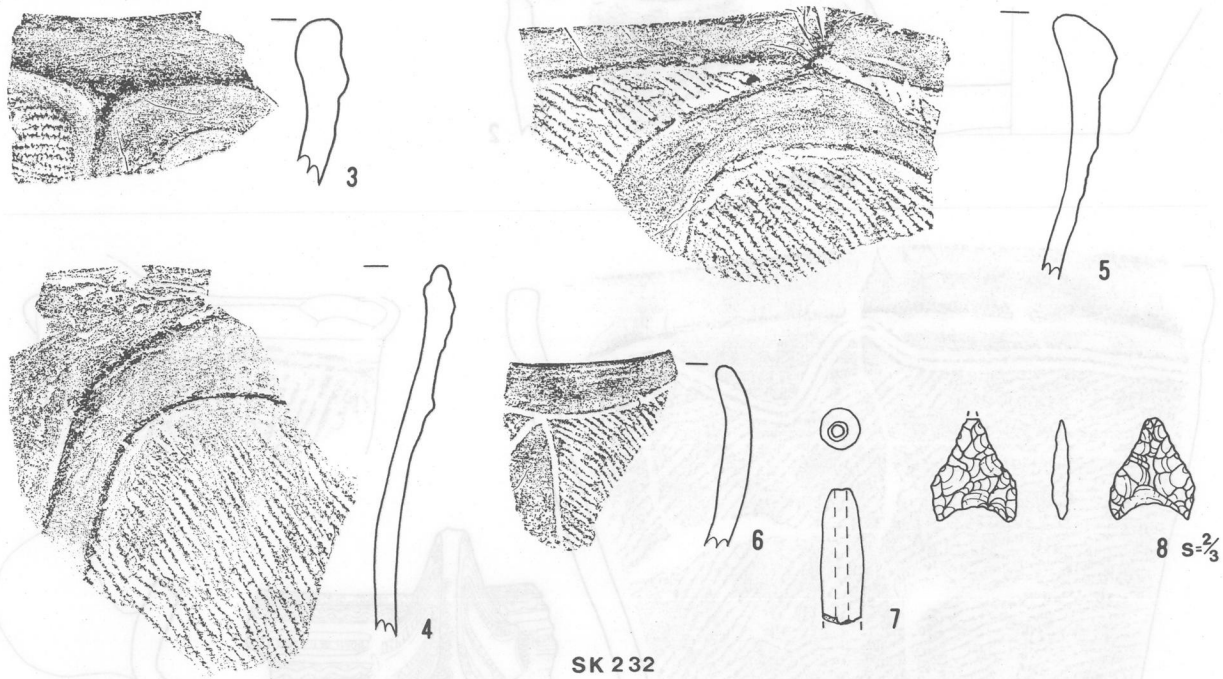
SK 215



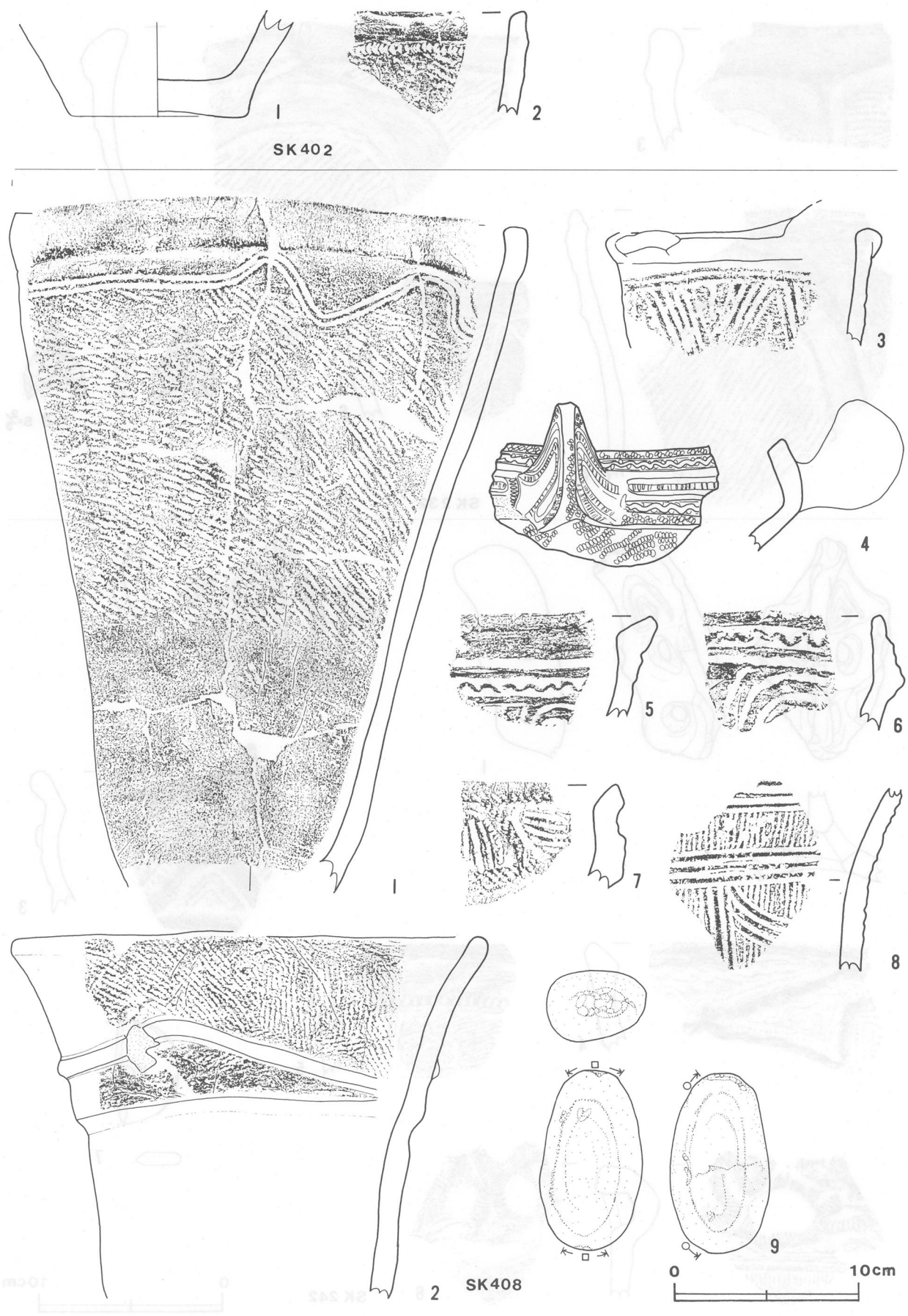
SK 232

0 10cm

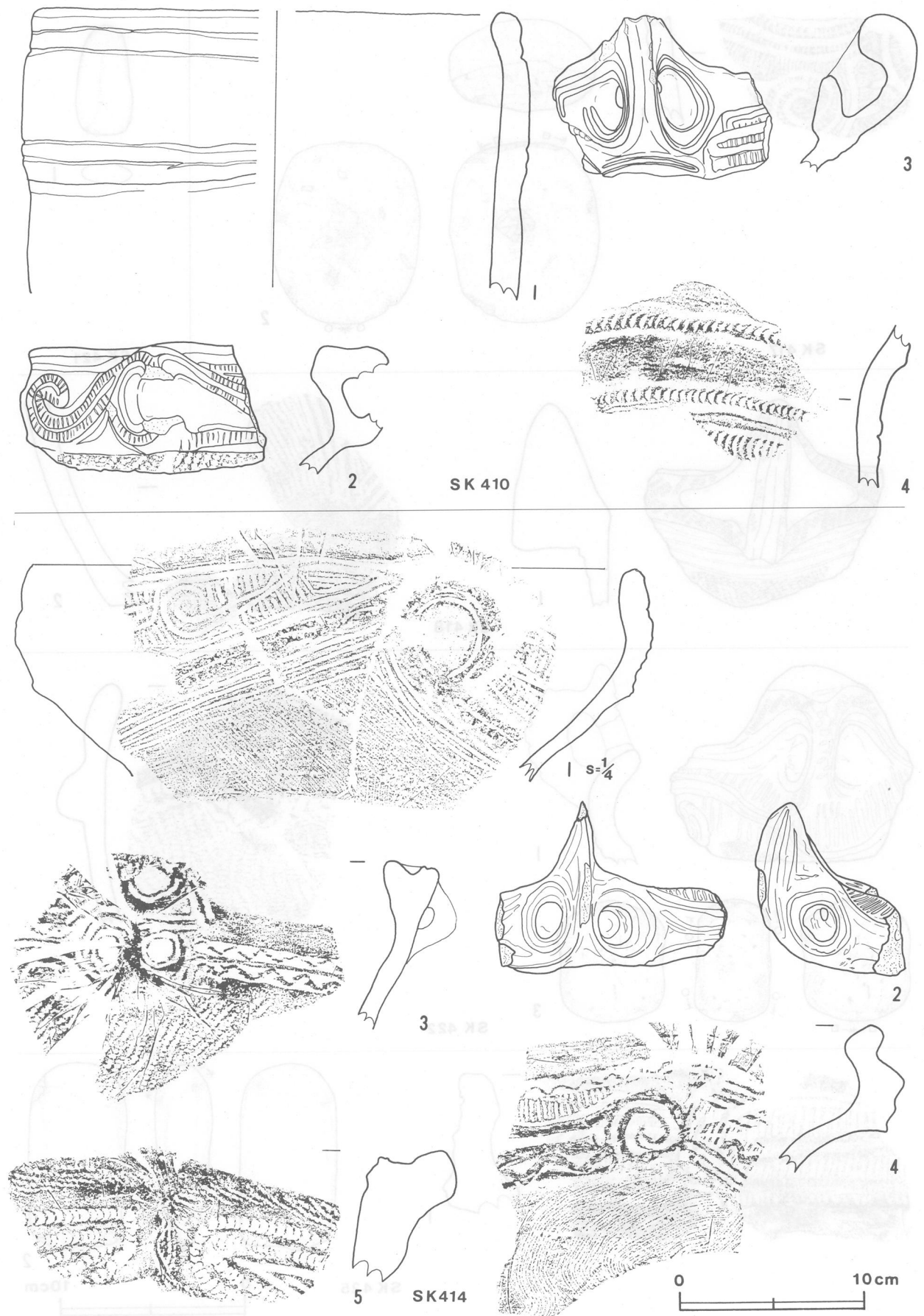
第463图 第207・215・232(1)号土坑出土遺物実測・拓影图



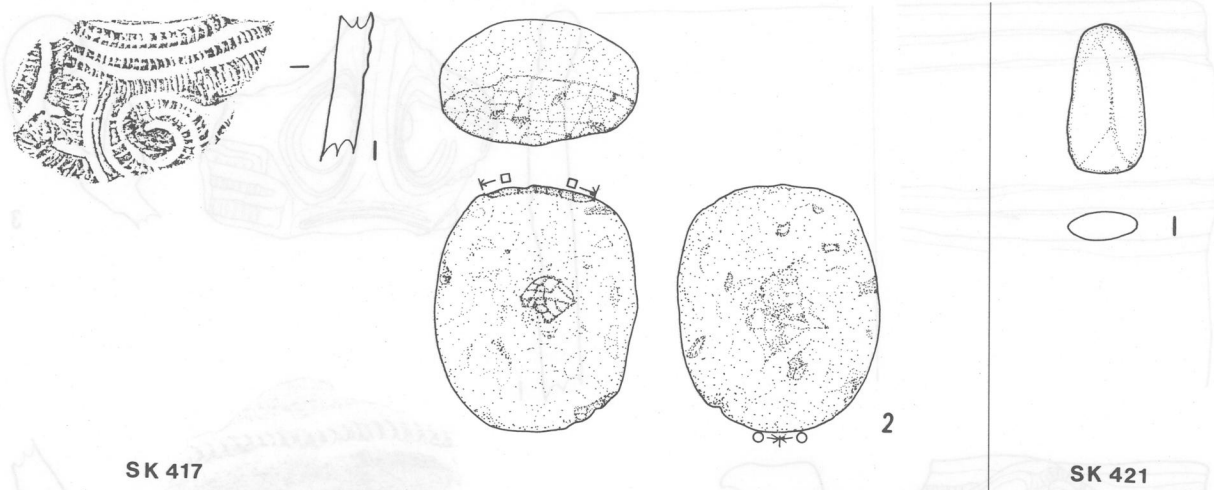
第464图 第232(2)·242号土坑出土遺物実測・拓影图



第465图 第402・408号土坑出土遺物実測・拓影图

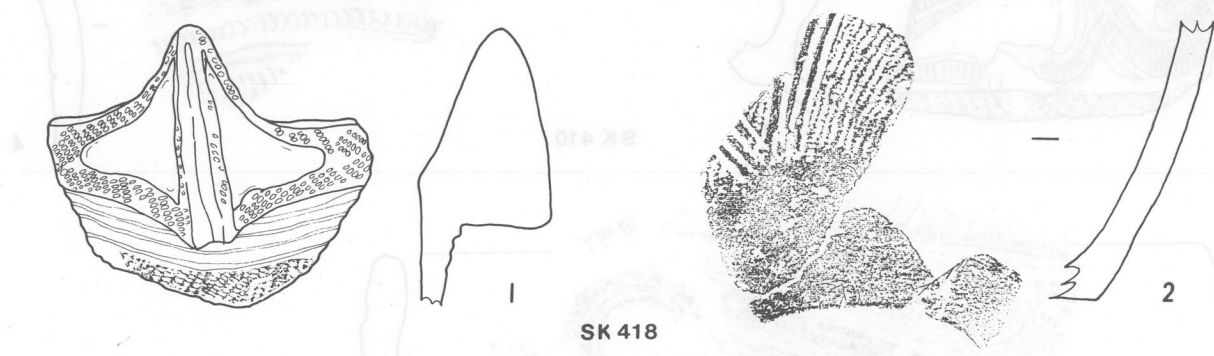


第466图 第410・414号土坑出土遺物実測・拓影图

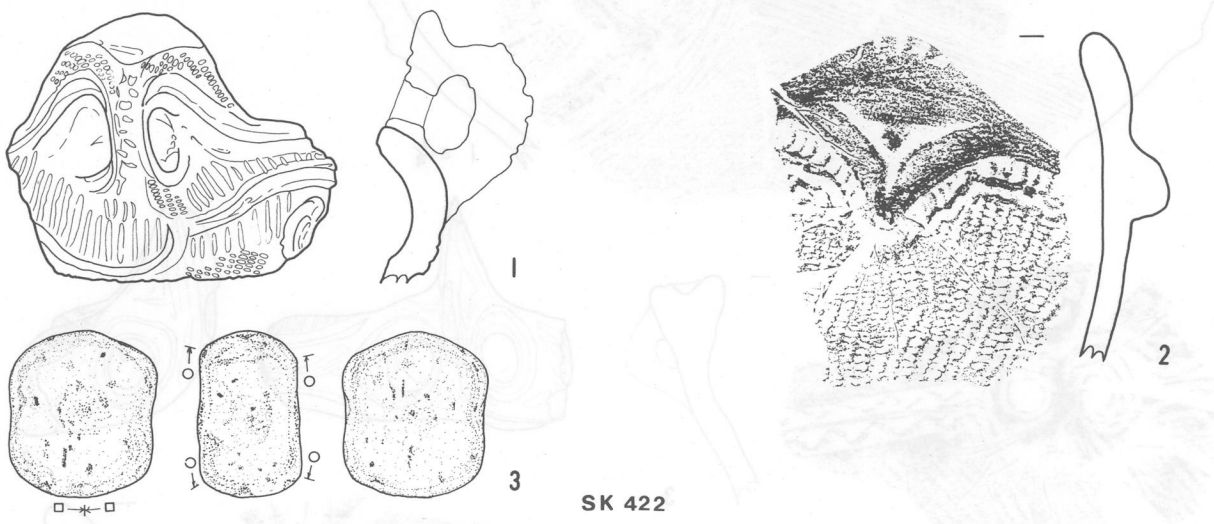


SK 417

SK 421



SK 418



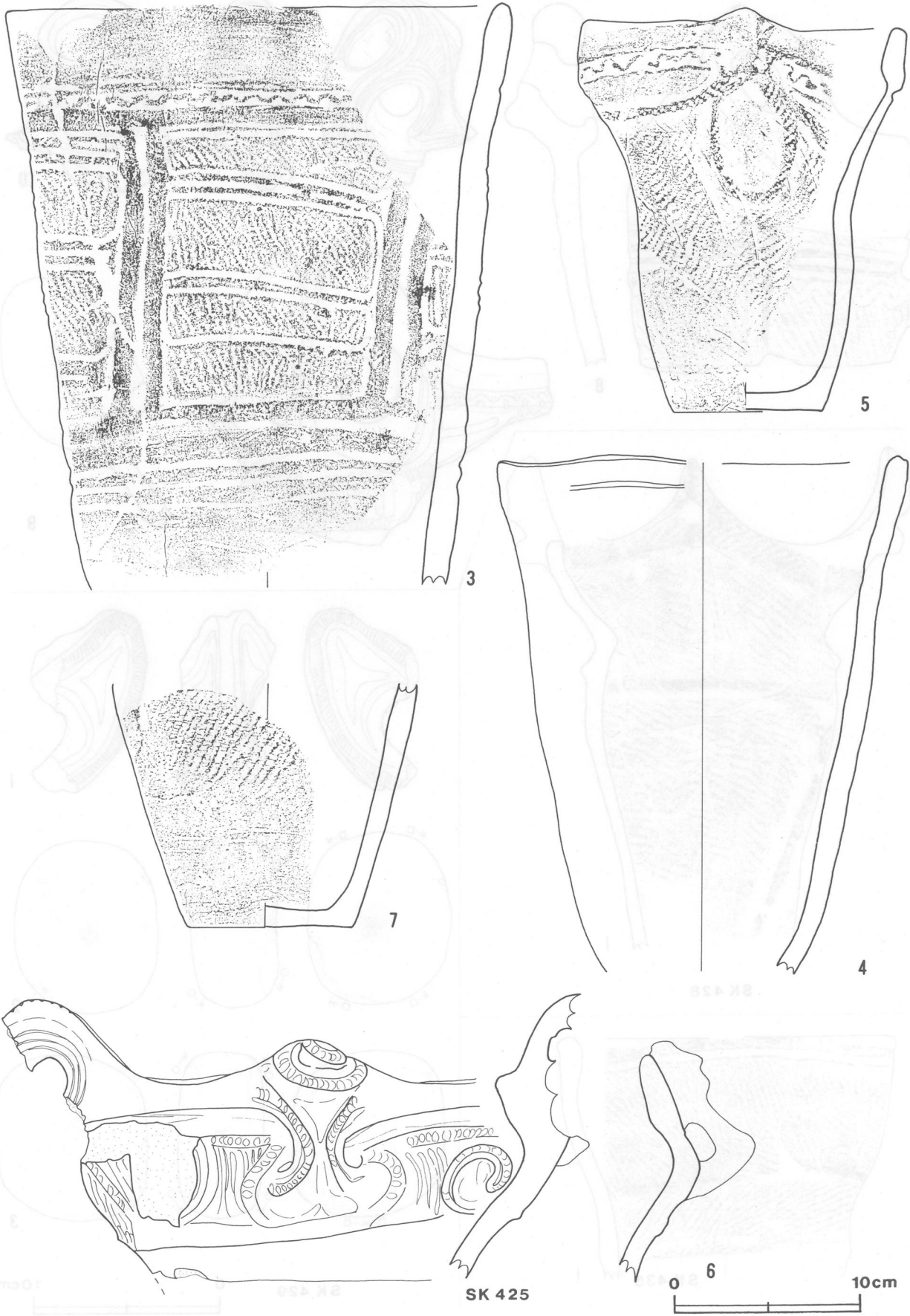
SK 422



SK 425

0 10cm

第467图 第417・418・421・422・425(1)号土坑出土遺物実測・拓影图



第468图 第425(2)号土坑出土遺物実測・拓影図

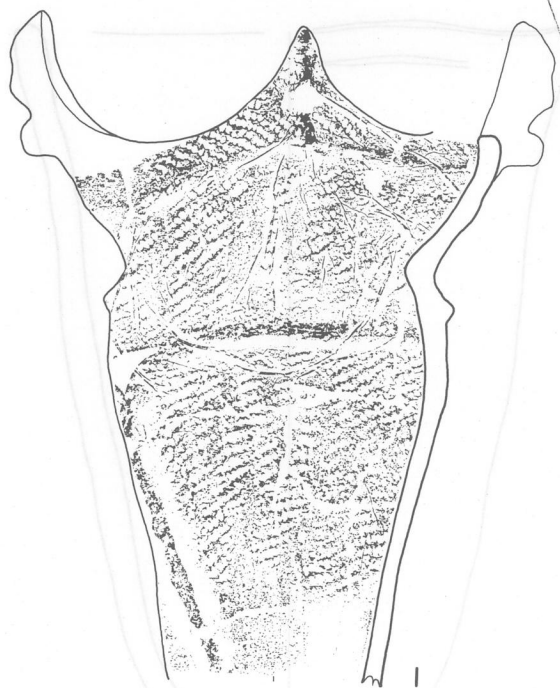


8

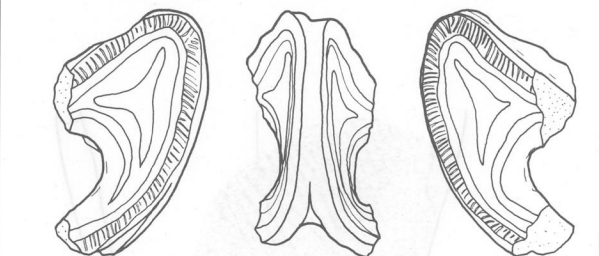
10

9

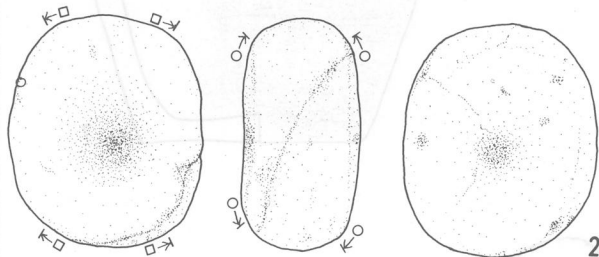
SK425



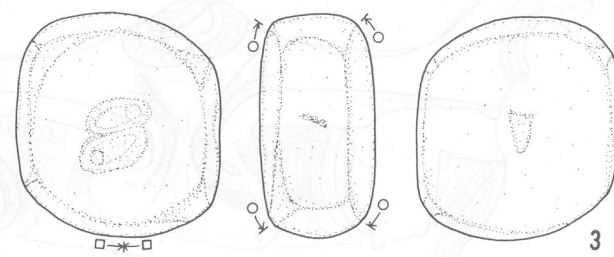
SK 428



1

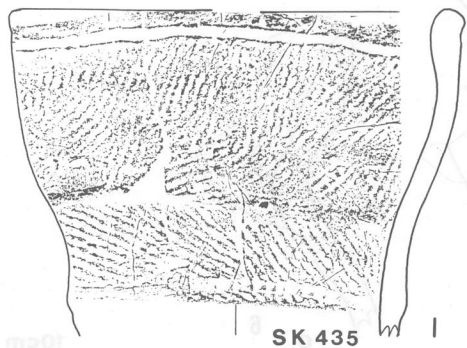
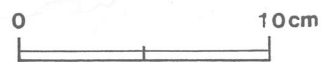


2



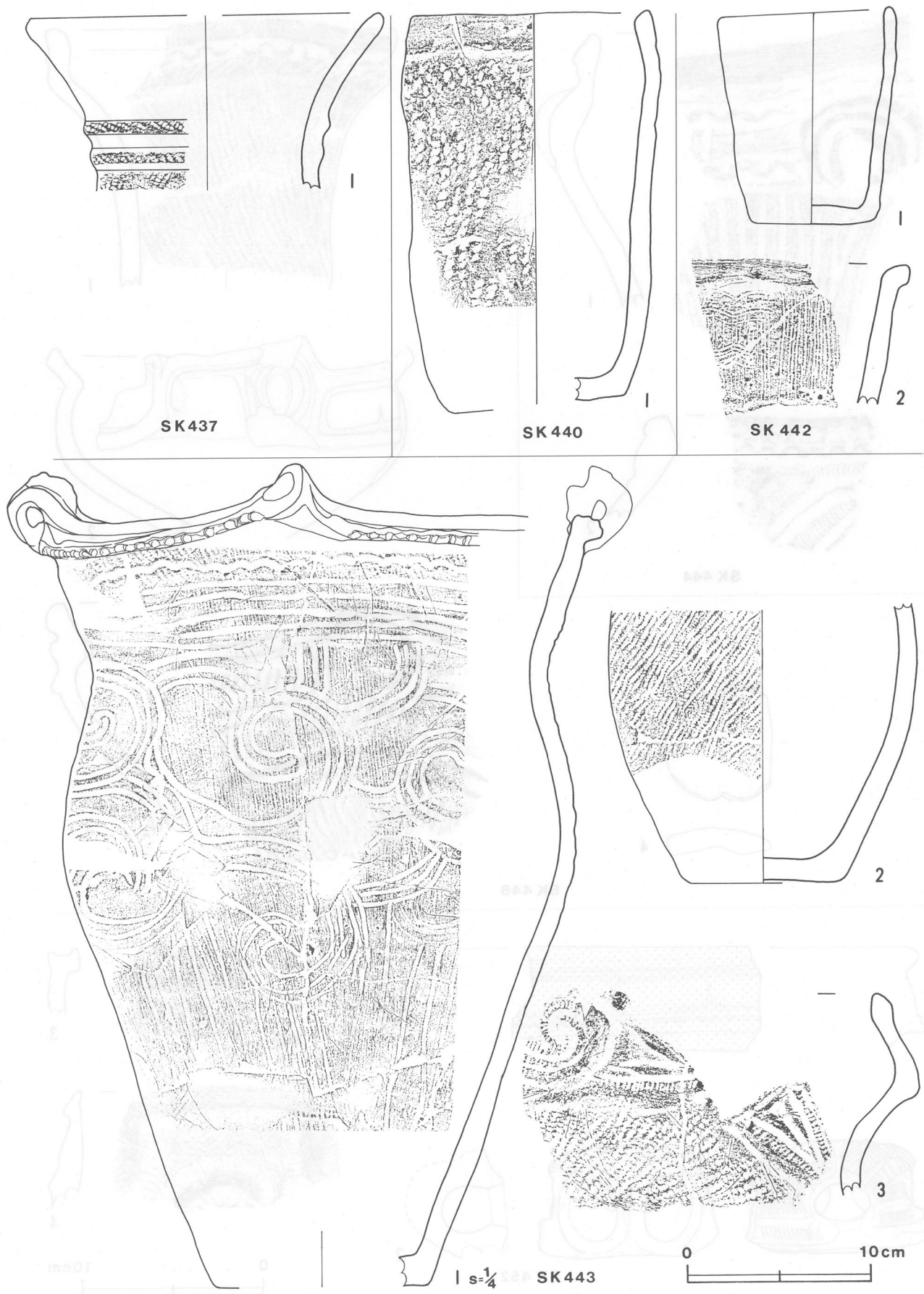
3

SK 429

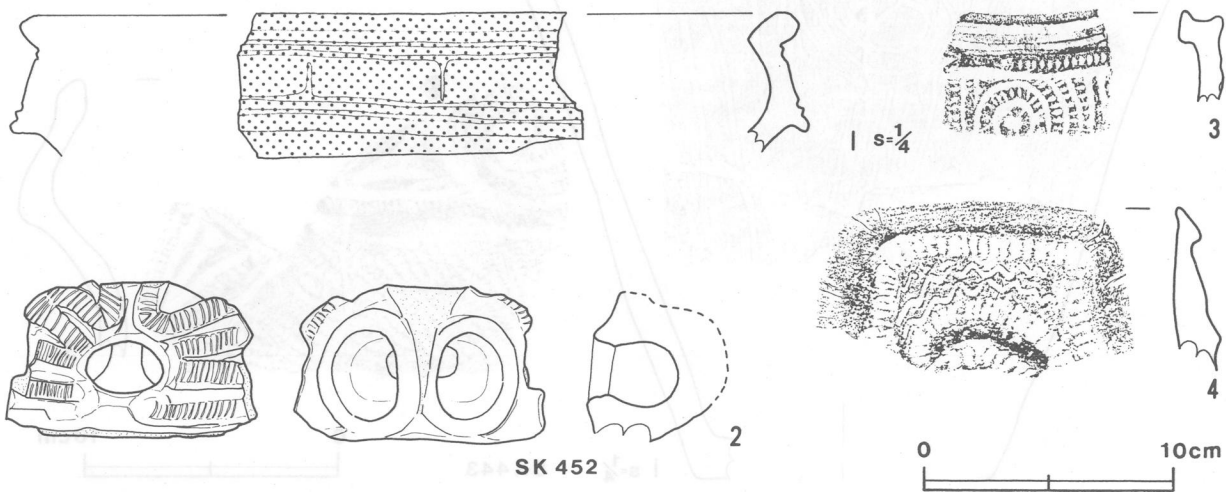
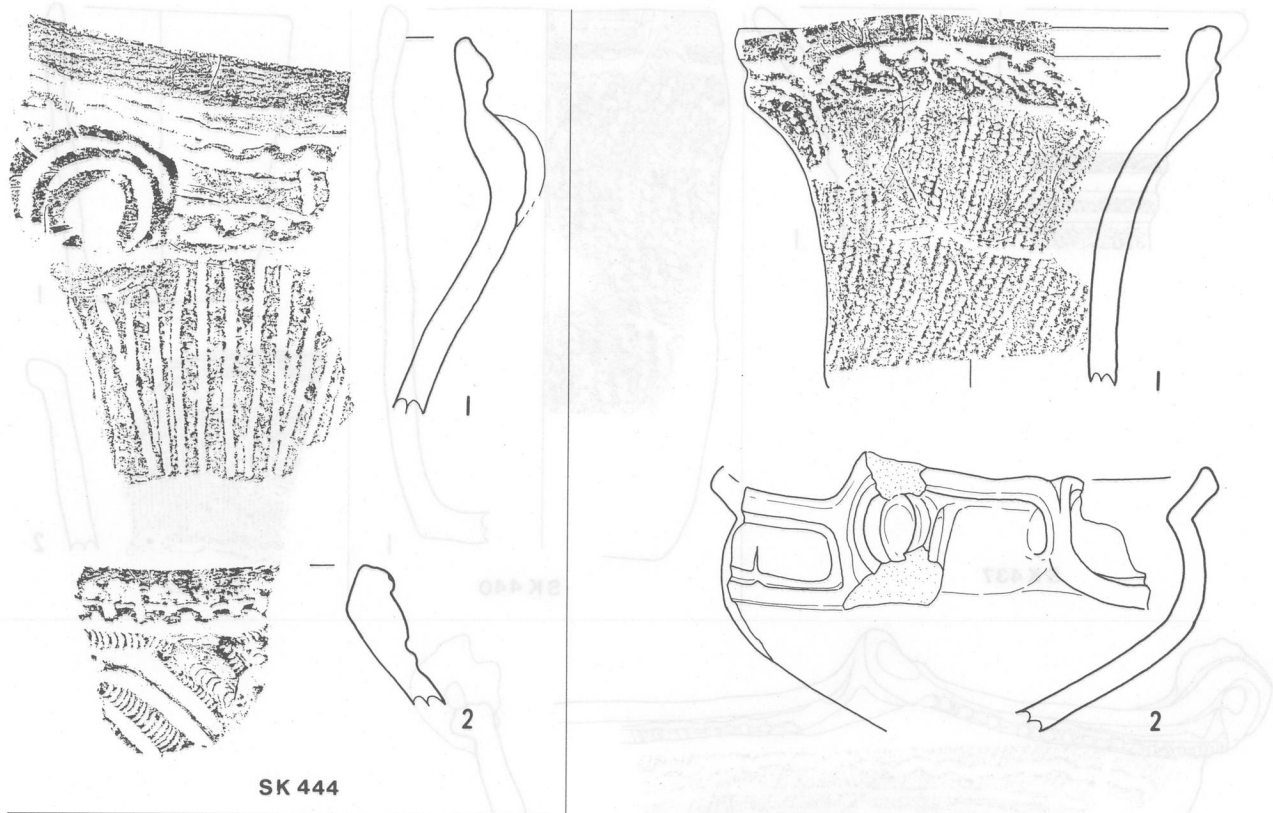


SK 435

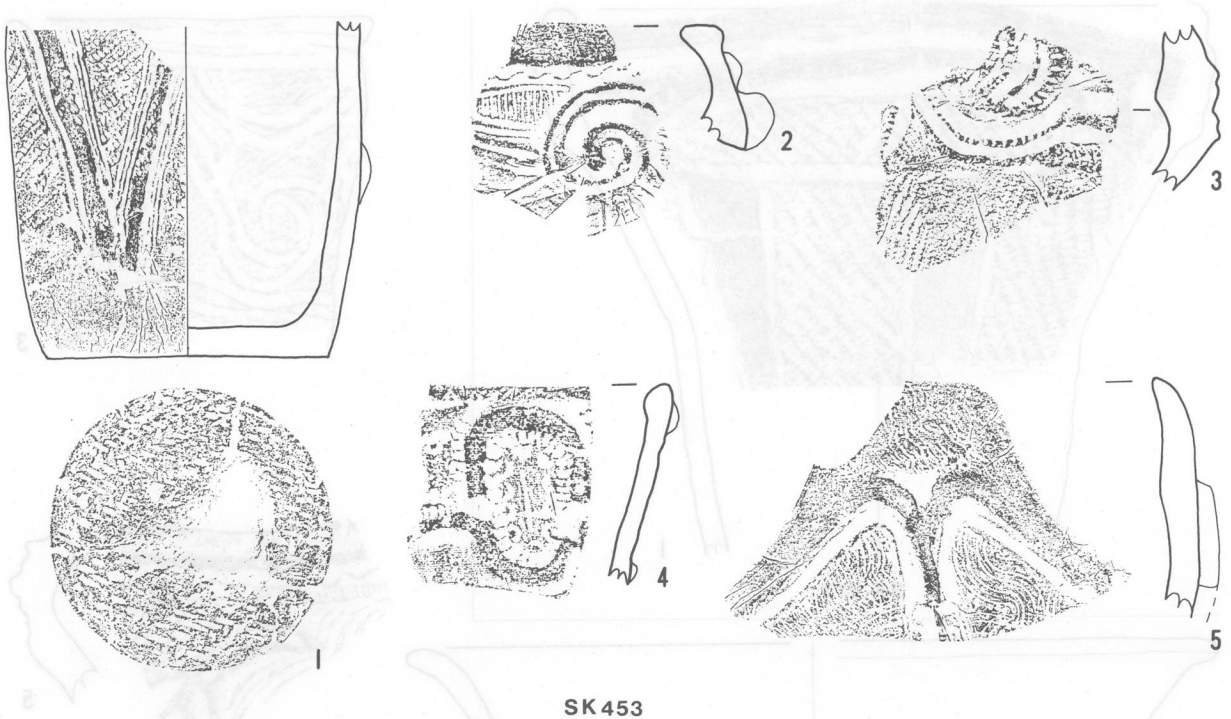
第469图 第425(3)·428·429·435号土坑出土遺物実測·拓影图



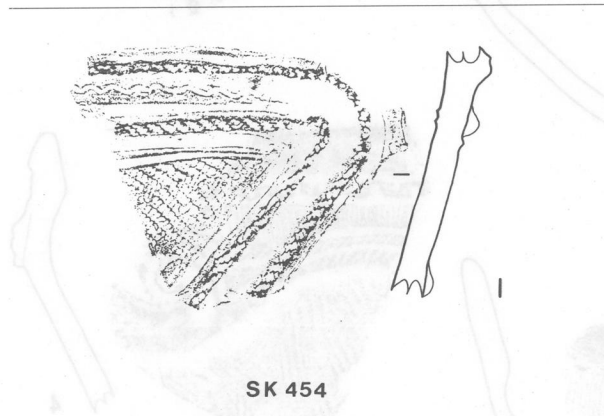
第470图 第437・440・442・443号土坑出土遺物実測・拓影图



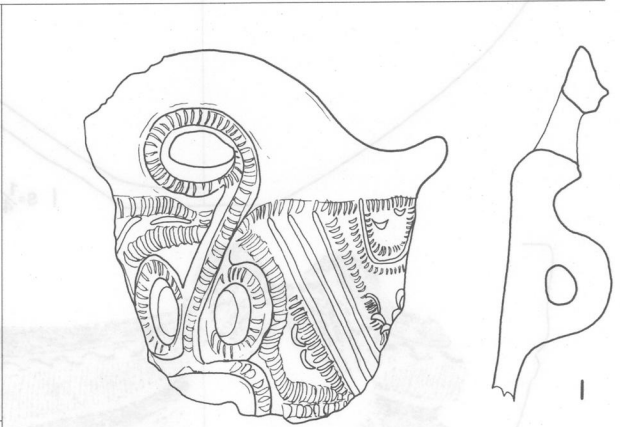
第471图 第444·446·452号土坑出土遗物实测·拓影图



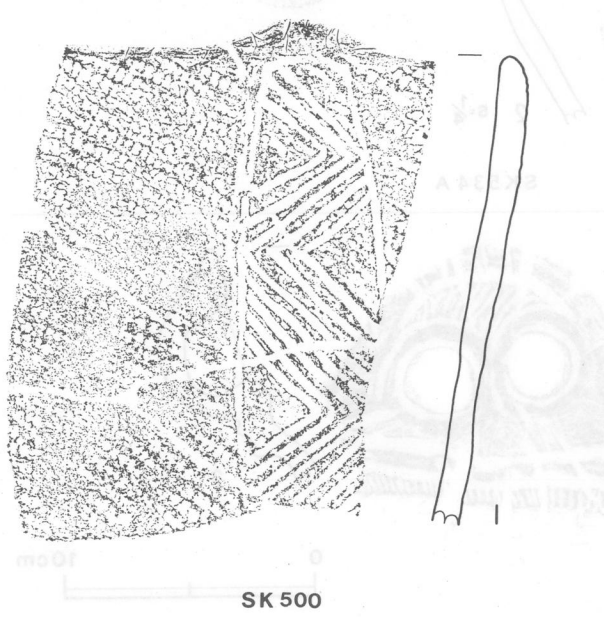
SK 453



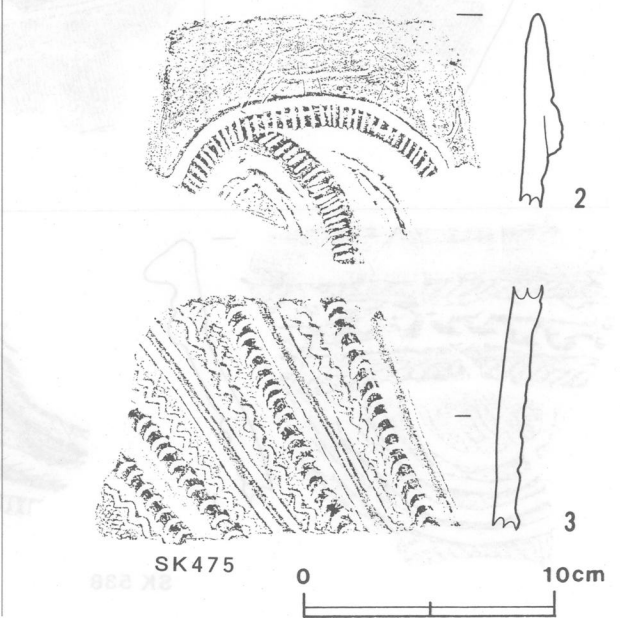
SK 454



SK 475

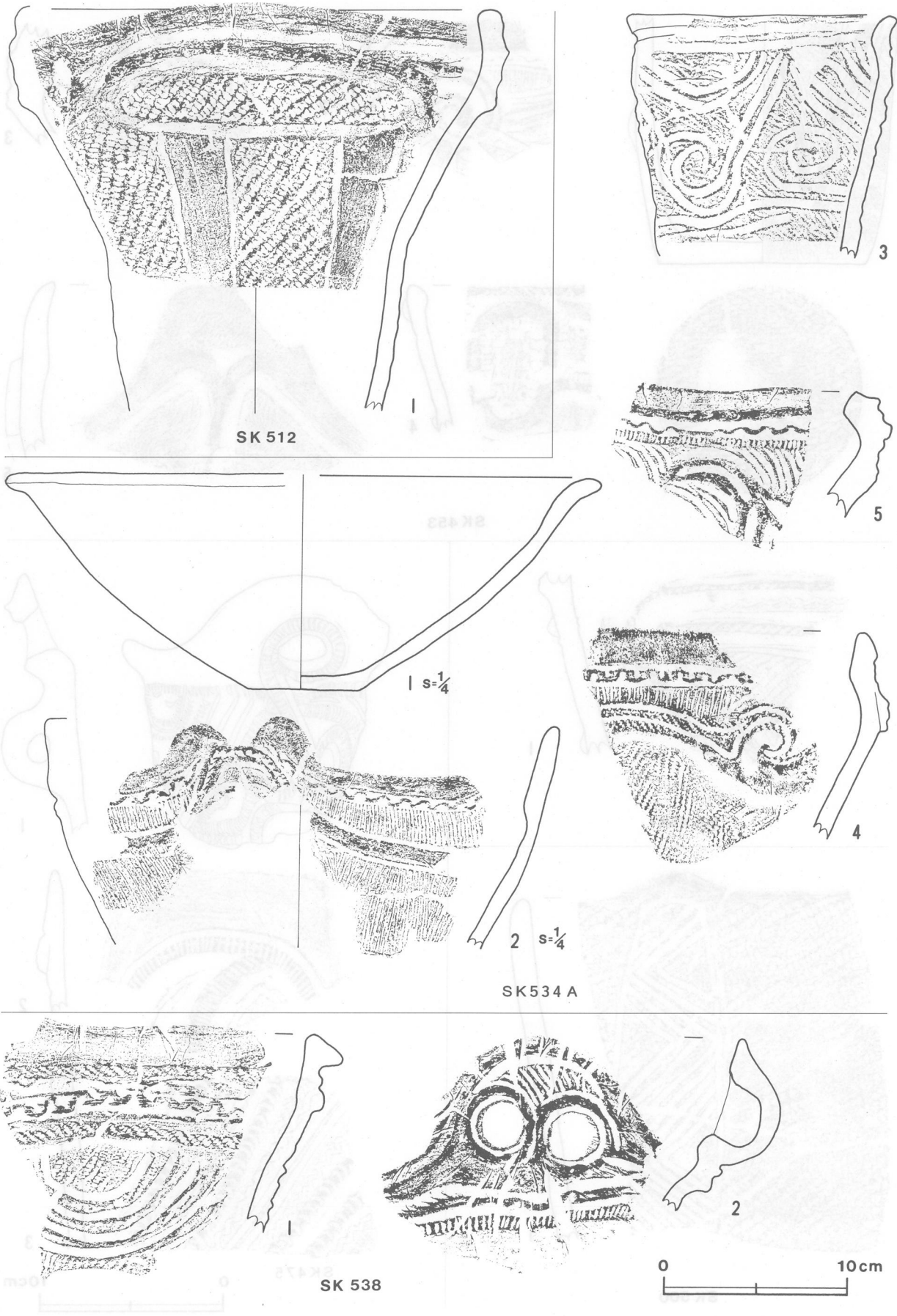


SK 500

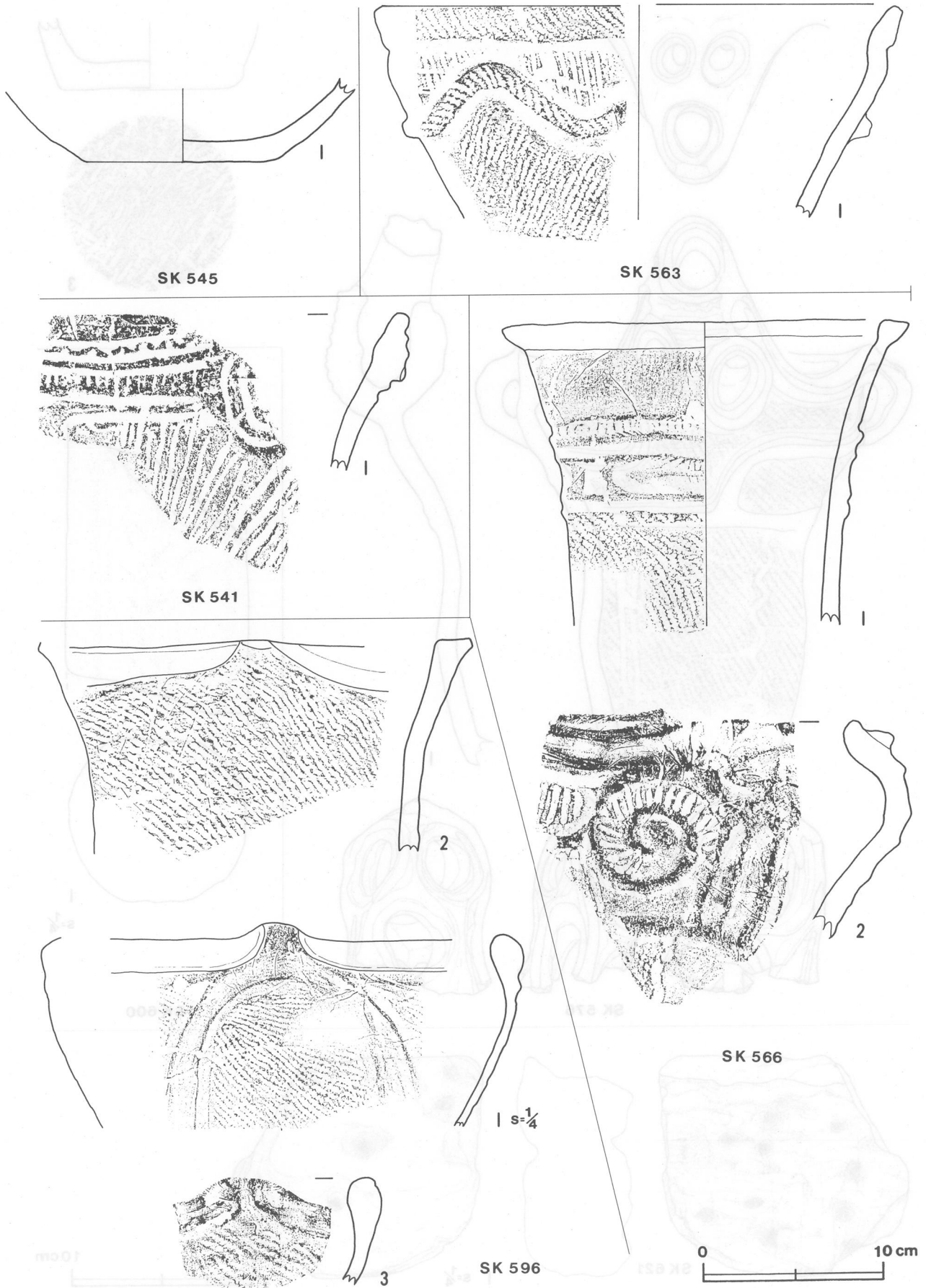


0 10cm

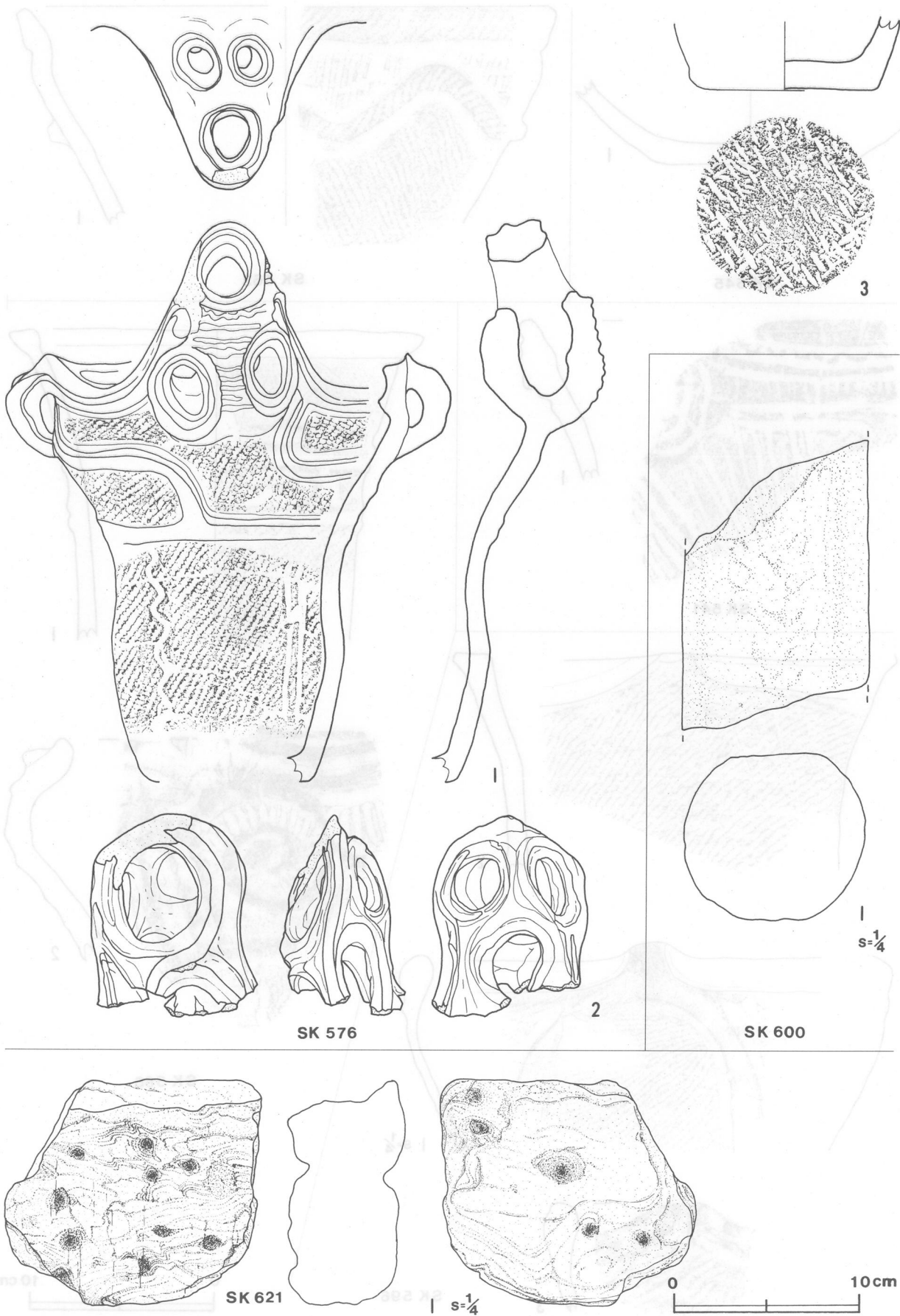
第472图 第453·454·475·500号土坑出土遺物実測・拓影图



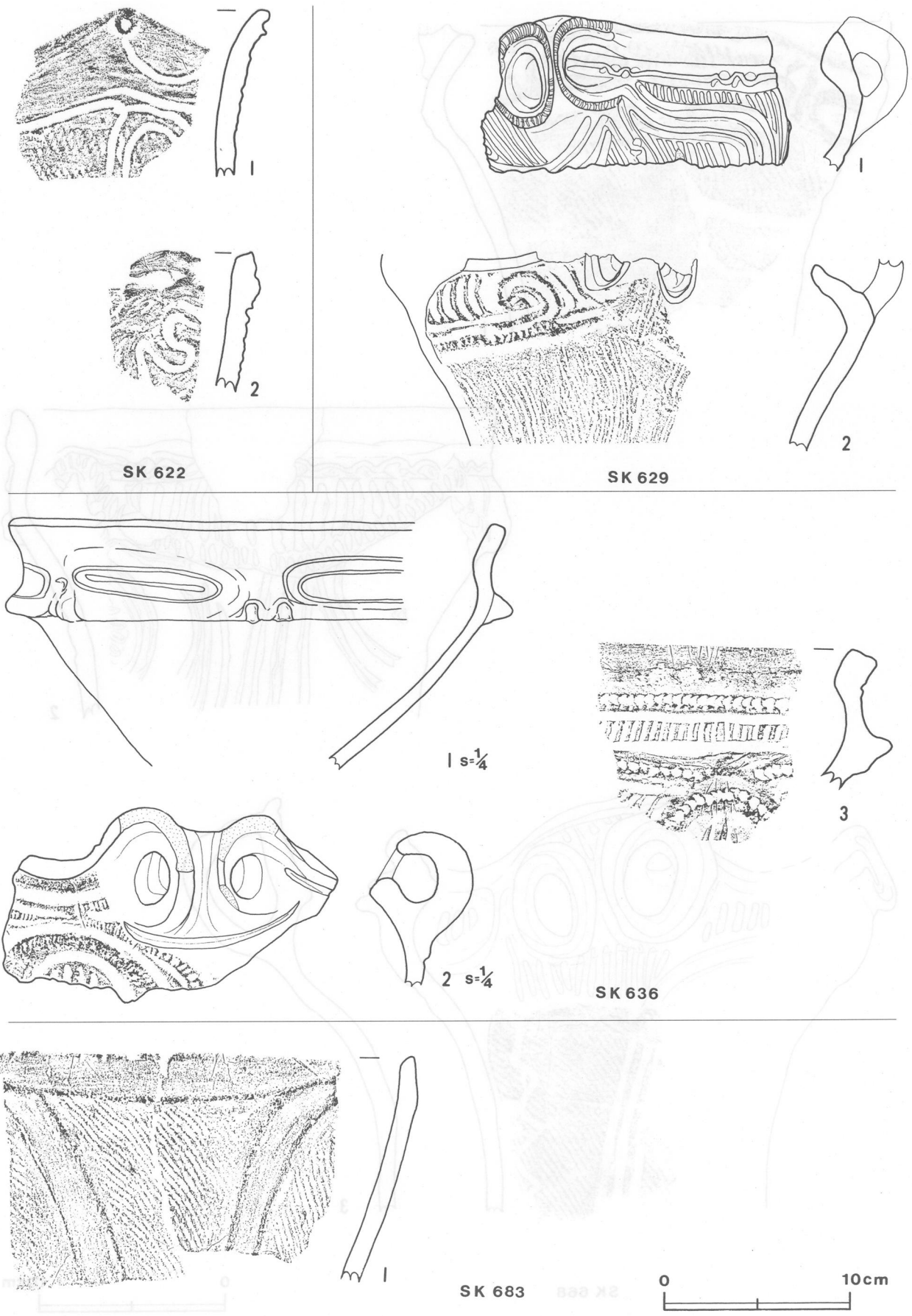
第473图 第512·534A·538号土坑出土遗物实测·拓影图



第474图 第541・545・563・566・596号土坑出土遺物実測・拓影图



第475图 第576·600·621号土坑出土遗物实测·拓影图



第476图 第622·629·636·683号土坑出土遺物実測・拓影图



第477图 第668号土坑出土遺物実測・拓影图

土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第463図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(26.4)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部無文帯の下に巡らされた微隆起線以下胴部には、単節縄文LRが縦位回転で施文されている。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P107 10% SK-207 中央部覆土中層 (加曾利EIV)
		B(11.0)			
2	深鉢形土器 縄文土器	A(14.4)	胴部中位以下欠損。胴部は「S」字状に立ち上がり、口縁部に至る。4単位の波状口縁で、環状の把手を有する大波頂部と、波頂部外面に円形の刺突文を有する小波頂部を交互に対に配する。口縁部外面は微隆起線区画によるナデを上下2段施し、深い円形の連続刺突文が加えられている。胴部には単節縄文LRが横位回転で施文され、「∩」状を描く微隆起線区画の磨消帯に文様が分断されている。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P108 40% SK-207 中央部覆土中層 (加曾利EIV)
		B(11.3)			
第463図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(7.5) C 6.8	底部片。突出する平底で、胴下部は外傾して立ち上がる。外面に単節縄文RLが横位回転で施文されているが、底部から3cmほどは磨り消されている。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P110 10% SK-215 覆土下層 (中期後半)
第463図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(26.1)	底部欠損。胴部は緩やかな「S」字状を描いて立ち上がり、口縁部に至る。4単位の波状口縁で、波頂部に小突起を有する。縦位回転の単節縄文RLが地文で、口縁部及び胴部には微隆起線区画の磨消帯が施されている。	砂粒 にぶい橙色 普通	P114 60% SK-232 覆土中層・下層 (加曾利EIV)
		B(25.6)			
2	深鉢形土器 縄文土器	B(9.2)	底部片。突出する平底で、胴部は外傾して立ち上がる。外面縦位の削りで整形されている。	砂粒 橙色 普通	P115 10% SK-232 覆土上層・中層 (中期後半)
		C 7.0			
第464図 1	把手 縄文土器	長さ(12.1) 幅(7.3) 厚さ(5.0)	口縁部把手片。粘土を貼り合わせ、中央が外側に鋭く突出する。外面に上下2単位の通孔、内面にも楕円形の孔を有し、側面上段の孔と内面の孔は連結している。上段の孔の上には片面に渦巻文が施されている。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P117 5% SK-242 覆土下層 (中期中葉)
第465図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(5.2) C 9.6	底部片。上げ底で、胴下部は外傾して立ち上がる。無文である。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P135 10% SK-402 覆土 (中期)
第465図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 27.8	底部欠損。胴部は外傾して直線的に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は肥厚し、無文である。胴上部には無節縄文が不規則に施文され、半截竹管による平行沈線が口縁部下には部分的に曲線を描いて横走され、胴部には縦位の直線や曲線で描かれている。胴下部は無文である。	砂粒・長石・石英 ・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P138 80% SK-408 底面 (阿玉台IV～中峠)
		B(36.3)			
2	深鉢形土器 縄文土器	A(25.7)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部はやや外傾して立ち上がり、頸部でラッパ状に開いて口縁部に至る。頸部に隆帯が2段横走し、上段は僅かに曲線を描く。口唇部から上段の隆帯までは単節縄文LRが施文されているが、回転方向に規則性は見られない。胴部無文である。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P139 30% SK-408 覆土下層 (阿玉台IV～中峠)
		B(19.6)			
3	深鉢形土器 縄文土器	A(15.0)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は肥厚し把手を有するが、欠損しているため詳細不明である。胴部には文様の中心の三角形を囲むように半截竹管による隆起線を斜位に充填し、中心の三角形文には連続爪形文が縦位に施されている。	砂粒・長石・ スコリア にぶい赤褐色 普通	P140 10% SK-408 覆土中層 (勝坂II)
		B(7.9)			
4	深鉢形土器 縄文土器	長さ(9.0)	把手を有する口縁部片。口縁部外面の沈線区画内に交互刺突による連続「コ」字状文、連続刻文、連続「コ」字状文が順に施されている。口縁部は粘土貼り合わせによる方形の把手を有し、側面に沈線で「∩」状の文様が描かれ、隙間に外側に単節縄文、内側に連続刻文が施されている。胴部には単節縄文RLが施文されている。	砂粒・長石・ スコリア にぶい橙色 普通	P141 5% SK-408 覆土下層 (中峠)
		幅(12.4) 厚さ(8.4)			
第466図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(26.2) B(15.6)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は直立して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部と頸部に平行沈線が横走されている。文様は施されていない。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P142 20% SK-410 覆土下層 (中期中葉)
2	深鉢形土器 縄文土器	長さ(7.0)	内彎する口縁部片。口縁部文様帯に中央に沈線を加えた隆帯で渦巻文を描き、隆帯が上下に分離し、孔を有する把手を形成すると思われるが、欠損しているため詳細不明である。隆帯には連続刻文が施されている。口縁部以下胴部には単節縄文RLが縦位回転で施文されている。	砂粒 にぶい褐色 普通	P143 5% SK-410 覆土 (中峠)
		幅(13.0)			
3	把手 縄文土器	長さ(9.1)	口縁部に付けられた環状の把手で、側面の孔は複列の沈線で縁取りされ、把手内面には三角形の透かし、外面把手下には下向き弧状の複列の沈線が施されている。口縁部文様帯は縦位の沈線が施され、扁平な粘土紐が3列横位に張り付けられており、粘土紐端部は縦位の粘土紐で連結されている。	砂粒・雲母 褐色 普通	P144 5% SK-410 覆土 (中峠～加曾利EI)
		幅(11.1) 厚さ6.5			

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第466図 1	深鉢形土器 縄文土器	A [43.2] B (15.0)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がった後内彎しながら口縁部に至る。口唇部は肥厚し、中央に沈線を加えた上向き弧状の隆帯が口唇部に接続して形成する区画を5単位有して口縁部文様帯を構成しているものと思われる。隆帯の右端が内側に向かい円形を呈し、区画内には沈線による渦巻文、縦位の短沈線及び区画に沿う沈線が施されている。胴部には区画に沿う弧状沈線が隆帯下に、それ以下は斜位、縦位あるいは蛇行沈線が櫛歯状の施文具で描かれている。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P147 20% SK-414 覆土中層 (中峠)
2	把手 縄文土器	長さ(9.3) 幅(12.4) 厚さ(8.1)	口縁部装飾把手で、把手先端が鳥のくちばしの様に鋭く上方に突出する。側面下部には通孔が見られ、孔の周囲や側面に沈線が描かれ、三又文等も見られる。	砂粒・長石・石英・ 雲母 にぶい褐色 普通	P148 5% SK-414 覆土中層 (中峠)
第467図 1	深鉢形土器 縄文土器	長さ(11.3) 幅 13.0	深鉢形土器口縁部の波頂部片。口縁部の肥厚部分が両側から競り上がるようにして形成される。三角形の先端が鋭く尖る波頂部で、側面には三角形文が彫刻され、三角形文の外側及び口縁部肥厚部には単節縄文RLが施文されている。口縁部下には半截竹管による平行沈線が4列横走され、以下胴部には縄文が縦位回転で施されている。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P150 5% SK-418 覆土 (中峠)
第467図 1	把手 縄文土器	長さ(10.8) 幅(13.0)	深鉢形土器口縁部の環状把手。把手側面には平行沈線で縁取りが、外面には交互刺突文が、側面上部には縄文が部分的に施されている。内面にも縁取りを施した孔が穿たれている。口縁部文様帯は、中央に沈線をした隆帯が曲線的に施され、隙間には縦位の短沈線が充填されている。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P151 5% SK-422 覆土中層 (中峠)
第468図 3	深鉢形土器 縄文土器	A 27.0 B (31.1)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部幅5cmほどは無文帯で、直下に交互刺突による連続「コ」字状文が巡らされている。胴部には縦位の沈線で縦位に6分割され、それぞれ長方形の区画文が縦位に4か所づつ配され、区画内に無節縄文が施されている。これらの単位文下には4列の沈線が横走され、以下無文である。	砂粒・雲母 赤色 普通	P153 60% SK-425 覆土上層・中層 (中峠)
4	深鉢形土器 縄文土器	A [21.8] B (27.5)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は僅かに肥厚し、胴部との境に僅かな段が見られる。無文である。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P154 40% SK-425 覆土中層・下層 (中期中葉)
5	深鉢形土器 縄文土器	A 17.6 B 21.7 C 8.0	僅かに上げ底で、胴部は緩やかなキャリバー状の曲線を描いて立ち上がり、短く直立する口縁部に至る。口縁部は小突起を2か所有する。口縁部文様帯は、無文帯に接続する表面に縄文を施した緩やかな下向き弧状の隆帯による区画を4単位施し、区画内に交互刺突の連続「コ」字状文が無文帯直下に施されている。一方の突起下には縦長の楕円形区画文が施されているが、内部に文様は見られない。もう一方の突起下には、胴部に垂下する「∩」状の沈線が、胴部地文の縦位回転の単節縄文RLを切っている。	砂粒・長石・雲母 暗赤褐色 普通	P155 90% SK-425 覆土下層 (中峠)
6	深鉢形土器 縄文土器	A (30.9) B (14.9) ※A 25.4 B (12.9)	胴部以下欠損。口縁部は内彎する。大小の環状把手を1対づつ有し、大把手は口縁部上部に、小把手は口縁部外面に付され、小把手の上部には隆帯による渦巻文を施した突起が付されている。口縁部文様帯は、隆帯で楕円形区画文、渦巻文等の文様が描かれ、隙間には縦位の沈線が充填されている。隆帯には刻みや中央に沈線が加えられている。	砂粒・長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P156 20% SK-425 中層 (中峠) ※は小把手の計測 値
7	深鉢形土器 縄文土器	B (13.0) C 8.9	底部から胴下部にかけての破片。底部は削り出しにより僅かに凹凸が見られ、胴部は外傾して立ち上がる。外面に単節縄文RLが縦位回転で施文され、底部から7cmほどは横位の磨きが施され無文である。底部に網代痕が残されている。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P157 15% SK-425 覆土中層・下層 (中峠)
第469図 8	深鉢形土器 縄文土器	B (19.9)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して直線的に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は無文帯で、側面及び内面に孔を有する把手が上部に付けられている。胴部は縦位の隆帯によって縦区画され、区画上部には3列の横走沈線と波状沈線が施されている。地文に縦位回転の単節縄文RLが施文されている。	砂粒・雲母 赤色 普通	P158 10% SK-425 覆土下層 (大木8a)
9	把手 縄文土器	長さ(16.5) 幅(18.5) 厚さ(9.4)	口縁部把手片。口縁部上部に付けられた粘土貼り合わせによる環状の把手で、内面に楕円形の孔を有する。把手下部の左右には小突起が付されている。口縁部文様帯は交互刺突の連続「コ」字状文、縦位の短沈線及び刺突文で構成されている。	砂粒・長石・石英 にぶい褐色 普通	P159 5% SK-425 覆土中層 (中峠)
10	把手 縄文土器	長さ(10.5) 幅(8.3) 厚さ(5.1)	口縁部把手片。内面及び外面に上下2単位ずつの楕円形の孔を有する立体把手で、上下の孔は隆帯で「S」字状に結ばれている。隙間には短沈線が充填されている。	砂粒・長石・雲母 暗褐色 普通	P160 5% SK-425 覆土中層 (中峠)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第469図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 21.6 B (26.7)	底部欠損。胴部はやや外傾して立ち上がり、中で内彎した後くびれ、外傾して口縁部に至る。4単位の波状口縁で、波頂部外面中央が外側に鋭く突出し、やや下部に円形の押捺が見られる。口縁部に隆帯を巡らせ、くびれ部下には横走隆線と、横走隆線から派生して直線的に垂下する3本の隆線が施されている。垂線が派生する際に三叉文が施されている。外面に単節縄文R Lが充填されている。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	P161 70% SK-428 覆土中層 (阿玉台IV)
第469図 1	把手 縄文土器	長さ(9.7) 幅(6.2) 厚さ(5.3)	口縁部把手片。側面把手下部に通孔を有し、孔上に三叉文が彫刻され、把手の外縁に沿って連続刻文と沈線が施されている。	砂粒・雲母 暗赤褐色 普通	P162 5% SK-429 覆土 (中峠)
第469図 1	深鉢形土器 縄文土器	A (17.9) B (13.0)	胴上部から口縁部にかけての破片。頸部からやや外傾して立ち上がった後内彎気味に口縁部に至る。口縁部内側に厚みをもつ。口唇部直下に沈線、頸部下に上下に角押文を沿わせた隆帯が横位に施され、地文に無節縄文が施文されている。	砂粒・雲母 橙色 普通	P163 10% SK-435 覆土 (阿玉台IV)
第470図 1	深鉢形土器 縄文土器	A (19.0) B (9.7)	口縁部片。頸部は外傾して開き、口縁部に至る。頸部に2段の隆線を横位に施し、口縁部無文帯、隆線以下は単節縄文R Lが施文されている。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P164 5% SK-437 覆土 (中峠)
第470図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 12.9 B 21.9 C (9.8)	平底で、胴部は直立気味に立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。形はやや傾いている。口縁部は外面が肥厚し、胴部には単節縄文R Lが絡状体で縦位に施文され、底部から7cmほどは磨り消されている。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P165 50% SK-440 覆土 (中期中葉)
第470図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 9.7 B 12.0 C 6.9	平底で、胴部は直立して立ち上がり、口縁部に至る。文様は施されていない。	砂粒 にぶい橙色 普通	P166 90% SK-442 覆土下層 (中期中葉)
第470図 1	深鉢形土器 縄文土器	A (45.4) B 59.5 C (15.4)	胴部は緩やかな「S」字状を描いて立ち上がり、口縁部に至る。4単位の小波状口縁で、波頂部に環状の突起を有する。口唇部は上端に沈線、外面に粘土紐貼り付け後連続的に押捺が加えられている。文様帯はくびれ部で上下に分けられ、1文様帯は単列の波状沈線と5列の沈線が口唇部下からくびれ部まで横位に施されている。2文様帯は3本1組の沈線で渦巻文を上下2段で横位に描き、それぞれが相互に連結している。地文は条線状の浅い集合沈線が口縁部から胴下部まで縦位に施されているが、口唇部直下には部分的に単節縄文も見られる。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 普通	P167 40% SK-443 覆土 (大木8a)
2	深鉢形土器 縄文土器	B (15.2) C 8.6	底部から胴部にかけての破片。やや上げ底で、胴部は内彎して立ち上がる。胴部に単節縄文R Lが縦位回転で施されているが、底部から7cmほどは無文である。	砂粒 赤褐色 普通	P168 30% SK-443 覆土 (中期中葉)
第471図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 19.1 B (14.2)	胴下半欠損。胴部は外反しながら立ち上がり、口縁部は短く直立する。口縁部中央に施された交互衝突の連続「コ」字状文を挟んで、上は無文、下は単節縄文R Lが横位回転で施文されている。胴部には同縄文が縦位回転で施されている。	砂粒・石英 橙色 普通	P169 40% SK-446 覆土中層 (中峠)
2	浅鉢形土器 縄文土器	A (20.0) B (10.4)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎しながら立ち上がり、頸部で屈曲して口縁部に至る。波状口縁で、口縁部と頸部の内側に沈線を沿わせた隆帯で区画文を描き、波頂部で上下の隆帯が連結し、環状の把手が2単位形成されている。区画内には沈線から派生する縦位の短い三叉状の削り込みが施されている。	砂粒 橙色 普通	P170 30% SK-446 覆土中層 (中峠)
第471図 1	浅鉢形土器 縄文土器	A (40.6) B (7.3)	口縁部片。内彎する口縁部片で、口唇部は屈曲して外傾する。頸部に突出する隆帯を巡らせ、口唇部直下及び隆帯直上に半截竹管による平行沈線を横走させ、上下の沈線から交互に縦位の沈線が派生されている。外面及び口唇部内面が赤彩されている。	砂粒・長石 褐色 普通	P171 5% SK-452 覆土下層 (勝坂II)
2	把手 縄文土器	長さ(6.2) 幅(9.9) 厚さ(5.6)	口縁部把手片。外面に1単位、内面に2単位の孔を有する中空把手。外面には鋭角的に屈曲する蛇形隆帯が孔の周囲に施され、隆帯上には連続刻文が加えられている。	砂粒・スコリア・ 長石 にぶい橙色 普通	P172 5% SK-452 覆土 (勝坂II)
第472図 1	深鉢形土器 縄文土器	B (13.3) C 11.2	胴上半欠損。平底で、胴部は直立する。胴部に単節縄文R Lを縦位あるいは斜め回転で施文し、半截竹管による平行沈線を両側に沿わせた斜位の隆帯が胴下部で三角形に連結されている。底部から4cmほどは無文で、底部に網代痕が残されている。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P173 30% SK-453 底面 (阿玉台IV)
第472図 1	深鉢形土器 縄文土器	B (14.1)	口縁部片。胴部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。波状口縁で、波頂部に孔が穿たれ、波頂部下の胴上部には眼鏡状の把手が付けられている。孔及び把手は刻みを加えた隆帯で縁取られ、隆帯は孔から把手へと流れ、更に胴下部へ垂下している。胴部文様帯は口縁部下に連続爪形文が横位に施され、以下3列の斜行平行沈線、爪形文等が施文されている。	砂粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P176 5% SK-475 覆土下層 (勝坂II)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第473図 1	深鉢形土器 縄文土器	A (25.0) B (21.9)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり、頸部からやや開いた後僅かに内彎して口縁部に至る。口縁部文様帯は楕円形区画及び渦巻文が隆起線と沈線で描かれ、胴部には直線的に垂下する沈線区画の磨消帯が施されている。地文に縦位回転の単節縄文RLが施文されている。	砂粒・長石 橙色 普通	P178 30% SK-512 覆土中層 (加曾利EⅢ)
第473図 1	浅鉢形土器 縄文土器	A (42.5) B 15.1 C 8.1	底部から口縁部にかけての破片。平底で、胴部は僅かに内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は外反する。器面に文様はなく、縦方向の削りで調整されている。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P180 25% SK-534A 覆土 (中期中業)
2	深鉢形土器 縄文土器	A (36.8) B (16.1)	口縁部片。波状口縁で、波頂部に双耳状の突起を有する。上下の隆帯で口縁部文様帯を区画し、区画内上部に交互刺突の連続「コ」字状文、以下縦位の細沈線が充填されている。波頂部下には曲線を描いて鏡り上がる隆帯が見られ、ペン先文が連続されている。胴部には縦位、斜位の細沈線が充填されている。	砂粒・長石・雲母 赤褐色 普通	P181 5% SK-534A 覆土 (中峠)
3	深鉢形土器 縄文土器	A 14.7 B (13.3)	底部欠損。胴部は外傾して直線的に立ち上がる。口唇部下に2本1組の横走沈線が施され、以下胴部には撚糸文地文の上に、2本1組の沈線で渦巻文、弧状文等の曲線的なモチーフが描かれている。	砂粒 明赤褐色 普通	P182 70% SK-534A 覆土 (中峠)
第474図 1	浅鉢形土器 縄文土器	B (4.0) C 10.6	底部片。平底で、胴部は外傾して開く。文様は施されておらず、胴下部及び底部は削りで調整されている。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P183 10% SK-545 覆土中層 (中期中業)
第474図 1	深鉢形土器 縄文土器	A (29.0) B (11.7)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口唇部下の沈線と胴上部に貼り付けられた波状の隆帯間に縦位の沈線が充填され、単節縄文RLが口唇部外面では横位回転で、胴部には縦位回転で、また隆帯上にも施文されている。	砂粒・長石 橙色 普通	P185 10% SK-563 覆土上層 (中峠)
第474図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 22.5 B (16.8)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は直立気味に立ち上がった後反りながら口縁部に至る。口唇部は肥厚し、上端が平坦に作出されている。口縁部は無文帯で、頸部には上下2段の隆帯が横走され、その間には隆帯で横長の楕円形区画文が施され、内部は磨り消されている。上段の隆帯直上に角押文が施され、区画文の隆帯にも部分的に角押文が施文されている。下段の隆帯以下胴部には単節縄文RLが隆帯付近は斜め回転、それ以下は縦位回転で施文されている。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P186 30% SK-566 覆土中層 (中峠～加曾利EⅠ)
第475図 1	深鉢形土器 縄文土器	A (23.9) B 30.4 C (8.6)	底部一部欠損。胴部はキャリパー形の曲線を描いて立ち上がり、口縁部に至る。口縁部に大小それぞれ1対ずつの把手を有するが、2つは欠損している。大形の把手は内・外面のそれぞれ上段に1単位、下段に2単位の孔を有する中空の立体把手で、孔には沈線で縁取りが施され隙間には横位の沈線が充填され、部分的に交互刺突の「コ」字状文も見られる。小形の把手は口縁部外面に付けられ、口唇部隆帯から派生して環状を呈する。文様帯は口縁部と胴部に分離され、口縁部文様帯は口唇部と頸部に巡る隆帯の間に展開され、クランク状の隆帯に上下の隆帯が接続されている。隆帯の中央には沈線が加えられている。胴部には直線的に垂下する平行沈線と波状沈線が施されている。地文は、単節縄文RLが縦位回転で口縁部から胴下部まで施文されている。	砂粒・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P189 80% SK-576 覆土下層 (加曾利EⅠ)
2	把手 縄文土器	長さ(10.9) 幅(8.9) 厚さ(6.8)	口縁部に付く、大小7つの孔を有する中空の立体把手である。孔には沈線で縁取りが施されている。	砂粒・雲母 暗褐色 普通	P190 5% SK-576 覆土下層 (加曾利EⅠ)
3	深鉢形土器 縄文土器	B (3.8) C 10.2	底部片。平底で、底部に網代痕が残されている。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P191 5% SK-576 覆土 (中期)
第474図 1	深鉢形土器 縄文土器	A (35.0) B (13.9)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がった後内彎しながら口縁部に至る。口縁部に微隆起線区画の磨消帯が施され、磨消帯がせり上がって小突起が形成されている。胴部は単節縄文LRの縦位回転が地文で、波頂部から両側に垂下する「∩」状の微隆起線区画の磨消帯に文様が分断されている。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P192 10% SK-596 覆土中層 (加曾利EⅣ)
2	深鉢形土器 縄文土器	A (23.6) B (11.6)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は直立気味に立ち上がった後外傾して口縁部に至る。口縁部に微隆起線区画の磨消帯が施され、磨消帯がせり上がって小突起が形成されている。胴部には無節縄文Lが縦位回転で施文されている。	砂粒・長石 褐色 普通	P193 20% SK-596 覆土中層 (加曾利EⅣ)
第476図 1	深鉢形土器 縄文土器	B (8.4)	内彎する口縁部片。眼鏡状の把手を有し、孔は沈線で縁取りされ、沈線の外側には刻みが連続されている。口唇部下は上下に沈線を施して横走する隆帯の効果を出し、部分的に交互刺突文が施されている。口縁部文様帯は中央に沈線を施したクランク状の隆帯が施され、隙間は縦位あるいは僅かに斜行する沈線が充填されている。	砂粒・雲母 明褐色 普通	P197 5% SK-629 覆土上層 (中峠)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第476図 2	深鉢形土器 縄文土器	A [18.6] B (10.6)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がった後内彎しながら口縁部に至る。口縁部文様帯には、欠損しているため形状は不明だが環状と思われる把手が付され、交互刺突の連続「コ」字状文、縦位沈線及び口縁部文様帯を区画する下段の隆帯から派生する形の崩れた渦巻文が施されている。隆帯中央には沈線が加えられ、下段の隆帯の沈線下には刻文が施されている。胴部には櫛歯状施文具による集合沈線が縦位に施されている。	砂粒・スコリア・長石 にぶい赤褐色 普通	P198 10% SK-629 覆土中層 (中峠)
第476図 1	浅鉢形土器 縄文土器	A 35.4 B (18.2)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がった後頭部で内彎した後外反気味に口縁部に至る。頸部に突帯を巡らせ、口縁部文様帯が胴部と分離されている。口縁部文様帯は1列あるいは2列の沈線で長楕円形を描き、1列の場合は中央に横位の沈線が施されている。突帯には棒状工具による押捺が2個1組で6単位施されていると思われ、押捺痕上には部分的に「つ」の字状文が沈線で施されている。胴部は無文である。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P199 45% SK-636 覆土中層 (勝坂Ⅲ)
2	深鉢形土器 縄文土器	B (10.5)	口縁部片。波状口縁で、波頂部に眼鏡状の把手を有し、内面にも楕円形の孔が穿たれている。口縁部には隆帯による円形の区画文や沈線を施すことで隆線の効果が出されており、連続刻文が施されている。沈線は部分的に三叉文を形成し、隆帯の区画内には縦位の沈線が施されている。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P200 5% SK-636 覆土下層 (勝坂Ⅲ)
第477図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 25.4 B (17.0)	胴部中位以下欠損。胴部はやや外傾して立ち上がり、内彎しながら口縁部に至る。口唇部は肥厚し、上端に沈線が2本施されている。4単位の小突起を有すると思われるが、欠損しているため形状は不明である。口縁部には隆線による長方形区画文が施され、区画文の境には小形で方形の文様が施文されている。口縁部及び胴部には縦位回転の単節縄文RLが地文で施されている。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P204 45% SK-668 覆土中層 (加曾利E I)
2	深鉢形土器 縄文土器	A 25.8 B (16.8)	胴部中位以下欠損。胴上部はやや外傾して立ち上がった後内彎しながら口縁部に至る。口唇部は無文で、無文帯直下の交互刺突文に接続する隆帯で下向き弧状の区画が連続して描かれ、口縁部文様帯を構成している。区画内は縦位の沈線が充填され、隆帯上には刻みが連続されている。胴部には2~3列の沈線で、縦位、斜位あるいは円形の直線や曲線が描かれている。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P205 40% SK-668 覆土中層 (中峠)
3	深鉢形土器 縄文土器	A (24.9) B (22.3)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がった後内彎しながら口縁部に至る。口縁部に大小1対ずつの把手を有すると思われるが、2個欠損しているため形状は不明である。残存している大形の把手は内面に小形の円孔を2単位、側面に大形の円孔を1単位有する立体把手で、小形の把手は突起状で、渦巻文が外面は隆帯で、内面は沈線で施されている。口縁部文様帯は頸部と口唇部に巡る隆帯間に展開され、上下の隆帯はクランク状の隆帯が接続し、隙間には縦位の沈線が充填されている。胴部文様帯は縦位回転の単節縄文RLが地文で、3列の平行沈線が頸部から直線的に垂下されている。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P206 30% SK-668 覆土中層 (加曾利E I)

土坑出土石製品観察表

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第463図5	敲石	7.4	3.9	2.2	100.3	緑泥片岩	Q32 磨製石斧の欠損品を転用 SK-215 覆土下層
第464図8	石鏃	(2.0)	1.7	0.3	(0.8)	チャート	Q33 凹基無茎鏃 一部欠損 SK-232 覆土中層
第465図9	敲石	9.7	5.4	3.9	317.2	安山岩	Q39 磨石兼用 SK-408 覆土
第467図2	磨石	9.8	8.1	5.1	542.5	安山岩	Q40 敲石兼用 表・裏面に凹み SK-417 覆土
第467図1	磨製石斧	5.9	3.1	1.1	33.0	緑泥片岩	Q41 SK-421 覆土
第467図3	敲石	6.6	5.8	4.2	255.3	安山岩	Q42 磨・凹石兼用 表・裏・側面に凹み SK-422 覆土
第467図2	磨製石斧	(10.1)	5.3	3.1	(271.9)	砂岩	Q43 定角式 刃部欠損後磨石に転用 SK-425 覆土上層
第469図2	磨石	9.2	7.9	4.8	553.7	安山岩	Q44 敲石兼用 表・裏面に凹み SK-429 覆土
3	磨石	8.9	8.1	4.7	487.3	安山岩	Q45 敲石兼用 表・裏面に凹み SK-429 覆土
第475図1	柱状石製品	(20.8)	13.3	12.1	(4943.1)	凝灰岩	Q52 欠損品 SK-600 覆土上層
第475図1	凹石	(16.0)	(18.1)	8.4	(3346.2)	雲母片岩	Q54 欠損品 SK-621 覆土下層

土坑出土土製品観察表

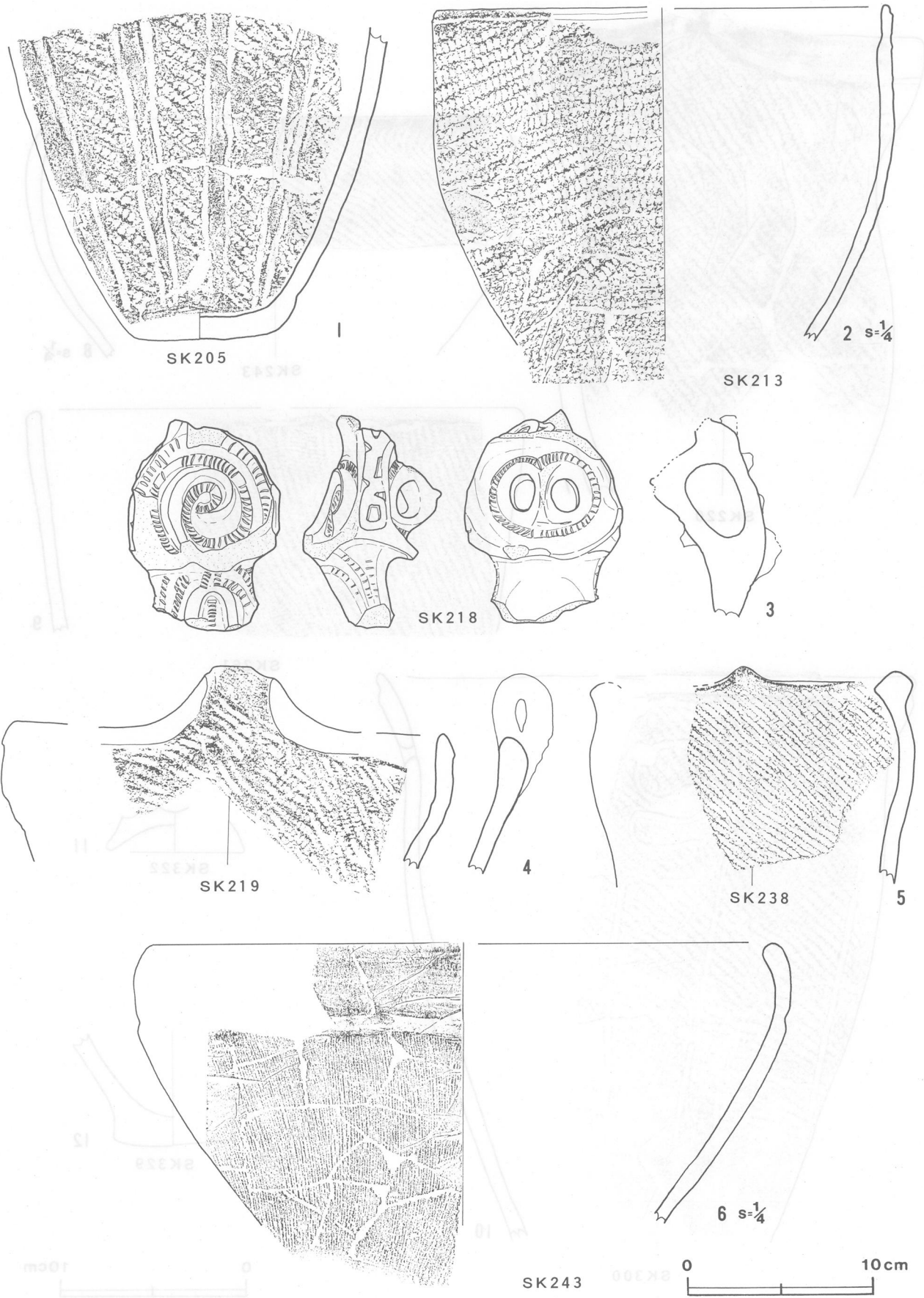
図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	器形及び文様の特徴	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
第463図 4	土製円板	5.0	4.6	0.8	23.6	100	表面に単節縄文RL	DP29 SK-215 覆土下層
第464図 7	管状土製品	(5.4)	1.6		(16.6)	70	孔径0.5cm	DP30 SK-232 覆土上層
第464図 7	有孔円板	5.8	(3.2)	0.7	(17.5)	50	孔径1.0cm 1/2欠損	DP31 SK-242 覆土
第471図 4	土器片錘	6.3	5.8	1.6	60.3	100	口縁部片利用 内・外面磨き	DP38 SK-446 覆土

⑤ その他の土坑

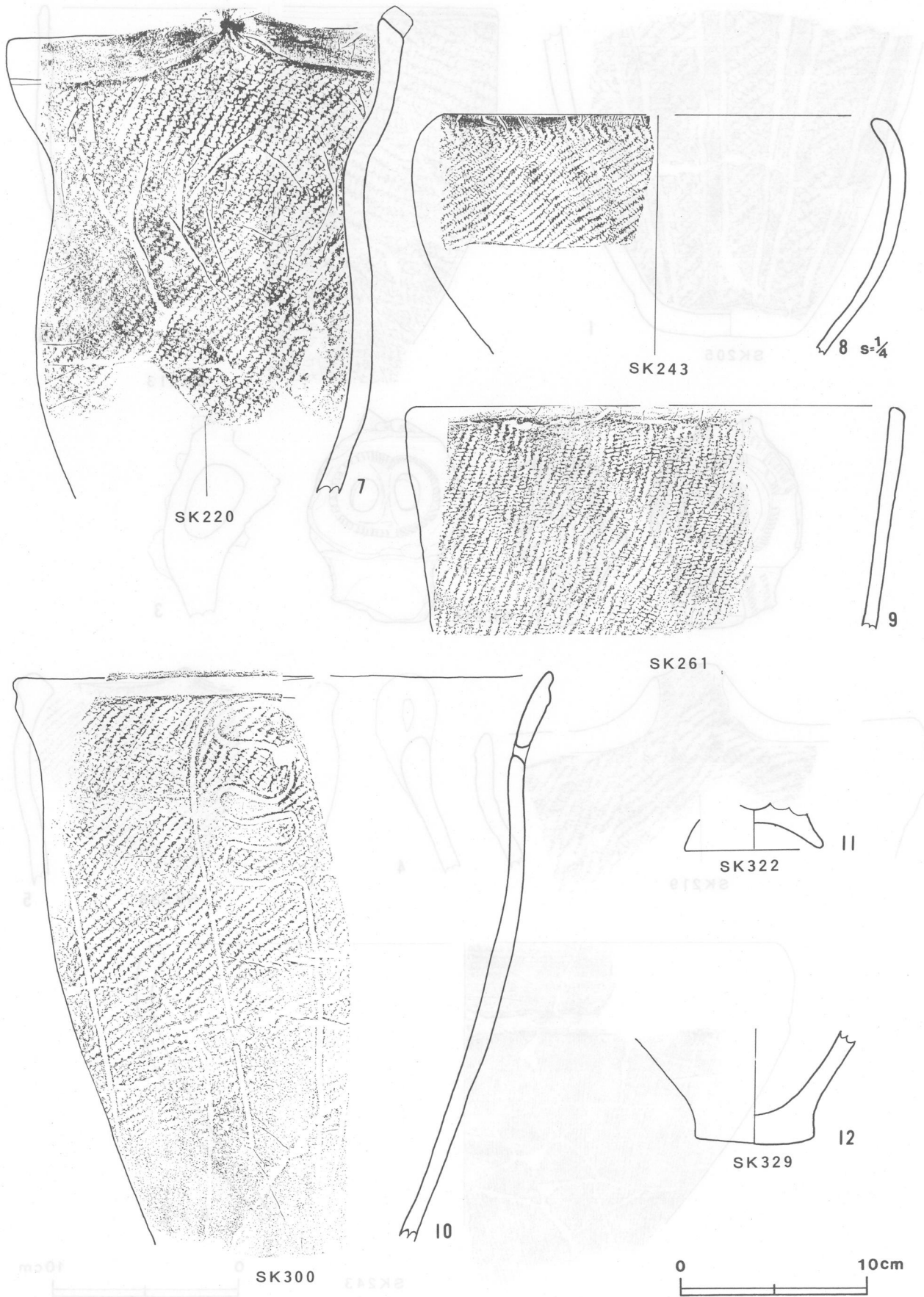
ここでは、遺構平面図を掲載しなかった土坑から出土した遺物の実測図及び拓影図を掲載し、その解説を記述する。

第487～490図 1～40は遺構平面図を掲載しなかった土坑から出土した縄文土器片の拓影図である。

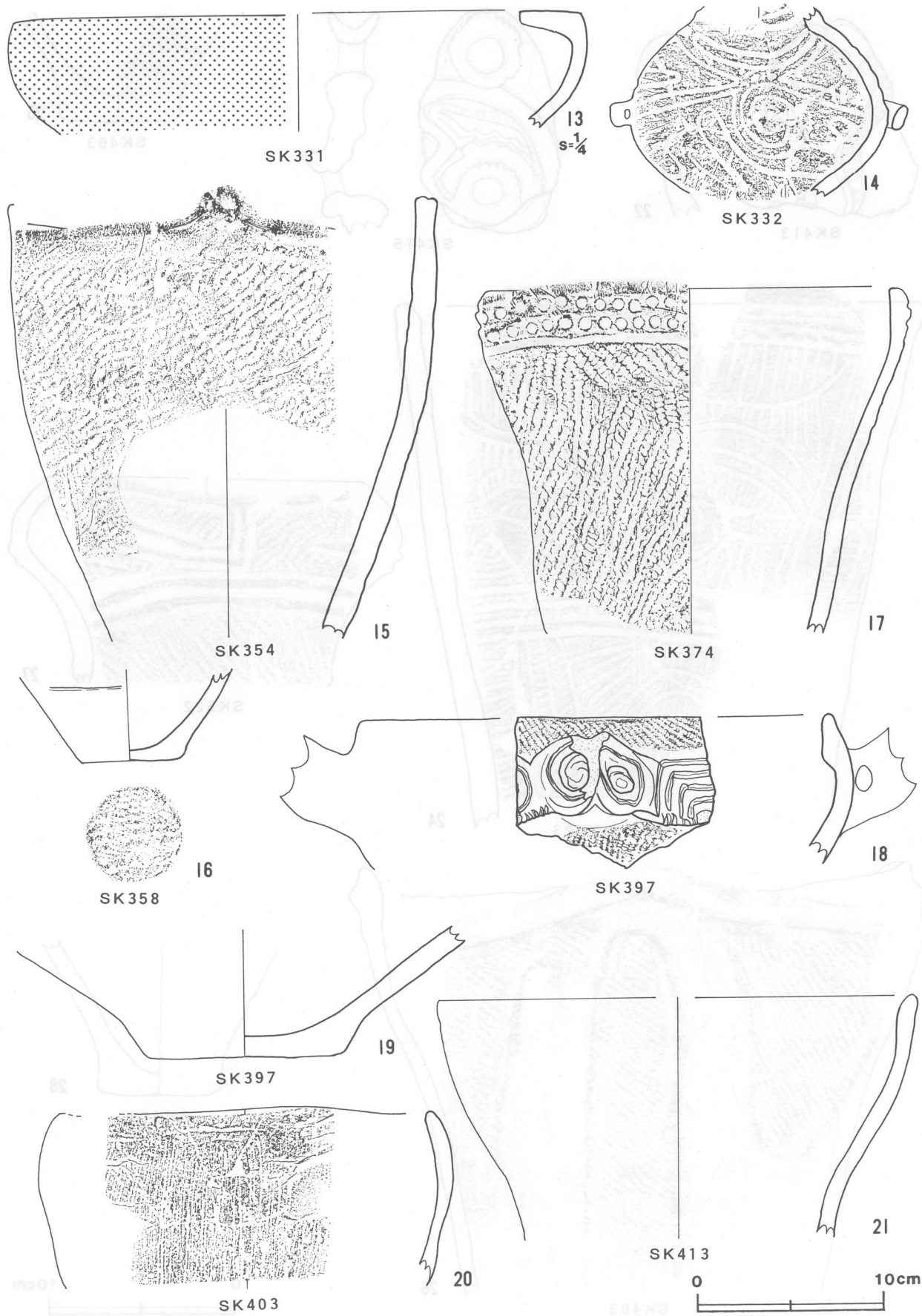
20, 22～24は中期阿玉台式の範疇の土器片である。20は縄文地文で、隆帯に沿い沈線、22は隆線に沿う複列のペン先文、23は縄文地文で、隆帯に沿うキャタピラ文、24は単節縄文RLがそれぞれ器面に施されている。22, 24はⅡ式、23はⅢ式、20はⅣ式に比定されると思われる。12, 13は勝坂式の影響が見られる土器片で、12は隆帯による長楕円形の区画内に連続爪形文、13は半截竹管による爪形文と細沈線が見られる。15, 16, 18は中期中峠式に比定される口縁部片で、15, 18には交互刺突文、16には中央に沈線を加えた隆線が施されている。1, 2, 14, 19, 26, 27, 37, 38, 39, 40は中期加曽利EⅢ式の範疇と思われる土器片である。1, 27は口縁部無文帯下に沈線が見られる。2, 14は口縁部に楕円形及び円形の沈線区画文が、19, 26は胴部に曲線的な隆起線が見られる。37, 39, 40は沈線区画の磨消帯が、38には口縁部に連続刺突文が見られる。4, 5, 9, 10, 11, 25, 28, 29, 31, 32は中期加曽利EⅣ式に比定される土器片で、いずれも地文の縄文を切る微隆起線区画の磨消帯が施されている。28, 29には口縁部に双耳状の突起が見られる。35は内彎する口縁部片で、棒状工具による円形刺突文、角状刺突文とボタン状の貼り付け文が見られる。時期は中期後半と思われる。21, 33, 34は後期称名寺式に比定される土器片で、21は沈線による曲線的な区画が施され、区画内は磨り消されている。33は外反する口縁部と内彎する胴部との境に微隆起線が施されている。2点とも地文に縄文が施されており、1式の範疇と思われる。34は2式に含まれると思われる土器片で、沈線区画内には列点文が施されている。6, 7, 8, 17, 30は後期堀之内1式期に比定される土器片である。6, 7, 8, 17は波状口縁で、波頂部に円形の刺突文や孔が見られ、胴部には地文の縄文を切る直線的な沈線や蕨手文が施されている。7は波頂部から刻みを施した隆帯が直線的に垂下し、隆線の両側は半截竹管による直線が施文されている。8は器面に縦位あるいは斜位の条線が施されている。30は口縁部に「C」字状の貼付文が見られる。3は晩期安行Ⅲa式期前後の口縁部片で、縦長の貼瘤と三角形の沈線区画の縄文帯が見られ、隙間は研磨されている。



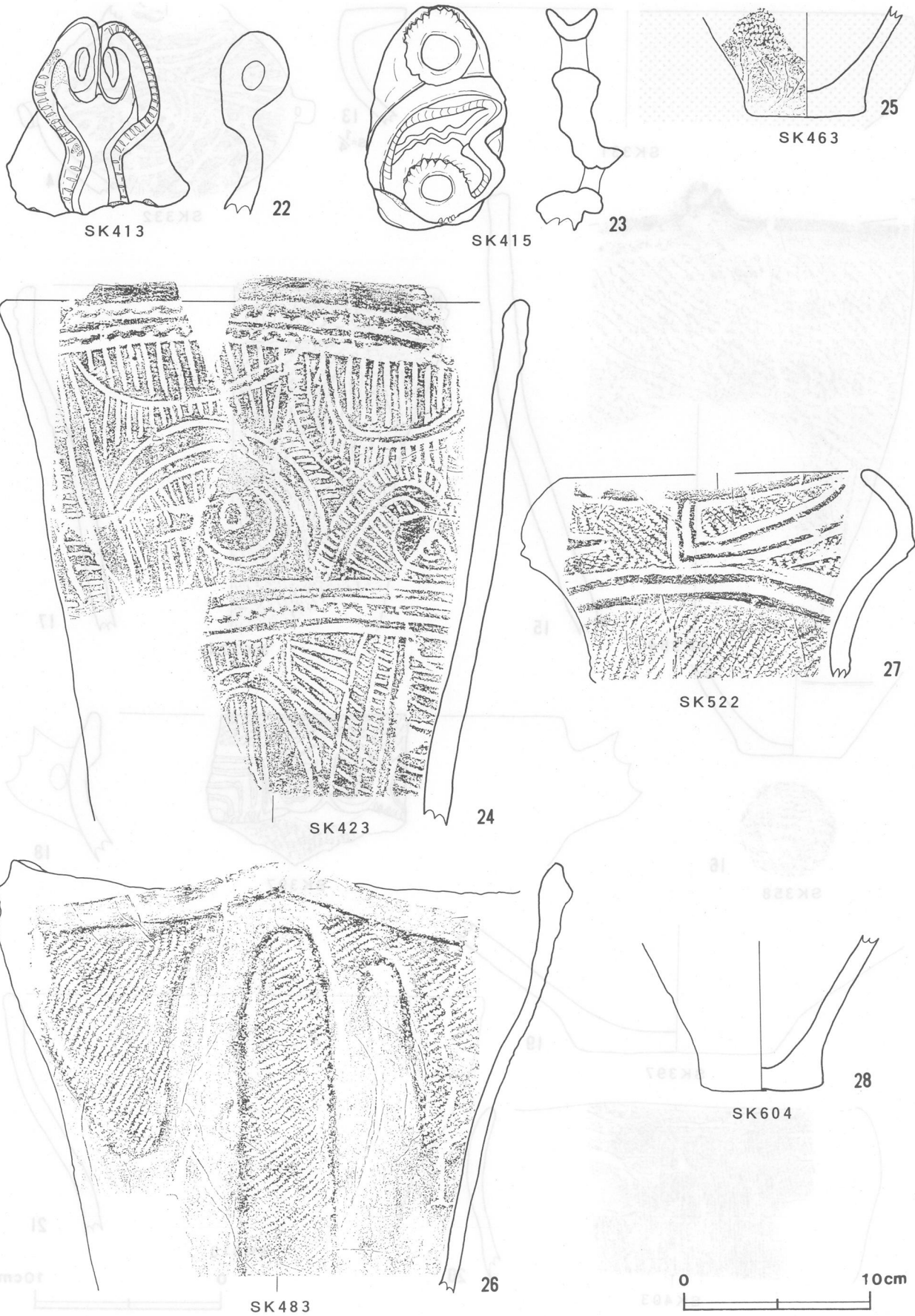
第478図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(1)



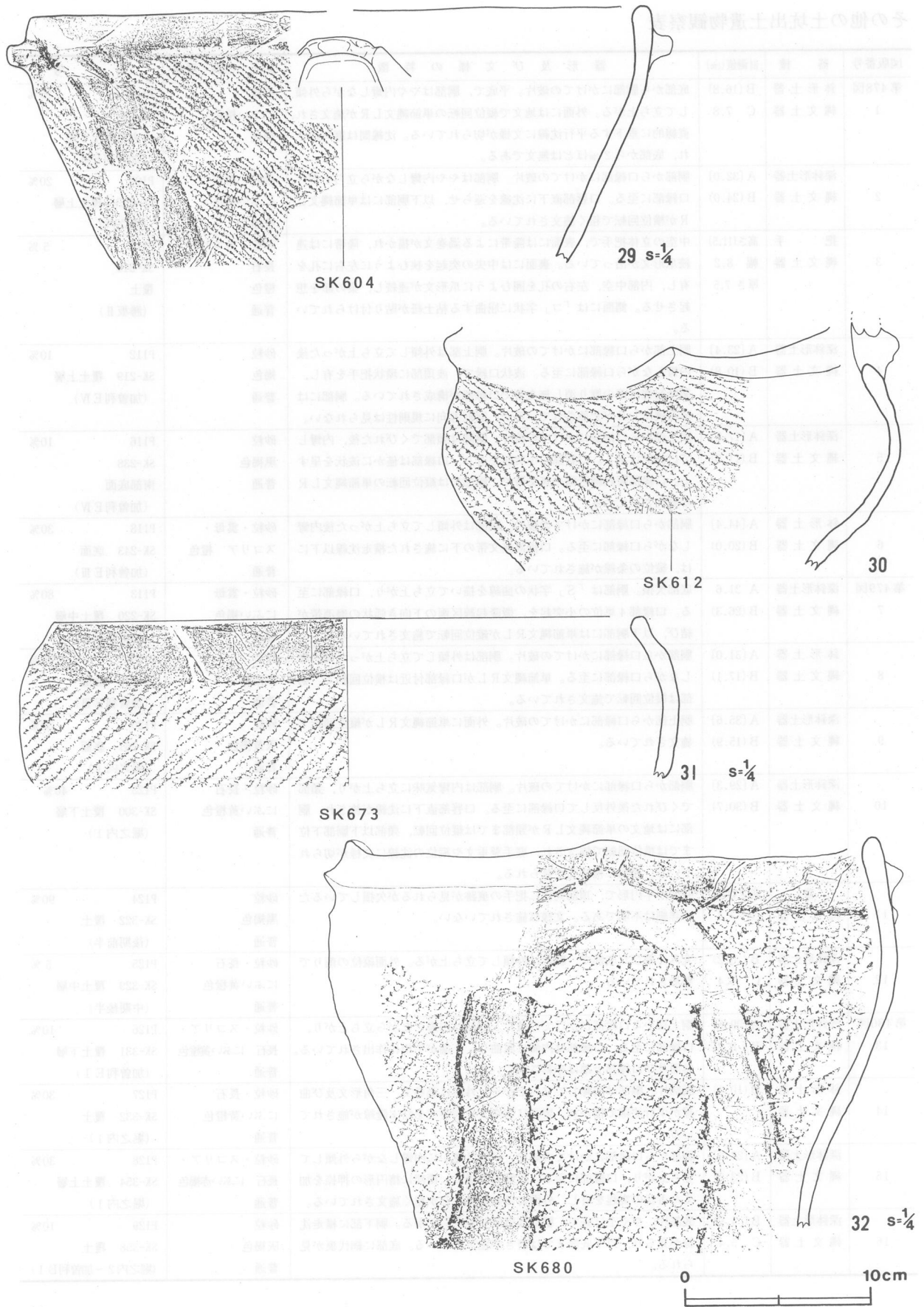
第479図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(2)



第480図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(3)



第481図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(4)



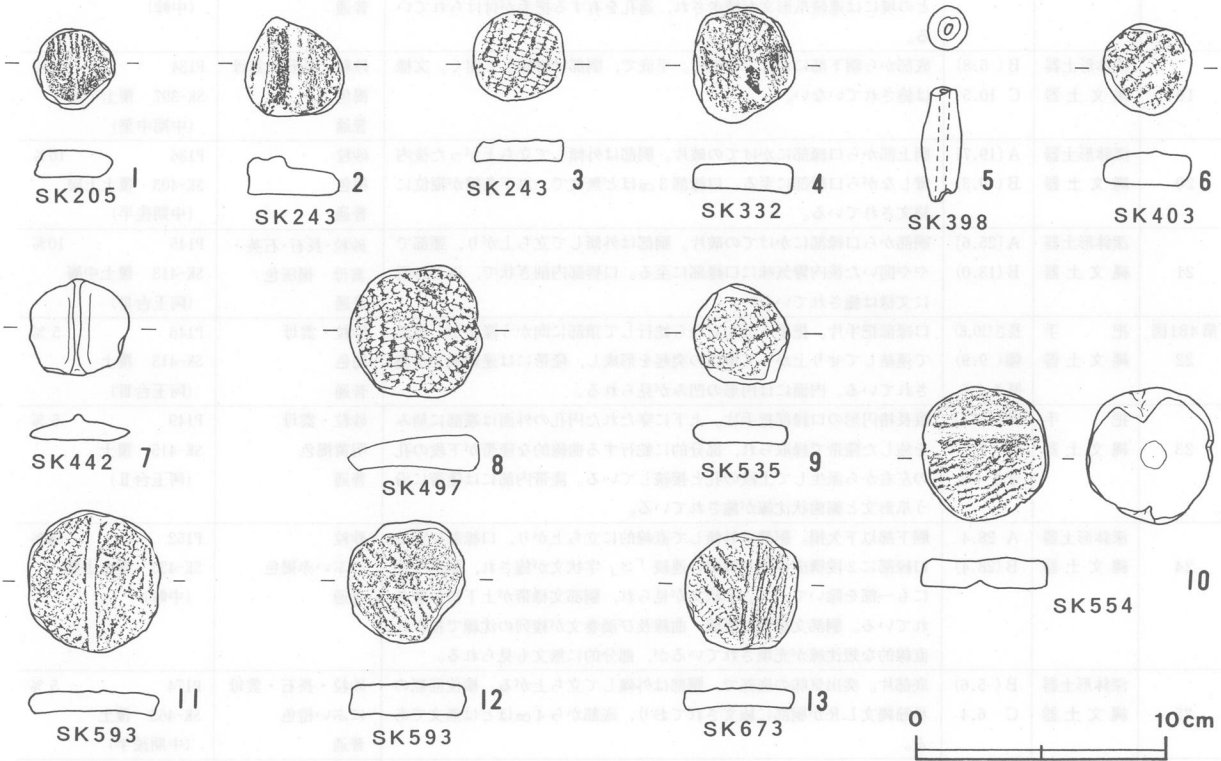
第482図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(5)

その他の土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第478図 1	鉢形土器 縄文土器	B(16.8) C 7.8	底部から胴部にかけての破片。平底で、胴部はやや内彎しながら外傾して立ち上がる。外面には地文で縦位回転の単節縄文LRが施文され、直線的に垂下する平行沈線に文様が切られている。沈線間は磨り消され、底部から2cmほどは無文である。	砂粒 にぶい橙色 普通	P106 20% SK-205 中央部覆土下層 (加曾利EⅡ)
2	深鉢形土器 縄文土器	A(32.0) B(24.0)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部はやや内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。口唇部直下に沈線を巡らせ、以下胴部には単節縄文LRが横位回転で粗く施文されている。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P109 20% SK-213 覆土上層 (堀之内)
3	把手 縄文土器	高さ(11.5) 幅 8.2 厚さ 7.5	中空の立体把手で、表面には隆帯による渦巻文が描かれ、隆帯には連続爪形文が沿っている。裏面には中央の突起を挟むように左右に孔を有し、内部中空、左右の孔を囲むように爪形文が連続し、梟の顔を想起させる。側面には「コ」字状に屈曲する粘土紐が貼り付けられている。	砂粒・スコリア・ 長石 橙色 普通	P111 5% SK-218 覆土 (勝坂Ⅱ)
4	深鉢形土器 縄文土器	A(23.4) B(10.8)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴上部は外傾して立ち上がった後内彎しながら口縁部に至る。波状口縁で、波頂部に環状把手を有し、微隆起線区画の磨り消し無文帯で口縁部が構成されている。胴部には単節縄文LRが充填されているが、回転方向に規則性は見られない。	砂粒 褐色 普通	P112 10% SK-219 覆土上層 (加曾利EⅣ)
5	深鉢形土器 縄文土器	A(17.5) B(11.5)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は頸部でくびれた後、内彎して口縁部に至る。口唇部に小突起を有し、口縁部は僅かに波状を呈する。口縁部隆起線区画の無文帯で、胴部には縦位回転の単節縄文LRが施文されている。	砂粒 黒褐色 普通	P116 10% SK-238 南部底面 (加曾利EⅣ)
6	鉢形土器 縄文土器	A(44.4) B(20.0)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がった後内彎しながら口縁部に至る。口縁部無文帯の下に施された横走沈線以下には、縦位の条線が施されている。	砂粒・雲母・ スコリア 橙色 普通	P118 30% SK-243 底面 (加曾利EⅢ)
第479図 7	深鉢形土器 縄文土器	A 21.6 B(26.3)	底部欠損。胴部は「S」字状の曲線を描いて立ち上がり、口縁部に至る。口縁部4単位の小突起を、微隆起線区画の下向き弧状の磨消帯が結び、以下胴部には単節縄文RLが縦位回転で施文されている。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P113 80% SK-220 覆土中層 (加曾利EⅣ)
8	鉢形土器 縄文土器	A(31.0) B(17.1)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がった後内彎しながら口縁部に至る。単節縄文RLが口縁部付近は横位回転で、胴部は縦位回転で施文されている。	砂粒 赤褐色 普通	P119 20% SK-243 底面 (加曾利EⅢ)
9	深鉢形土器 縄文土器	A(35.6) B(15.9)	胴上部から口縁部にかけての破片。外面に単節縄文RLが縦位回転で施文されている。	砂粒 灰黄褐色 普通	P120 20% SK-261 底面 (堀之内1)
10	深鉢形土器 縄文土器	A(29.3) B(30.7)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎気味に立ち上がり、頸部でくびれた後外反して口縁部に至る。口唇部直下に沈線が施され、胴部には地文の単節縄文LRが頸部までは縦位回転、頸部以下胴部下位までは横位回転で施文され、厥手懸垂文や縦位の沈線に文様が切られている。頸部に補修孔が見られる。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P123 40% SK-300 覆土下層 (堀之内1)
11	蓋 縄文土器	高さ(2.5) 径 7.4	断面が半円形で、頂部両側に把手の痕跡が見られるが欠損しているため詳細は不明である。文様は施されていない。	砂粒 黒褐色 普通	P124 90% SK-322 覆土 (後期前半)
12	深鉢形土器 縄文土器	B(6.2) C 6.4	丸みを帯びた底部で、胴部は外傾して立ち上がる。外面縦位の削りで整形されている。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P125 5% SK-329 覆土中層 (中期後半)
第480図 13	浅鉢形土器 縄文土器	A(39.8) B(8.2)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は内側に屈曲し、上端が平坦に作出されている。外面及び口縁部上端は赤彩されている。	砂粒・スコリア・ 長石 にぶい黄橙色 普通	P126 10% SK-331 覆土下層 (加曾利EⅠ)
14	鉢形土器 縄文土器	B(10.1)	胴部片。胴部は内彎して立ち上がる。外面に渦巻文、三角形文及び曲線が平行沈線で描かれ、要所に刺突文や刺突文を結ぶ隆線が施されている。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P127 30% SK-332 覆土 (堀之内1)
15	深鉢形土器 縄文土器	A(23.2) B(23.5)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は僅かに内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口唇部上端に、頂部に楕円形の押捺を加えた舌状の突起を有し、外面には無節縄文Lが粗く施文されている。	砂粒・スコリア・ 長石 にぶい赤褐色 普通	P128 30% SK-354 覆土上層 (堀之内1)
16	深鉢形土器 縄文土器	B(4.9) C 5.4	底部片。やや上げ底で、胴部は外傾して立ち上がる。胴下部に横走沈線が見られ、以下底部までは磨きが施されている。底部に網代痕が見られる。	砂粒 灰褐色 普通	P129 10% SK-358 覆土 (堀之内2~加曾利B1)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第480図 17	深鉢形土器 縄文土器	A 22.2 B (18.5)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がった後僅かに内彎しながら口縁部に至る。口縁部文様帯と胴部文様帯を横走沈線で分離し、口縁部文様帯には円形刺突文が2段巡らされている。胴部文様帯は、沈線以下3cmほどは単節縄文RLを横位回転、それ以下は縦位回転で施文されている。部分的に単節の縄を付加した文様も見られるが施文は雑である。	砂粒 灰黄色 普通	P131 40% SK-374 覆土上層 (加曾利EⅢ)
18	深鉢形土器 縄文土器	A (25.0) B (8.0)	内彎する口縁部片。口縁部上半は単節縄文RLが施文されており、下半には曲線あるいは縦横に屈曲する直線の文様が沈線で描かれ、胴部との境には連続爪形文が横走され、通孔を有する把手が付けられている。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P133 5% SK-397 覆土中層 (中峠)
19	浅鉢形土器 縄文土器	B (6.8) C 10.5	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して開く。文様は施されていない。	砂粒・長石・雲母 褐色 普通	P134 10% SK-397 覆土下層 (中期中葉)
20	深鉢形土器 縄文土器	A (19.7) B (9.3)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がった後内彎しながら口縁部に至る。口縁部3cmほど無文で、以下条線が縦位に施文されている。	砂粒 橙色 普通	P136 10% SK-403 覆土上層 (中期後半)
21	深鉢形土器 縄文土器	A (25.6) B (13.0)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり、頸部でやや開いた後内彎気味に口縁部に至る。口唇部内削ぎ状で、以下外面に文様は施されていない。	砂粒・長石・石英・ 雲母 褐灰色 普通	P145 10% SK-413 覆土中層 (阿玉台Ⅲ)
第481図 22	把手 縄文土器	長さ(10.8) 幅(9.9) 厚さ3.6	口縁部把手片。把手下部左右から蛇行して頂部に向かう隆帯が、頂部で連結してせり上がって環状の突起を形成し、隆帯には連続刻文が施されている。内面には円形の凹みが見られる。	砂粒・雲母 褐色 普通	P146 5% SK-413 覆土 (阿玉台Ⅲ)
23	把手 縄文土器	長さ(12.1) 幅7.7 厚さ4.6	縦長楕円形の口縁部把手片。上下に穿たれた円孔の外面は端部に刻みを施した隆帯で縁取られ、部分的に蛇行する曲線的な隆帯が下段の孔の左右から派生して上段の孔と接続している。隆帯内部には隆帯に沿う爪形文と鋸歯状沈線が施されている。	砂粒・雲母 明黄褐色 普通	P149 5% SK-415 覆土 (阿玉台Ⅱ)
24	深鉢形土器 縄文土器	A 28.4 B (28.4)	胴下部以下欠損。胴部は外傾して直線的に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部に2段構成の交互刺突の連続「コ」字状文が施され、胴部中位にも一部を除いて「コ」字状文が見られ、胴部文様帯が上下に分離されている。胴部文様帯は直線、曲線及び渦巻文が複列の沈線で描かれ、直線的な短沈線が充填されているが、部分的に無文も見られる。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P152 50% SK-423 覆土上層 (中峠)
25	深鉢形土器 縄文土器	B (5.6) C 6.4	底部片。突出気味の底部で、胴部は外傾して立ち上がる。横位回転の単節縄文LRが胴部に施文されており、底部から4cmほどは無文である。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P174 5% SK-463 覆土 (中期後半)
26	深鉢形土器 縄文土器	A 29.7 B (23.2)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり、ややくびれた後僅かに内彎しながら口縁部に至る。4単位の波状口縁で、口縁部は微隆起線区画の磨り消し無文帯、胴部には縦位回転の単節縄文RLが施文され、微隆起線区画の「∩」状の磨消帯に地文が分断されている。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	P177 40% SK-483 覆土中層 (加曾利EⅣ)
27	深鉢形土器 縄文土器	A (21.1) B (11.1)	胴上部から口縁部にかけての破片。頸部で外反した後内彎して口縁部に至る。口縁部文様帯は上下に横走する隆線で区画され、区画内には隆線によるモチーフが描かれている。下段の隆線及び区画内の隆線は2列、口唇部の隆線は1列で、いずれも沈線に沿っている。隙間には地文の単節縄文RLが見られるが、施文方向は様々である。胴部は同縄文が縦位回転で施文され、頸部に複列の横走沈線が見られる。	砂粒 黄褐色 普通	P179 10% SK-522 覆土 (加曾利EⅠ)
28	深鉢形土器 縄文土器	B (8.1) C 6.6	突出する上げ底で、胴部は外傾して立ち上がる。無文である。	砂粒・長石・石英・ 雲母 にぶい橙色 普通	P195 10% SK-604 底面 (加曾利EⅣ)
第482図 29	深鉢形土器 縄文土器	A (44.2) B (18.2)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がった後僅かに内彎しながら口縁部に至る。口縁部に微隆起線区画の磨消帯を施し、外側に突出する突起が付されている。胴部は単節縄文LRが縦位回転で施文され、突起から胴部に僅かに弧を描いて垂下する微隆起線区画の磨消帯に文様が分断されている。外面はやや摩滅している。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P194 10% SK-604 覆土下層 (加曾利EⅣ)
30	深鉢形土器 縄文土器	A (24.4) B (13.2)	胴部から口縁部にかけての破片。波状口縁で、波頂部に口縁部微隆起線区画の磨消帯が競り上がってできる大小の突起が1対ずつ付けられていると思われる。胴部には斜め回転の単節縄文LRが施文されている。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	P196 10% SK-612 覆土 (加曾利EⅣ)
31	深鉢形土器 縄文土器	A 46.1 B (11.1)	内彎する口縁部片。口縁部文様帯と胴部文様帯を微隆起線によって区画し、口縁部は磨り消しの無文、胴部には単節縄文RLが縦位回転で施文されている。	砂粒 橙色 普通	P207 15% SK-673 覆土中層 (加曾利EⅣ)

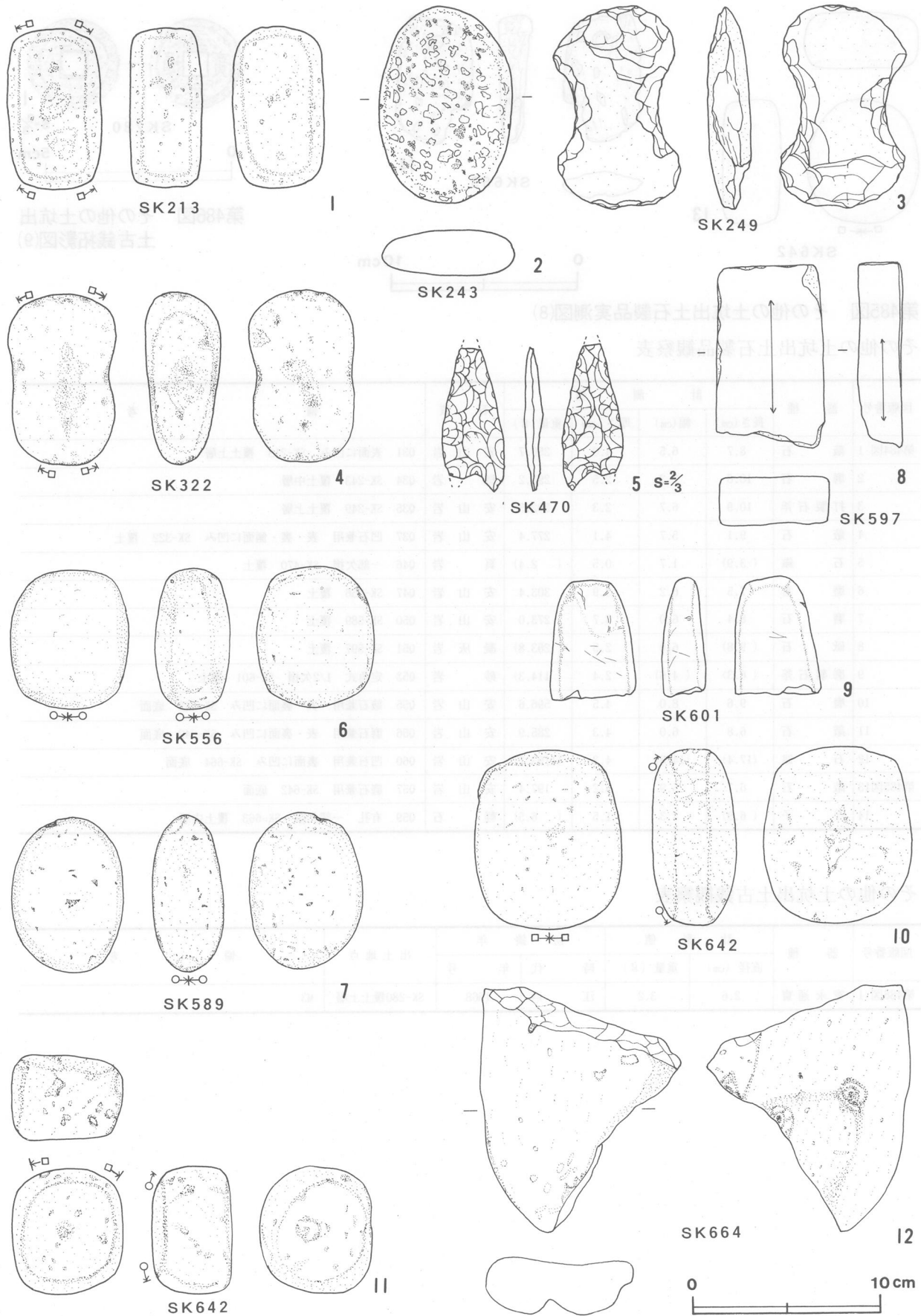
図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
32	深鉢形土器 縄文土器	A 37.2 B (27.7)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がった後僅かに内彎しながら口縁部に至る。4単位の小波状口縁で、口縁部と胴部との境を微隆起線で区画し、口縁部は無文帯で、波頂部には微隆起線が外側に突出して突起が形成されている。胴部は複節縄文RLRが地文で、波頂部から垂下する「∩」状の微隆起線区画の磨消帯に文様が分断されている。	砂粒 にぶい橙色 普通	P209 40% SK-680 覆土上層 (加曾利EIV)



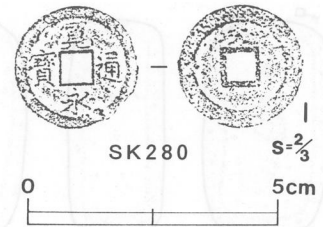
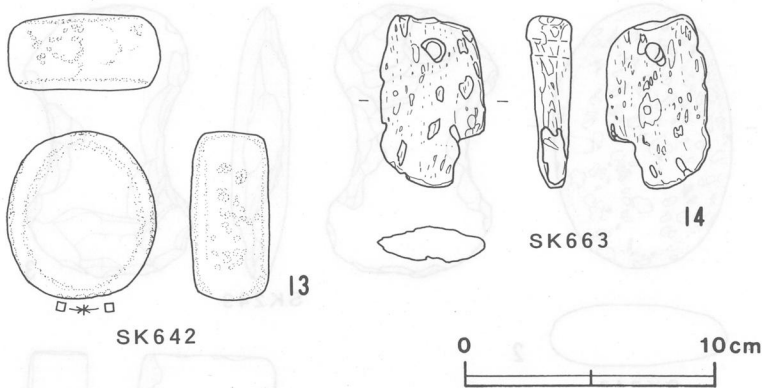
第483図 その他の土坑出土土製品実測・拓影図(6)

その他の土坑出土土製品観察表

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	器形及び文様の特徴	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
第483図 1	土製円板	3.1	3.2	1.1	11.8	100	表面に無節R	DP28 SK-205 覆土
2	土製円板	3.9	3.9	1.6	22.0	100	表面に隆線	DP32 SK-243 覆土
3	土製円板	3.6	3.6	0.9	15.6	100	表面に単節縄文RL	DP33 SK-243 覆土上層
4	土製円板	4.7	4.0	1.2	24.8	100	表面に縄文施文 摩滅が著しい	DP34 SK-332 覆土
5	管状土製品	(4.6)	1.6		(8.8)	95	孔径0.3~0.4cm 一部欠損	DP35 SK-398 覆土
6	土製円板	3.5	3.5	1.3	19.3	100	表面に縄文施文 摩滅が著しい	DP36 SK-403 覆土
7	土製円板	3.9	3.9	1.1	12.0	100	表面に隆起線	DP37 SK-442 覆土
8	土製円板	5.2	5.2	1.5	42.4	100	表面に単節縄文RL	DP39 SK-497 覆土
9	土製円板	4.0	3.8	0.8	16.0	100	表面に単節縄文RL	DP40 SK-535 覆土
10	土器片錘	5.4	5.0	1.1	39.4	100	表面に沈線を挟んで無文帯と縄文帯 裏面に未貫通孔	DP41 SK-554 覆土
11	土製円板	5.6	5.2	1.1	34.4	100	表面に粗い単節縄文LRを切る沈線	DP42 SK-593 覆土上層
12	土製円板	5.0	4.7	1.3	(34.8)	90	表面に粗い単節縄文RLを切る浅い平行沈線	DP43 SK-593 覆土上層
13	土製円板	4.7	4.5	1.0	23.1	100	表面に沈線を挟んで磨消帯と単節縄文LR	DP44 SK-673 覆土上層



第484図 その他の土坑出土石製品実測図(7)



第486図 その他の土坑出土古銭拓影図(9)

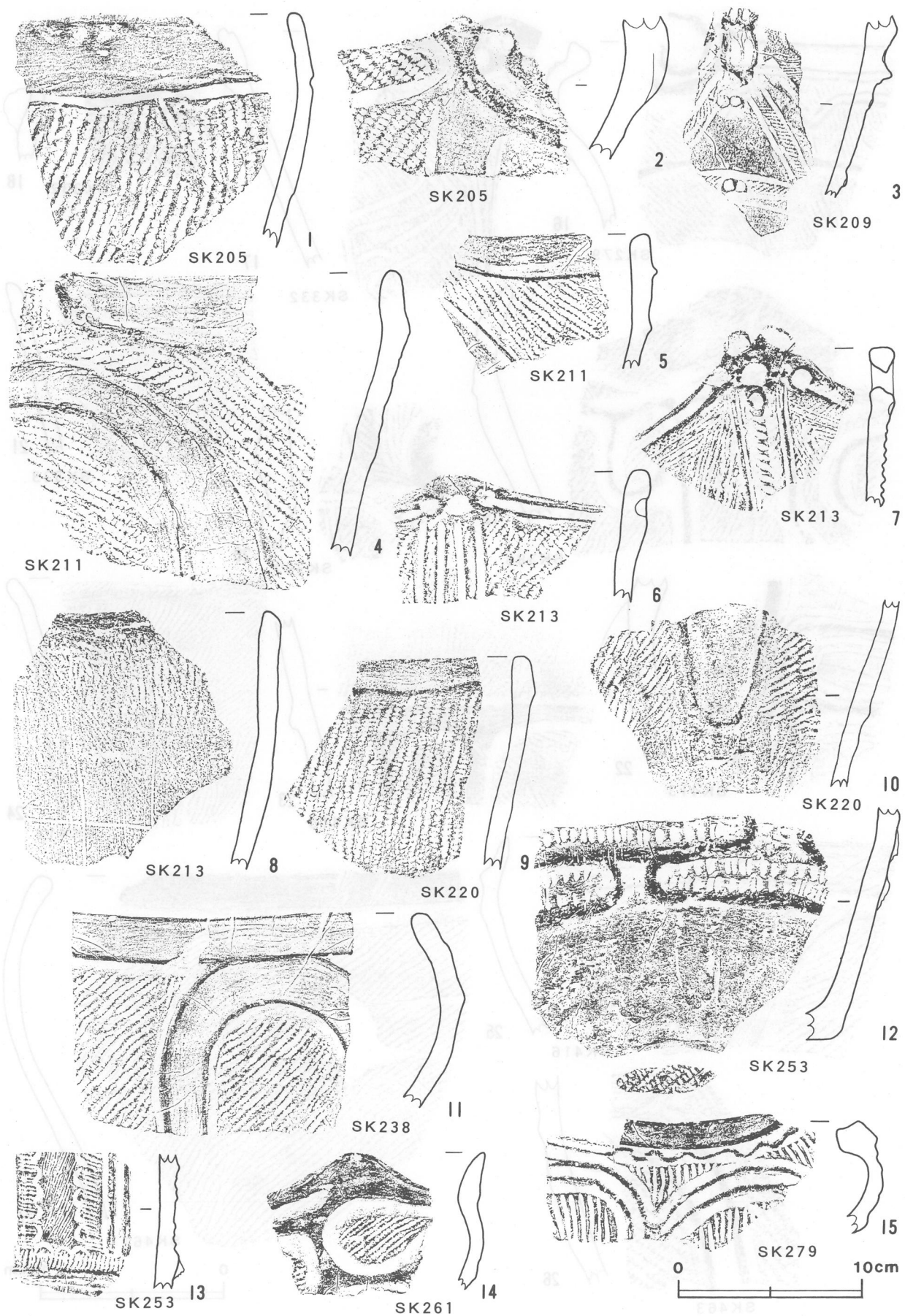
第485図 その他の土坑出土石製品実測図(8)

その他の土坑出土石製品観察表

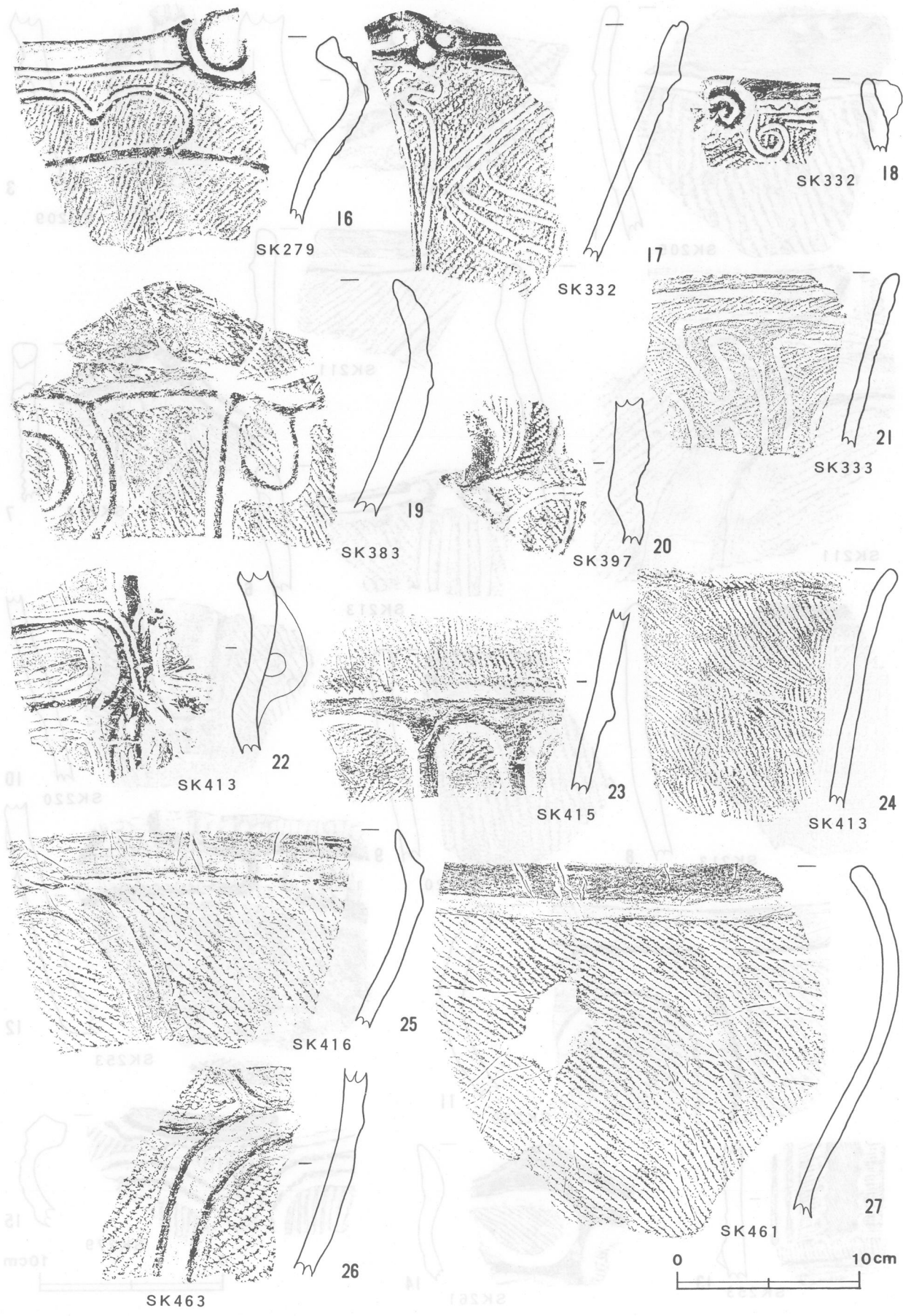
図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第484図1	敲石	8.7	6.5	4.0	250.7	安山岩	Q31 表面に凹み SK-213 覆土上層
2	磨石	10.6	7.2	2.5	291.2	斑岩	Q34 SK-243 覆土中層
3	打製石斧	10.9	6.7	2.3	202.5	安山岩	Q35 SK-249 覆土上層
4	敲石	9.1	5.7	4.1	277.4	安山岩	Q37 凹石兼用 表・裏・側面に凹み SK-322 覆土
5	石鎌	(3.9)	1.7	0.5	(2.4)	頁岩	Q46 一部欠損 SK-470 覆土
6	磨石	7.5	6.2	3.9	303.4	安山岩	Q47 SK-556 覆土
7	磨石	8.4	6.0	3.7	273.0	安山岩	Q50 SK-589 覆土
8	砥石	(9.8)	6.0	2.5	(263.8)	凝灰岩	Q51 SK-597 覆土
9	磨製石斧	(6.3)	(4.6)	2.4	(114.3)	砂岩	Q53 定角式 1/2欠損 SK-601 覆土
10	磨石	9.6	8.0	4.5	596.6	安山岩	Q55 敲石兼用 表・裏面に凹み SK-642 底面
11	敲石	6.8	6.0	4.3	285.9	安山岩	Q56 磨石兼用 表・裏面に凹み SK-642 底面
12	石皿	(17.4)	(14.3)	4.2	(1193.7)	安山岩	Q60 凹石兼用 裏面に凹み SK-664 底面
第485図13	敲石	6.7	5.9	3.2	197.4	安山岩	Q57 磨石兼用 SK-642 底面
14	浮子	(6.9)	4.3	1.5	(6.5)	軽石	Q59 有孔 一部欠損 SK-663 覆土中層

その他の土坑出土古銭観察表

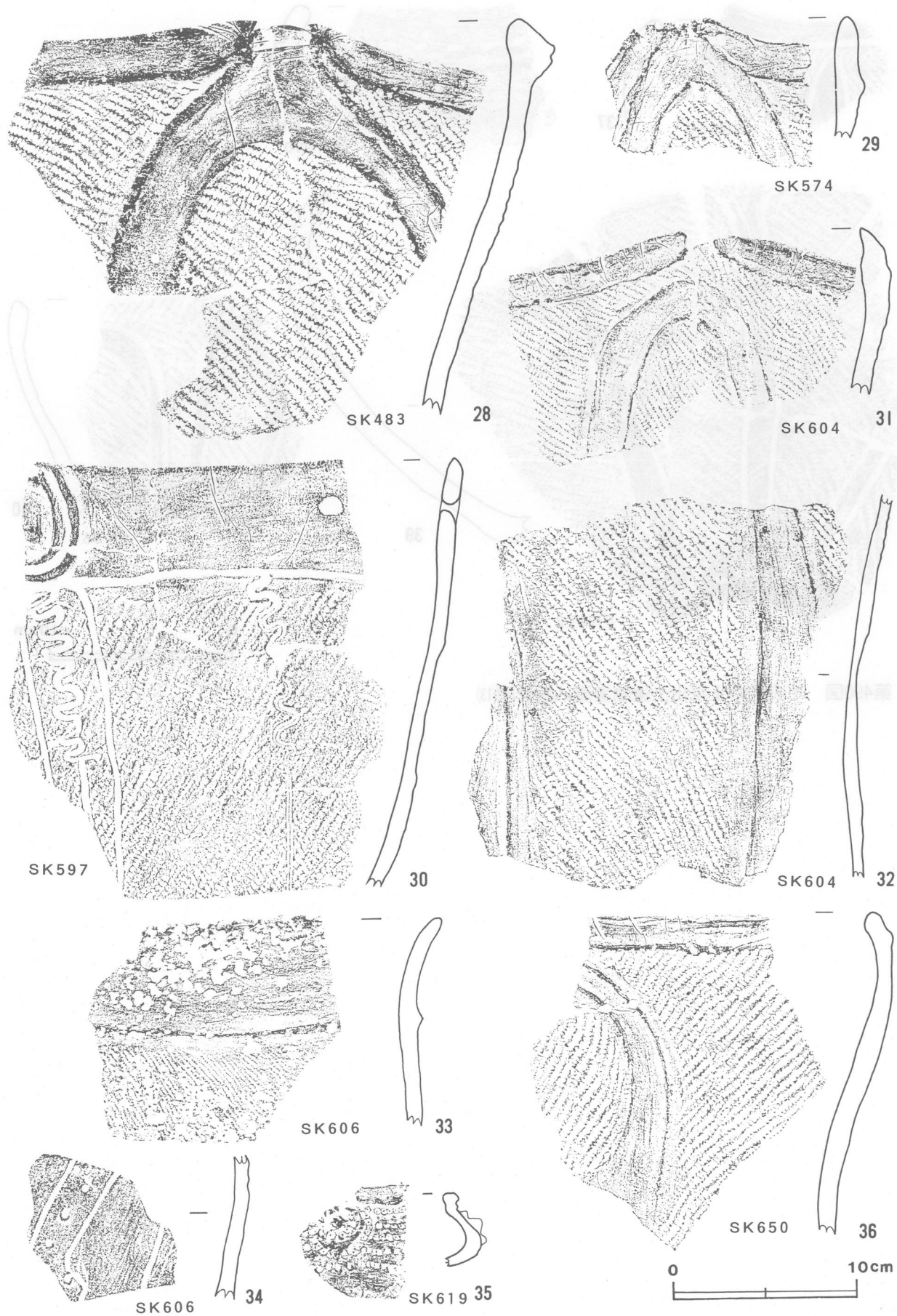
図版番号	器種	計測値		初鑄年		出土地点	備考
		直径(cm)	重量(g)	時代	年号		
第486図1	寛永通寶	2.6	3.2	江戸	1668	SK-280覆土上層	M3



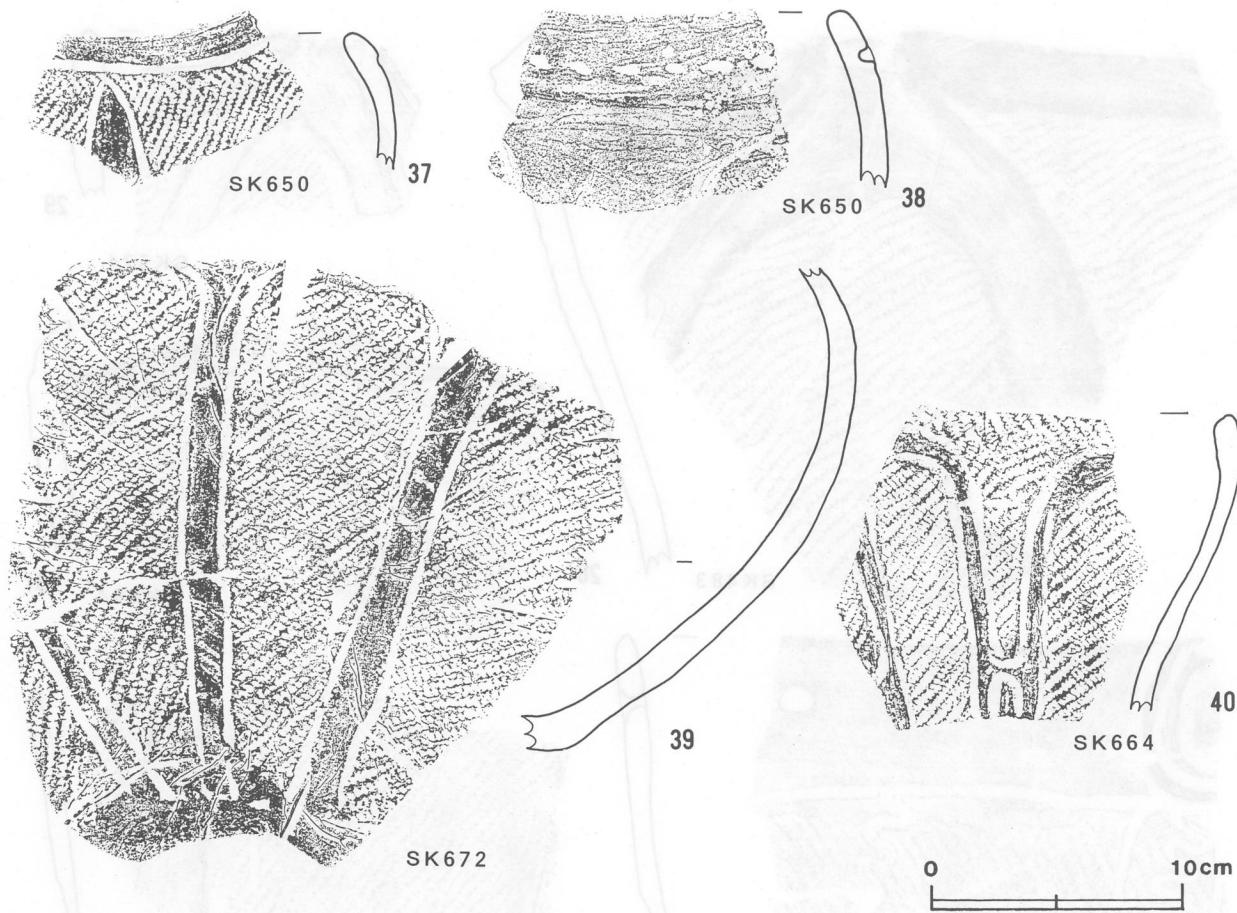
第487図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(10)



第488図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(11)



第489図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(12)



第490図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(13)

表5 前田村遺跡C区土坑一覽表

土坑 番号	位置	長径(軸) 方 向	平 面 形	長径×短径 (m)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	P	分 類	時 期	出 土 遺 物	備 考 ※重複関係(新→旧)
203	B17i6	N-34°-E	楕円形	1.13×0.81	18	外傾	平坦	自然		BⅡb1	加善利E	縄文土器	
204	B17f6	N-52°-W	円形	1.20×1.15	54	垂直	平坦	自然		AⅢb2	加善利EⅢ～Ⅳ	縄文土器	
205	B17d7	N-17°-E	楕円形	1.63×1.24	35	外傾	平坦	自然		BⅡb1	加善利EⅡ～Ⅲ	縄文土器, 土製円板	
206	B17e6	N-0°	円形	1.27×1.22	32	外傾	平坦	自然		AⅡb1	加善利EⅢ	縄文土器	
207	B17e5	N-56°-W	円形	1.75×1.70	98	垂直	平坦	自然		AⅢb2	加善利EⅣ	縄文土器	
208	B17e6	N-54°-E	楕円形	1.08×0.97	45	外傾	平坦	自然		BⅡb1	中期	縄文土器	
209	B17f5	N-58°-E	円形	1.20×1.13	22	外傾	平坦	自然		AⅡb1	加善利E～安行	縄文土器, 魚骨	
210A	B17j7	N-30°-W	[楕円形]	[1.10×0.63]	32	外傾	平坦	自然		BⅡb1	加善利EⅢ	縄文土器	本跡→SI-55, SK-210B不明
210B	B17i7	N-40°-E	[楕円形]	[1.04]×0.72	28	外傾	平坦	自然		BⅡb1	加善利EⅢ	縄文土器	本跡→SI-55, SK-210A不明
211	B17h5	N-35°-W	楕円形	1.18×0.96	22	外傾	平坦	自然		BⅡb1	加善利EⅣ	縄文土器	
212	B17h5	N-9°-W	円形	1.42×1.34	70	外傾	平坦	自然		AⅡb2	中期	縄文土器	
213	B17i3	N-32°-E	楕円形	0.79×0.62	74	垂直	平坦	自然		BⅢa2	堀之内1	縄文土器, 敲石	
214	B17g5	N-27°-W	楕円形	1.56×1.42	40	外傾	皿状	自然		BⅡb1	加善利E	縄文土器	本跡→SK-242
215	B17g5	N-44°-E	円形	2.18×2.10	102	垂直	平坦	人為		AⅢc3	加善利EⅢ～Ⅳ	縄文土器, 土製円板, 敲石	
216	B17d6	N-5°-W	楕円形	1.07×0.92	50	外傾	平坦	自然		BⅡb2	中期	縄文土器	
217	B17c5	N-10°-W	円形	1.17×1.08	24	外傾	平坦	自然		AⅡb1	加善利E	縄文土器	
218	B17f4	N-12°-W	円形	1.81×1.77	53	外傾	平坦	自然		AⅡb2	阿玉台Ⅳ～加善利EⅢ	縄文土器	
219	B17e4	N-30°-E	円形	1.65×1.45	65	外傾	平坦	自然		AⅡb2	加善利EⅢ～Ⅳ	縄文土器	本跡→SI-64, SK-371不明
220	B17f3	N-42°-E	楕円形	1.70×1.40	70	外傾	平坦	人為		BⅡb2	加善利EⅣ	縄文土器	本跡→SI-64
221	B17g5	N-70°-W	楕円形	1.18×1.04	35	外傾	平坦	自然		BⅡb1	加善利E	縄文土器	
222	B17h5	N-89°-W	楕円形	1.71×1.36	52	垂直	皿状	自然		BⅢb2	加善利E	縄文土器	
225	B17i4	N-46°-W	楕円形	0.91×0.90	62	外傾	皿状	人為		AⅡa2	加善利E	縄文土器	
226	B17b7	N-38°-W	楕円形	1.76×1.42	24	外傾	凸凸	自然	2	BⅡb1	堀之内	縄文土器	
227	B17h7	N-47°-W	楕円形	0.68×0.55	70	垂直	凸凸	自然		BⅢa2			SK-249→本跡→SI-60
228	B17j7	N-11°-E	楕円形	1.60×0.95	22	垂直	平坦	自然		BⅢb1			
229	C16j5	N-36°-W	[楕円形]	[1.45]×1.32	27	外傾	平坦	自然		BⅡb1	中期	縄文土器	SK-230→本跡, SK-248不明
230	C17a5	N-12°-W	[円形]	[2.36]×1.45	25	外傾	平坦	自然		BⅡc1	中期	縄文土器	本跡→SK-229, SK-248不明
231	B17f4	N-19°-W	楕円形	1.43×1.03	70	垂直	平坦	自然	1	BⅢb2	加善利E	縄文土器	
232	B17d1	N-39°-W	楕円形	2.28×1.74	122	垂直	平坦	人為		BⅢc3	加善利EⅣ	縄文土器, 管状土製品, 石鏃	本跡→SI-134
233	B17d5	N-36°-W	円形	0.88×0.80	76	外傾	平坦	自然		AⅡa2	加善利E	縄文土器	本跡→SI-63
234	B17i4	N-0°	円形	1.40×1.28	26	緩斜	平坦	自然	1	AⅠb1	堀之内	縄文土器	
235	B17f1	N-25°-E	円形	1.04×0.95	29	外傾	平坦	自然		AⅡb1	阿玉台Ⅳ～加善利EⅠ	縄文土器	
236	B17f1	N-48°-E	楕円形	1.20×[0.85]	30	垂直	平坦	自然		BⅢb1	堀之内1	縄文土器	
237	B17f1	N-50°-E	楕円形	[1.30]×1.07	35	垂直	平坦	自然	1	BⅢb1	加善利E	縄文土器	
238	B17f1	N-48°-W	[楕円形]	[1.90]×1.43	50	緩斜	平坦	自然		BⅠb2	加善利EⅣ	縄文土器	
240	B17f3	N-30°-W	楕円形	1.45×1.12	85	緩斜	平坦	自然		BⅠb2	後期前葉	縄文土器	本跡→SI-64
242	B17g5	N-35°-W	楕円形	2.00×1.69	95	外傾	平坦	自然	1	BⅡc2	阿玉台Ⅲ～加善利EⅠ	縄文土器, 有孔円板	SK-214→本跡
243	B17j4	N-18°-E	楕円形	2.24×1.45	55	垂直	平坦	自然	2	BⅡc2	加善利EⅢ	縄文土器, 土製円板, 磨石	
245	B17f4	N-45°-E	円形	0.80×0.75	75	垂直	平坦	自然		AⅢa2			本跡→SI-64
246	B17j3	N-40°-E	楕円形	1.30×0.80	27	外傾	平坦	自然		BⅡb1			
247	C17b6	N-7°-W	[楕円形]	1.54×[1.22]	82	垂直	平坦	自然		BⅢb2	中期	縄文土器	
248	C16j5	N-18°-E	[円形]	[1.20]×1.00	50	垂直	平坦			AⅢb2	中期～後期前葉	縄文土器	SK-229・230不明
249	B17i3	N-25°-E	円形	1.03×0.97	45	外傾	皿状	自然		AⅡb1	加善利E～堀之内	縄文土器, 打製石斧	本跡→SI-76
258	B17e4	N-51°-E	円形	1.70×1.32	45	外傾	平坦	自然	1	AⅡb1	中期	縄文土器	本跡→SI-64
260	C18d6	N-21°-E	円形	1.53×1.40	40	外傾	平坦	自然		AⅡb1	中期後半	縄文土器	
261	C18d5	N-33°-W	楕円形	1.91×1.64	65	垂直	平坦	自然		BⅢb2	加善利EⅢ～堀之内	縄文土器	
262	C18e5	N-41°-E	円形	1.52×1.41	39	外傾	平坦	自然		AⅡb1	加善利E	縄文土器	
263	C18f5	N-18°-W	[楕円形]	[2.08]×1.75	77	垂直	平坦	自然		BⅢc2	加善利E	縄文土器	
264	C18e6	N-20°-W	[円形]	[2.20]×2.18	55	垂直	平坦	人為		AⅢc2	加善利EⅠ	縄文土器	
265	C18f9	N-54°-E	円形	1.85×1.68	80	垂直	平坦	自然	2	AⅢb2	加善利EⅢ	縄文土器	

土坑 番号	位置	長径(軸) 方向	平面形	長径×短径 (m)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	P	分類	時期	出土遺物	備考 ※重複関係(新→旧)
266	C18f8	N-8°-W	円形	2.46×2.30	75	垂直	平坦	人為	2	AⅢc2	加善利EⅢ	縄文土器	
267	C18g7	N-52°-W	楕円形	1.26×1.03	17	外傾	平坦	自然		BⅡb1		縄文土器	
268	C18d8	N-80°-W	円形	1.08×0.98	48	外傾	皿状	人為		AⅡb1		縄文土器	
269	C18f8	N-7°-W	[円形]	0.84×[0.82]	35	外傾	平坦	自然		AⅡa1		縄文土器	
271	C18d7	N-13°-W	楕円形	1.01×0.80	27	垂直	平坦	自然		BⅢb1			
272	C18d7	N-0°	楕円形	0.96×0.83	20	外傾	平坦	自然		BⅡa1			
273	C18g5	N-46°-W	[楕円形]	2.53×[1.95]	59	垂直	平坦	人為	1	BⅢc2	堀之内1	縄文土器	本跡→SK-357
274	C18c7	N-34°-E	円形	1.72×1.63	39	外傾	凸凹	自然	1	AⅡb1		縄文土器	
275	C18e7	N-5°-W	楕円形	0.65×0.55	38	外傾	皿状	自然		BⅡa1		縄文土器	
276	B17i2	N-58°-E	楕円形	2.40×1.37	53	内傾	平坦			BⅣc2	加善利E	縄文土器	SI-76→本跡
277	B17i2	N-49°-E	楕円形	1.76×0.81	65	垂直	平坦	自然		BⅢb2		縄文土器	本跡→SI-76
278	B17i2	N-7°-E	円形	0.58×0.52	50	垂直	平坦	自然		AⅢa2		縄文土器	本跡→SI-76
279	C18e4	N-67°-W	楕円形	2.13×1.88	52	垂直	平坦	自然		BⅢc2	加善利EⅠ	縄文土器	本跡→SI-81
280	C18e4	N-46°-W	楕円形	2.20×1.94	61	垂直	平坦	自然		BⅢc2		縄文土器	本跡→SI-81
281	C18c8	N-8°-E	楕円形	0.90×0.77	67	垂直	平坦	人為		BⅢa2	加善利EⅣ	縄文土器	
282	C18d8	N-4°-W	円形	0.86×0.82	40	外傾	皿状	自然		AⅡa1			
283	C18d8	N-42°-E	楕円形	1.67×1.03	31	緩斜	皿状	自然		BⅠb1		縄文土器	
284	C18e5	N-6°-E	楕円形	1.27×0.98	16	外傾	平坦	自然	1	BⅡb1	中期	縄文土器	
285	B17i3	N-82°-E	楕円形	0.80×0.71	71	垂直	平坦	自然		BⅢa2		縄文土器	
286	C18d6	N-20°-E	楕円形	1.40×0.90	35	緩斜	皿状	人為		BⅠb1	中期	縄文土器	
287	B18e5	N-0°	円形	0.75×0.70	93	外傾	平坦	自然		AⅡa2	中峠～加善利E	縄文土器	本跡→SI-83, SK-321
288A	C18d5	N-47°-W	[楕円形]	0.84×[0.69]	36	外傾	凸凹			BⅡa1	中期	縄文土器	SK-288B不明
288B	C18d5	N-51°-W	楕円形	1.00×[0.75]	65	垂直	平坦	自然		BⅢb2	中期後半	縄文土器	SK-288A不明
300	C18g6	N-46°-W	不定形	3.22×2.80	114	外傾	皿状	自然		DⅢc3	堀之内1	縄文土器	SK-322不明
301	B18e5	N-53°-E	不定形	0.95×0.70	110	垂直	平坦	自然		DⅢa3			本跡→SI-83, SK-321
302	C18d6	N-0°	円形	0.95×0.95	65	垂直	平坦	自然	1	AⅢa2			
303	C18d6	N-40°-W	楕円形	1.87×1.60	85	外傾	平坦	自然	1	BⅡb2	中期	縄文土器	本跡→SI-89
320	C18f8	N-42°-W	[楕円形]	2.95×[1.65]	53	緩斜	皿状	自然		BⅠc2	中期中葉	縄文土器	本跡→SK-376
321	B18e5	N-65°-E	不定形	2.95×2.16	55	緩斜	平坦	自然		DⅠc2	加善利E	縄文土器	SK-287・301→本跡→SI-83
322	C18h6			(2.87×1.53)	107	内傾	平坦	自然		Ⅳc3	加善利E～後期前葉	縄文土器, 敲石	
323	B17i3	N-6°-E	楕円形	0.72×0.56	47	垂直	平坦			BⅢa1	加善利EⅣ～堀之内	縄文土器	
326	B16h0	N-53°-E	長楕円形	2.98×1.60	94	内傾	平坦	自然		BⅣc2	加善利EⅢ～Ⅳ	縄文土器	SK-327→本跡→SI-149
327	B17g1	N-52°-E	[円形]	[1.43×1.38]	134	内傾	平坦	自然		AⅣb3			本跡→SK-326
328	B17g1	N-4°-W	楕円形	1.10×0.83	105	垂直	平坦	自然		BⅢb3			本跡→SI-67
329	B17i1	N-87°-W	不定形	2.75×1.81	103	外傾				DⅡc3	中期後半～堀之内	縄文土器	SK-330不明
330	B17i1	N-90°	楕円形	0.74×0.58	164	垂直	平坦			BⅢa4	中期～後期前葉	縄文土器	SK-329不明
331	B17i2	N-35°-W	[楕円形]	[1.56]×1.19	30	外傾	平坦	自然		BⅡb1	中期～後期前葉	縄文土器	SK-332→本跡
332	B17j1	N-22°-W	長楕円形	2.86×1.75	75	外傾	平坦	自然		BⅡc1	堀之内1	縄文土器, 土製円板	本跡→SK-331
333	B16j9	N-40°-W	楕円形	1.62×1.15	43	外傾	平坦	自然		BⅡb1	後期前葉	縄文土器	SI-73不明
334	B16j9			2.15×(0.70)	15	外傾	平坦			Ⅱc1	中期	縄文土器	SI-73不明
335	B16h0	N-0°	楕円形	2.10×1.58	20	緩斜	平坦	自然		BⅠc1			SI-74→本跡
336	B17j1	N-17°-W	不定形	1.60×1.10	65	外傾	平坦			DⅡb2	中期中葉	縄文土器	
337	B17j2	N-35°-E	円形	0.50×0.45	120	垂直	皿状			AⅢa3			
338	B17j2	N-3°-W	楕円形	[1.28]×1.11	137	垂直	平坦			BⅢb3			
351	B17i6	N-30°-W	楕円形	2.05×1.73	78	垂直	平坦	自然		BⅢc2	中期	縄文土器	SI-61→本跡
352	B17h5	N-28°-W	[楕円形]	1.35×[1.17]	63	外傾	平坦	自然		BⅡb2	中期	縄文土器	本跡→SK-353
353	B17h5	N-32°-W	[楕円形]	1.76×[1.30]	57	外傾	平坦	自然		BⅡb2	中期～堀之内	縄文土器	SK-352→本跡
354	C18f6		不定形	(1.65×1.30)	58	垂直	平坦	自然		Ⅲb2	堀之内1	縄文土器	本跡→SI-88, SK-355・356
355	C18f6	N-7°-W	円形	2.65×2.43	72	外傾	平坦	人為		AⅡc2	中期	縄文土器	SI-74A・74B, SK-354→本跡→SI-88
356	C18f6	N-13°-W	楕円形	1.45×1.06	80	緩斜	皿状			BⅠb2	中期～堀之内1	縄文土器	SK-354→本跡→SI-88, SK-355
357	C18f6	N-41°-E	楕円形	1.94×1.45	83	外傾	平坦	人為	1	BⅡb2			SK-273→本跡→SI-88
358	C18g5			4.50×(1.24)	75	外傾	平坦	自然		Ⅱc2	加善利EⅢ	縄文土器	

土坑 番号	位置	長径(軸) 方向	平面形	長径×短径 (m)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	P	分類	時 期	出 土 遺 物	備 考 ※重複関係(新→旧)
359	C18d6	N-17°-E	円 形	1.00×0.90	39	垂直	平坦			AⅢb1	中期	縄文土器	
361	C18f5	N-65°-E	円 形	0.90×0.80	83	垂直	平坦			AⅢa2	中期～後期前葉	縄文土器	本跡→SI-86
365	C18c8	N-33°-W	楕円形	0.97×0.84	28	外傾	平坦			BⅡa1			
366	C18c9	N-24°-E	楕円形	0.74×0.58	20	垂直	平坦	人為		BⅡa1		縄文土器	
368	C18e7	N-37°-W	楕円形	1.45×0.97	85	外傾	平坦	自然		BⅡb2			本跡→SI-88
370	C18c6	N-34°-W	楕円形	0.80×0.68	18	垂直	凸凹	人為		BⅢb1			
371	B14e7	N-70°-W	円 形	0.95×0.90	110	垂直	皿状	自然		AⅢa3			本跡→SI-64, SK-219不明
372	B17f4	N-30°-W	楕円形	0.93×0.78	80	外傾	平坦	自然		BⅡa2			本跡→SI-64
374	C18e7	N-18°-W	円 形	1.10×1.03	85	垂直	皿状	自然		AⅢb2	加曾利EⅢ	縄文土器	
375	C18c9	N-68°-W	楕円形	1.25×1.00	42	垂直	平坦	自然		BⅢb1			
376	C18f7	N-26°-E (楕円形)		2.05×(1.95)	65	垂直	皿状			BⅢc2			SK-320・377→本跡
377	C18f7	N-44°-W (楕円形)		1.57×(1.40)	82	垂直	皿状		1	BⅢb2	加曾利E	縄文土器	本跡→SK-376
378	C18g7	N-0°	円 形	0.57×0.57	75	垂直	皿状			AⅢa2		縄文土器	
379	C18f8	N-20°-E	円 形	0.85×0.81	55	垂直	平坦	自然		AⅢa2		縄文土器	
380	C18e3	N-13°-E	楕円形	1.44×1.24	87	内傾	平坦	自然		BⅣb2	中期	縄文土器	袋状, 底径2.11×2.01
381	C18f5	N-21°-E (不正楕円形)		(1.15×0.92)	87	垂直	平坦			BⅢb2			本跡→SI-83
382	B17j4	N-50°-W	楕円形	1.49×1.24	81	垂直	平坦	自然		BⅢb2	阿玉台Ⅳ	縄文土器	
383	B17j4			1.75×(1.00)	103	緩斜	平坦	人為		I b3	加曾利EⅢ～Ⅳ	縄文土器	本跡→SK-384
384	B17j3			1.62×(0.83)	36	外傾	平坦	自然		Ⅱ b1	加曾利EⅢ	縄文土器	SK-383・385→本跡
385	B17j3			1.37×(0.68)	47	外傾	平坦	自然	1	Ⅱ b1			本跡→SK-384
386	B17j5	N-75°-W	楕円形	1.04×0.84	103	垂直	平坦	人為		BⅢb3	中期	縄文土器	
387	B17j2	N-70°-W	円 形	1.22×1.10	82	外傾	平坦	自然		AⅡb2	中期	縄文土器	
388	B17j2			1.81×(1.45)	89	垂直	平坦	人為		Ⅲ b2			
390	B16h9	N-55°-W	楕円形	1.10×0.95	60	垂直	平坦	人為		BⅢb2	中期	縄文土器	SI-74A・74B→本跡
391	B16i0	N-0°	円 形	1.00×1.00	24	垂直	平坦			AⅢb1	加曾利EⅢ	縄文土器	
392	B17g1	N-30°-E	円 形	1.56×1.45	97	垂直	平坦			AⅢb2	中期	縄文土器	
393	B17i2	N-23°-E	円 形	0.55×0.50	106	垂直	平坦			AⅢa3	中期～堀之内1	縄文土器	
394	B17i2	N-0°	円 形	0.80×0.80	90	垂直	平坦			AⅢa2			
396	B15b7	N-60°-W	楕円形	2.00×1.40	23	緩斜	凸凹	自然		BⅠc1			
397	B15a0	N-29°-W	楕円形	2.45×1.92	37	外傾	平坦	自然		BⅡc1	中期中葉	縄文土器	
399	B16a8	N-17°-W	円 形	1.00×1.57	59	外傾	平坦	自然		AⅡb2	加曾利E	縄文土器	
400	B15c9	N-20°-W	楕円形	1.35×1.25	30	外傾	平坦	自然		BⅡb1			SK-402不明
402	B15c8	N-72°-W	楕円形	1.64×1.42	87	内傾	平坦	自然		BⅣb2	中期中葉	縄文土器	SK-400不明, 袋状, 底径2.32×2.14
403	B15j8	N-50°-E	楕円形	2.27×1.98	48	外傾	平坦	自然		BⅡc1	中期～後期前葉	縄文土器, 土製円板	
405	B15j9	N-50°-E	楕円形	1.43×1.20	50	外傾	平坦	自然		BⅡb2	後期前葉	縄文土器	
408	A15j8			1.45×(1.04)	106	内傾	皿状	自然		Ⅳb3	中峠	縄文土器	袋状, 底径1.81×(1.06)
410	B15g9	N-77°-W	楕円形	2.18×1.81	70	内傾	平坦	自然	2	BⅣc2	中峠～加曾利EⅠ	縄文土器	袋状, 底径3.03×2.50
411	B15d8	N-25°-W	楕円形	2.06×1.32	52	外傾	平坦	自然		BⅡc2			
412	B16a2	N-56°-E	楕円形	1.56×1.46	38	外傾	平坦	自然	1	BⅡB1	中期中葉	縄文土器	
413	B16a1	N-42°-W	楕円形	1.58×1.36	18	外傾	平坦	自然		BⅡb1	中期中葉	縄文土器	
414	B16a1	N-21°-W	楕円形	1.44×1.14	98	内傾	平坦	自然		BⅣb2	中峠～加曾利EⅠ	縄文土器	袋状, 底径2.16×1.92
415	B16a2	N-44°-W	楕円形	2.02×1.56	98	外傾	皿状	自然		BⅡc2	阿玉台Ⅳ	縄文土器	
416	B16c3	N-49°-W	楕円形	1.22×1.18	63	外傾	平坦	自然		BⅡb2	加曾利EⅣ	縄文土器	
417	B16c2	N-37°-W	長楕円形	2.20×1.08	67	内傾	平坦	自然		BⅣc2	中峠	縄文土器, 磨石	袋状, 底径2.47×1.62
418	B16b3	N-30°-W	楕円形	2.50×1.48	84	内傾	平坦	自然		BⅣc2	中峠	縄文土器	袋状, 底径2.52×1.78
420	B16d1	N-48°-W	楕円形	1.92×1.72	74	垂直	平坦	自然		BⅢb2	阿玉台Ⅳ～加曾利EⅠ	縄文土器	
421	B16a2	N-54°-W	楕円形	2.09×1.90	100	内傾	平坦	人為		BⅣc3	中期中葉	縄文土器, 磨製石斧	袋状, 底径2.48×2.32
422	B16c1	N-12°-W	楕円形	2.08×1.88	78	内傾	平坦	自然	1	BⅣb2	中峠	縄文土器, 敲石, 凹石	袋状, 底径2.58×2.35
423	B16e1	N-14°-W	楕円形	1.94×1.63	74	垂直	平坦	自然		BⅢb2	中峠	縄文土器	
424	B16b3	N-10°-W	長楕円形	2.50×1.62	40	外傾	平坦	自然		BⅡc1	中期中葉	縄文土器	
425	B16f2	N-76°-E	楕円形	2.02×1.48	102	内傾	平坦	人為	2	BⅣc3	中峠	縄文土器, 磨製石斧	袋状, 底径2.32×2.18
426	B16b4	N-7°-W	楕円形	1.68×1.41	17	外傾	平坦	自然	1	BⅡb1		縄文土器	

土坑 番号	位置	長径(軸) 方向	平面形	長径×短径 (m)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	P	分類	時 期	出 土 遺 物	備 考 ※重複関係(新→旧)
427	B17d	N-32°-E	楕円形	2.17×1.82	68	外傾	平坦	自然		B II c2	中期中葉	縄文土器	
428	B15h0	N-21°-E	楕円形	2.60×2.57	67	内傾	平坦	自然	2	B IV c2	阿玉台Ⅳ	縄文土器	袋状, 底径2.62×2.38
429	B16g1	N-28°-W	楕円形	2.01×1.52	94	内傾	皿状	自然	1	B IV c2	中峠	縄文土器, 磨石	袋状, 底径2.40×2.03
430	B16e2	N-0°	円形	0.88×0.87	72	垂直	平坦	人為		A II a2		縄文土器	
431	B15h0	N-80°-W	楕円形	1.40×1.20	38	緩斜	皿状	自然		B I b1	加曾利 E	縄文土器	
432	B16e2	N-14°-E	円形	1.00×0.96	72	垂直	人為			A II b2	中期	縄文土器	
433	B16j1	N-34°-W	楕円形	1.45×1.35	43	外傾	平坦	自然		B II b1			
434	B16g1	N-17°-W	楕円形	0.74×0.68	84	内傾	平坦	自然		B IV a2	[中期]		袋状, 底径1.47×1.28
435	B15i0	N-70°-W	円形	1.46×1.38	56	内傾	平坦	自然		A IV b2	阿玉台Ⅳ	縄文土器	袋状, 底径2.48×2.40
436	B16c3	N-30°-W	楕円形	1.05×0.78	145	垂直	平坦	自然		B III b4	中期	縄文土器	本跡→SI-72
437	B16c4	N-25°-W	楕円形	2.45×1.77	112	内傾	平坦	自然		B IV c3	中峠	縄文土器	本跡→SI-72, 袋状, 底径2.37×2.13
438	B16h1	N-52°-W	楕円形	1.20×1.12	76	内傾	皿状		1	B IV b2			袋状, 底径1.74×1.40
439	B16f3	N-40°-E	楕円形	2.16×2.03	30	外傾	平坦	自然	2	B II c1	中期	縄文土器	
440	B16e3	N-8°-W	隅丸方形	1.87×1.78	82	内傾	平坦	人為		C IV b2	中峠~加曾利 E I	縄文土器	袋状, 底径2.30×2.01
441	B16g4	N-4°-E	楕円形	1.08×1.01	45	外傾	平坦	自然		B II b1		縄文土器	本跡→SI-136
442	B16h3	N-3°-W	不定形	2.48×1.78	88	内傾	平坦			D IV c2	加曾利 E I 前後	縄文土器, 土製円板	袋状, 底径2.03×1.92
443	B16g3	N-47°-E	楕円形	2.40×2.03	92	内傾	平坦	人為	1	B IV c2	中峠~加曾利 E I	縄文土器	袋状, 底径2.52×2.48
444	B16f4	N-25°-E	楕円形	1.08×0.90	130	内傾	平坦	自然	1	B IV b3	中峠	縄文土器	袋状, 底径2.50×2.20
445	B16g4	N-38°-E	楕円形	2.14×1.41	29	外傾	平坦	自然	2	B II c1	中期中葉	縄文土器	SI-136→本跡
446	B16g2	N-28°-W	不整形	2.63×2.48	114	内傾	平坦	人為	1	A IV c3	中峠~加曾利 E I	縄文土器, 土器片錘	SK-447→本跡, 袋状, 底径3.50×2.76
447	B16g2	N-19°-W	隅丸長方形	1.27×1.12	102	垂直	皿状	自然		C III b3	加曾利 E	縄文土器	本跡→SK-446
448	B16g2	N-4°-W	楕円形	1.16×1.10	42	外傾	平坦			B II b1	加曾利 E	縄文土器	
449	B16i3	N-41°-E	楕円形	1.30×1.23	102	内傾	平坦	自然		B IV b3	中期中葉	縄文土器	SI-136→本跡, 袋状, 底径1.82×1.74
450	B16h3	N-84°-E	楕円形	2.02×1.77	130	内傾	平坦	自然	2	B IV c3	中期中葉	縄文土器	袋状, 底径2.28×2.15
451	B16d5	N-32°-E	不定形	1.86×1.57	93	内傾	平坦	人為	1	D IV b2	中期中葉	縄文土器	袋状, 底径1.64×1.30
452	B16i4	N-51°-W	不整形	1.25×1.20	104	内傾	平坦	自然		A IV b3	中期中葉	縄文土器	本跡→SK-453, 袋状, 底径2.60×2.52
453	B16i4	N-56°-W	楕円形	2.50×1.82	98	内傾	平坦	自然	3	B IV c2	中期中葉	縄文土器	SK-452→本跡, 袋状, 底径3.36×2.52
454	B16h5	N-32°-E	楕円形	2.46×1.95	152	内傾	平坦	自然		B IV c4	阿玉台Ⅳ	縄文土器	SK-455→本跡, 袋状, 底径2.36×(2.20)
455	B16h5	(N-30°-E)	[楕円形]	1.92×(1.42)	102	内傾	皿状	自然	1	B IV b3	[中期]		本跡→SK-454, 袋状, 底径2.02×(1.30)
456	B16g3	N-19°-W	楕円形	1.85×1.38	84	内傾	平坦	人為		B IV b2	中期	縄文土器	SI-132不明, 袋状, 底径2.46×2.07
457	B16f6	N-35°-E	円形	0.87×0.82	18	外傾	平坦	自然		B II a1			
458	B16f8	N-4°-W	円形	1.39×1.33	34	外傾	皿状	自然		A II b1	中期	縄文土器	
459	B16f7	N-41°-E	楕円形	1.42×1.30	34	外傾	平坦	自然	1	B II b1	加曾利 E	縄文土器	
460	B15j8	N-3°-E	楕円形	1.22×1.08	22	外傾	平坦	自然		B II b1		縄文土器	
461	B16i7	N-24°-E	円形	1.42×1.36	35	外傾	平坦	自然		B II b1	加曾利 E III~IV	縄文土器	
462	B16d7	N-64°-E	楕円形	1.98×1.85	40	外傾	皿状	自然		B II b1	加曾利 E	縄文土器	SK-463→本跡, SK-473不明
463	B15b8	N-37°-W	楕円形	1.52×1.37	52	垂直	平坦	自然		B III b2	加曾利 E III~IV	縄文土器	本跡→SK-463, SK-473不明
464	B16c3	N-41°-W	楕円形	1.96×1.85	69	外傾	平坦	自然		B II b2			本跡→SI-72
465	B16f3	N-12°-E	楕円形	0.78×0.67	109	内傾	平坦		1	B IV a3	[中期]		袋状, 底径1.24×1.14
466	B16d9	N-56°-E	楕円形	1.98×1.72	43	外傾	平坦	自然		B II b1	中期	縄文土器	
467	B16b9	N-19°-W	楕円形	1.26×1.19	60	垂直	平坦	人為	1	B III b2	中期	縄文土器, 獣骨, 貝	
468	B16d9	N-31°-W	円形	1.41×1.32	50	垂直	平坦	自然		A III b2	加曾利 E	縄文土器	
471	B16g4	N-62°-W	楕円形	1.25×1.13	28	外傾	平坦	自然		B II b1	加曾利 E	縄文土器	SI-136→本跡
472	B15j0	N-85°-W	楕円形	2.36×1.77	77	外傾	平坦	自然		B II c2	阿玉台	縄文土器	
473	B16b7	N-48°-E	楕円形	2.35×1.70	18	外傾	平坦	自然	1	B II c1	中期中葉	縄文土器	SK-462不明
474	B16h1	N-26°-E	[楕円形]	[1.87×1.67]	75	内傾	平坦		1	B IV b2			袋状, 底径2.13×1.88
475	B16f1	(N-0°)	[円形]	[1.37×1.37]	114	外傾	平坦	人為		A II b3	阿玉台 III~IV	縄文土器	袋状, 底径2.37×2.35
476	B15i0	(N-47°-E)	[楕円形]	1.43×[1.21]	47	垂直	皿状	自然		B III b1			
477	B15c9	N-62°-W	不定形	2.15×1.82	64	緩斜	平坦	自然	1	D I c2			
478	B16b4	N-52°-W	楕円形	1.33×0.94	57	外傾	凸凹	人為	3	B II b2	中期	縄文土器	
479	B16g5	N-47°-E	卵形	1.28×0.88	95	外傾	凸凹	自然		B II b2	中期	縄文土器	本跡→SI-158
480	B16f7	N-20°-W	楕円形	1.31×1.25	122	垂直	平坦	人為	1	B III b3	中期中葉	縄文土器	

土坑 番号	位置	長径(軸) 方向	平面形	長径×短径 (m)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	P	分類	時 期	出 土 遺 物	備 考 ※重複関係(新→旧)
481	B16e3	N-14°-E	楕円形	1.40×0.88	134	内傾	凸凹	人為	3	BIVb3	中期	縄文土器	本跡→SI-118
482	B16f7	N-0°	円形	1.10×1.02	28	外傾	平坦	自然		AIIb1			
483	B16f8	N-35°-W	楕円形	1.70×0.80	32	外傾	平坦	人為		BIIIb1	加曾利EIV	縄文土器	本跡→SI-127, SK-488
484	B16h7	N-70°-W	楕円形	1.72×1.52	26	外傾	凸凹	自然	1	BIIb1			
485	B17e1	N-56°-W	楕円形	0.98×0.78	71	外傾	平坦	自然		BIIa2	中期	縄文土器	
486	B16h6	N-81°-E	不整楕円形	2.21×1.86	40	外傾	平坦	自然	1	BIIc1	中期中葉	縄文土器	SK-527・543不明
487	B17e1	N-0°	円形	0.99×0.98	60	緩斜	凸凹	自然		AIa2	中期	縄文土器	
488	B16f8	N-38°-W	円形	1.36×1.24	110	垂直	平坦	自然		AIIIb3	中期	縄文土器	SI-127, SK-483→本跡
489	B16g7	N-44°-W	楕円形	1.54×1.38	84	外傾	平坦	自然	1	BIIb2	中期	縄文土器	
490	B16f9	N-25°-W	楕円形	1.51×1.36	42	外傾	平坦	自然	1	BIIb1	中期	縄文土器	SI-151・152不明
491	B16g5	N-50°-W	楕円形	1.42×1.22	93	内傾	平坦	人為		BIVb2	中期	縄文土器	SI-119→本跡, SI-158不明, 袋状, 底径1.80×1.51
492	B16f8	N-88°-E	円形	0.98×0.85	33	緩斜	平坦	自然		AIa1			SI-127→本跡
493	B16e7	N-53°-W	不整楕円形	2.37×1.88	58	外傾	平坦	人為	2	BIIc2	中期	縄文土器	本跡→SI-133
494	B16j8	N-30°-E	楕円形	2.13×1.76	110	内傾	平坦	人為		BIVc3	中峠~加曾利E I	縄文土器	SI-129・130→本跡, 袋状, 底径2.50×1.77
497	B18h1	N-66°-W	楕円形	2.07×1.88	84	外傾	平坦	自然		BIIc2	中期	縄文土器, 土製円板	
498	B17j0	N-31°-E	楕円形	1.48×1.42	78	外傾	平坦	自然		BIIb2	中期~後期	縄文土器	
499	C17b6	N-39°-E	楕円形	1.52×1.44	57	垂直	平坦	自然		BIIIb2	中期	縄文土器	
500	B16j8	N-45°-W	楕円形	1.83×1.65	145	垂直	平坦	人為		BIIIb3	堀之内1	縄文土器	本跡→SI-130, 円筒状
501	B16h7	N-77°-W	楕円形	1.72×1.28	39	外傾	平坦	人為	1	BIIb1	堀之内1	縄文土器	本跡→SI-153
505	B16h5	N-30°-W	楕円形	1.30×1.22	102	垂直	平坦	人為		BIIIb3	加曾利E III~堀之内1	縄文土器	本跡→SI-119
506	C16j9	N-31°-W	楕円形	1.41×1.26	59	外傾	平坦	人為		BIIb2			
507	C17b9	N-14°-E	楕円形	1.15×1.10	61	外傾	凸凹	自然	1	BIIb2	堀之内1	縄文土器	
508	C17b0	N-0°	円形	0.79×0.78	52	垂直	平坦	自然		AIIIa2	中期~堀之内1	縄文土器	
509	C17b0	N-73°-W	楕円形	0.69×0.60	28	外傾	平坦	自然		BIIa1			
510	C18c1	N-32°-W	楕円形	2.63×2.44	28	外傾	平坦	自然		BIIc1	中期~後期	縄文土器	SI-145不明
511	C18c1	N-0°	円形	0.75×0.73	29	外傾	平坦	自然		AIIa1			
512	B18j1	N-18°-E	楕円形	1.50×1.37	62	垂直	平坦	自然		BIIIb2	加曾利E III	縄文土器	
513	C17j3	N-32°-E	楕円形	0.92×(0.78)	45	垂直	平坦	自然		BIIIa1		縄文土器	SK-514不明
514	C17j3	N-0°	楕円形	1.78×1.78	45	垂直	平坦	自然		BIIIb1	加曾利E III	縄文土器	SK-513不明
515	C18a1	N-53°-W	楕円形	1.42×1.25	59	外傾	平坦	自然		BIIb2	中期末	縄文土器	
516	C18b1	N-55°-W	楕円形	1.04×0.91	58	外傾	平坦	自然		BIIb2	加曾利E I	縄文土器	
517	C18b1	N-75°-E	楕円形	1.47×1.30	64	外傾	平坦	人為		BIIb2	中峠~加曾利E I	縄文土器	
518	C18b1	N-21°-W	円形	1.92×1.83	72	外傾	平坦	自然		AIIb2	中峠~加曾利E II	縄文土器	
519	C17a9	N-75°-W	楕円形	0.92×0.85	22	外傾	凸凹	自然		BIIa1	加曾利E I	縄文土器	
521	B16i6	N-54°-W	楕円形	1.63×1.33	37	緩斜	皿状	自然	1	BIb1	中峠~加曾利E I	縄文土器	
522	C18c3	N-21°-E	楕円形	1.92×1.72	40	外傾	平坦	人為		BIIb1	加曾利E I	縄文土器	SD-19→本跡→SI-142
523	C17c9			1.48×(0.85)	52	垂直	平坦			IIIb2	加曾利E I	縄文土器, 磨製石斧	本跡→SI-144
525	C18d2	N-57°-W	楕円形	1.19×1.10	36	外傾	平坦	自然		BIIb1			本跡→SI-143
526	C18b2	N-13°-E	楕円形	1.10×1.06	52	外傾	平坦	自然		BIIb2	加曾利E III	縄文土器	SI-142不明
527	B16h6		不整楕円形	1.52×(1.34)	83	内傾	平坦	自然		BIVb2		縄文土器	本跡→SI-119, SK-486・543不明
528	C18b2	N-51°-W	楕円形	1.22×0.74	60	外傾	皿状	自然		BIIb2		縄文土器	
529	C18b2	N-20°-E	楕円形	1.12×0.93	51	外傾	平坦	自然		BIIb2			
530	C16h0	N-22°-W	楕円形	0.78×0.67	26	緩斜	皿状	自然		BIb1	中期末~堀之内1	縄文土器	本跡→SI-149
531	B16h8	N-71°-E	楕円形	0.91×0.65	110	外傾	平坦	自然		BIIb3	加曾利E III~称名寺	縄文土器	本跡→SI-148
532	B16h7	N-26°-E	楕円形	1.33×1.10	90	内傾	皿状	自然	1	BIVb2	中期~後期前葉	縄文土器	SI-153→本跡, 袋状, 底径1.45×1.27
533	B16g8	N-82°-E	楕円形	1.41×1.24	56	外傾	皿状	人為		BIIb2	中期~堀之内1	縄文土器	本跡→SI-127・154
534A	B16h8	N-50°-E	楕円形	1.94×1.52	105	内傾	平坦		1	BIVb3	中峠	縄文土器	SI-130・153, 袋状, 底径1.75×1.50
534B	B16h8	N-42°-W	不整楕円形	1.40×1.30	86	外傾	段差	自然		AIIb2			本跡→SI-153
535	C19h1	N-23°-E	楕円形	1.86×1.53	26	外傾	平坦	自然	1	BIIb1	加曾利E III	縄文土器, 土製円板	
536	C19i1	N-28°-E	楕円形	2.82×2.15	14	外傾	平坦	自然	1	BIIb1	加曾利E I	縄文土器	SK-537→本跡

土坑 番号	位置	長径(軸) 方向	平面形	長径×短径 (m)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	P	分類	時 期	出 土 遺 物	備 考 ※重複関係(新→旧)
537	C19i1	N-0°	円形	0.94×0.94	45	外傾	平坦	自然		A II a1	堀之内1	縄文土器	本跡→SK-536
538	C18i0	N-48°-E	楕円形	2.45×2.07	114	内傾	平坦	人為		B IV c3	中峠~加曾利 E I	縄文土器	袋状, 底径2.25×2.20
539	C19j1	N-24°-E	楕円形	1.04×0.90	42	外傾	平坦	自然		B II b1	中期~後期	縄文土器	
541	B16g7	N-33°-E	円形	1.60×1.59	55	内傾	平坦	人為	6	A IV b2	中峠~加曾利 E I	縄文土器	SI-153・154→本跡, 袋状, 底径2.02×1.75
542	B16i5	N-65°-E	楕円形	1.94×1.84	74	緩斜	皿状	自然	1	B I b2			
543	B16h6	N-0°	[円形]	[0.77×0.74]	84	内傾	皿状		1	A IV a2			SK-486・527不明, 袋状, 底 径1.15×1.05
544	B16g5	N-7°-W	不整楕円形	2.34×2.01	89	内傾	平坦	自然		B IV c2	中峠~加曾利 E I	縄文土器	袋状, 底径2.22×2.24
545	B16g6	N-2°-W	楕円形	1.68×1.57	76	内傾	平坦	自然	1	B IV b2	加曾利 E I	縄文土器	SK-553→本跡, SI-158不明, 袋状, 底径2.09×1.97
546	B16g6	N-36°-E	楕円形	1.08×1.06	42	外傾	平坦	自然		B II b1	加曾利 E IV~堀之内1	縄文土器, 粉状骨	SI-158不明
547	B16h6	N-27°-E	楕円形	1.12×0.81	130	外傾	皿状			B II b3			本跡→SI-119
548	B17i9	N-49°-W	楕円形	1.02×0.87	60	垂直	皿状			B III b2		縄文土器	本跡→SI-59
549	B16i6	N-13°-W	円形	1.03×[1.02]	95	垂直	平坦			A III b2	加曾利 E III~IV	縄文土器	本跡→SI-155, SK-550
550	B16i6	N-85°-E	長楕円形	2.73×1.54	95	内傾	平坦	人為		B IV c2	中期	縄文土器	SI-155, SK-549→本跡, 袋状, 底径2.73×1.58
551	B16i8	N-20°-W	円形	1.37×1.25	55	外傾	平坦	自然	2	A II b2	中期中葉	縄文土器	SI-130→本跡
552	C18e2	N-57°-W	楕円形	1.69×1.48	78	内傾	平坦	自然		B IV b2	加曾利 E III	縄文土器	SI-79→本跡
553	B16g6	N-4°-E	楕円形	0.98×0.83	166	外傾	傾斜	人為		B II a4	中期後半	縄文土器	本跡→SI-158, SK-545, 埋設遺構
554	C18e0	N-33°-E	楕円形	2.14×1.98	91	外傾	平坦	自然		B II c2	加曾利 E III~IV	縄文土器, 土器片錘	SD-20→本跡
555	C19f3	N-0°	円形	2.35×2.35	89	外傾	凸凹	自然		A II c2			
556	C19f3	N-41°-E	楕円形	1.23×1.07	61	外傾	皿状	自然		B II b2		磨石	
557	C19e4	N-27°-W	円形	1.34×1.25	52	外傾	平坦	自然		A II b2			
558	C19e5	N-30°-E	楕円形	1.63×1.47	48	外傾	皿状	人為	1	B II b1		縄文土器	
559	C19e3	N-32°-W	楕円形	[1.26]×0.88	22	外傾	平坦	自然		B II b1			SK-580→本跡
560	C19g8	N-11°-E	円形	1.50×1.45	65	垂直	平坦	自然		A III b2	加曾利 E	縄文土器	本跡→SI-114
561	C18g0	N-40°-W	円形	0.90×0.80	24	外傾	皿状	人為		B II a1	加曾利 E	縄文土器	本跡→SI-114
562	C19f1	N-34°-E	楕円形	1.16×0.98	24	緩斜	皿状	自然		B I b1		縄文土器	
563	C19i2	N-79°-E	楕円形	2.80×2.34	82	外傾	平坦	人為	2	B II c2	中峠	縄文土器	SI-161→本跡
564	D19a1	N-69°-W	[楕円形]	2.29×[1.96]	61	外傾	平坦	人為		B II c2	中期	縄文土器	SK-623不明
566	C19j3	N-37°-E	楕円形	2.73×1.84	62	外傾	平坦	人為		B II c2	中峠~加曾利 E I	縄文土器	
567	C19i3	N-32°-E	円形	1.30×1.28	21	外傾	平坦	自然		A II b1		縄文土器	
568	C19f2	N-19°-W	楕円形	1.10×0.98	40	緩斜	平坦	自然		B I b1			
569	C18f9	N-23°-E	楕円形	2.18×[1.65]	82	外傾	平坦	人為		B II c2	加曾利 E	縄文土器	本跡→SI-114, SK-570不明
570	C19g9	N-54°-W	不定形	[1.50]×1.43	74	外傾	平坦	人為	1	D II b2	加曾利 E IV	縄文土器	本跡→SI-114, SK-569不明
571	C19e2	N-11°-W	楕円形	1.17×1.05	34	外傾	平坦	自然		B II b1	加曾利 E IV	縄文土器	
572	C19e3	N-35°-E	長楕円形	1.70×1.14	44	外傾	平坦	人為		B II b1		縄文土器	
573	C19e1	N-63°-E	楕円形	2.54×2.18	74	外傾	平坦	人為		B II c2	加曾利 E III	縄文土器	SK-574→本跡
575	C19e1	N-23°-E	円形	0.95×0.92	21	外傾	皿状	自然		A II a1			
576	C18f0	N-56°-E	楕円形	2.05×1.60	74	内傾	平坦	自然		B IV c2	加曾利 E I	縄文土器	袋状, 底径2.39×2.15
577	C19g4	N-43°-E	楕円形	1.36×1.20	74	外傾	平坦	自然		B II b2	中期	縄文土器	
578	C19g4	N-0°	円形	1.11×1.08	46	外傾	平坦	自然		A II b1	加曾利 E I~III	縄文土器	
579	C19f4	N-18°-E	楕円形	0.87×0.73	14	外傾	平坦	自然		B II a1		縄文土器	
580	C19e3	N-41°-W	円形	1.25×1.16	20	外傾	平坦	自然		A II b1	加曾利 E	縄文土器	本跡→SK-559
581	C19d3	N-54°-E	円形	1.09×1.06	36	外傾	平坦	自然		A II b1			
582	C19d3	N-42°-W	円形	0.97×0.89	80	外傾	凸凹	人為	1	A II a2			
583	C19d2	N-27°-W	円形	1.96×1.88	68	外傾	平坦	自然		B II b2	中期	縄文土器	
584	C19g5	N-47°-W	円形	1.12×0.92	52	外傾	皿状	自然		A II b2	中期	縄文土器	
585	C19g5	N-31°-E	楕円形	2.31×1.40	25	緩斜	皿状	自然	1	B I c1	縄文土器		
586	C19h3	N-5°-E	楕円形	1.12×0.97	65	外傾	平坦	自然		B II b2	中期~後期	縄文土器	
587	C19f7	N-11°-W	楕円形	1.07×0.81	104	外傾	平坦	人為		B II b3	中期	縄文土器	

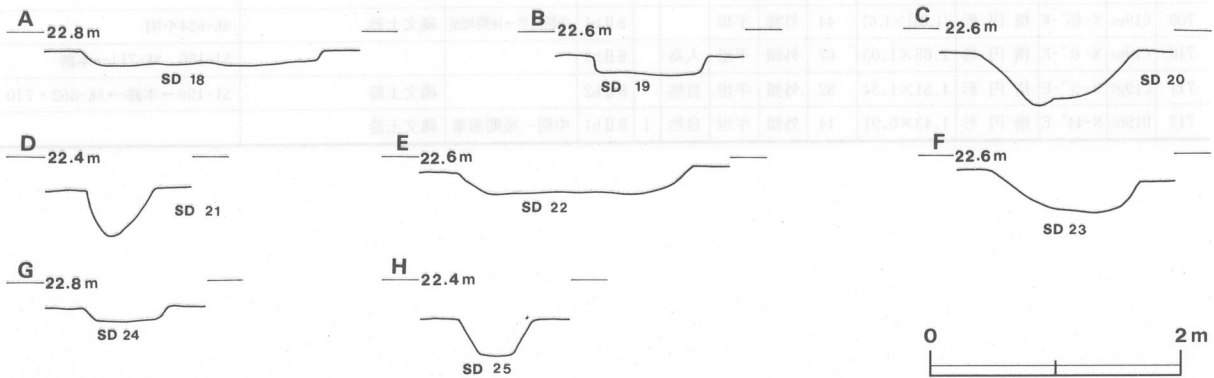
土坑 番号	位置	長径(軸) 方向	平面形	長径×短径 (m)	高さ (cm)	壁面	底面	覆土	P	分類	時 期	出 土 遺 物	備 考 ※重複関係(新→旧)
588	C19g7	N-41°-W	楕円形	0.97×0.67	49	垂直	平坦	自然	1	BⅢb1	中期～後期	縄文土器	
589	C19g7	N-41°-E	楕円形	1.13×0.94	41	外傾	平坦	自然		BⅡb1	加曾利EⅣ	縄文土器, 磨石	
590	C19h6	N-46°-E	楕円形	1.39×1.16	41	垂直	平坦	自然	1	BⅢb1	加曾利EⅣ	縄文土器	
591	C19h6	N-2°-E	楕円形	1.12×1.02	43	外傾	平坦	自然		BⅡb1	後期前葉	縄文土器	
592	C19i4	N-40°-W	円形	1.84×1.71	46	垂直	平坦	自然		AⅢb1	中期	縄文土器	本跡→SI-159
593	C19h3	N-52°-E	[楕円形]	1.72×[1.53]	48	垂直	平坦	自然		BⅢb1	中期	縄文土器, 土製円板	SK-664→本跡→SI-157
594	C19j4	N-0°	円形	1.73×1.72	21	外傾	平坦	自然		AⅡb1			SK-617→本跡
595	C19j4	N-80°-W	楕円形	1.29×1.15	24	緩斜	凸凹	自然	1	BⅠb1			
596	C19j6	N-40°-W	円形	1.48×1.41	77	外傾	平坦	自然		AⅡb2	加曾利EⅣ	縄文土器	
597	C19c3	N-90°	楕円形	2.49×1.77	84	外傾	平坦	自然		BⅡc2	堀之内1	縄文土器, 砥石	
598	C19g5	N-0°	円形	1.41×1.37	59	外傾	平坦	自然		AⅡb2	中期	縄文土器	
599	C19h5	N-29°-W	円形	0.81×0.75	53	外傾	平坦	自然		AⅡa2			
600	C19i7	N-17°-W	楕円形	1.79×1.57	66	内傾	平坦	自然		BⅣb2	中期	縄文土器, 柱状石製品	本跡→SK-601, 袋状, 底径1.95×1.73
601	C19i7	N-48°-W	楕円形	[1.82]×1.01	14	緩斜	凸凹	自然		BⅠb1		磨製石斧	SK-600→本跡
602	C19h7	N-5°-W	楕円形	1.43×1.12	67	垂直	平坦	自然		BⅢb2	加曾利EⅢ～Ⅳ	縄文土器	
604	C19i6	N-45°-W	円形	1.56×1.47	55	外傾	平坦	自然		AⅡb2	加曾利EⅣ	縄文土器	
606	C19f7	N-46°-W	楕円形	2.14×1.81	72	緩斜	平坦	自然		BⅠc2	加曾利EⅣ～称名寺	縄文土器	
607	C19h2	N-57°-W	隅丸方形	1.20×1.09	76	外傾	平坦	自然		CⅡb2		縄文土器	SX-4→本跡→SI-160
608	D19c3	N-10°-W	楕円形	1.25×1.12	34	緩斜	凸凹	自然		BⅠc1		縄文土器	
609	C19h6	N-5°-W	円形	0.85×0.83	54	垂直	凸凹	自然	1	AⅢa2		縄文土器	
610	C19j7	N-14°-W	円形	1.07×1.04	42	緩斜	平坦	自然		AⅠb1	中期	縄文土器	
611	C19j7	N-27°-W	円形	1.62×1.59	71	外傾	平坦	自然		AⅡb2	加曾利EⅠ	縄文土器	
612	C19i8	N-65°-W	楕円形	[2.50]×1.86	79	緩斜	凸凹	自然		BⅠc2	加曾利EⅣ	縄文土器	SK-619不明
613	D19a3	N-43°-W	円形	1.29×1.18	25	外傾	平坦	自然		AⅡb1	中期	縄文土器, 獣骨	
614	D19a4	N-3°-E	円形	2.14×2.02	81	内傾	平坦	自然		AⅣc2	中期	縄文土器	本跡→SK-615, 袋状, 底径2.32×2.28
615	D19a4	N-40°-W	[楕円形]	1.78×(0.90)	22	緩斜	平坦			BⅠb1			SK-615→本跡
616	C19e5	N-73°-W	楕円形	1.56×1.37	85	外傾	平坦	自然		BⅡb2	加曾利EⅢ	縄文土器	
617	C19i8	N-58°-W	楕円形	1.33×1.07	87	垂直	凸凹	自然		BⅢb2	加曾利EⅠ～Ⅲ	縄文土器	本跡→SK-594
618	C19j6	N-40°-W	円形	1.98×1.93	69	垂直	平坦	自然		AⅢb2	中期	縄文土器	
619	C19j8	N-57°-W	[楕円形]	1.33×[1.07]	114	外傾	平坦	人為		BⅡb3	加曾利EⅣ	縄文土器	SK-612不明
620	C19i8	N-60°-W	円形	0.77×0.73	63	垂直	平坦	自然		AⅢa2	中期	縄文土器	SK-706不明
621	D19b3	N-9°-E	[楕円形]	[3.42×2.72]	72	外傾	平坦	自然	1	BⅡc2	加曾利EⅠ	縄文土器, 凹石	SI-162, SK-622→本跡
622	D19b3	N-42°-W	[楕円形]	[1.50×1.35]	50	外傾	平坦	自然		BⅡb2	堀之内1	縄文土器	本跡→SI-162, SK-621
623	D19a1	N-15°-W	楕円形	1.98×[1.49]	60	外傾	平坦	自然		BⅡb2			SK-564不明
624	C19e5	N-25°-E	楕円形	3.04×2.20	73	垂直	平坦	自然		BⅢc2	加曾利EⅣ	縄文土器	本跡→SK-625, SK-709不明
625	C19e5	N-0°	[楕円形]	1.38×[1.13]	94	垂直	平坦	自然		BⅢb2		縄文土器	SK-624→本跡
626	D19a2				5	垂直	平坦	自然		Ⅲ1		縄文土器	本跡→SI-162
627	D19b3	N-65°-E	[楕円形]	1.83×1.56	18	外傾	平坦	自然		BⅡb1		縄文土器	SK-628→本跡
628	D19b3	N-15°-E	楕円形	1.46×1.26	60	垂直	平坦	自然		BⅢb2		縄文土器	本跡→SK-627
629	D19c6	N-75°-W	円形	2.38×2.19	70	内傾	平坦	自然		AⅣc2	中峙	縄文土器	本跡→SK-630, SK-651・652 不明, 袋状, 底径2.69×2.32
630	D19c6	N-75°-W	[楕円形]	1.63×[1.20]	20	緩斜	平坦	自然	1	BⅠb1			SK-630→本跡
631	D19a8	N-63°-W	円形	1.83×1.77	35	外傾	皿状	自然		AⅡb1		縄文土器	SD-24→本跡
632	D19a8	N-8°-E	楕円形	1.01×0.89	75	垂直	皿状	人為		BⅢb2			本跡→SI-165
633	C19i9	N-90°	円形	1.38×1.27	75	外傾	平坦	人為		AⅡb2		縄文土器	
634	C19i8	N-35°-E	不定形	1.37×1.23	66	外傾	皿状	自然		DⅡb2	中期	縄文土器	SK-635→本跡
635	C19j8	N-20°-E	不定形	2.32×[1.50]	34	外傾	平坦	自然	2	DⅡc2	加曾利E	縄文土器	本跡→SK-634
636	D19a6	N-85°-W	楕円形	1.97×1.33	93	内傾	平坦	自然		BⅣb2	中峙	縄文土器	袋状, 底径2.03×2.01
637	C19h2	N-33°-E	楕円形	1.12×0.81	32	外傾	平坦	自然		BⅡb1			SX-4→本跡, SI-160不明
638	C19g1	N-12°-W	楕円形	0.85×0.60	58	垂直	皿状	自然		BⅢa2			SX-4→本跡
640	C19e9	N-68°-E	楕円形	1.30×1.06	28	緩斜	皿状	自然		BⅠb1			
641	C18j0	N-0°	円形	0.77×0.70	39	垂直	平坦	自然		AⅢa1			本跡→SI-163・164

土坑 番号	位置	長径(軸) 方向	平面形	長径×短径 (m)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	P	分類	時期	出土遺物	備考 ※重複関係(新→旧)
642	C18j9	N-58°-W	不定形	(2.15×0.95)	83	内傾	平坦	自然		BIVc2		磨石	SI-164→本跡
643	B16i7	N-21°-W	楕円形	1.73×1.53	93	垂直	平坦	自然		BIIIb2	加曾利E I	縄文土器	本跡→SI-155
644	B16j7	N-21°-W	円形	0.66×0.60	71	垂直	皿状	自然		AIIIa2	中期	縄文土器	
645	C19e9	N-0°	円形	1.80×1.79	59	外傾	平坦	自然		AIIb2	中期	縄文土器	
646	C20e1	N-17°-W	楕円形	1.08×(1.05)	15	外傾	平坦	自然		BIIb1	中期	縄文土器	本跡→SK-647
647	C20e1	N-24°-W	楕円形	1.24×(1.10)	41	外傾	平坦	自然		BIIb1	中期	縄文土器	SK-646→本跡
648	C19f0	N-5°-E	円形	1.20×1.06	52	外傾	平坦	人為		AIIb2	中期	縄文土器	
649	C19j8	N-24°-W	円形	0.88×0.84	57	垂直	皿状	人為		AIIIa2	中期	縄文土器	本跡→SI-167
650	C19f8	N-2°-E	楕円形	1.83×1.69	82	垂直	平坦	自然		BIIIb2	加曾利E IV	縄文土器	
651	D19c6	N-52°-W	(楕円形)	1.67×[1.30]	30	外傾	平坦	自然	1	BIIb1	中期	縄文土器	SK-652→本跡, SK-629不明
652	D19c6	N-90°	(楕円形)	1.48×[0.74]	20	外傾	平坦	自然	1	BIIb1		縄文土器	本跡→SK-651, SK-629不明
655	D19c7	N-0°	円形	1.01×1.00	70	外傾	平坦	自然		AIIb2	加曾利E	縄文土器	SK-654→本跡
659	D19b8		不定形	(0.80×0.78)	51	緩斜	皿状	自然		DIa2			本跡→SK-657
660	C19j1	N-16°-E	楕円形	0.51×0.38	46	垂直	皿状	自然		BIIIa1			
661	C19g0	N-56°-W	楕円形	2.15×1.64	28	外傾	平坦	自然	1	BIIc1			
662	C19h5	N-29°-E	円形	1.10×1.01	73	外傾	平坦	自然		AIIb2	堀之内	縄文土器, 貝	SI-156, SK-711→本跡
663	C19h4	N-21°-E	円形	1.41×1.41	54	外傾	平坦	自然		AIIb2	加曾利E III	縄文土器, 浮子	本跡→SI-159
664	C19h4	N-45°-E	(楕円形)	(2.03×1.50)	42	垂直	平坦	自然		BIIIc1	加曾利E III	縄文土器, 石皿	本跡→SI-157・159, SK-593
665	C19i4	N-65°-E	円形	1.24×1.22	58	外傾	平坦	人為		AIIb2	加曾利E	縄文土器	
667	D19d7	N-78°-E	楕円形	1.28×0.88	20	緩斜	皿状	自然		BIb1			
668	D19c7	N-86°-E	楕円形	1.75×1.40	84	内傾	平坦	人為		BIVb2	中峙~加曾利E I	縄文土器	袋状, 底径2.05×1.60
670	C19e9	N-14°-E	楕円形	1.92×1.38	55	外傾	皿状	自然		BIIb2	加曾利E III	縄文土器	本跡→SK-971
671	C19e9	N-23°-E	楕円形	1.16×0.94	30	外傾	平坦	自然		BIIb1	加曾利E III	縄文土器	SK-670→本跡
672	C19c8	N-19°-W	楕円形	2.15×1.78	52	外傾	平坦	自然		BIIc2	加曾利E II~III	縄文土器	
673	C19c8	N-0°	(楕円形)	(2.25)×1.73	13	外傾	平坦	自然		BIIc1	加曾利E III~IV	縄文土器, 土製円板	
674	C19d7	N-90°	円形	2.69×2.64	44	垂直	平坦	自然		AIIIc1	加曾利E IV	縄文土器	
676	D19c6	N-52°-W	円形	0.94×1.82	79	垂直	平坦	自然		AIIIa2		縄文土器	SK-676→本跡
677	D19c6	N-82°-W	円形	0.98×0.85	95	垂直	平坦	自然	1	AIIIa2			本跡→SK-676
678	D19c6	N-85°-W	(楕円形)	1.91×[1.40]	24	外傾	平坦	自然	1	BIIb1	加曾利E III	縄文土器	SK-679→本跡
679	D19c5	N-0°	円形	0.83×0.77	83	内傾	平坦	自然		AIVa2			本跡→SK-678
680	D19d4	N-90°	楕円形	1.14×0.89	90	垂直	平坦	自然		BIIIb2	加曾利E IV	縄文土器	
681	D19b2	N-53°-E	楕円形	0.96×0.80	94	垂直	平坦	自然		BIIIa2			本跡→SI-162
682	C19e0	N-60°-W	円形	2.04×1.88	64	垂直	平坦	自然		AIIIc2			SK-683→本跡
683	C19e0	N-58°-W	円形	2.61×2.56	90	外傾	平坦	人為		AIIc2	加曾利E II~IV	縄文土器	本跡→SK-682
684	C20f1	N-8°-W	楕円形	1.50×1.16	33	外傾	平坦	自然		BIIb1		縄文土器	
686	D19a7			(0.55×0.27)	20	緩斜	皿状			I 1			SK-705→本跡→SI-165
687	D19b8	N-39°-W	不定形	(0.98)×0.79	72	垂直	平坦	自然		DIIIa2			本跡→SI-165, SK-705不明
690	C19g5	N-5°-W	楕円形	1.18×0.82	65	外傾	平坦		1	BIIb2			
691	C19g0	N-54°-W	楕円形	1.74×1.48	47	外傾	平坦		1	BIIb1	後期	縄文土器	
692	C19f6	N-46°-E	楕円形	1.61×1.14	41	緩斜	平坦		1	BIb1			
693	C19e8	N-42°-E	楕円形	1.88×1.60	61	外傾	平坦	自然		BIIb2	加曾利E III~IV	縄文土器	SD-23→本跡
694	C20f1	N-21°-W	楕円形	1.08×0.97	18	外傾	平坦	自然		BIIb1			
695	D19a8	N-0°	円形	1.07×1.06	74	外傾	平坦	自然		AIIb2	加曾利E	縄文土器	本跡→SK-695
696	C19d7	N-49°-W	円形	0.87×0.83	52	外傾	平坦	自然		AIIa2		縄文土器	
697	D19c6	N-25°-W	楕円形	1.40×1.14	17	緩斜	平坦	自然	1	BIb1			
698	D19d6	N-39°-W	楕円形	1.15×0.96	22	垂直	平坦	自然	1	BIIIb1	中期	縄文土器	
699	D19a6	(N-31°-E)	(楕円形)	(1.09)×1.70	18	緩斜	平坦	自然	1	BIb1			SK-700・702→本跡
700	D19d6	N-78°-W	楕円形	(3.00×1.82)	19	外傾	平坦	自然	2	BIIc1	中期	縄文土器, 土製円板	本跡→SK-699
701	D19e6	N-7°-E	長楕円形	2.48×1.11	18	外傾	平坦	自然		BIIc1	堀之内	縄文土器	
702	D19d5	N-72°-E	楕円形	2.21×[1.80]	23	外傾	平坦	自然	2	BIIb1		縄文土器	本跡→SK-699・703
703	D19e5	(N-30°-E)	(楕円形)	1.38×[1.60]	21	緩斜	平坦	自然		BIb1			SK-702→本跡
704	D19b7	N-59°-E	楕円形	1.08×0.92	38	緩斜	皿状	自然		BIb1			SK-656→本跡

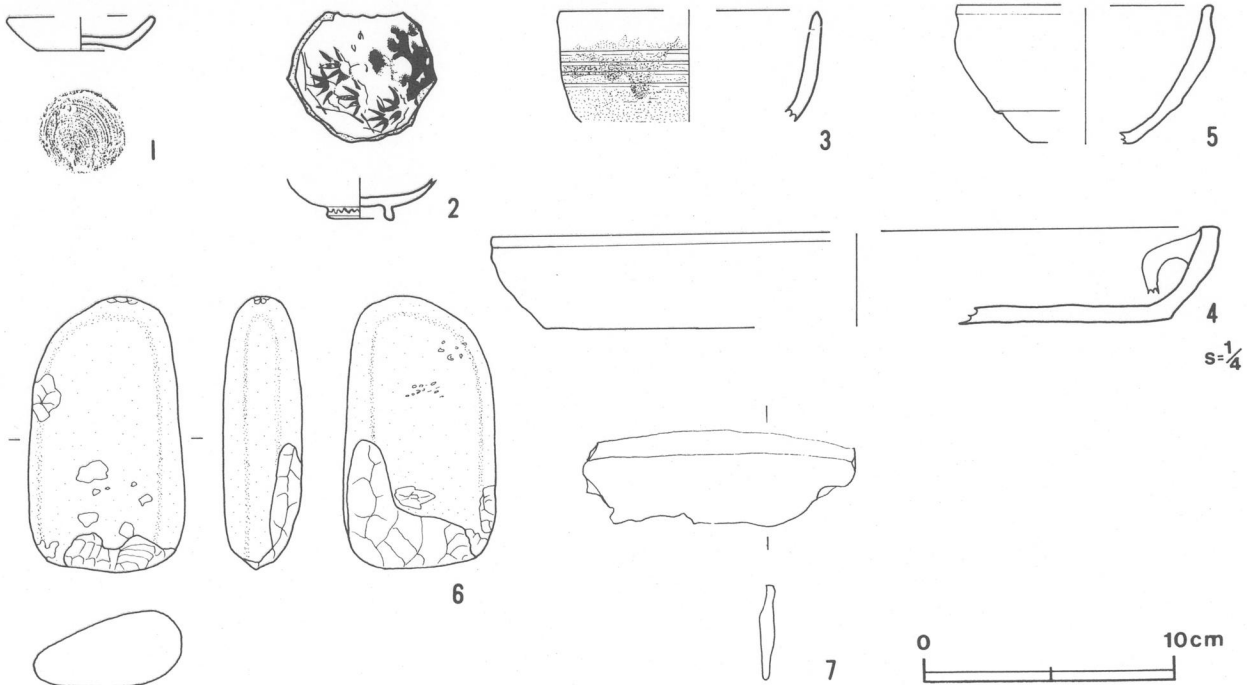
土坑 番号	位置	長径(軸) 方 向	平 面 形	長径×短径 (m)	深 さ (cm)	壁面	底面	覆土	P	分 類	時 期	出 土 遺 物	備 考 ※重複関係(新→旧)
705	D19b8		不 定 形	[0.87]×0.84	66	垂直	平坦	自然		DⅢa2			本跡→SI-165, SK-686
706	C19i8	N-72°-W	不 定 形	2.70×2.03	15	緩斜	平坦		1	D I c1			SK-620不明
707	C19j8	N-43°-E	楕 円 形	1.24×0.30	55	緩斜	皿状	人為		B I b2			本跡→SI-166・167
708	C19f8	N-24°-E	楕 円 形	1.00×0.75	40	緩斜	皿状	自然		B I b1		縄文土器	
709	C19e5	N-45°-W	楕 円 形	[1.88]×1.61	44	外傾	平坦			BⅡb1	中期後半～後期初頭	縄文土器	SK-624不明
710	C19h4	N-6°-E	楕 円 形	1.65×1.03	67	外傾	平坦	人為		BⅡb2			SI-156, SK-711→本跡
711	C19g5	N-5°-E	楕 円 形	1.51×1.34	82	外傾	平坦	自然		BⅡb2		縄文土器	SI-156→本跡→SK-662・710
712	D19b2	N-44°-E	楕 円 形	1.43×0.91	14	外傾	平坦	自然	1	BⅡb1	中期～後期前葉	縄文土器	

(4) 溝

C区では8条の溝を検出した。いずれも掘り込みは浅く、遺物も遺構に伴わない流れ込みが極少量出土しているだけで、時期や性格は不明である。これらの溝については一覧表に一括して掲載し、ここでは各溝の断面図と遺物の実測図及び観察表を載せ、配置や全体の形状については付図を参照されたい。



第491図 溝断面実測図



第492図 溝出土遺物実測・拓影図

溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第492図 1	小皿 土師質土器	A〔5.8〕 B 1.3 C 3.6	底部から口縁部にかけての破片。 上げ底で、体部は外傾して立ち上がる。	内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒 にぶい橙色 普通	P218 50% SD-19 覆土
2	皿 磁器	B〔1.6〕 D 2.6 E 0.5	底部片。染付の皿。高台はやや内傾し、体部は緩やかに内彎して立ち上がる。	ロクロ成形。削り出し高台。	胎土：灰白色 釉：透明 良好	P219 50% SD-20 覆土 (瀬戸・美濃系) 19c
3	碗 陶器	A〔10.4〕 B〔4.5〕	体部から口縁部にかけての破片。 腰張り形。体部は内彎した後直立して口縁部に至る。	ロクロ成形。体部内面及び外面上位灰釉、体部外面中位以下鉄釉施釉。	胎土：淡黄色 釉：(鉄釉)黒色 (灰釉)灰白色 良好	P220 20% SD-20 覆土 (瀬戸・美濃系) 19c

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第492図 4	ほうろく 土師質土器	A [38.0] B 4.9 C [32.8]	底部から口縁部にかけての破片。 平底で、体部は僅かに内彎して立ち上がる。	内・外面横ナデ。体部内面上位から下位に内耳貼り付け。	砂粒・雲母 におい褐色 普通	P221 20% SD-21 覆土 近世後半
5	天目碗 陶器	A [10.2] B (5.5) C [4.2]	底部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	ロクロ成形。体部内面及び外面中位まで鉄釉施釉。	胎土：淡黄色 釉：極暗赤褐色 良好	P222 20% SD-23 覆土 (瀬戸・美濃系) 19c

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第492図 6	打製石斧	10.9	6.1	3.1	311.8	砂岩	Q62 SD-19 覆土

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
第492図 7	鎌	(10.8)	3.9	0.7	(57.8)	20	SD-19 覆土	M2 欠損品

表 6 前田村遺跡C区溝一覧表

溝番号	位置	方向	形状	規模				壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 ※重複関係(新→旧)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	最深(cm)					
18	C17b8~B17g0	南々西→北々東	クランク状	25.4	0.7~1.3	0.5~1.1	11	外傾	平坦	自然	縄文土器, 陶器	本跡→SI-59, SK-506
19	C18e2~C18a4	南々西→北々東	直線状	19.4	1.0~1.3	0.3~0.5	15	外傾	壁面	自然	縄文土器, 土師質土器, 打製石斧	本跡→SI-79・142・143, SK-522・525・552
20	C18h8~C19c2	南々西→北々東	直線状	25.2	0.8~1.4	0.2~0.5	39	外傾	皿状	自然	縄文土器, 陶磁器	本跡→SI-114, SK-554・560・561・569・570・576
21	C19d7~C19b8	南々西→北々東	直線状	11.2	0.5~0.7	0.1~0.2	37	外傾	平坦	自然	縄文土器, 土師質土器	本跡→SK-673, SD-22・23不明
22	C19e6~C19d7	南西→北東	直線状	6.8	0.3~1.7	0.9~1.3	18	緩斜	平坦	自然	縄文土器	本跡→SK-624, SD-23と接続, SD-21不明
23	C19g0~C19d7	南東→北西	直線状	20.2	0.6~1.6	0.2~0.9	24	緩斜	平坦	自然	縄文土器, 陶器	SD-25→本跡→SK-693, SD-22と接続, SD-21不明
24	C19i8~C19i9	南々西→北々東	直線状	6.2	0.4~0.7	0.3~0.5	11	外傾	平坦	自然	縄文土器	SD-25→本跡→SK-631
25	C19i9~C20f1	東→西→北々東	鉤の手状	17.1	0.4~1.0	0.3~0.6	28	外傾	平坦	自然	縄文土器	本跡→SD-23・24, SK-694

(5) 遺構外出土遺物

C区からは、直接遺構に伴わない土器、土製品、石器、石製品、鉄器及び古銭が出土している。ここでは、それらについて実測図（第493～498図）及び観察表、一覧表で一括して報告する。

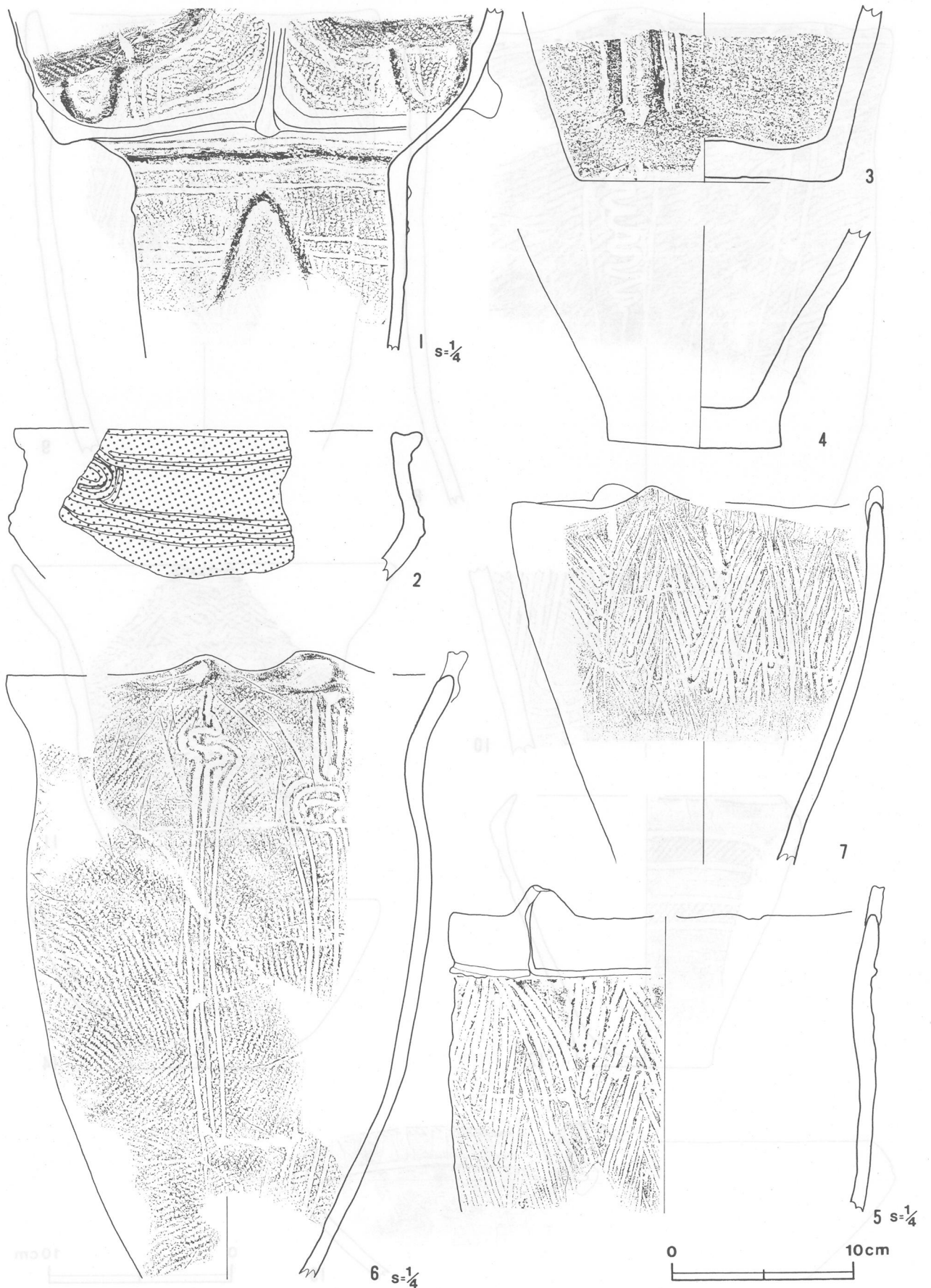
第499～501図1～29は縄文土器片の拓影図である。

1は前期の土器である。半截竹管による横位の沈線を挟んで、磨消部分と撚糸施文部分に分離され、胎土には繊維が含まれている。

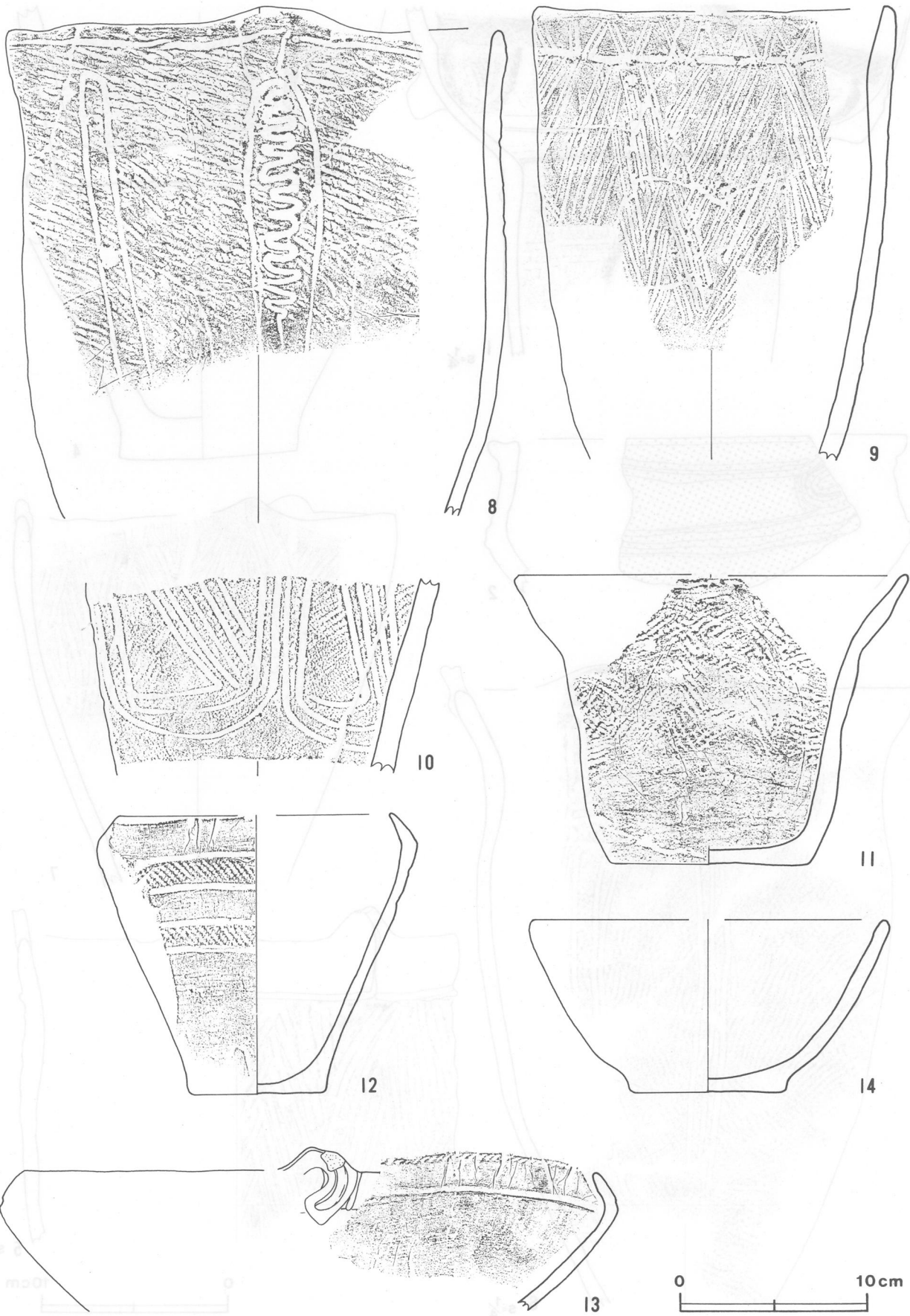
2～14は中期の土器群である。2，4は勝坂式の影響が見られる土器で，2は器形が円筒状，4は半截竹管による平行沈線や爪形文が施されている。3は阿玉台Ⅲ式の範疇と思われる土器で，爪形文や鋸歯状沈線が施されている。5は交互刺突文が見られる中峠式，6は口縁部文様体に縦位の沈線が充填される加曾利EⅠ式期に比定される土器である。7～10は加曾利EⅢ式期に比定される土器片で，7，8は口縁部に沈線を沿わせた隆起線による区画文が施され，内部には単節縄文が施文されている。9は胴部片で，磨り消しを沿わせた曲線的なモチーフに胴部地文の縄文が分断されている。10は地文の縄文が，曲線的な沈線区画の磨消帯に切られている。11～14は加曾利EⅣ式期に比定される土器片で，縄文を切る微隆起線区画の磨消帯が見られる。

15～28は後期の土器群である。15～24は堀之内式期前後と思われる土器である。15，16，18，21，22は波状口縁で，15は波頂部に突起が見られる。16，18，19，21は地文の縄文を切る沈線が描かれている。17，22は口縁部は無文で，胴部に縄文が施文されている。20は幾何学的文様が沈線で描かれ，縄文施文部と磨消部が交互に見られる。23は器面に浅い条線が描かれ，24は斜格子状の複列の沈線が施文されている。24は称名寺2式～堀之内1式にかけて，20は堀之内2式，他は堀之内1式の範疇と思われる。25は内傾する口縁部片で，口縁部直下に「い」字状文が見られ，器面は研磨されている。加曾利BⅠ式期に比定されると思われる。26は胴部にくびれを有する口縁部片で，口縁部以下胴部には縄文が施文され，口縁部下に刺突文，くびれ部に沈線区画の磨消帯が巡らされ，磨消帯下部にも刺突文が施されている。曾谷～安行Ⅰ式前後の土器と思われる。27，28は安行Ⅱ式に比定される土器で，27は口唇部外面に連続刻文を加えた粘土紐を貼り付けた粗製土器，28はブタ鼻状の貼瘤と隆起帯刻文が見られる精製土器である。

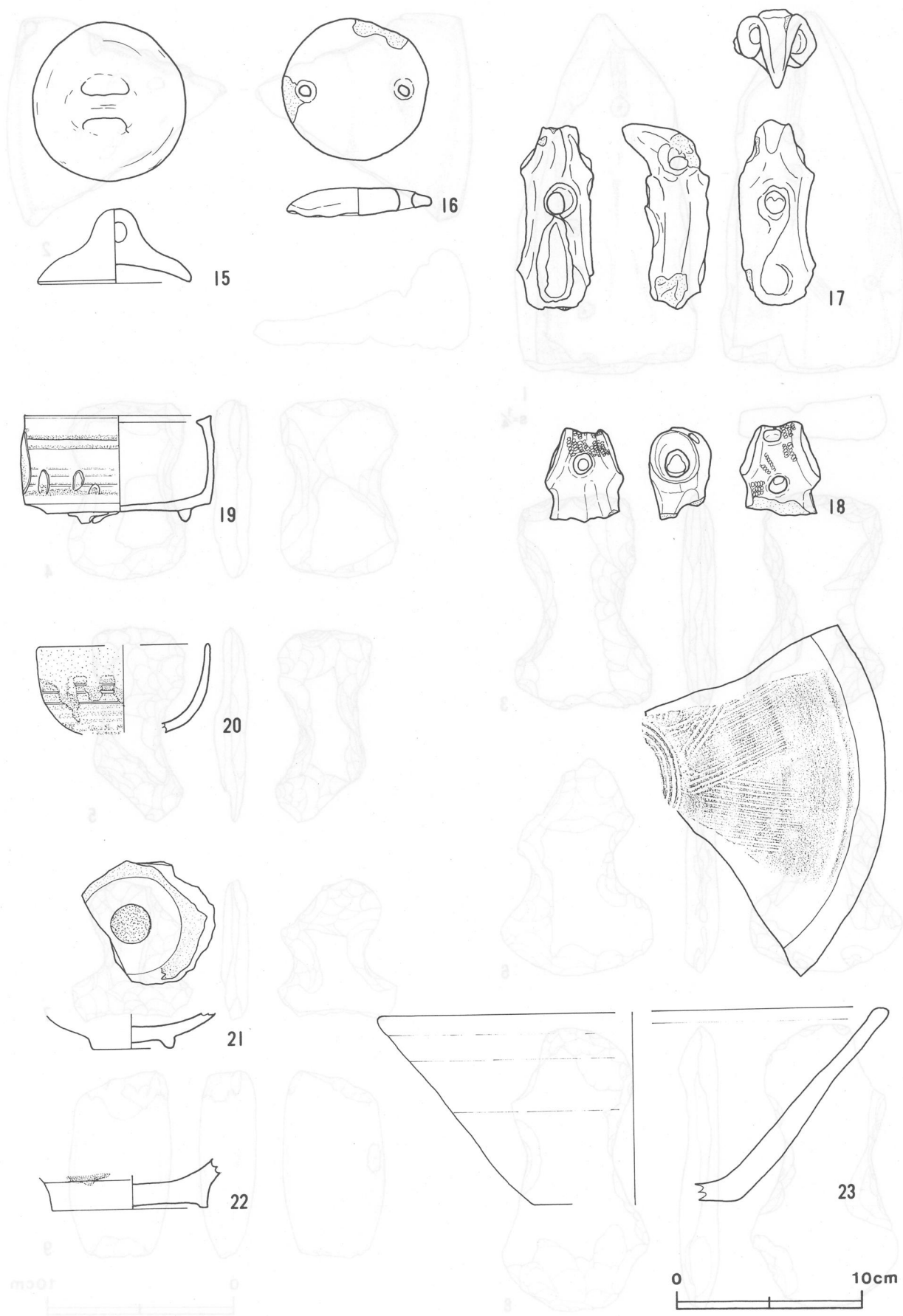
29は晩期安行Ⅲb式期前後の土器片である。波状口縁で，波頂部に刻みを加えた突起，波頂部直下にも突出する突起と刻みを加えた貼瘤が見られる。突起及び貼瘤からは隆起帯縄文が斜位に派生し，貼瘤下は「()」状の沈線が縄文を切断している。



第493図 遺構外出土遺物実測・拓影図(1)

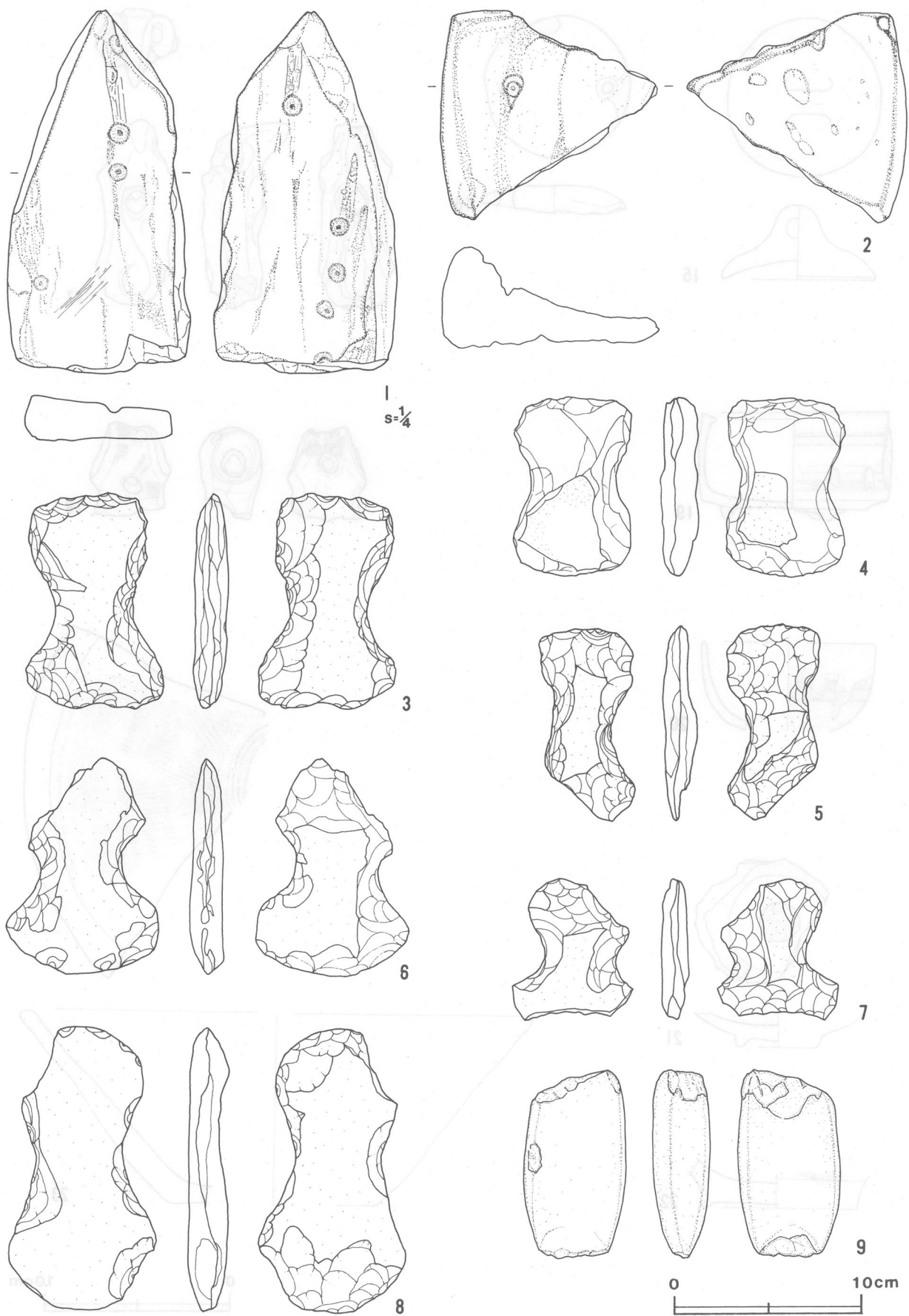


第494図 遺構外出土遺物実測・拓影図(2)



第495図 遺構外出土遺物実測・拓影図(3)

中國國家博物館出土文物攝影 圖803葉

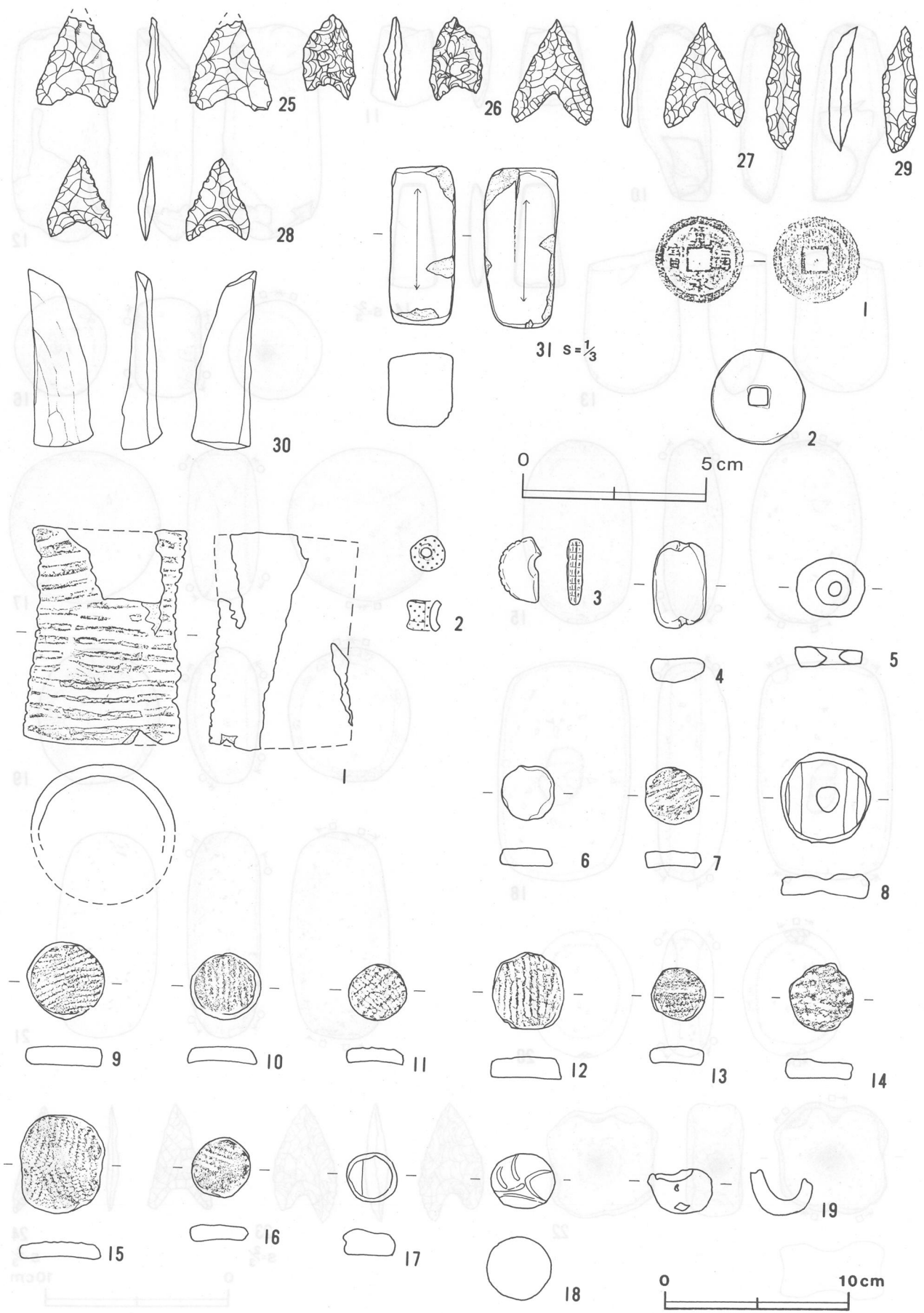


第496図 遺構外出土石製品実測図(4)

6 図遺構・断実録出土物集 図204系



第497図 遺構外出土石製品実測図(5)



第498図 遺構外出土遺物実測・拓影図(6)

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第493図 1	深鉢形土器 縄文土器	B (24.9)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は直立して立ち上がり、頸部で外傾した後内彎気味に口縁部に至る。4単位の波状口縁だが、頂部が欠損しているため形状は不明である。頸部の無文帯を挟んで口縁部文様帯と胴部文様帯に分離され、口縁部文様帯には隆帯に沿う沈線あるいは爪形文が2列構成で施されている。胴部文様帯は頸部下横位の隆帯以下に横位の沈線及び山形の隆帯が施されている。地文の単節縄文R Lが口唇部隆帯、口縁部文様帯及び胴部文様帯に施文されている。	砂粒・スコリア・ 長石 橙色 普通	P241 60% 表採 (阿玉台Ⅲ～Ⅳ)
2	浅鉢形土器 縄文土器	A (22.2) B (8.2)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎しながら外傾して立ち上がり、頸部で内傾した後直線的に口縁部に至る。口唇部は肥厚し、中央が僅かに凹む。口唇部下と頸部に沈線に沿わせた隆線が横走され、間に沈線に沿わせた隆線と曲線的な文様が施されている。下段の隆線及び上下の区画内の曲線を描く隆線は2本1組で、外面は赤彩されている。	砂粒・雲母・長石 浅黄橙色 普通	P231 5% 表採 (中峠～加曾利E I)
3	深鉢形土器 縄文土器	B (10.0) C 14.4	底部片。僅かに上げ底で、胴部は外傾して立ち上がる。地文は見られず、平行する隆線が縦位に施されている。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P229 10% 表採 (中期中葉)
4	深鉢形土器 縄文土器	B (12.3) C 9.5	底部から胴下部にかけての破片。突出気味の底部で、底部の縁周辺が削り込みでやや肉薄に作出されている。胴部は外傾して立ち上がる。胴下部外面無文で、縦位の削りで調整されている。	砂粒・長石 橙色 普通	P230 10% 表採 (中期後半)
5	深鉢形土器 縄文土器	A (31.3) B (23.6)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は直立して立ち上がり、口縁部に至る。口唇部上端に舌状の突起を3単位有し、頂部に楕円形の押捺が加えられている。口縁部は無文帯で、口縁部下の横走沈線と突起頂部から縦位に垂下する沈線が接続している。胴部には沈線で綾杉状の文様が施されている。	砂粒・スコリア にぶい褐色 普通	P224 30% 表採 (堀之内1)
6	深鉢形土器 縄文土器	A (32.0) B (45.1)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり、頸部でくびれた後外傾して口縁部に至る。口唇部に間隔を置いた双耳状の突起を有し、突起外面には横に細く流れる楕円形の押捺が施されている。胴部には単節縄文L Rが地文で施され、突起から胴部に垂下する複列の沈線が施されている。沈線は頸部で部分的に入り組み状に蛇行している。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P225 25% 表採 (堀之内1)
7	深鉢形土器 縄文土器	A (20.0) B (20.8)	胴下部以下欠損。胴部は僅かに内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口唇部上端に舌状突起を3単位有し、口縁部は狭い磨り消しの無文帯、胴部には沈線で綾杉状の文様が沈線で描かれている。	砂粒・長石・雲母・ スコリア にぶい褐色 普通	P226 60% 表採 (堀之内1)
第494図 8	深鉢形土器 縄文土器	A 26.6 B (26.0)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は僅かに内彎しながら立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。口縁部直下に横走沈線が施され、口唇部上端に3単位の舌状突起が付されていると思われる。突起下に上下の円形刺突文を結ぶ短い沈線が描かれ、下段の刺突文以下には胴部に垂下する幅の狭い「∩」状の沈線が施され、内部に細かい蛇行沈線が縦位に施文されている。突起間にも「∩」状の沈線が描かれているが、幅は更に狭く、内部の蛇行沈線も見られない。地文に無節Rが粗く施文されている。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P223 35% 表採 (堀之内1)
9	深鉢形土器 縄文土器	A (19.2) B (24.7)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は僅かに内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。口縁部下に横位の沈線が施され、鋸歯状に描かれた半截竹管による平行沈線の下部が口縁部下の沈線と接続し、口縁部に三角形の文様が連続されている。胴部地文の浅い縦位の条線が、鋸歯状施文による斜位の沈線に切られている。胴下部は無文である。	砂粒・長石 明褐色 普通	P227 40% 表採 (堀之内1)
10	深鉢形土器 縄文土器	B (10.2)	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。単節縄文L Rが地文で、2本1組の沈線で縦位の区画状の文様が描かれ、内部にも複列の沈線が斜位に描かれている。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P228 10% 表採 (堀之内1)
11	鉢形土器 縄文土器	A (21.0) B 15.6 C 10.6	底部から口縁部にかけての破片。底部はやや凹凸があり、胴部はやや外傾して立ち上がった後、外反して口縁部に至る。胴部下位まで無節Lの縄文が縦位羽状に施文されている。内面及び外面底部から6cmほどは横位の磨きが施されている。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P242 40% 表採 (堀之内1)
12	鉢形土器 縄文土器	A (14.6) B 14.9 C (7.1)	底部から口縁部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して立ち上がった後短く内屈して口縁部に至る。胴部上位に単節縄文R Lを横位回転で施文した沈線区画の縄文帯が2段施されている。内面及び外面無文帯は磨きが施されている。	砂粒 にぶい褐色 普通	P233 30% 表採 (加曾利B 2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第494図 13	浅鉢形土器 縄文土器	A〔30.7〕 B〔8.7〕	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がった後内傾して口縁部に至る。口縁部外面に突起を有し、逆「C」字状の文様が施されている。口唇部上端には斜めの刻みを連続的に施し、口縁部と胴部との境には浅い沈線が横走されている。沈線上の口縁部及び内面は丁寧に研磨され、沈線以下胴部は横方向の削りで整形されている。	砂粒 黒色 普通	P232 5% 表採 (加曾利B2~3)
14	鉢形土器 縄文土器	A〔18.6〕 B 9.2 C〔8.4〕	底部から口縁部にかけての破片。突出気味の平底で、胴部は僅かに内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。内・外面横方向の削りで整形されている。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P234 35% 表採 (後期前半か)
第495図 15	蓋 縄文土器	高さ4.0 径8.3	円形の蓋で、内面中央部分が凹んでいる。外面頂部に幅3.0cm、高さ2.0cmの環状のつまみを有する。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P235 100% 表採 (堀之内)
16	蓋 縄文土器	高さ1.6 径7.9	中央部に厚みをもち、径0.6cmほどの通孔を1対有する。	砂粒 橙色 普通	P236 100% 表採 (堀之内)
17	把手 縄文土器	長さ(10.0) 幅4.1 厚さ4.8	鳥の頭部を想起させる把手で、先端部が鋭く突出する。先端部側面に1対、やや下の表・裏面に1対の孔を有し、それらが連結して内部が中空となっている。表面には孔から派生する微隆起線が「S」字状を描き、裏面の孔の下は長楕円形に削り込まれている。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P237 5% 表採 (加曾利EIV前後)
18	把手 縄文土器	長さ(5.1) 幅4.2 厚さ3.4	口縁部把手片。側面にやや大形で1対、内・外面及び頂部にそれぞれ1個づつ小形の孔を有し、内部が中空に作出されている。	砂粒・長石 褐色 普通	P246 5% 表採 (中期後半)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第495図 19	香炉 陶器	A 10.0 B 5.9 D 7.8 E 0.8	一部欠損。半筒形。体部は僅かに内傾気味に立ち上がる。	ロクロ成形。体部下位に削り花模様。3足貼り付け。体部外面灰釉施釉、内面無釉。	胎土：灰オリーブ色 釉：オリーブ色 良好	P238 90% 表採 (瀬戸・美濃系) 18c
20	碗 陶器	A〔9.4〕 B〔4.7〕	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。	ロクロ成形。内面及び体部外面上半灰釉、下部鉄釉施釉。	胎土：浅黄色 釉：(灰釉)灰白色 (鉄釉)暗褐色 良好	P239 15% 表採 (瀬戸・美濃系) 18c
21	皿 陶器	B〔1.9〕 D 4.3 E 0.6	底部片。高台は直立し、体部は開いて立ち上がる。	ロクロ成形。削り出し高台。見込輪ハゲ。内面緑釉、外面灰釉施釉。	胎土：淡黄色 釉：(緑釉)グリーン (灰釉)浅黄色 良好	P243 10% 表採 (唐津系) 18c
22	皿か 陶器	B〔2.6〕 D 8.3 E 0.2	底部片。高台は直立する。	ロクロ成形。削り出し高台。見込目跡3。灰釉施釉。	胎土：にぶい黄橙色 釉：浅黄色 良好	P245 5% 表採 (瀬戸・美濃系) 18c
23	播鉢 陶器	A〔27.6〕 B 10.4 C〔11.2〕	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して直線的に立ち上がる。	ロクロ成形。内面に14条1単位の櫛目、見込櫛目環状。内・外面鉄釉施釉。	胎土：浅黄橙色 釉：暗褐色 普通	P240 30% 表採 (瀬戸・美濃系)

遺構外出土土製品観察表

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	器形及び文様の特徴	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
第498図1	腕輪状土製品	11.9	8.4	7.7	(135)	50	表面に沈線充填 口径は長径(7.6)cm、短径6.5cmの楕円形	DP45 表採
2	耳栓	1.9	2.1	1.7	4.4	100	内径1.0cm 内・外面赤彩	DP46 表採
3	球状耳飾り	3.6	(2.3)	0.9	(7.8)	45	中央部やや下に径0.9cmの孔 側面長方形区画を形成する縦横の沈線と区画内に刺突文	DP47 表採
4	土器片錘	4.8	2.9	1.4	23.3	100	無文	DP49 表採
5	有孔円板	3.3	3.6	1.1	13.2	100	孔径0.7cm	DP50 表採

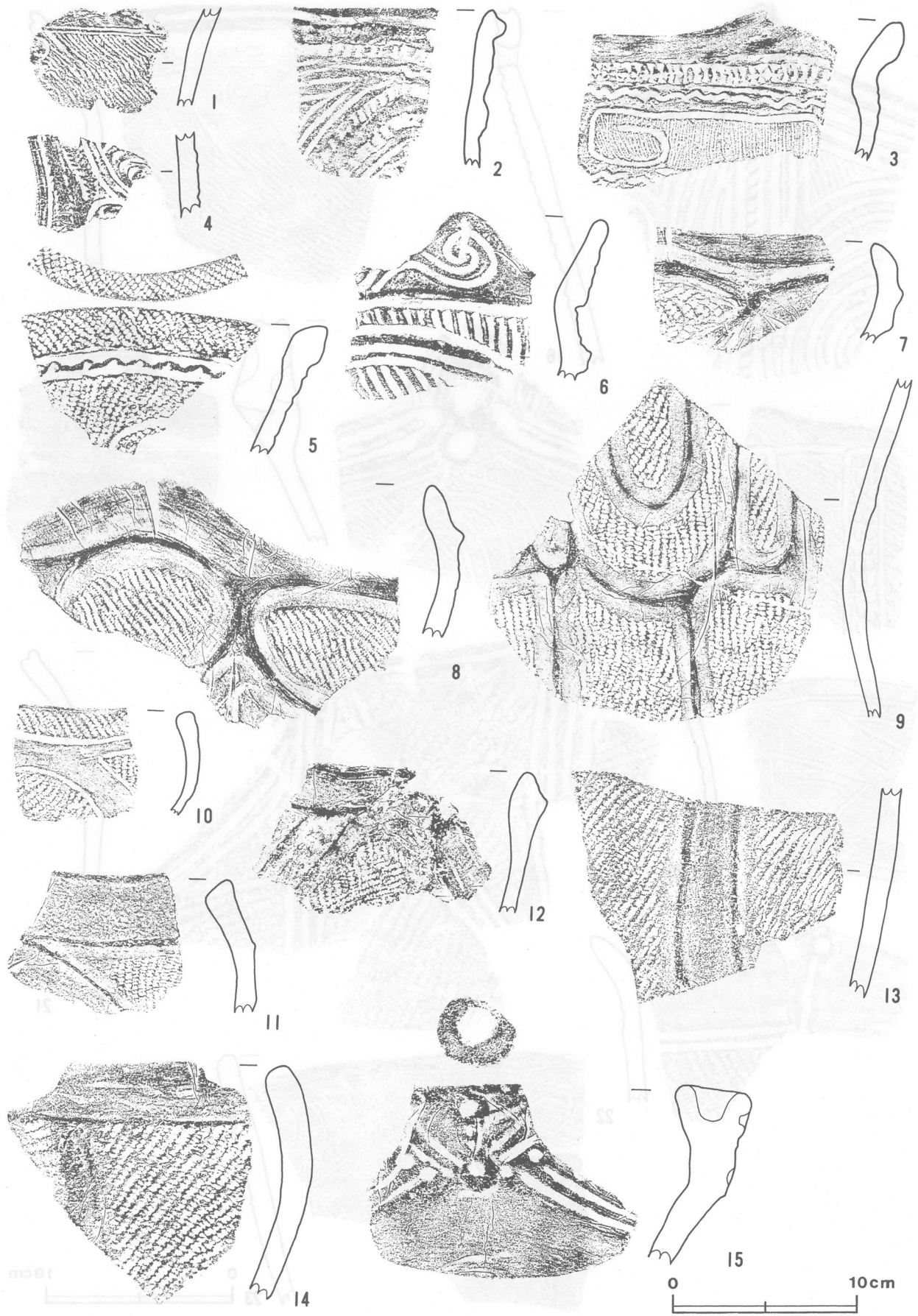
図版番号	器 種	計 測 値 (cm)			重 量 (g)	現存率 (%)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	備 考
		最大長	最大幅	最大厚				
6	土製円板	3.0	2.9	1.0	11.1	100	表面磨き	DP51 表採
7	土製円板	3.1	3.1	0.9	11.4	100	表面に無節縄文L	DP52 表採
8	土製円板	5.0	4.8	1.5	37.1	100	表面に偏平な沈線 表・裏面に未貫通孔	DP53 表採
9	土製円板	4.3	4.2	1.0	23.0	100	表面に単節縄文LR	DP54 表採
10	土製円板	3.6	3.8	0.9	15.7	100	表面に単節縄文 摩滅が著しい	DP55 表採
11	土製円板	3.0	3.6	0.9	8.9	100	表面に単節縄文RL	DP56 表採
12	土製円板	4.2	3.9	1.2	22.8	100	表面に無節縄文L	DP57 表採
13	土製円板	2.8	2.9	0.9	8.5	100	表面に浅い沈線を挟んで無文部と縄文施文部 摩滅が著しい	DP58 表採
14	土製円板	3.7	3.6	1.0	15.7	100	表面に縄文か 摩滅が著しい	DP59 表採
15	土製円板	5.3	4.6	1.0	31.7	100	表面に単節縄文LR	DP60 表採
16	土製円板	3.2	3.1	1.0	10.1	100	表面に単節縄文LR	DP61 表採
17	土製円板	2.7	2.7	1.5	9.9	100	表面に隆起線と磨き	DP62 表採
18	球状土製品	3.1	3.5	3.5	32.3	100	表面に沈線	DP63 表採
19	球状土製品	3.6	(2.5)	—	(15.6)	40	中空 欠損品	DP64 表採

遺構外出土石製品観察表

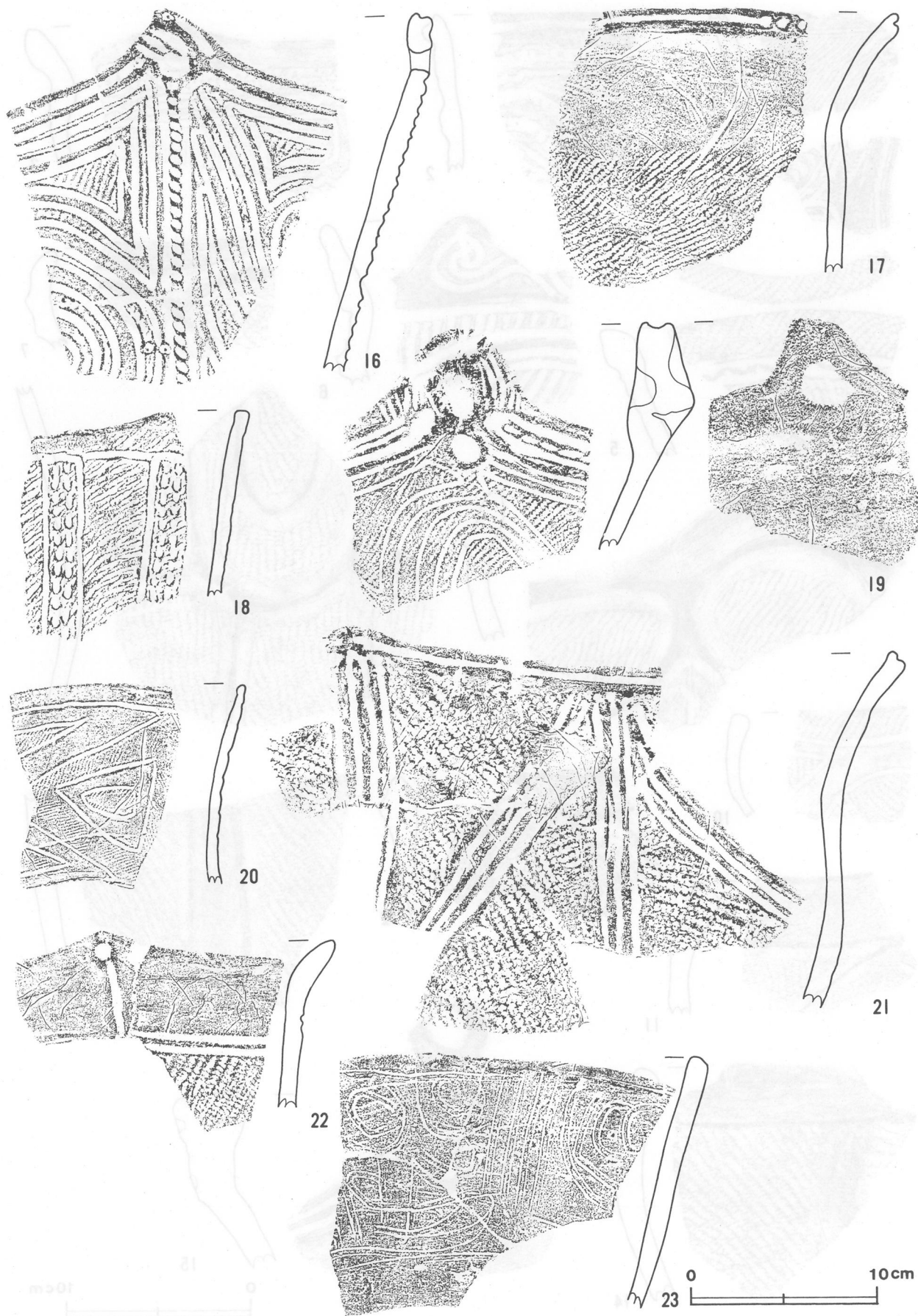
図版番号	器 種	計 測 値				石 質	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第496図 1	凹 石	(25.8)	(13.0)	3.2	(1583.1)	緑泥片岩	Q85 表・裏面に凹み 表採
2	石 皿	(11.3)	(11.7)	5.4	(397.9)	安山岩	Q87 表採
3	打製石斧	11.6	7.4	2.0	203.3	緑泥片岩	Q72 分銅型 表採
4	打製石斧	9.6	6.3	2.0	135.6	砂 岩	Q73 分銅型 表採
5	打製石斧	(10.4)	(5.1)	1.9	(82.3)	黒色片岩	Q74 分銅型 一部欠損 表採
6	打製石斧	(11.6)	(8.1)	1.9	(203.0)	安山岩	Q75 分銅型 一部欠損 表採
7	打製石斧	(7.5)	(6.3)	1.5	(72.4)	安山岩	Q76 分銅型 欠損品 表採
8	打製石斧	15.2	(7.9)	2.4	(274.6)	安山岩	Q77 分銅型 一部欠損 表採
9	磨製石斧	(10.0)	5.5	3.0	(255.2)	安山岩	Q78 定角式 欠損品 表採
第497図 10	磨製石斧	(9.7)	(4.1)	2.5	(159.1)	安山岩	Q80 定角式 刃部欠損 表採
11	磨製石斧	(4.5)	3.6	1.4	(35.2)	安山岩	Q81 定角式 基部欠損 表採
12	磨製石斧	(11.8)	5.5	3.0	(331.9)	緑泥片岩	Q82 乳棒状 欠損品 表採
13	磨製石斧	(7.8)	5.2	3.2	(204.1)	砂 岩	Q84 定角式 基部欠損 表採
14	磨製石斧	3.8	1.8	0.7	7.8	緑泥片岩	Q83 定角式 表採
15	磨 石	10.0	6.1	3.3	279.2	安山岩	Q79 敲石兼用 表採
16	磨 石	5.5	5.1	3.6	156.9	安山岩	Q88 敲石兼用 表・裏面に凹み 表採
17	磨 石	8.3	8.2	3.9	418.6	安山岩	Q89 敲石兼用 表採
18	磨 石	12.0	7.3	3.9	544.8	安山岩	Q90 敲石兼用 表・裏面に凹み 表採
19	磨 石	7.4	6.7	4.0	281.5	安山岩	Q91 敲石兼用 表採
20	磨 石	6.9	5.5	2.8	182.9	安山岩	Q92 敲石兼用 表採
21	磨 石	11.3	5.6	4.2	438.6	安山岩	Q93 敲石兼用 表採
22	敲 石	6.3	6.1	3.3	189.3	安山岩	Q86 表・裏面, 側面に凹み 表採
23	石 鏃	3.2	1.8	0.7	2.6	チャート	Q63 凹基無茎鏃 一部欠損 表採
24	石 鏃	2.9	1.7	0.6	1.1	チャート	Q64 凹基無茎鏃 表採
第498図 25	石 鏃	(2.5)	2.2	0.4	(2.3)	チャート	Q65 凹基無茎鏃 一部欠損 表採
26	石 鏃	2.5	1.5	0.5	1.1	チャート	Q66 凹基無茎鏃 一部欠損 表採
27	石 鏃	2.9	2.2	0.4	1.5	頁 岩	Q67 凹基無茎鏃 表採
28	石 鏃	2.3	1.7	0.5	1.1	チャート	Q68 凹基無茎鏃 表採
29	ドリル状石製品	3.5	0.9	0.7	1.8	チャート	Q71 側面に剝離痕 表採
30	縦長剝片	4.9	1.9	1.2	8.2	安山岩	Q70 表採
31	砥 石	8.7	3.5	4.0	221.2	凝 灰 岩	Q94 表採

遺構外出土古銭観察表

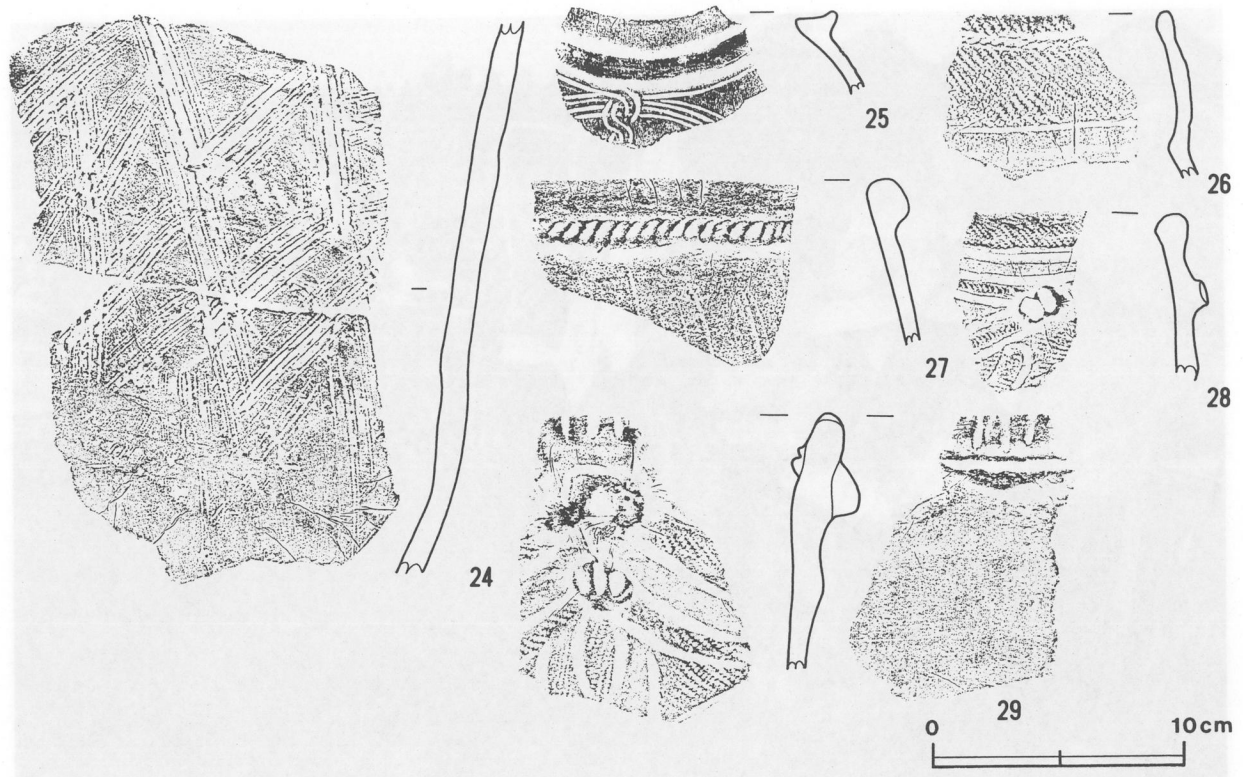
図版番号	器 種	計 測 値		初 鑄 年		出 土 地 点	備 考
		直径 (cm)	重量 (g)	時 代	年 号		
第498図 1	寛永通寶	2.5	2.2	江 戸	1668	表 採	M4
2	古 銭	2.7	4.1			表 採	M5 腐食が激しく、詳細不明



第499図 遺構外出土遺物実測・拓影図(7)



第500図 遺構外出土遺物実測・拓影図(8)



第501図 遺構外出土遺物実測・拓影図(9)

(表) 遺風集刊



(表) 遺風集刊



作業風景（洗浄）



作業風景（試掘）

3 E区の遺構と遺物

E区は、当遺跡の南部に位置し、E区の北側にG区、北東側にB区、西側にF区、北西側にD区がある。当遺跡の北と南に谷津が入り込んでおり、E区は南側の谷津に面して立地し、傾斜しながら谷津につながっている。

E区からは、竪穴住居跡4軒、地下式竈2基、井戸2基、土坑106基及び溝15条を検出した。

なお、E区の遺構番号はC区の調査終了後D区と並行して調査を進めているため、住居跡は第220号から、土坑は第901号から、溝は第26号からとなる。

(1) 竪穴住居跡

第220号住居跡（第502図）

位置 調査区の西部、H19i4区。

重複関係 本跡は、北側部分が第1023号土坑に、東側部分が第7号地下式竈に、南側部分が第1002号土坑に、南西側部分が第221号住居跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形 長径4.88m、短径[4.09]mの楕円形である。

長径方向 N-22°-E

壁 他の遺構と重複している部分の壁は掘り込まれているが、残存部は壁高10~20cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北側から西側及び南東側にかけての壁の内側を、不連続の溝がおよそ半周している。上幅14~35cm、下幅5~21cmで、底面は平坦あるいは皿状である。

床 平坦である。所々に硬化したロームブロックが残存している。

ピット 10か所。P₁は長径70cm、短径63cmの楕円形で、深さ50cm、P₅、P₆は重複しており、P₅は長径55cm、短径41cmの楕円形で、深さ71cm、P₆は長径55cm、短径41cmの楕円形で、深さ67cm、P₁₀は長径74cm、短径66cmの楕円形で、深さ75cm。P₁、P₁₀及びP₅とP₆のいずれかが規模及び配列から主柱穴と思われる。位置的に見ると、他の主柱穴が第7号地下式竈に掘り込まれている可能性がある。P₂（長径40cm、短径35cmの楕円形で、深さ47cm）、P₃（長径31cm、短径27cmの楕円形で、深さ20cm）及びP₉（長径53cm、短径45cmの楕円形で、深さ41cm）は補助柱穴と思われる。他は性格不明である。

炉 中央部やや北東寄りに付設されている。長径89cm、短径79cmの楕円形で、床を14cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱で赤く焼け、硬化している。

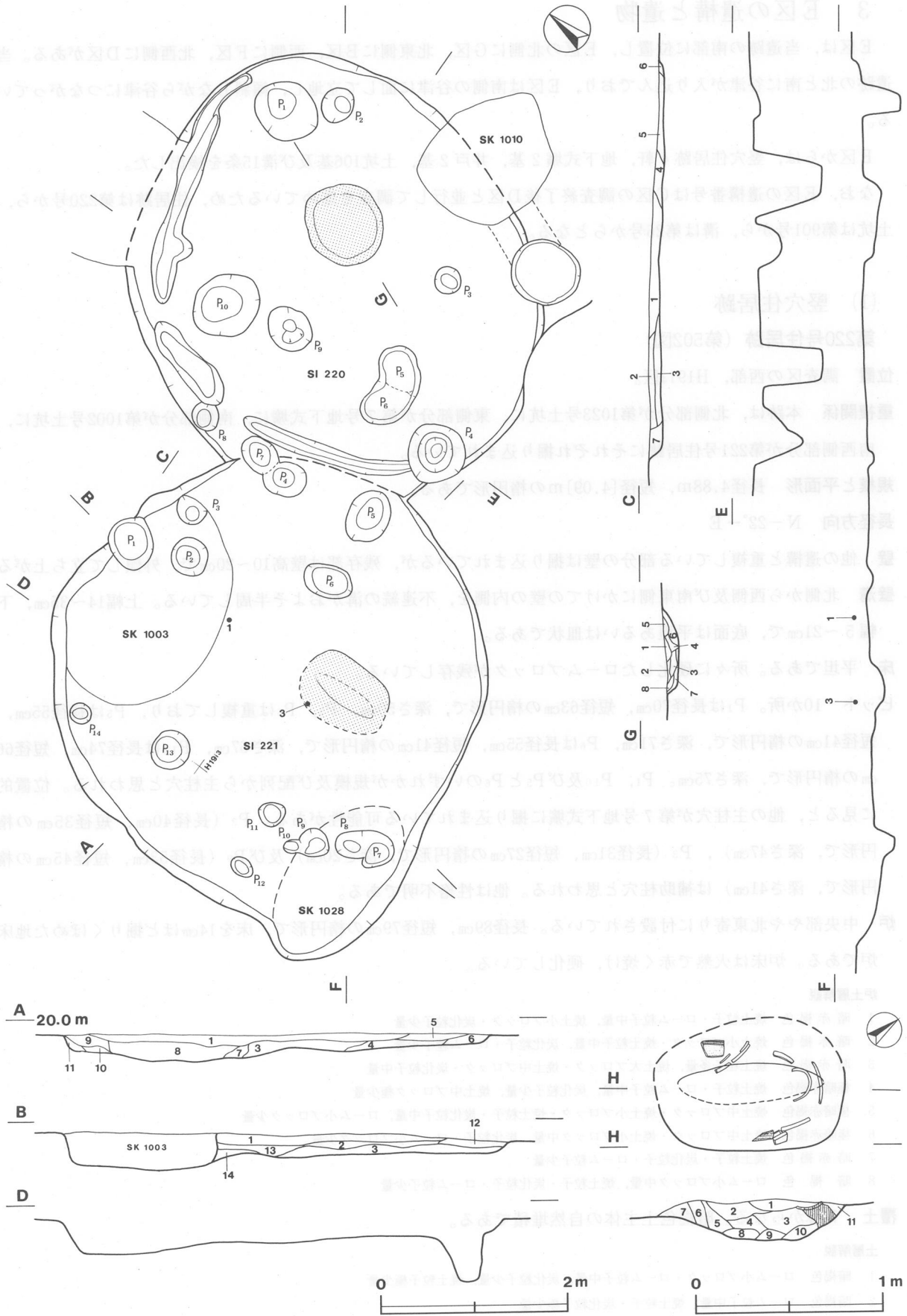
炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子中量
- 4 極暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土中ブロック極少量
- 5 極暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量、ローム小ブロック少量
- 6 極暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量

覆土 7層からなる。暗褐色土主体の自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子極少量
- 4 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子極少量



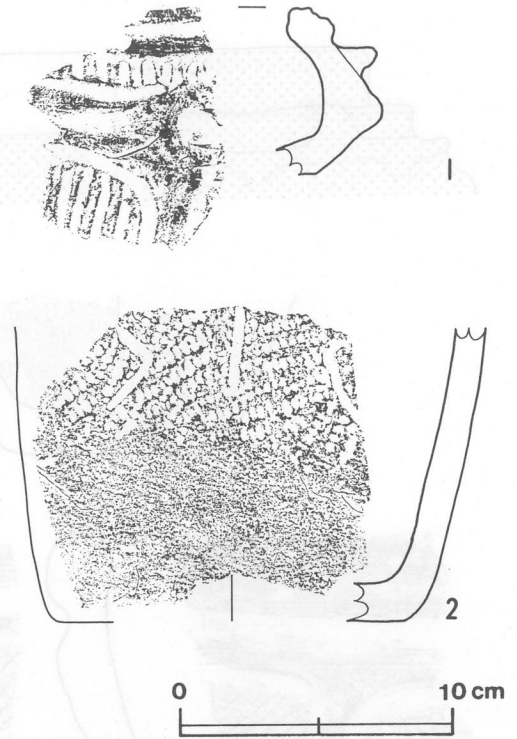
第502図 第220・221号住居跡実測図

- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 6 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 7 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量

遺物 覆土中から縄文土器片が出土しているが、いずれも細片である。

第503図1は縄文土器片の拓影図である。1は口縁部片で、隆帯による区画内に縦位の沈線が充填されている。2は底部片で、胴部地文の単節縄文RLが沈線で切断され、底部から12cmほどは文様が施されていない。中期加曽利E I式前後の時期と思われる。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期加曽利E I式期前後と思われる。



第503図 第220号住居跡出土遺物実測・拓影図

第221号住居跡 (第502図)

位置 調査区の西部, H19j3区。

重複関係 本跡は、北側部分が第1003号土坑に、南東側部分が第1028号土坑に掘り込まれている。北東側部分で第220号住居跡と重複しているが、本跡の方が新しい。

規模と平面形 長径[4.79]m, 短径4.61mの不整形である。

壁 北東壁と南西壁は残存していないが、他は壁高15cmほどで、緩やかに外傾して立ち上がる。

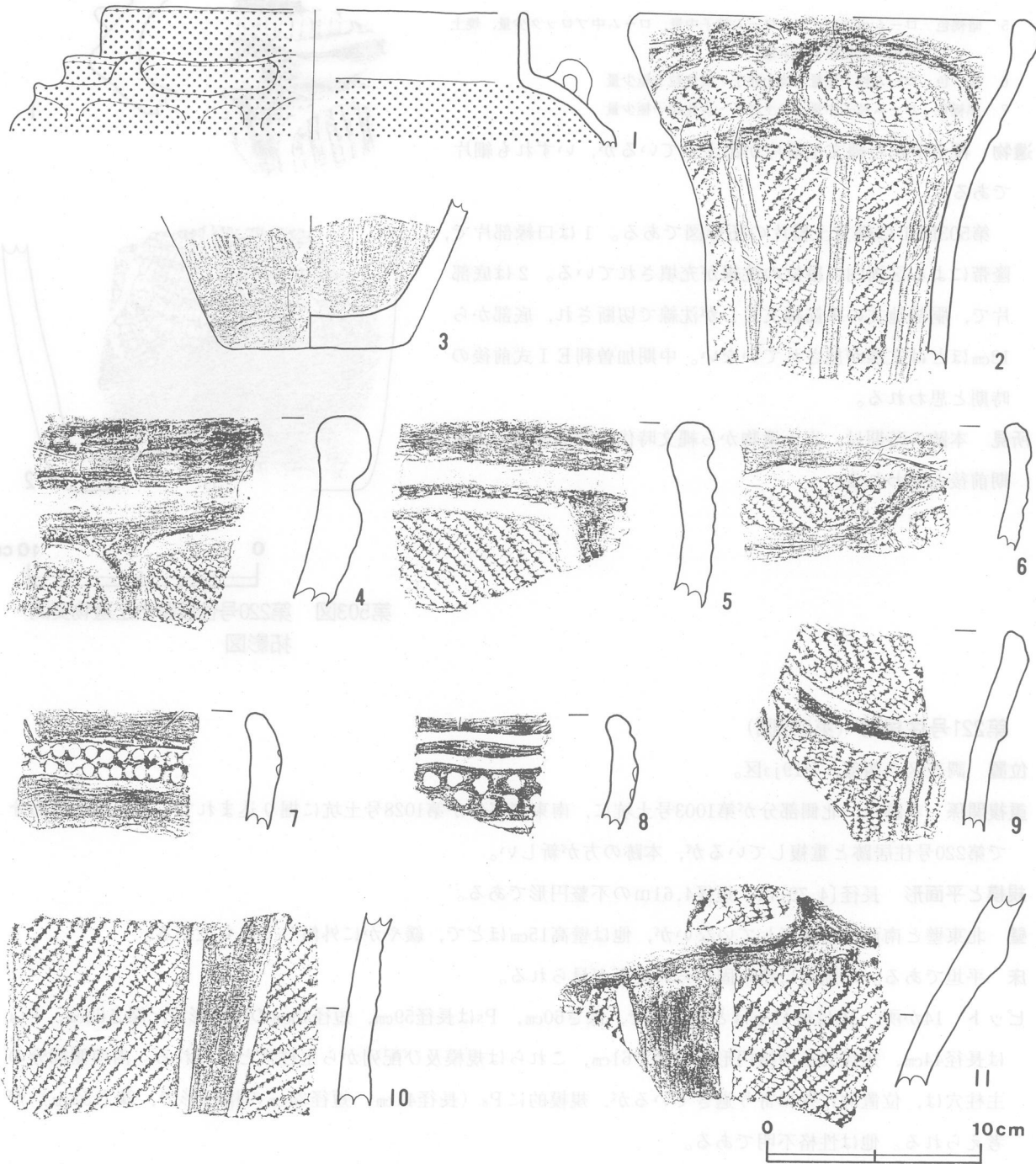
床 平坦である。炉周辺に踏み固められた面が見られる。

ピット 14か所。P₂は径41cmほどの円形で、深さ60cm, P₅は長径59cm, 短径45cmの楕円形で、深さ65cm, P₁₄は長径44cm, 短径38cmの楕円形で、深さ61cm, これらは規模及び配列から主柱穴と思われる。南西側部分の主柱穴は、位置的に壁に寄り過ぎているが、規模的にP₈(長径41cm, 短径34cmの楕円形で、深さ52cm)が考えられる。他は性格不明である。

炉 南東側に付設されている。長軸100cm, 短軸70cmの隅丸長方形で、北側に深鉢形土器を埋設し、埋設土器を囲むように東側, 北側及び西側を土器片で囲んだ土器片囲い土器埋設炉で、床は21cmほど掘りくぼめてある。炉床は火熱で赤く焼け、硬化している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 3 赤褐色 焼土粒子中量, 焼土中ブロック・焼土小ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 4 赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 6 暗赤褐色 焼土中ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 10 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 11 暗赤褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量



第504図 第221号住居跡出土遺物実測・拓影図

覆土 14層からなる。ロームブロックを含み、人為的に埋め戻されていると思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 4 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極少量
- 5 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子極少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子極少量
- 8 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 9 褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子極少量
- 10 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 11 にぶい褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子極少量

- 12 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
 13 にぶい褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子極少量
 14 明褐色 ローム中ブロック中量, 炭化粒子極少量

遺物 炉内及び覆土中から遺物が出土している。1の有孔鐏付土器は中央部やや北側の覆土下層から横位の状態で出土している。2の深鉢形土器は炉体土器で、炉北部に口縁部を上にして埋設され、さらに炉の北側から10の胴部片が、東側から7の口縁部片と11の胴部片が、西側から4, 5の口縁部片がそれぞれ炉体土器を囲むように出土している。また、3の深鉢形土器の底部は炉の西部から、6, 8, 9の破片も炉から出土している。

第221号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第504図 1	有孔鐏付土器 縄文土器	A(19.6) B(6.2)	口縁部片。胴上部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部下に突帯状の隆起線を2本横位に施し、要所で環状に上下の隆起線が接続されている。隆起線下には削り込みによる円形あるいは楕円形と思われる文様が見られるが、欠損しているため詳細不明である。内・外面赤彩されている。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	P1 5% 中央部北側覆土下層 (加曾利EⅢ)
2	深鉢形土器 縄文土器	A(18.5) B(17.5)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部はやや外傾して立ち上がり、頸部で外反した後内彎気味に口縁部に至る。文様帯は口縁部と胴部に分離され、口縁部文様帯は沈線による楕円形区画文が描かれ、胴部文様帯は直線的に垂下する沈線区画の磨消帯が施されている。地文に単節縄文RLが口縁部は斜め回転で、胴部は縦位回転で施文されている。	砂粒・長石 橙色 普通	P2 60% 炉内 (加曾利EⅢ)
3	深鉢形土器 縄文土器	B(7.0) C 8.9	底部片。平底で、胴部は外傾して立ち上がる。外面に縦位の条線状の集合沈線が部分的に見られる。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P3 10% 炉内 (中期)

第504図4～11は縄文土器片の拓影図で、4～9は口縁部片、10, 11は胴部片である。4～6は口縁部楕円区画文内に単節縄文が施文されている。区画文は沈線あるいは沈線を沿わせた隆線で構成されている。7, 8は口縁部直下に2列の円形刺突文が巡らされている。9は単節縄文RLを口縁部から2cmほどは横位回転で、それ以下の胴部には縦位回転で施文し、口縁部は磨り消しを沿わせた隆起線で区画文を施し、胴部は直線的に垂下する沈線区画の磨消帯が施されている。10は胴部片で、縦位回転の単節縄文RLが直線的な沈線区画の磨消帯に切られている。11は胴上部の破片で、口縁部文様帯の区画文以下に沈線区画の磨消帯が接続し、区画内及び磨消帯間には地文の単節縄文RLが見られる。これらは、中期加曾利EⅢ式に比定される土器である。

所見 本跡の時期は、炉体土器及び出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅢ式期である。

第222号住居跡(第505図)

位置 調査区の西部, I19c2区。

規模と平面形 南西側部分が調査区域外に延びているため全体の形は不明だが、北西から南西にかけての径が4.67m, 北東から南西にかけて現存する径が(3.32)mの半円形である。

壁 壁高9～26cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 やや起伏があり、ロームブロックで凸凹である。

ピット 4か所。P₁は北壁際に位置し、長径103cm, 短径61cmの楕円形で、深さ30cm, P₂は北西壁を掘り込んでおり、長径138cm, 短径77cmの楕円形で、深さ36cm。これら2本は性格不明である。P₃(長径60cm, 短径35cmの楕円形で、深さ57cm), P₄(長径39cm, 短径31cmの楕円形で、深さ41cm)は炉の西側と北西側に位

置し、規模的にも支柱穴という見方もできるが、P₃が中央部に寄り過ぎており、また南東側部分に対応するピットが出てないため、支柱穴の可能性は薄いと思われる。

炉 南東側に付設されている。長径121cm、短径69cmの不整楕円形で、ほとんど掘り込みのない地床炉である。

炉床は火熱で赤く焼け、硬化した焼土ブロックで凸凹である。炉床南部から遺物が出土している。

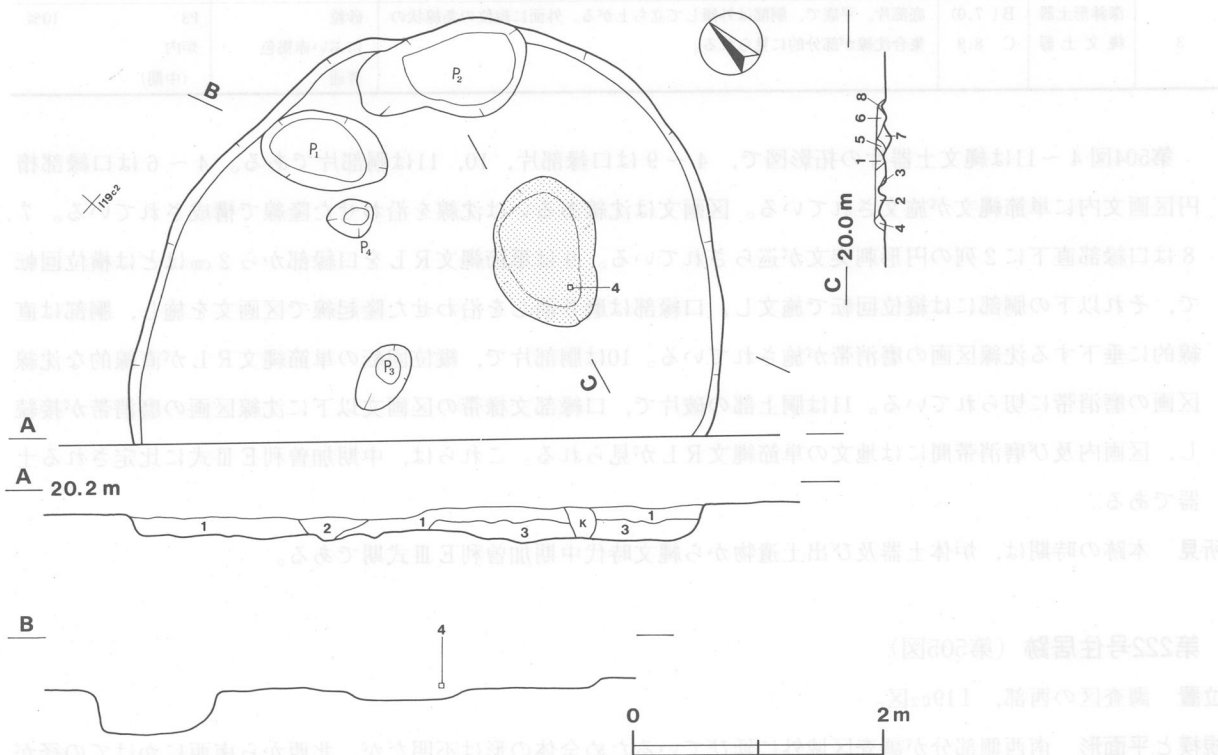
炉土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 3 黒褐色 焼土中ブロック中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 7 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土粒子少量
- 8 暗赤褐色 ローム粒子多量、焼土粒子極少量

覆土 3層からなる。土層3はロームブロックを含んでいるが、ほぼ水平に堆積しており、自然堆積と思われる。土層2は後世の掘り込みと思われる。

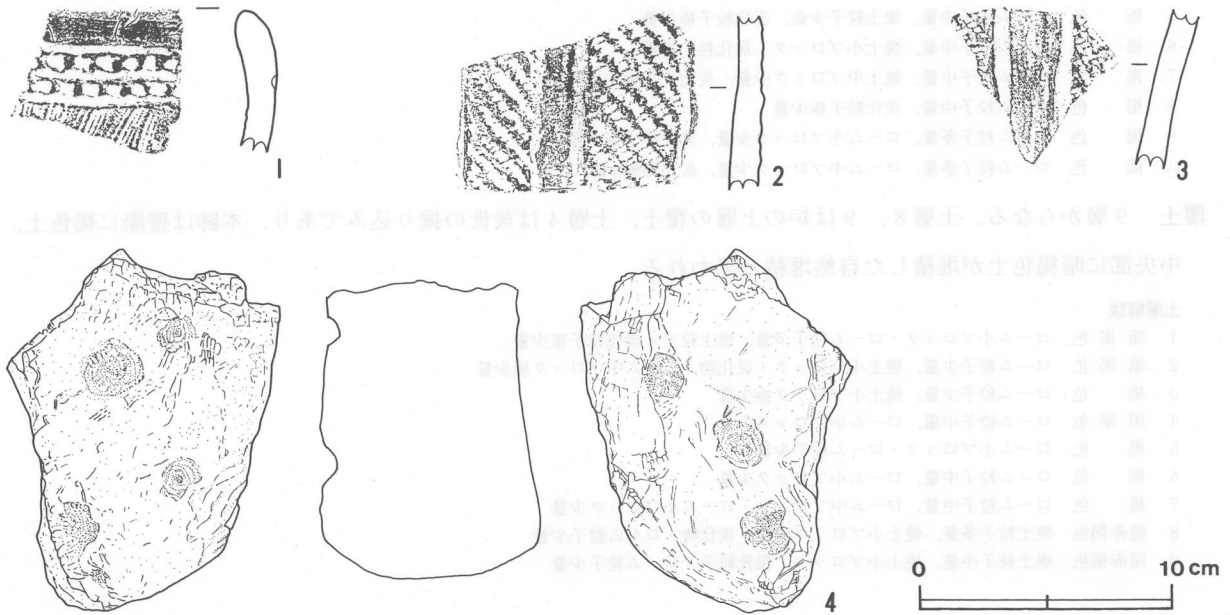
土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子少量



第505図 第222号住居跡実測図

遺物 覆土中及び炉内から遺物が出土している。炉の西部からは2, 3の胴部片が、南部から4の凹石が置いてあるように出土している。



第506図 第222号住居跡出土遺物実測・拓影図

第222号住居跡出土石製品観察表

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第506図4	凹石	(14.4)	(10.8)	8.8	(1712.1)	花崗岩	Q1 石皿転用 欠損品 炉内

第506図1～3は縄文土器片の拓影図である。1は口縁部片で、口唇部直下の3列横走沈線間に連続刺突文を2列施し、以下胴部には燃糸文が縦位に施文されている。2, 3は胴部片で、縦位回転の単節縄文LR地文が沈線区画の磨消帯に分断されている。中期加曾利EⅢ式に比定される土器である。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅢ式期である。

第223号住居跡 (第507図)

位置 調査区の西部, I19c4区。

重複関係 本跡は、北側部分が第1034号, 1035号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.34m, 短軸3.62mの隅丸長方形である。

長軸方向 N-33°-E

壁 土坑との重複で、北壁が部分的に掘り込まれているが、他は壁高4～14cmで、緩やかに外傾して立ち上がる。

床 平坦である。わずかに踏み固められた面が見られる。

炉 中央部やや北側に付設されている。長径131cm, 短径87cmの楕円形で、南側に胴部下位を打ち欠いた深鉢形土器を斜位に埋め込んだ土器埋設炉である。炉は10cmほど掘り込まれ、土器内の焼土は少ないが、周囲は硬化したブロック状の焼土が見られる。

炉土層解説

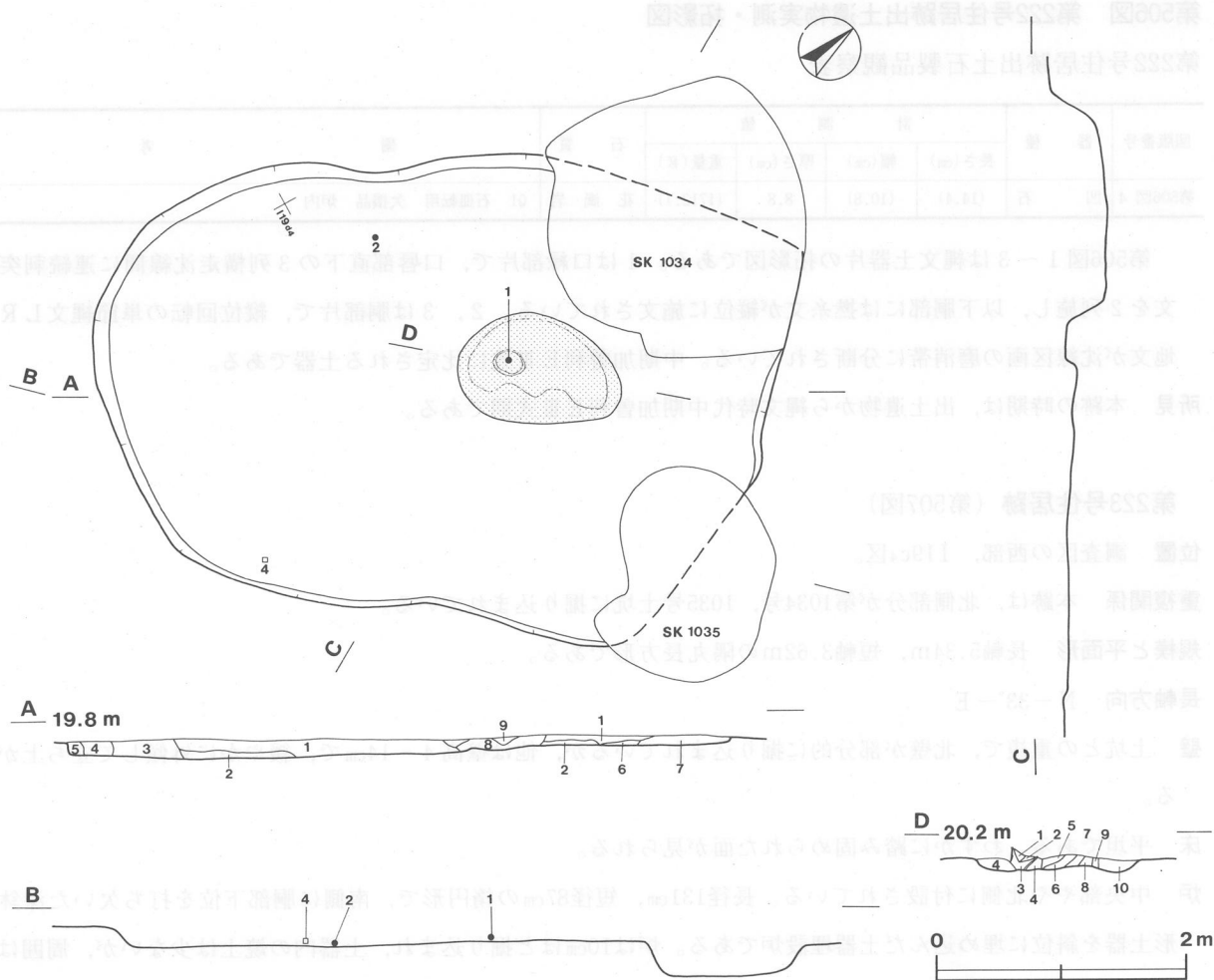
- 1 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子極少量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・炭化粒子少量, ローム小ブロック極少量
- 3 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 4 暗赤褐色 焼土中ブロック中量, 焼土粒子・ローム粒子少量

- 5 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子極少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 焼土中ブロック中量, 炭化粒子極少量
- 8 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量
- 9 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 10 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック少量, 炭化物極少量

覆土 9層からなる。土層8, 9は炉の上層の覆土, 土層4は後世の掘り込みであり, 本跡は壁際に褐色土, 中央部に暗褐色土が堆積した自然堆積と思われる。

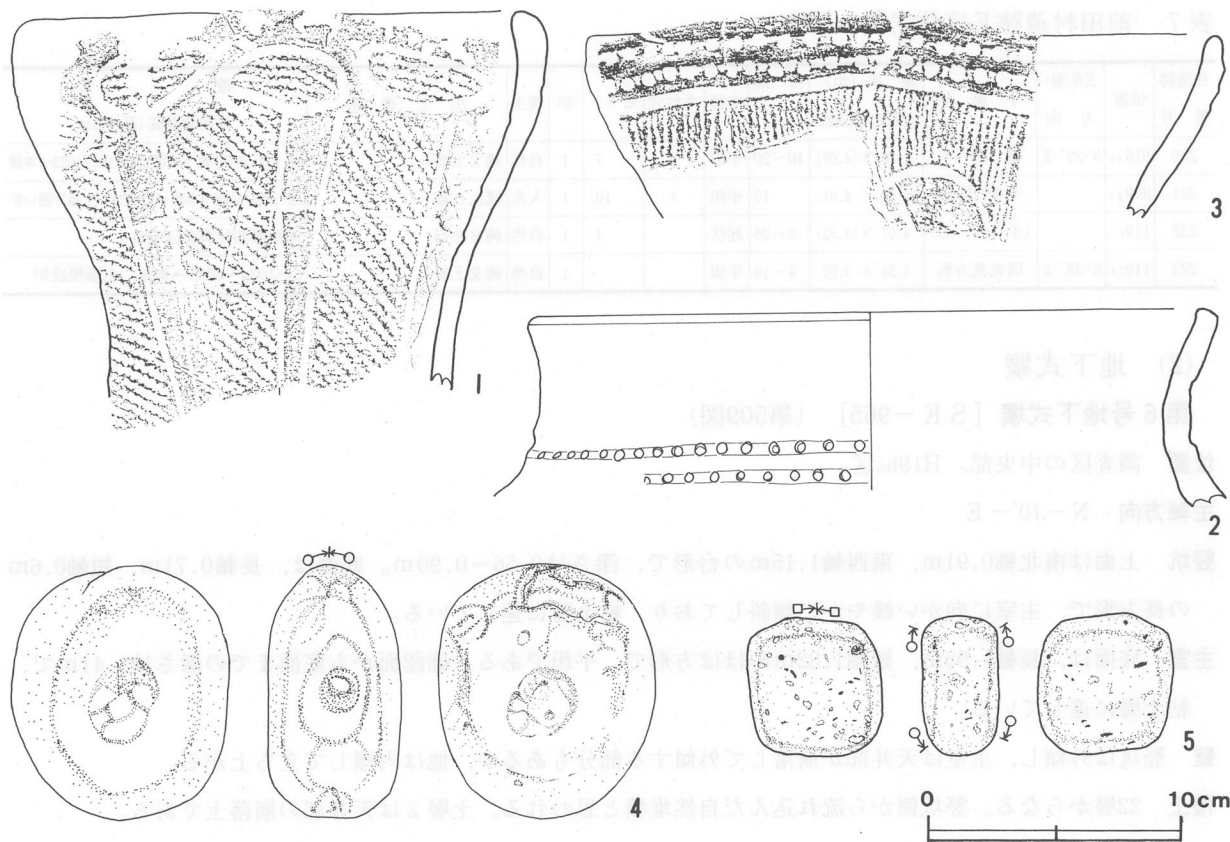
土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム中ブロック極少量
- 3 褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量



第507図 第223号住居跡実測図

遺物 遺物が少量出土している。第508図1の深鉢形土器は炉体土器である。2の深鉢形土器の口縁部は西部床面からばらばらの状態で, 4の磨石は南東部床面から出土している。



第508図 第223号住居跡出土遺物実測・拓影図

第223号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第508図 1	深鉢形土器 縄文土器	A [20.2] B (15.0)	胴部中位以下は意識的に打ち欠かされている。胴部は外傾して立ち上がった後内彎しながら口縁部に至る。沈線による楕円形区画文が口縁部文様帯に描かれ、区画内には複雑縄文LRLが横位回転で施文されている。胴部は縦位回転で施文された同縄文が、直線的に垂下する沈線区画の磨消帯に分断されている。	砂粒・長石・石英・スコリア 橙色 普通	P4 炉内 (加曾利EⅢ) 40%
2	深鉢形土器 縄文土器	A 27.3 B (8.8)	外反する口縁部片。口縁部は無文帯で、口縁部下に円形の連続刺突文が上下2段に横走されている。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P5 西部床面 (加曾利EⅢ) 10%
3	深鉢形土器 縄文土器	A [25.2] B (7.2)	口縁部片。胴上部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は円形刺突文が上下2段に施され、直下の沈線で胴部文様帯が分離されている。胴部は地文に縦位の熱糸文が施され、弧状を描くと思われる沈線区画の磨消帯で文様が上下に分断されている。	砂粒・長石・スコリア 橙色 普通	P6 覆土 (加曾利EⅢ) 10%

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第508図 4	磨石	10.0	8.6	5.3	741.2	花崗岩	Q2 表・裏面に凹み 南東部床面
5	磨石	5.6	5.5	3.0	162.3	安山岩	Q3 敲石兼用

所見 本跡の時期は、炉体土器から縄文時代中期加曾利EⅢ式期である。

表7 前田村遺跡E区住居跡一覧表

住居跡 番号	位置	長径(軸) 方向	平面形	規模(m) (長径×短径)	壁高 (cm)	床面	主柱穴	ピット	炉	覆土	出土遺物	備考 ※重複関係(新→旧)
220	H19i4	N-22°-E	楕円形	4.88×(4.09)	10~20	平坦	3	7	1	自然	縄文土器	SI-221,第7号地下式竈,SK-1002・1023→本跡
221	H19j3		不整円形	[4.79]×4.61	15	平坦	4	10	1	人為	縄文土器	SK-1003・1028→本跡→SI-220,土器片囲い炉
222	I19c2		(半円形)	4.67×(3.32)	9~26	起伏		4	1	自然	縄文土器	南西側部分調査区域外
223	I19c4	N-33°-E	隅丸長方形	5.34×3.62	4~14	平坦			1	自然	縄文土器	SK-1034・1035→本跡,土器埋設炉

(2) 地下式竈

第6号地下式竈 [SK-965] (第509図)

位置 調査区の中央部, H19h6区。

主軸方向 N-10°-E

竈坑 上面は南北軸0.91m, 東西軸1.15mの台形で, 深さは0.56~0.90m。底面は, 長軸0.71m, 短軸0.6mの長方形で, 主室に向かい緩やかに傾斜しており, 粘土層に達している。

主室 底面は, 長軸1.95m, 短軸1.82mのほぼ方形で, 平坦である。確認面から底面までの深さは1.41mで, 粘土層に達している。

壁 竈坑は外傾し, 主室は天井部が崩落して外傾する部分もあるが, 他は内傾して立ち上がる。

覆土 22層からなる。竈坑側から流れ込んだ自然堆積と思われる。土層2は天井部の崩落土である。

土層解説

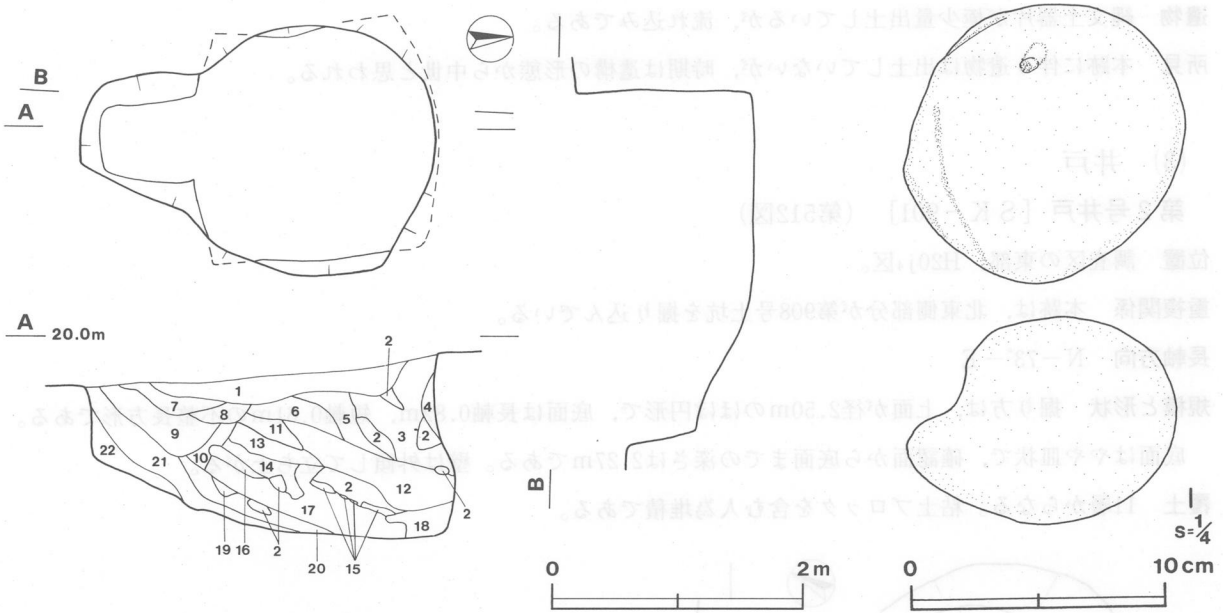
- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 2 褐色 ロームブロック
- 3 黒褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子・粘土小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 6 黒褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 8 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 11 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 12 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 13 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土小ブロック極少量
- 14 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 15 黒褐色 黒色土粒子多量, ローム粒子極少量
- 16 黒褐色 黒色土粒子多量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 17 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量
- 18 明黄褐色 粘土多量, ローム粒子少量
- 19 褐色 ローム粒子中量, 粘土小ブロック少量
- 20 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・粘土小ブロック少量
- 21 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量
- 22 暗褐色 粘土小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量

遺物 北壁際底面から煤の付着した石が出土している。他に縄文土器片が極少量出土しているが, 本跡に伴うものではない。

第6号地下式竈出土石観察表

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第510図1	不明	14.7	14.6	10.9	3230.8	安山岩	Q4 全体に煤付着 北壁際底面

所見 時期を判断する遺物は出土していないが, 遺構の形態から中世のものと思われる。



第509図 第6号地下式墳実測図

第510図 第6号地下式墳出土遺物実測図

第7号地下式墳 [SK-1010] (第511図)

位置 調査区の西部, H19i4区。

重複関係 本跡は, 第220号住居跡の西側部分を掘り込んでいる。

主軸方向 N-23°-E

竪坑 上面は長径0.85m, 短径0.66mの楕円形で, 深さは1.50~1.61m。底面は長軸1.26m, 短軸0.75mの長方形だが, 南側は丸みをもつ。上面から底面までは粘土が充填されている。竪坑から主室にかけては僅かに傾斜している。主室への入り口は天井部が残っており, 高さは0.90~0.96mである。

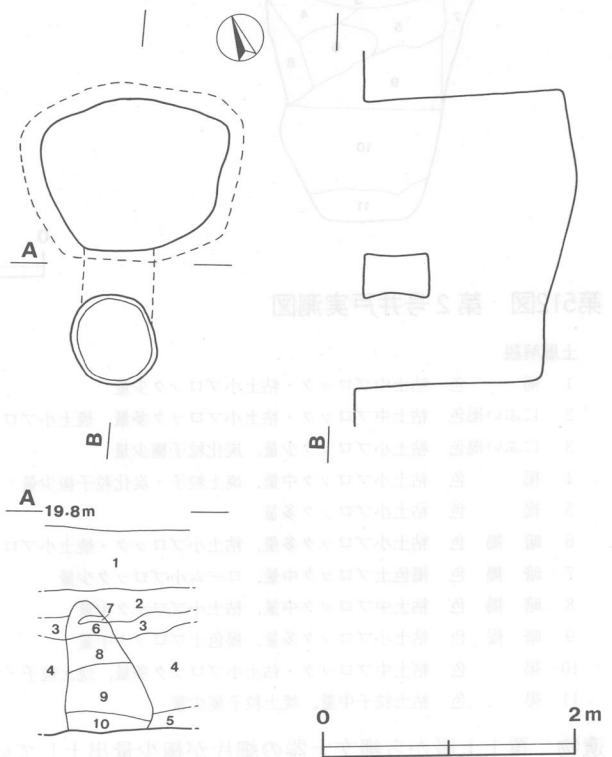
主室 上辺1.77m, 下辺1.25m, 南北軸1.39mの逆台形で, 確認面から底面までの深さは1.63~1.72mで, 僅かに中央部が低くなっており, 灰褐色の粘土層に達している。

壁 竪坑は垂直に, 主室は外傾して立ち上がる。

覆土 土層断面図は竪坑部分の東西の層で, 5層からなる。土層1~5は地山の層である。

土層解説

- | | | |
|----|--------|-----------------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量 |
| 3 | 褐色 | ローム大ブロック多量, 焼土粒子極少量 |
| 4 | オリーブ黄色 | 粘土層 |
| 5 | 灰オリーブ色 | 粘土層 |
| 6 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 粘土中ブロック少量 |
| 7 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子極少量 |
| 8 | オリーブ黄色 | 粘土大ブロック多量, ローム粒子中量 |
| 9 | 黄色 | ローム粒子・粘土中ブロック多量, ローム小ブロック中量 |
| 10 | 黄色 | ローム中ブロック・粘土ブロック中量 |



第511図 第7号地下式墳実測図

遺物 縄文土器片が極少量出土しているが、流れ込みである。

所見 本跡に伴う遺物は出土していないが、時期は遺構の形態から中世と思われる。

(3) 井戸

第2号井戸 [SK-901] (第512図)

位置 調査区の東部, H20j₄区。

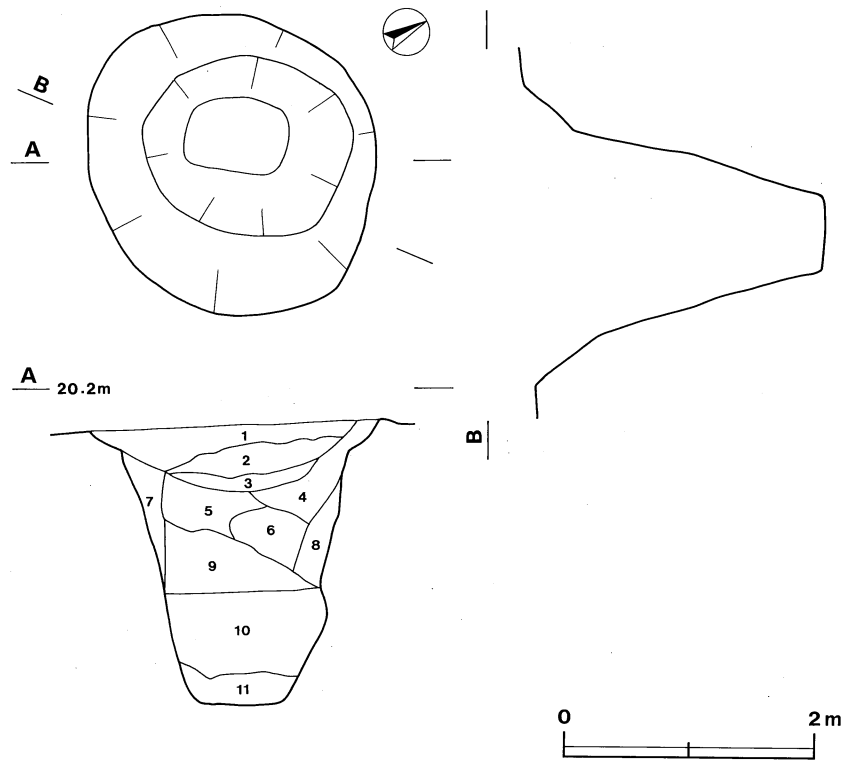
重複関係 本跡は、北東側部分が第908号土坑を掘り込んでいる。

長軸方向 N-73°-E

規模と形状 掘り方は、上面が径2.50mのほぼ円形で、底面は長軸0.82m, 短軸0.61mの不整長方形である。

底面はやや皿状で、確認面から底面までの深さは2.27mである。壁は外傾して立ち上がる。

覆土 11層からなる。粘土ブロックを含む人為堆積である。



第512図 第2号井戸実測図

土層解説

- 1 褐色 粘土中ブロック・粘土小ブロック少量
- 2 にぶい褐色 粘土中ブロック・粘土小ブロック多量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子極少量
- 3 にぶい褐色 粘土小ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 4 褐色 粘土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 5 褐色 粘土小ブロック多量
- 6 暗褐色 粘土小ブロック多量, 粘土小ブロック・焼土小ブロック少量
- 7 暗褐色 褐色土ブロック中量, ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 粘土中ブロック中量, 粘土小ブロック少量
- 9 暗褐色 粘土小ブロック多量, 褐色土ブロック中量
- 10 褐色 粘土中ブロック・粘土小ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 11 褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子極少量

遺物 覆土上層から縄文土器の細片が極少量出土しているが、流れ込みである。

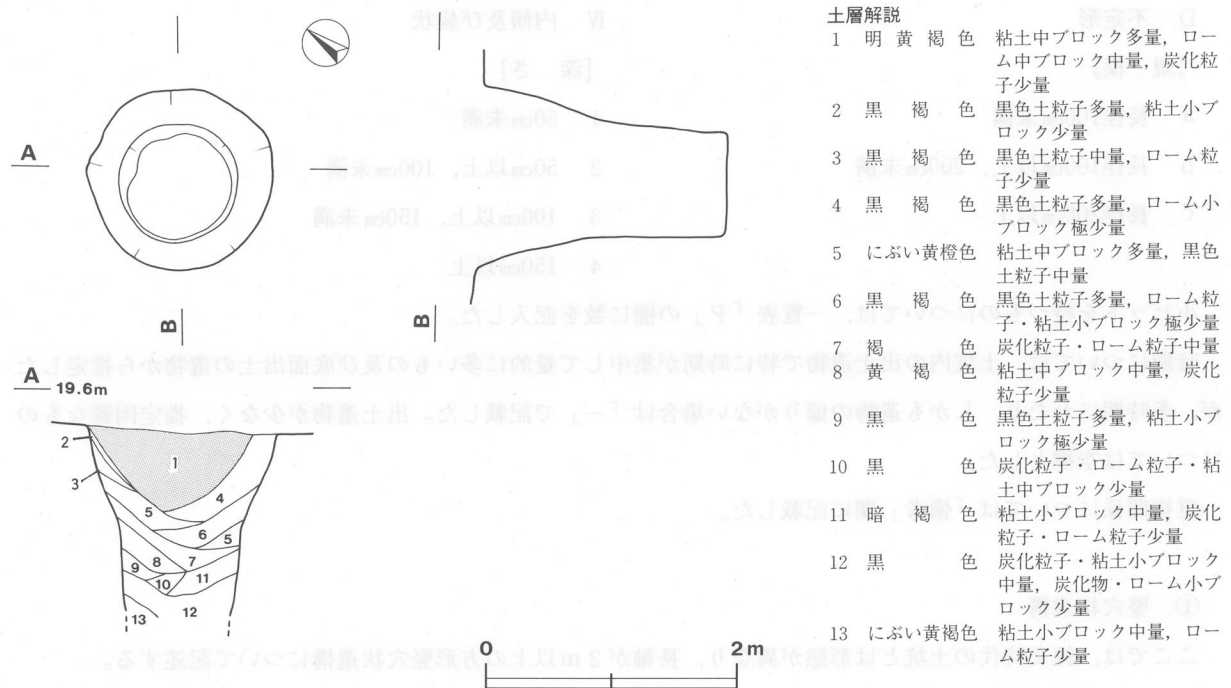
所見 時期を判断する遺物が出土していないので、時期は不明である。

第3号井戸 [SK-1037] (第513図)

位置 調査区の中央部南側, I19d6区。

規模と形状 掘り方は, 上面が径1.45mの円形で, 確認面から0.80mほどまでの間は傾斜しているが, そこから下は円筒形である。底面は径0.85mの円形で, 確認面からの深さは2.00mあり, 粘土層に達している。

覆土 13層からなる。粘土ブロックを含む人為堆積である。土層1は粘土の充填層で, 埋め戻した後粘土で蓋をしたものと思われる。



第513図 第3号井戸実測図

遺物 覆土上層から混入したと思われる縄文土器の細片が極少量出土している。

所見 本跡の南東側が, 径70cmほどの範囲の焼土の広がりとして接している。時期は, 判断する遺物が出土していないので, 不明である。

(4) 土坑

E区で調査した土坑は106基である。遺物から縄文時代と思われる土坑, 遺物の出土は極少量であるが遺構の形態から中・近世と思われる土坑に大別される。地下式墳については(2)で, 井戸については(3)で述べたが, ここでは次の観点から①~④に分類して記載した。

- ① 中・近世と思われる堅穴状遺構
- ② 方形あるいは長方形土坑
- ③ 縄文時代の土坑で, 円形もしくは楕円形で, 小ピットを持つ等形状に特徴のある土坑, あるいは出土遺物に特徴のある土坑
- ④ その他の土坑

①については遺構及び遺物の実測図とともに文章で記述するが, ②については時期を判断する遺物が出土していないため, 遺構の実測図の掲載にとどめ, 位置や規模等については一覧表に掲載する。③は遺構と遺物の実測図を掲載し, 特に遺構についての説明を必要とするものには「第〇号土坑」として記述する。また, 併せて遺物の観察表, 拓影図の解説を記述する。④については遺物の実測図, 拓影図及び遺物観察表, 拓影図の解

説にとどめる。③、④の位置や規模等については一覧表に一括して掲載する。

なお、土坑一覧表中の「土坑の分類」の欄は、以下を基準とした。

[平面形]	[壁面]
A 円形系統	I 緩斜
B 楕円形系統	II 外傾
C 方形（長方形，隅丸，不整合む）系統	III ほぼ垂直
D 不定形	IV 内傾及び袋状
[規模]	[深さ]
a 長径100cm未満	1 50cm未満
b 長径100cm以上，200cm未満	2 50cm以上，100cm未満
c 長径200cm以上	3 100cm以上，150cm未満
	4 150cm以上

小ピットを持つものについては、一覧表「P」の欄に数を記入した。

時期については、土坑内の出土遺物で特に時期が集中して量的に多いもの及び底面出土の遺物から推定したが、多時期にわたり、しかも遺物の偏りが無い場合は「～」で記載した。出土遺物が少なく、推定困難なものについては空欄とした。

重複関係については「備考」欄に記載した。

① 竪穴状遺構

ここでは、縄文時代の土坑とは形態が異なり、長軸が2m以上の方形竪穴状遺構について記述する。

第922号土坑（第514図）

位置 調査区の中央部北側，H19d6区。

重複関係 本跡は、北側部分を第37号溝に、南側部分を第27号溝に掘り込まれている。

主軸方向 N-8°-E

規模と平面形 長軸3.17m，短軸2.45mの長方形で、深さ119cmである。

出入口部 南壁西部の壁外に張り出している。上部は第27号溝に掘り込まれているが、底面は幅0.76mで、幅21～46cm，長さ65cmほどの範囲で粘土が張られ、スロープ状を呈している。

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

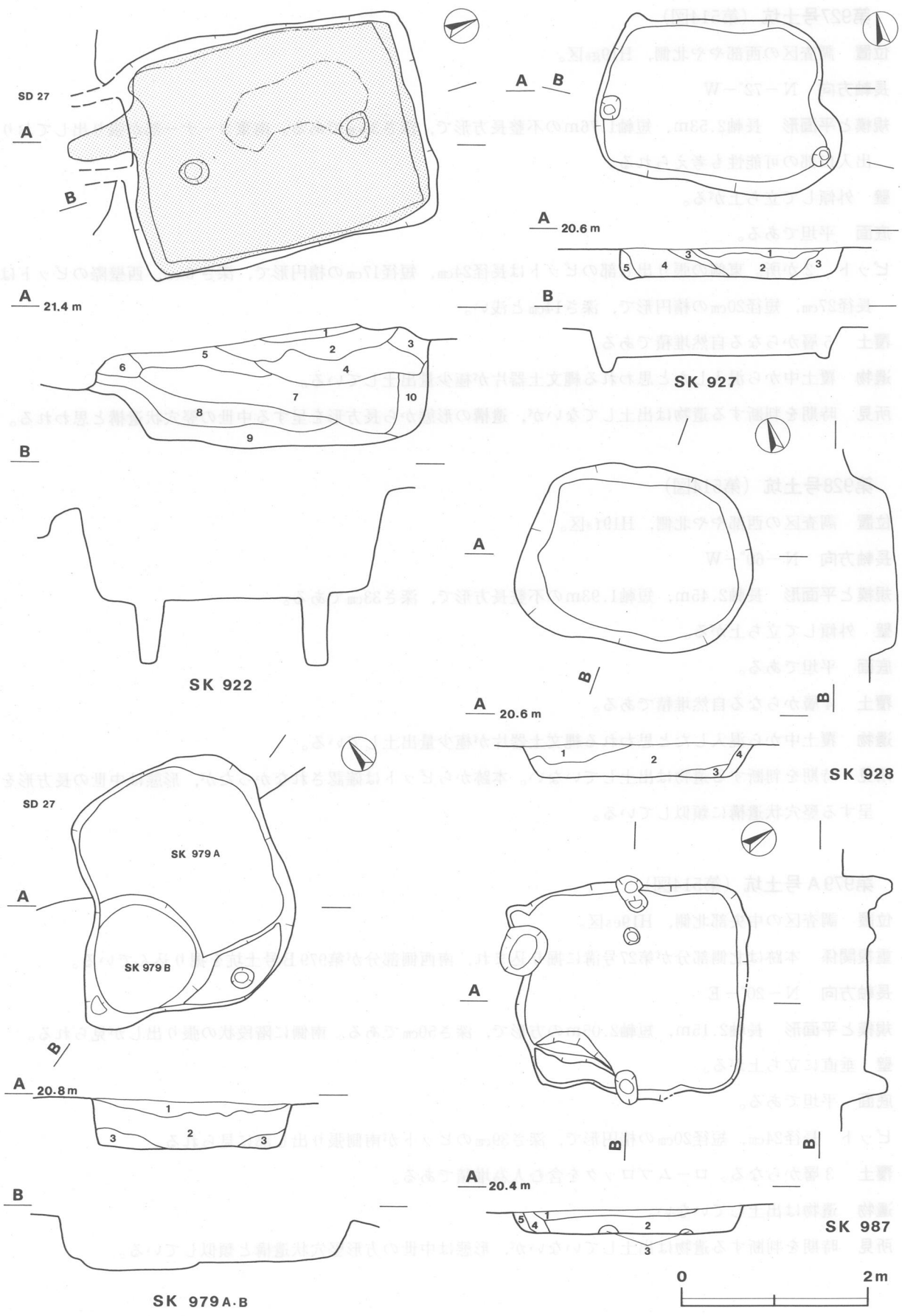
底面 平坦である。粘土層に達しており、全体に踏み固められている。中央部やや西側に、南北径161cm，東西径55～80cmの不定形の範囲で炭化材の広がりが見られる。

ピット 2か所。南と北に位置しており、北側が長径34cm，短径30cmの卵形で、深さ74cm，南側が径30cmほどの円形で、深さ67cm。いずれも柱穴と思われる。

覆土 10層からなる。粘土ブロック，ロームブロックを含み、人為堆積と思われる。

遺物 遺物は出土していない。

所見 時期を判断する遺物は出土していないが、遺構の形態から長方形を呈する中世の竪穴状遺構と思われる。



第514図 竪穴状遺構実測図

第927号土坑（第514図）

位置 調査区の西部やや北側，H19g₆区。

長軸方向 N-72°-W

規模と平面形 長軸2.53m，短軸1.76mの不整長方形で，深さ30cmである。南東コーナー部が張り出しており，出入口部の可能性も考えられる。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

ピット 2か所。東側の張り出し部のピットは長径24cm，短径17cmの楕円形で，深さ6cm，西壁際のピットは長径27cm，短径20cmの楕円形で，深さ14cmと浅い。

覆土 5層からなる自然堆積である。

遺物 覆土中から混入したと思われる縄文土器片が極少量出土している。

所見 時期を判断する遺物は出土していないが，遺構の形態から長方形を呈する中世の竪穴状遺構と思われる。

第928号土坑（第514図）

位置 調査区の西部やや北側，H19f₃区。

長軸方向 N-60°-W

規模と平面形 長軸2.45m，短軸1.93mの不整長方形で，深さ33cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 4層からなる自然堆積である。

遺物 覆土中から混入したと思われる縄文土器片が極少量出土している。

所見 時期を判断する遺物は出土していない。本跡からピットは確認されなかったが，形態は中世の長方形を呈する竪穴状遺構に類似している。

第979A号土坑（第514図）

位置 調査区の中央部北側，H19e₅区。

重複関係 本跡は北側部分が第27号溝に掘り込まれ，南西側部分が第979B号土坑を掘り込んでいる。

長軸方向 N-20°-E

規模と平面形 長軸2.15m，短軸2.05mの方形で，深さ50cmである。南側に階段状の張り出しが見られる。

壁 垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

ピット 長径24cm，短径20cmの楕円形で，深さ39cmのピットが南側張り出し部に見られる。

覆土 3層からなる。ロームブロックを含む人為堆積である。

遺物 遺物は出土していない。

所見 時期を判断する遺物は出土していないが，形態は中世の方形竪穴状遺構と類似している。

第987号土坑 (第514図)

位置 調査区の西部やや北側, H19g3区。

重複関係 本跡は, 北西側部分が第988号土坑を掘り込んでいる。

長軸方向 N-31°-W

規模と平面形 長軸2.40m, 短軸2.30mの方形で, 深さ27cmである。

出入口部 南東コーナー部に出入口と思われる階段状の施設を有するが, 壁外に張り出してはいない。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

ピット 5か所。東壁際の長径37cm, 短径24cmの楕円形で, 深さ25cmのピットと, 西壁際の長径30cm, 短径24cmの楕円形で, 深さ27cmのピットは柱穴と思われる。他は性格不明である。

覆土 5層からなる。自然堆積と思われる。

遺物 覆土中から混入したと思われる縄文土器片が極少量出土している。

所見 時期を判断する遺物は出土していないが, 遺構の形態から中世の方形竪穴状遺構と思われる。

第922号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム中ブロック中量, 焼土粒子・ローム大ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・粘土小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 粘土小ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量・粘土小ブロック中量, 炭化粒子少量
- 10 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量

第927号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

第928号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック極少量

第979A号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 2 褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子多量
- 3 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック多量, ローム粒子中量

第987号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物・ローム中ブロック少量
- 3 黒褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック極少量

② (長) 方形土坑 (第515・516図)

ここでは、長軸が2 m以下の方形あるいは長方形の土坑の実測図と第967号土坑の出土遺物の実測図を掲載し、文章による記述は割愛する。

E区では中世の地下式壙及び方形あるいは長方形の竪穴状遺構が確認されているが、これらとの関連を考慮すると、方形あるいは長方形の土坑のうち、中世の墓壙と思われる土坑もある。しかし、遺構に伴う遺物は第967号土坑の中央部床面から砥石が1点出土しているだけで、他の土坑からは混入したと思われる縄文土器の細片が極少量出土しているだけであり、また、墓壙の根拠としての骨片も出土しておらず、時期や性格等詳細は特定困難である。

なお、位置や規模等は一覧表に一括して掲載する。

第929号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック極少量

第961号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量
- 3 黒褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック極少量

第967号土坑 土層解説

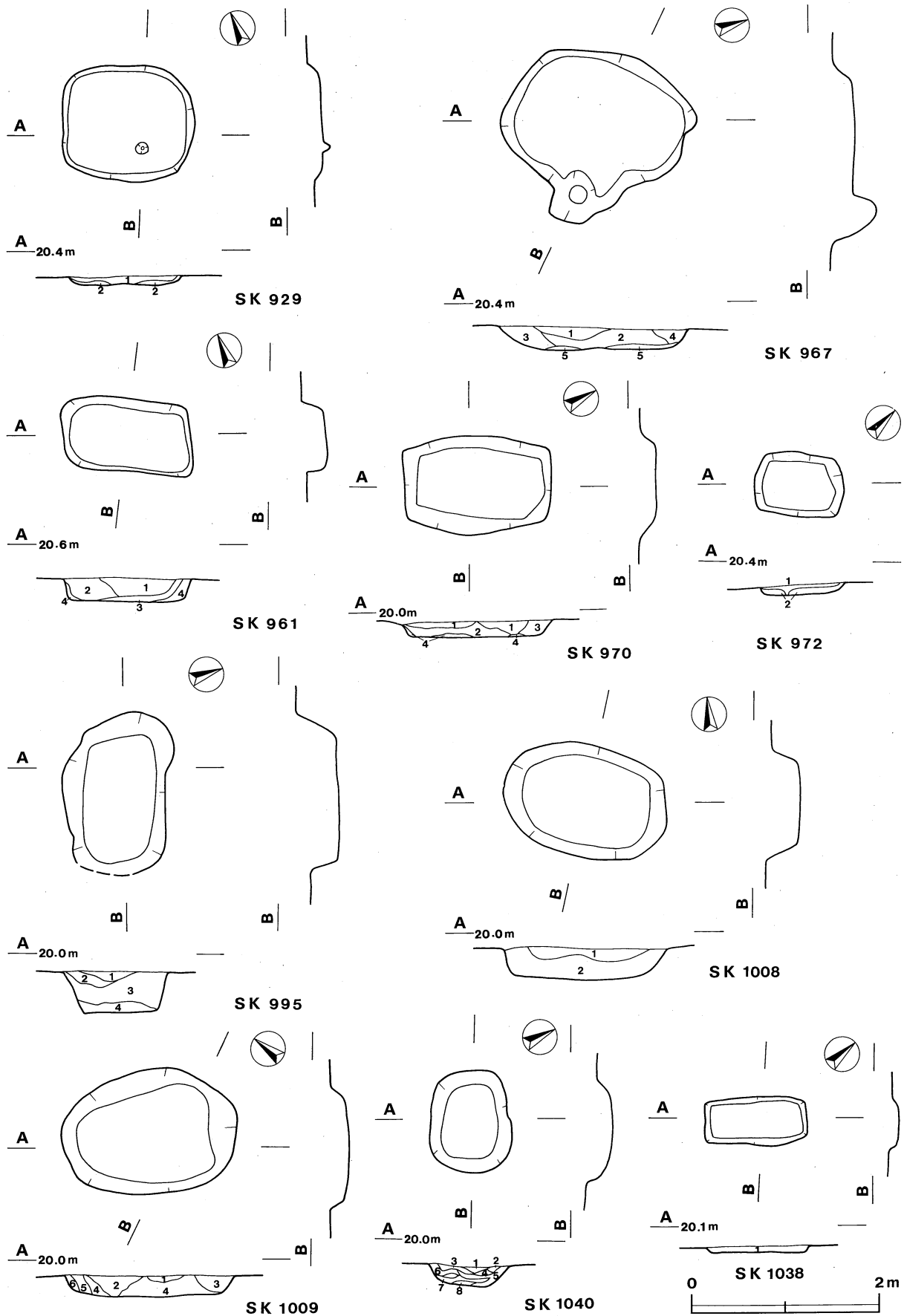
- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・粘土小ブロック少量, 炭化物極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 炭化物中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量

第970号土坑 土層解説

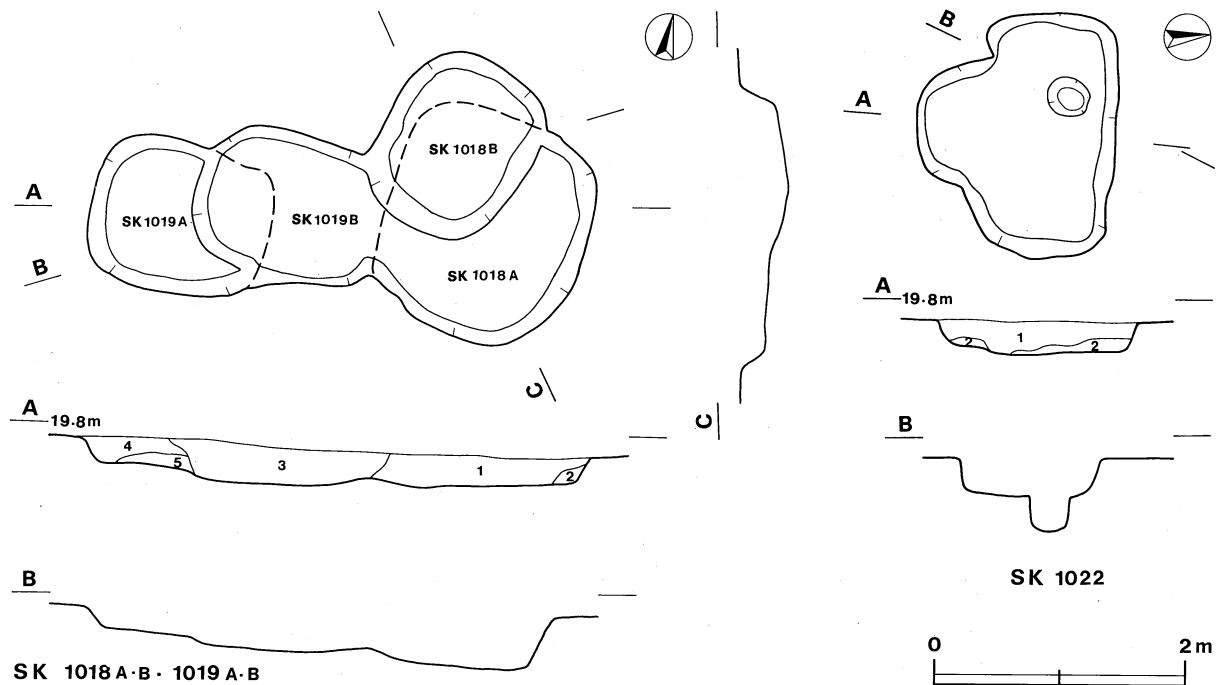
- 1 黒褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 3 暗褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量

第972号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量



第515図 (長) 方形土坑実測図(1)



SK 1018 A・B・1019 A・B

第516図 (長) 方形土坑実測図(2)

第995号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック・黒色土中ブロック中量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 黒色土粒子中量, ローム中ブロック少量

第1008号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, 焼土小ブロック極少量

第1009号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極少量

第1018A号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム大ブロック・ローム中ブロック中量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量

第1019A号土坑 土層解説

- 4 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量

第1019B号土坑 土層解説

3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量

第1022号土坑 土層解説

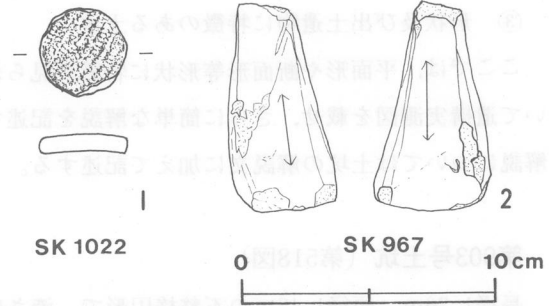
- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量,
黒色土小ブロック中量, ローム大ブロック少量
- 2 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量

第1038号土坑 土層解説

1 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量

第1040号土坑 土層解説

- 1 灰褐色 ローム小ブロック多量, 焼土粒子・炭化物極少量
- 2 灰褐色 ローム小ブロック多量, 焼土粒子・炭化物中量
- 3 にぶい褐色 ローム小ブロック多量, 焼土粒子・炭化物少量
- 4 にぶい褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化物少量
- 5 黒褐色 炭化物・炭化粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 6 灰褐色 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック少量
- 7 灰褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化物極少量
- 8 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック少量



第517図 (長) 方形土坑出土遺物実測・拓影図

(長) 方形土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	器形及び文様の特徴	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
第517図1	土製円板	3.5	3.4	0.8	10.8	100	表面に単節縄文RL	DP1 SK-1022 覆土

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第517図2	砥石	(8.3)	4.2	4.6	(161.4)	凝灰岩	Q5 欠損品 SK-967 覆土下層

表8 前田村遺跡E区(長)方形土坑一覧表

土坑番号	位置(区)	長軸方向	平面形	長軸×短軸(m)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 ※重複関係(新→旧)
929	H19g1	N-60°-E	隅丸長方形	2.53 × 1.76	8	外傾	平坦	不明	縄文土器	ビット1
961	H19e2	N-62°-W	長方形	1.39 × 0.76	27	外傾	平坦	人為		
967	H19f2	N-50°-W	不整長方形	1.90 × 1.55	24	外傾	平坦	人為	砥石	ビット1
970	H19h1	N-30°-E	長方形	1.57 × 1.06	17	外傾	平坦	人為		
972	H19f1	N-44°-E	長方形	0.96 × 0.69	14	外傾	平坦	不明		
995	I19a2	N-72°-W	不整長方形	[1.59 × 1.00]	46	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1008	I19a1	N-64°-W	隅丸長方形	1.78 × 1.20	35	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1009	I19a1	N-32°-W	隅丸長方形	1.86 × 1.32	21	緩斜	平坦	人為		
1018A	I19c3	N-4°-E	[隅丸方形]	1.81 × 1.70	22	緩斜	平坦	人為	縄文土器	SK-1019B→本跡→SK-1018B
1018B	I19c3	N-22°-E	[隅丸長方形]	1.46 × 1.19	39	外傾	皿状	不明		SK-1018A・1019B→本跡
1019A	I19c3	N-85°-E	[隅丸長方形]	[1.43] × 1.20	15	緩斜	平坦	人為		SK-1019B→本跡
1019B	I19c3	N-88°-W	[隅丸長方形]	[1.52] × 1.17	33	緩斜	平坦	人為	縄文土器	本跡→SK-1018A・1018B・1019A
1022	I19b4	N-77°-W	長方形	2.00 × 1.35	32	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1038	H18f0	N-45°-E	長方形	1.10 × 0.52	9	外傾	平坦	不明		
1040	H20j3	N-68°-W	隅丸長方形	1.12 × 0.86	22	緩斜	皿状	人為		

③ 形状及び出土遺物に特徴のある土坑

ここでは、平面形や断面形等形状に特徴の見られる土坑と土器や骨片等出土遺物に特徴のある土坑13基について遺構実測図を載せ、さらに簡単な解説を記述する。土坑出土の遺物の観察表は一括して掲載し、拓影図の解説については土坑の解説文に加えて記述する。

第903号土坑（第518図）

長径1.76m、短径1.45mの不整楕円形で、深さは36cmである。底面から馬の骨が出土している（付章参照）が、他に出土遺物はない。覆土は人為堆積の痕跡が見られ、馬を埋葬したものと思われる。時期を判断する遺物は出土していないが、古代以降のものと思われる。

第909号土坑（第518図）

円形の土坑で、底面に小ピットを4か所所有する。いずれも壁際に位置しているが、東壁際と北西壁際のピットは大形で、東壁際のピットは長径83cm、短径74cmの楕円形で、深さ43cm、北西壁際のピットは径55cmほどの円形で、深さ58cm。これらは本跡に伴うと思われる。南壁際のピットは長径31cm、短径25cmの楕円形で、深さ34cmとやや小形であるが、東壁及び北西壁のピットとほぼ等間隔で壁際に位置しており、他のピットとセットになる可能性もある。西壁際のピットは深さ18cmで、配列的にも他のピットとセットという可能性は少ないと思われる。遺物は、覆土中から縄文時代中期加曾利E式期の土器片が極少量出土しているだけである。

第912号土坑（第518図）

楕円形の土坑で、底面に南北で対になるピットを有する。北側のピットが長径60cm、短径50cmの楕円形で、深さ55cm、南側のピットが長径82cm、短径67cmの楕円形で、深さ42cm。これらはセットで本跡に伴うものと思われる。遺物は、覆土中から縄文時代中期加曾利E式期の土器片が少量出土しているだけである。

第914号土坑（第518図）

楕円形の土坑で、底面に小ピットを6か所所有する。中央部の楕円形ピットは重複しており、長径が28cmほどで、深さは北側が26cm、南側が44cmである。他は壁際に位置し、長径28～44cmの円形あるいは楕円形で、深さ14～28cmである。覆土中から中期加曾利EⅡ～Ⅲ式期の土器片が出土しており、第521図1の深鉢形土器は中央部北側のピット内から、2の口縁部片は東壁際のピット内から出土している。時期は、縄文時代中期加曾利EⅢ式期のものが大半であり、本跡の時期もその前後と思われる。

第521図1、2は縄文土器口縁部片の拓影図である。1は口縁部に隆起線で渦巻文と区画文が施され、胴部には沈線区画の磨消帯が直線的に垂下されている。縦位回転の単節縄文LRが地文として施されている。2は口縁部に2列の連続刺突文を交互に施し、胴部は縦位に施された地文の撚糸文が内部磨り消しの連弧文に分断されている。中期加曾利EⅢ式の範疇と思われる。

第916号土坑（第519図）

楕円形の土坑で、底面中央部に2か所、北壁際に1か所、南西壁際に1か所の小ピットを有する。長径は34～49cmであるが、深さは中央部のピットが47cmと68cm、北壁際のピットが26cm、南西壁際のピットが13cmとやや差がある。覆土中から遺物が出土しており、第521図3の縄文土器底部片は北東部覆土中層から出土している。時期は、主体となる遺物から縄文時代中期加曾利EⅢ式期と思われる。

第521図1～3は縄文土器片の拓影図である。1は口縁部片で、縦位回転の単節縄文RLを地文とし、沈線に沿わせた隆線で横長の区画文が口縁部に、胴部には沈線区画の磨消帯が縦位に施されている。2は胴部片で、地文の単節縄文RLが沈線区画の磨消帯に分断されている。3は底部片で、地文の単節縄文が沈線区画の磨消帯に分断され、底部から3cmほどは無文である。

第989号土坑（第519図）

楕円形の土坑で、底面中央部に長径30cm、短径25cmの卵形で、深さ74cmのピットを有する。覆土中から縄文時代中期加曾利EⅢ式期を主体とする土器片が少量出土しており、本跡の時期もこの前後と思われる。

第521図1～3は縄文土器片の拓影図である。1は波状を呈する口縁部片で、波頂部に楕円形の孔を有し、波頂部から沈線が「八」の字状に胴部に垂下し、内部は磨り消されている。地文は単節縄文RLが縦位回転で施されている。2は胴上部から口縁部付近にかけての破片で、口縁部下に円形の連続刺突文、以下胴部に縦位の沈線が充填されており、曾利Ⅱ式の手法が見られる。3も胴部片で、縦位回転の単節縄文RLが沈線区画の磨消帯に切られている。

第990号土坑（第518図）

不整楕円形の土坑で、底面中央部に径30cmほどの円形で、深さ62cmの小ピットと、東部に径73cmほどの円形で、深さ62cmのピットを有する。覆土中から縄文時代中期加曾利EⅢ式期前後の土器片が出土しており、本跡の時期もこの範疇と思われる。

第521図1～5は縄文土器片の拓影図で、1～3は口縁部片、4、5は胴部片である。1は口縁部に2列の連続刺突文、胴部に縦位の撚糸文を切る3列の波状沈線が見られ、沈線間は磨り消されている。2は「∩」状の区画が沈線で施されている。3は内彎する口縁部片で、太く偏平な沈線が縦位に施され、曾利Ⅱ式の影響が見られる。4は地文の単節縄文RLが曲線的な隆線に切られている。5は縦位回転の単節縄文RLが直線的な沈線区画の磨消帯に切られている。

第1013号土坑（第519図）

楕円形の土坑で、底面中央部に径26cmほどの円形で、深さ39cm、東壁際に径47cmほどの円形で、深さ12cm、南壁際に長径56cm、短径49cmの楕円形で、深さ26cmの小ピットを有する。覆土中から中期加曾利EⅡ～Ⅲ式期前後の土器片が少量出土しており、本跡の時期と思われる。

第522図1、2は縄文土器片の拓影図である。1は口縁部片で、口縁部に2列の連続刺突文が巡らされ、胴部には縦位回転の単節縄文RLが地文で施され、横走する3列の波状沈線に文様が切断されている。沈線間は磨り消しが施されている。2は底部片で、外面に施された縦位回転の単節縄文RLが、直線的に垂下する沈線区画の磨消帯に分断されている。中期加曾利EⅡ～Ⅲ式にかけての時期の土器と思われる。

第1017号土坑（第520図）

楕円形の土坑で、覆土中から遺物が出土している。第522図1の深鉢形土器の底部片は北西部覆土上層、2の深鉢形土器の底部片は南西部覆土上層から出土している。3の口縁部片は中央部覆土中層、4の口縁部片は西部覆土中層から出土している。時期は、出土遺物から縄文時代加曾利EⅢ式期と思われる。

第522図3～6は縄文土器片の拓影図である。3は口縁部片で、太い隆起線による区画文内に単節縄文RLが施されている。4も僅かに波状を呈する口縁部片で、口縁部文様帯に隆起線による形の崩れた渦巻文と長方形区画文が描かれ、区画内には単節縄文が見られる。5も波状口縁部片で、口縁部下に2列の連続刺突文、以下「∩」状の区画が胴部に施され、区画内には縄文施文、区画外は磨り消しが施されている。6は胴部片で、縦位回転の単節縄文RLが、直線的に垂下する沈線区画の磨消帯に分断されている。

第1027号土坑（第520図）

楕円形の土坑で、3本の小ピットを底面に有する。東側のピットは径50cmほどの円形で、深さ68cm、中央部のピットは長径26cm、短径22cmの楕円形で、深さ39cm、西側のピットは長径47cm、短径33cmの楕円形で、深さ25cm。これらは東西にほぼ一直線に並ぶ。覆土中から中期加曽利EⅡ～Ⅲ式期にかけての土器片が出土しており、本跡の時期もこの範疇と思われる。

第522図1～3は縄文土器片の拓影図である。1は口縁部片で、沈線で渦巻文や方形の区画が施され、区画内には縦位の沈線が充填されている。2も口縁部片で、口縁部下に偏平な沈線が横走され、以下胴部には単節縄文RLが施文されている。3は胴部片で、縦位回転の単節縄文RLが、直線的に垂下する3列の平行沈線に分断されている。沈線間は磨り消されている。これらは中期加曽利EⅡ～Ⅲ式の範疇と思われる。

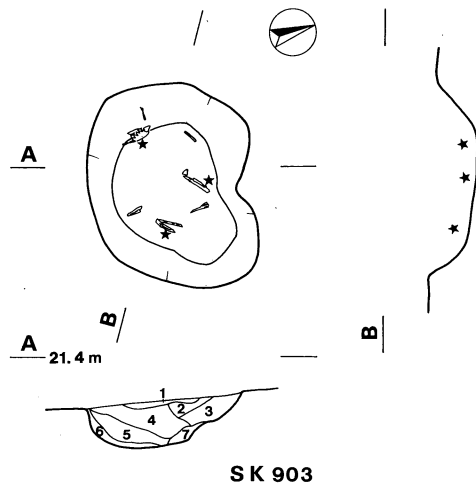
第1032号土坑（第520図）

楕円形の土坑で、底面中央部に長径26cm、短径22cmの楕円形で、深さ28cmの小ピットを有する。このピットを囲むように、北、東、西の3方の壁際に、長径80cmほど、短径64～70cmの楕円形で、深さ29～34cmのピットが等間隔に位置している。西壁際のピット底面からは焼土と炭化材も確認されている。また上面東側と南西側にも深さ50cmほどの小ピットを有する。遺物は覆土上層から中層にかけて出土しており、第522図1の深鉢形土器は北部覆土中層から、第523図3の深鉢形土器は中央部覆土中層から出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曽利EⅡ式期と思われる。

第1036号土坑（第520図）

円形の土坑で、底面中央部に長径35cm、短径25cmの楕円形で、深さ42cmの小ピットと、北部に長径150cm、短径84cmの不定形で、深さ42cmの大形のピットを有する。覆土中から縄文時代中期加曽利EⅢ式期を主体とする遺物が出土しており、本跡の時期もこの前後と思われる。

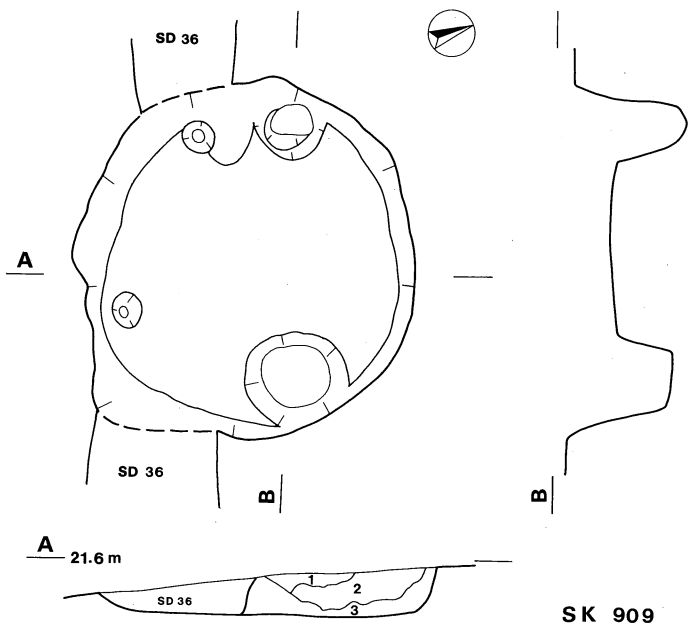
第523図1は縄文土器口縁部片の拓影図である。隆線で区画文が描かれ、内部には縦位回転の単節縄文RLが見られる。



SK 903

第903号土坑 土層解説

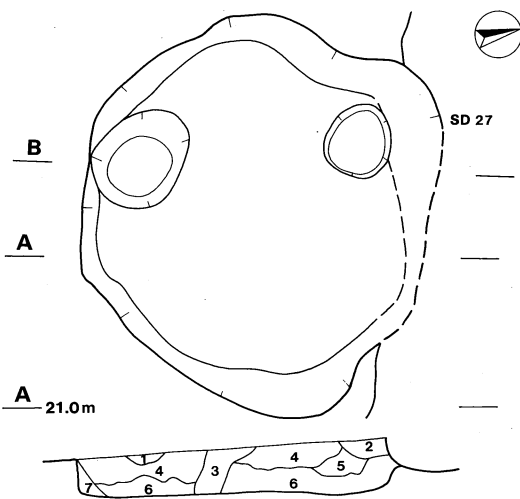
- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 6 明褐色 ローム中ブロック多量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量



SK 909

第909号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック極少量
- 2 暗褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量



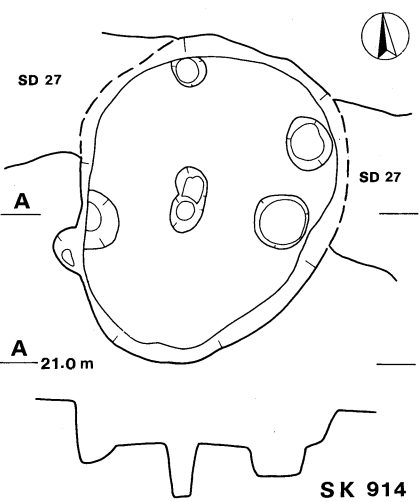
SK 912

第912号土坑 土層解説

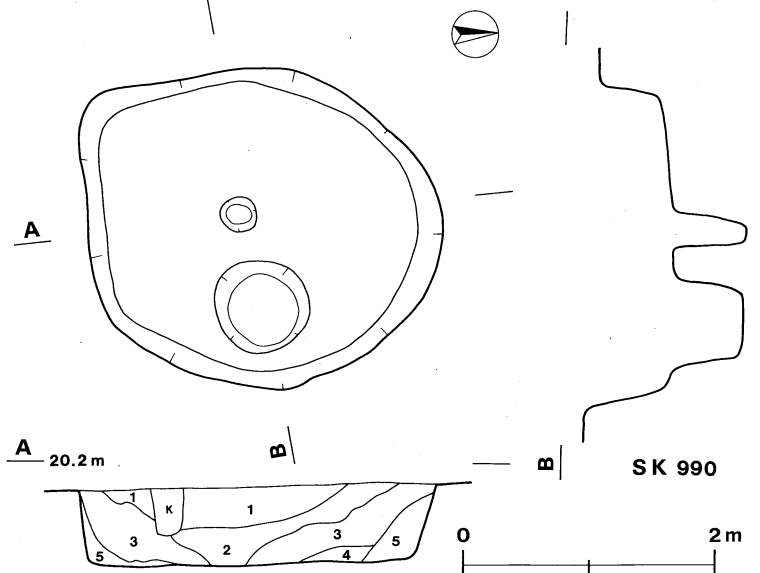
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物・粘土粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・焼土粒子・ローム中ブロック少量
- 7 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量

第990号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, ローム小ブロック極少量

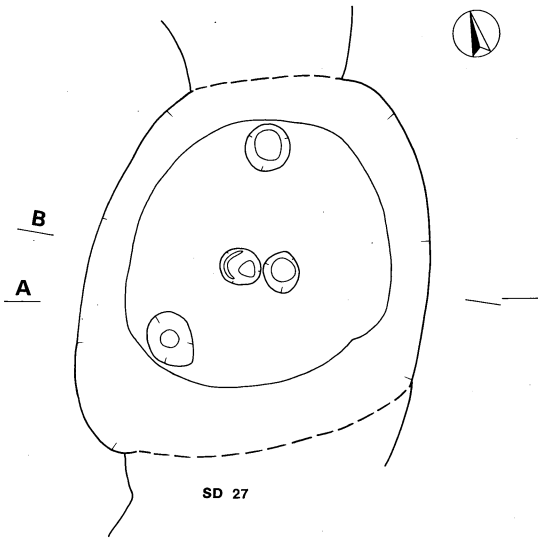


SK 914

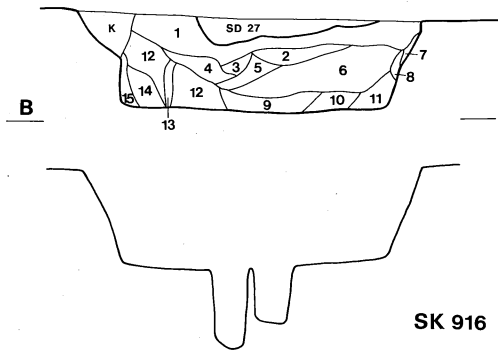


SK 990

第518図 第903・909・912・914・990号土坑実測図



A 21.0m



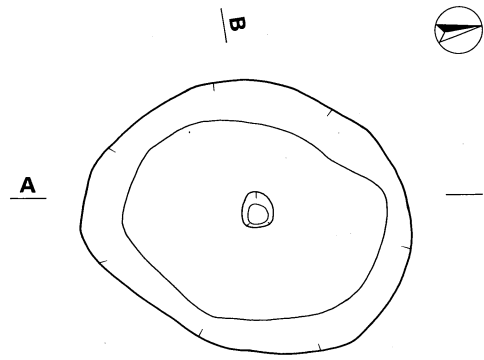
SK 916

第916号土坑 土層解説

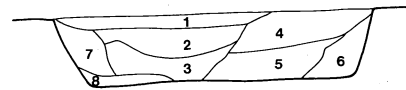
- 1 暗褐色 炭化物中量, 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 炭化物中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 4 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・粘土中ブロック極少量
- 6 暗褐色 粘土小ブロック中量, 炭化物・ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 9 黒褐色 炭化物中量, ローム小ブロック少量
- 10 暗褐色 炭化物中量, ローム粒子少量
- 11 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 12 暗褐色 粘土小ブロック中量, 炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量
- 13 暗褐色 粘土小ブロック中量, 炭化粒子少量
- 14 暗褐色 粘土小ブロック中量, 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 15 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

第1013号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化物少量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物・炭化粒子極少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化物極少量
- 5 暗褐色 粘土大ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子・ローム大ブロック極少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック・ローム小ブロック極少量



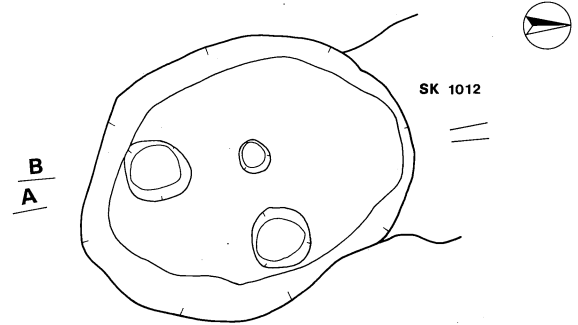
A 20.2m



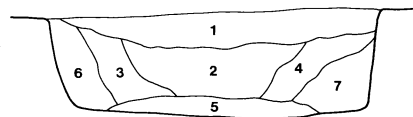
SK 989

第989号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック極少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子極少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 6 褐色 炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子極少量
- 8 褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック極少量



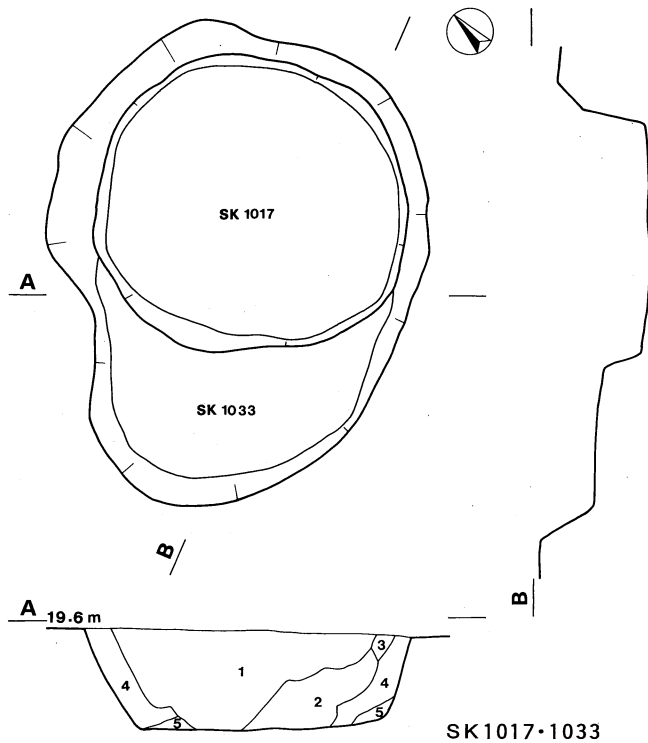
A 20.0m



SK 1013

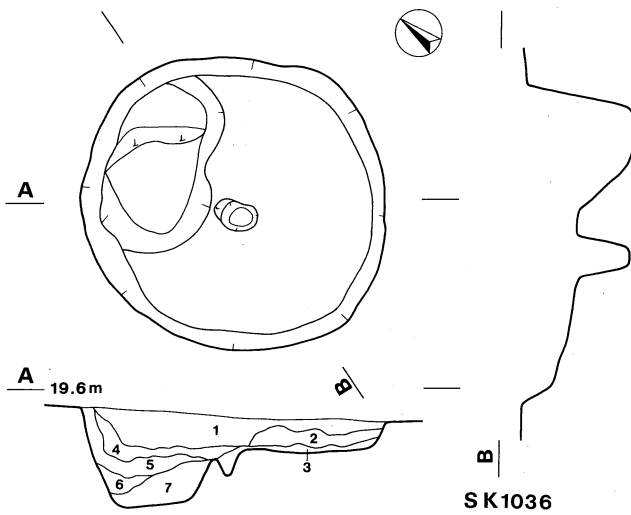


第519図 第916・989・1013号土坑実測図



第1017号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム中ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子極少量
- 4 にぶい褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子極少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量

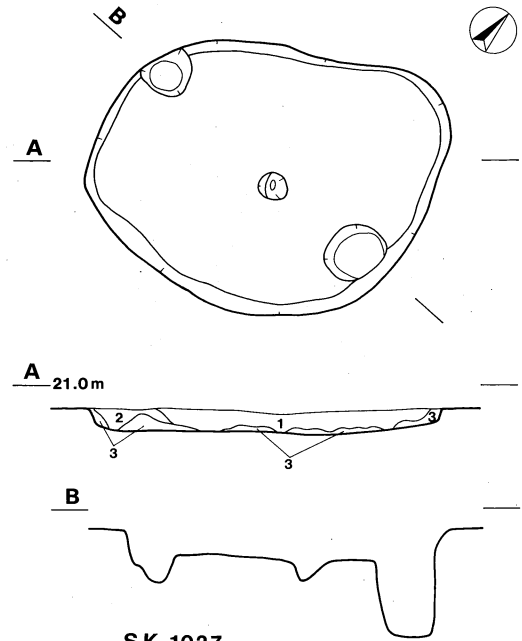


第1036号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 粘土中ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, 粘土小ブロック少量

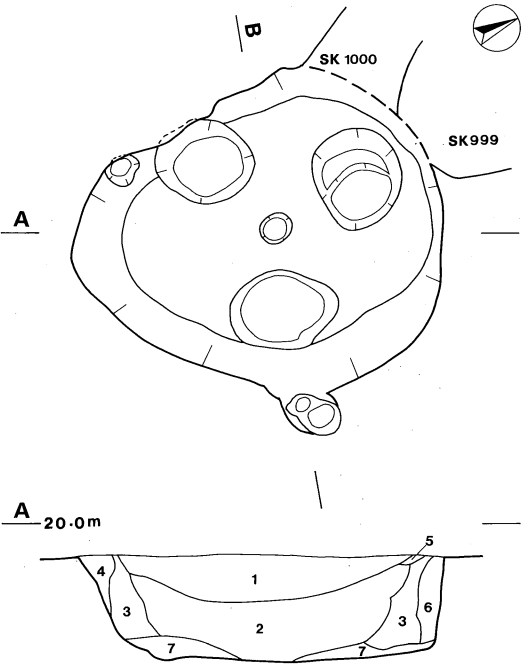
第1032号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 粘土小ブロック極少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 5 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, 炭化物極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量

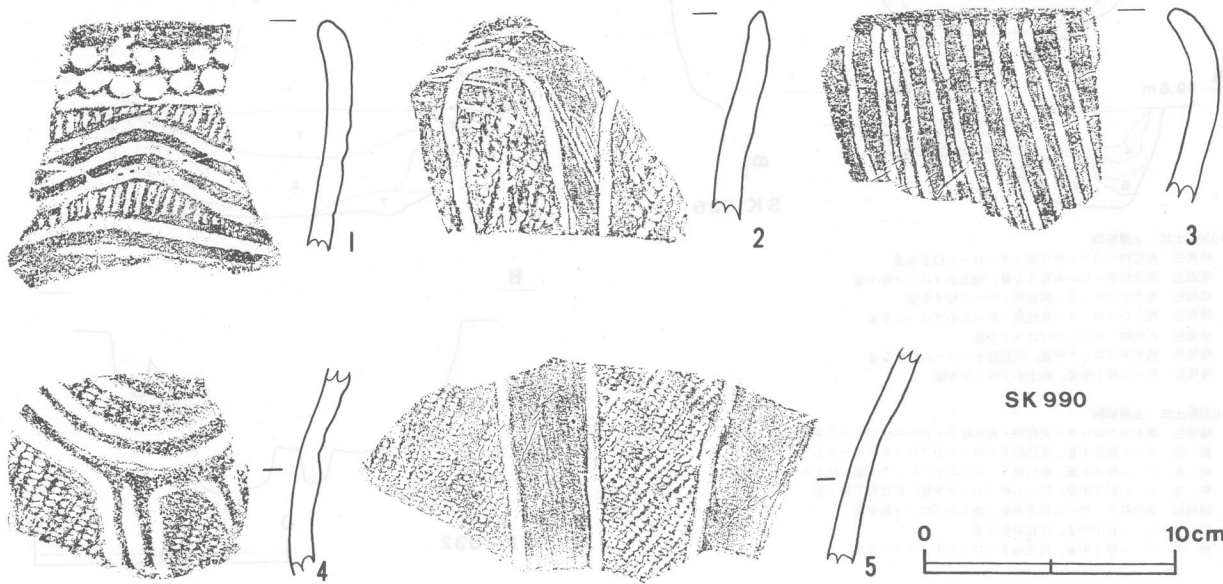
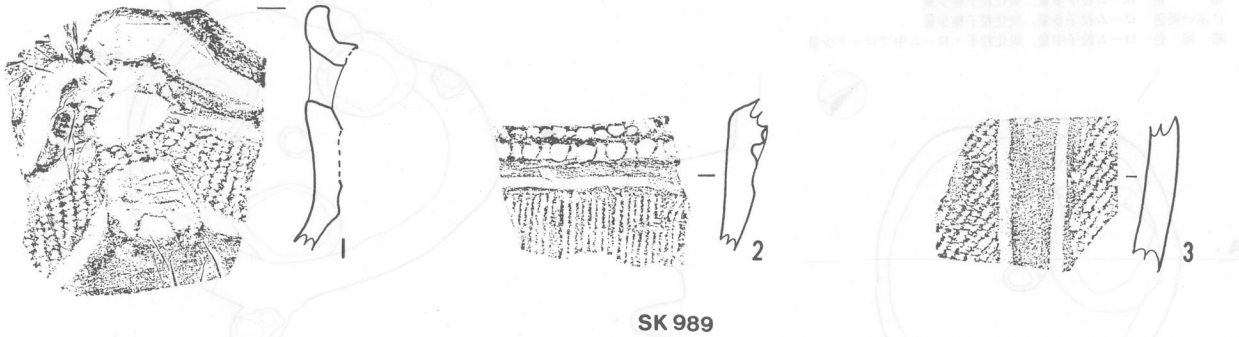
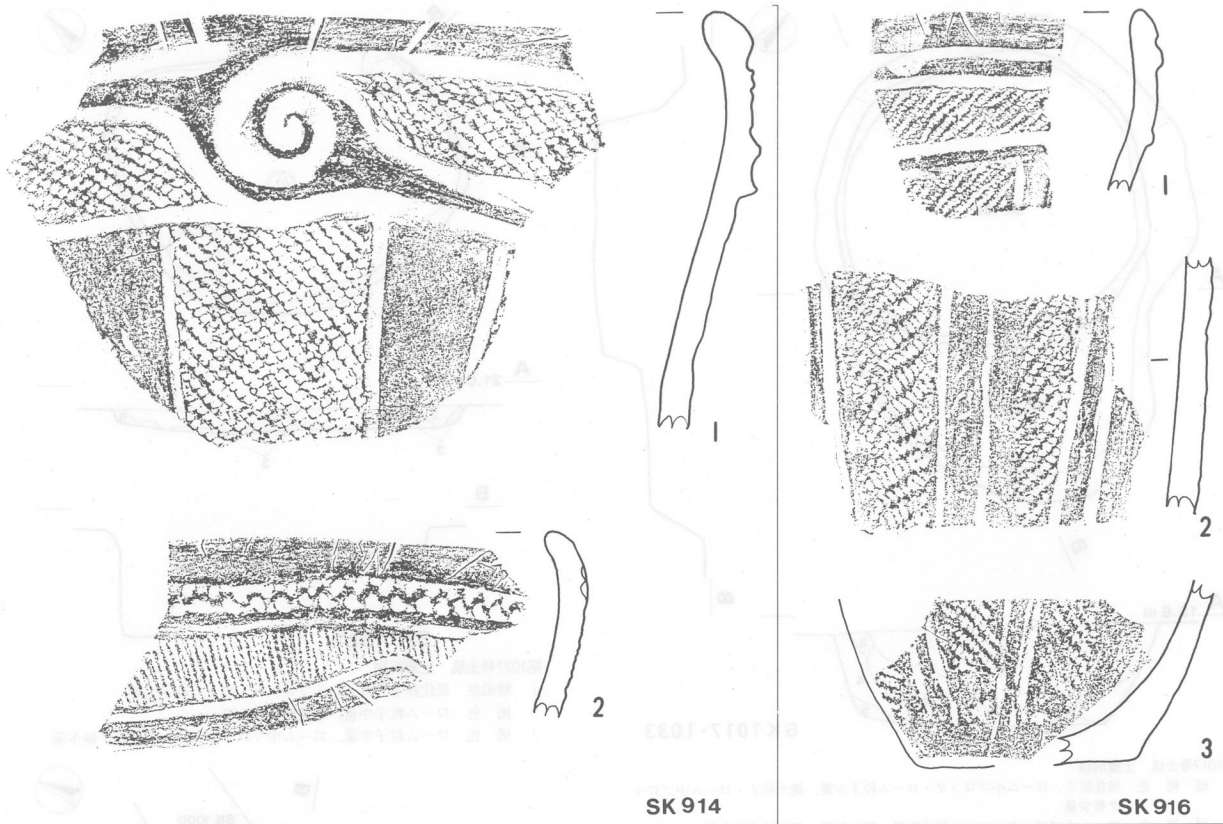


第1027号土坑 土層解説

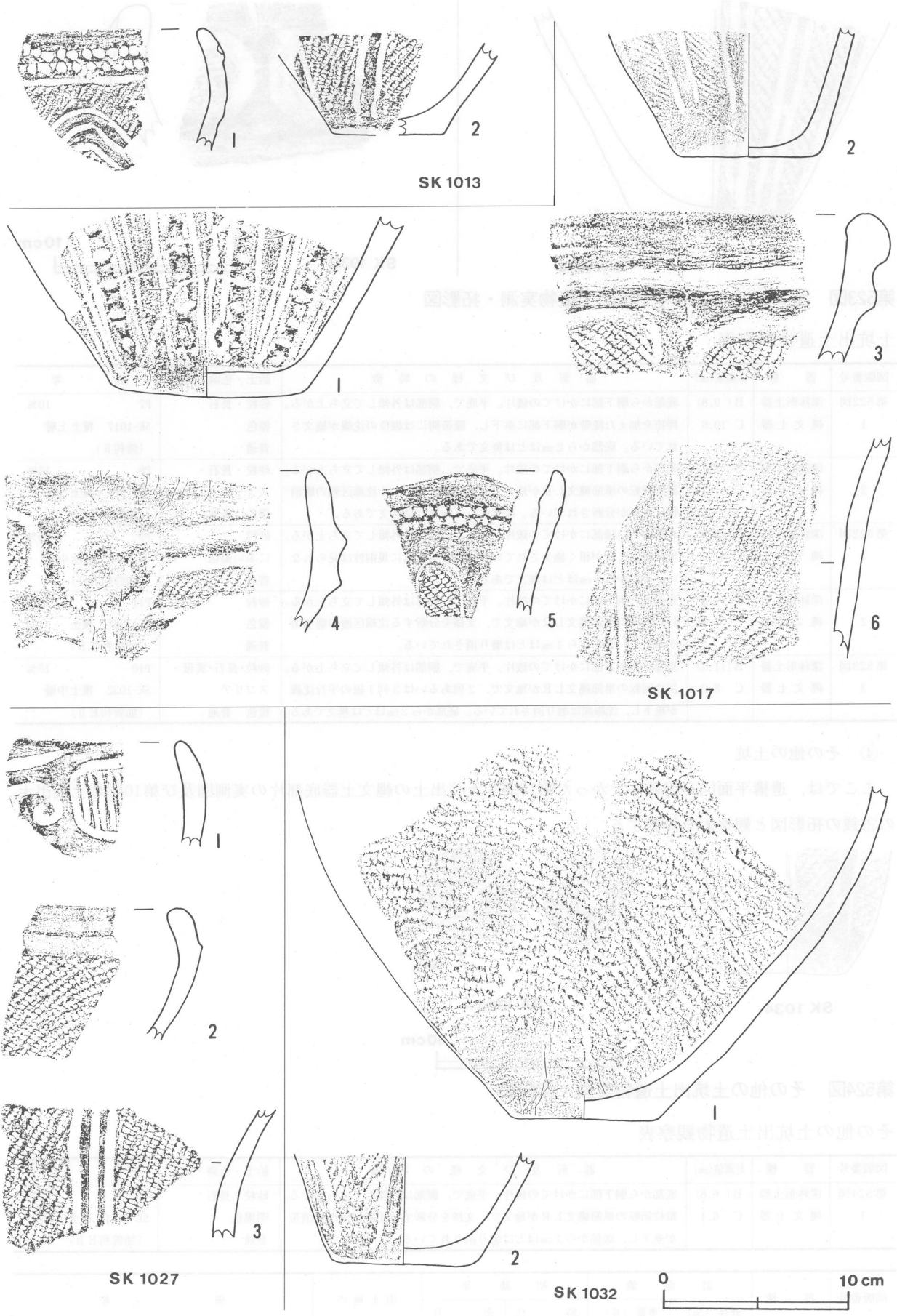
- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子極少量



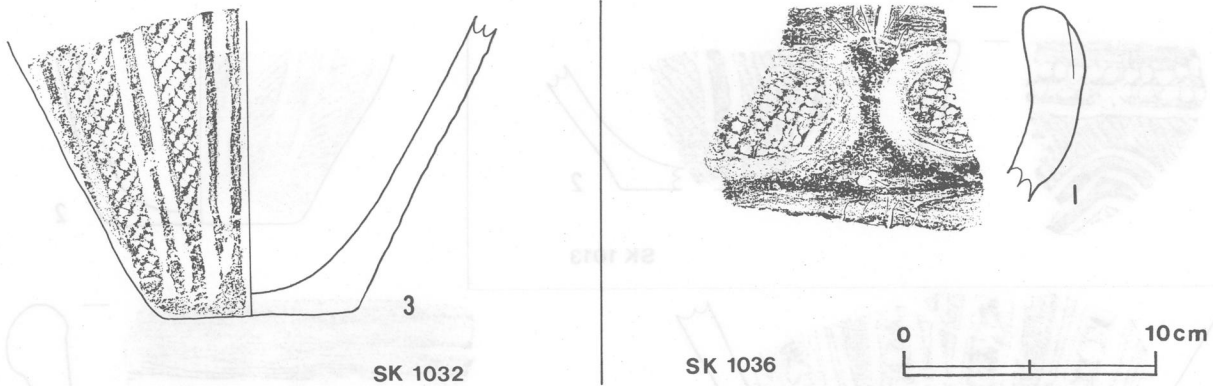
第520図 第1017・1027・1032・1033・1036号土坑実測図



第521图 第914·916·989·990号土坑出土遗物实测·拓影图



第522図 第1013・1017・1027・1032(1)号土坑出土遺物実測・拓影図



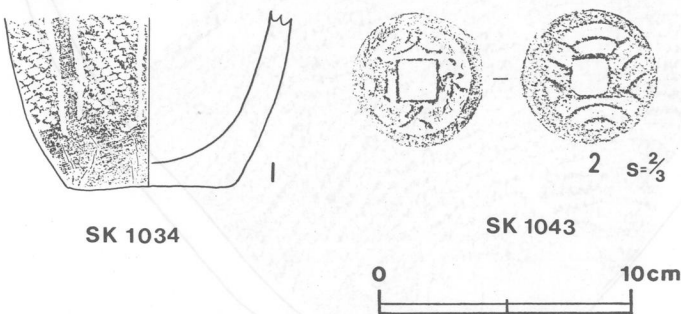
第523図 第1032(2)・1036号土坑出土遺物実測・拓影図

土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第522図 1	深鉢形土器 縄文土器	B (9.8)	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して立ち上がる。押捺を加えた隆帯が胴下部に垂下し、隆帯間には縦位の沈線が施文されている。底部から2cmほどは無文である。	砂粒・長石 橙色 普通	P7 10% SK-1017 覆土上層 (曾利Ⅱ)
		C 10.8			
2	深鉢形土器 縄文土器	B (7.1)	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して立ち上がる。縦位回転の単節縄文LRが地文で、直線的に垂下する沈線区画の磨消帯に文様が分断されている。底部から2cmほどは無文である。	砂粒・長石・ スコリア 橙色 普通	P8 10% SK-1017 覆土上層 (加曾利EⅡ)
		C 7.5			
第522図 1	深鉢形土器 縄文土器	B (18.3)	底部から口縁部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して立ち上がる。単節縄文LRが粗く施文されているが、施文方向に規則性は見られない。底部から6cmほどは無文である。	砂粒 にぶい褐色 普通	P9 20% SK-1032 覆土中層 (加曾利EⅡ)
		C 7.3			
2	深鉢形土器 縄文土器	B (6.3)	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して立ち上がる。斜め回転の単節縄文LRが地文で、文様を分断する沈線区画の磨消帯が垂下し、底部から1cmほどは磨り消されている。	砂粒 橙色 普通	P11 10% SK-1032 覆土 (加曾利EⅡ)
		C 7.3			
第523図 3	深鉢形土器 縄文土器	B (11.3) C 8.0	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して立ち上がる。斜め回転の単節縄文LRが地文で、2列あるいは3列1組の平行沈線が垂下し、沈線間は磨り消されている。底部から2cmほどは無文である。	砂粒・長石・雲母・ スコリア 橙色 普通	P10 15% SK-1032 覆土中層 (加曾利EⅡ)

④ その他の土坑

ここでは、遺構平面図を掲載しなかった第1034号土坑出土の縄文土器底部片の実測図及び第1043号土坑出土の古銭の拓影図と観察表を掲載する。



第524図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図

その他の土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第524図 1	深鉢形土器 縄文土器	B (6.8) C 6.4	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して立ち上がる。縦位回転の単節縄文LRが地文で、文様を分断する沈線区画の磨消帯が垂下し、底部から2cmほどは磨り消されている。	砂粒・長石 明褐色 普通	P12 20% SK-1034 覆土上層 (加曾利EⅡ)

図版番号	器種	計測値		初 鑄 年		出土地点	備 考
		直径 (cm)	重量 (g)	時 代	年 号		
第524図 2	文久永寶	2.8	3.9	江 戸	1863	SK-1043 覆土	M1

表9 前田村遺跡E区土坑一覽表

土坑 番号	位置	長径(軸) 方 向	平 面 形	長径×短径 (m)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	P	分 類	時 期	出 土 遺 物	備 考 ※重複関係(新→旧)
902	I20ae	N-61°-W	楕円形	1.00×[0.85]	31	緩斜	平坦	自然		B I b1			
903	H20es	N-74°-W	不整楕円形	1.76×1.45	36	外傾	平坦	人為		B II b1		獸骨(馬)	
904	H19fo	N-74°-W	楕円形	1.30×1.01	54	外傾	平坦	自然		B II b2			
905	H19fo	N-66°-W	楕円形	2.15×1.92	53	外傾	平坦	自然		B II b2			
906	H19fs	N-4°-W	円形	0.96×0.95	20	外傾	平坦	自然		A II a1			
907A	H20fz	N-2°-W	不整円形	0.80×0.79	22	外傾	皿状	自然		A II a1			SK-907B不明
907B	H20f1	N-60°-W	楕円形	0.79×0.58	10	外傾	平坦	自然		B II a1			SK-907A不明
908	H20j4	N-72°-W	不整円形	1.93×[1.88]	20	外傾	平坦			A II b1			SE-2→本跡
909	H19eo	N-48°-W	円形	[2.82]×2.74	38	外傾	平坦	自然	4	A II c1	加善利 E	縄文土器	SD-36→本跡
910	H20e1	N-88°-W	楕円形	3.43×2.73	30	外傾	皿状	自然		B II c1	加善利 E I ~ II	縄文土器	
911	H19eo	N-36°-W	楕円形	2.48×2.15	24	外傾	平坦	自然	1	B II c1	加善利 E	縄文土器	SD-36→本跡
912	H19g7	N-85°-W	不整楕円形	3.29×2.86	26	外傾	平坦	人為	2	B II c1	加善利 E	縄文土器	
913	H19d7	N-57°-E	不整楕円形	2.25×1.82	53	外傾	平坦	人為	1	B II c2	加善利 E	縄文土器	SD-37→本跡
914	H19fa	N-26°-E	楕円形	2.60×2.05	51	外傾	平坦	自然	6	B II c2	加善利 E III	縄文土器	SD-27→本跡
915	H19do	N-85°-W	卵形	3.63×2.74	15	緩斜	平坦	自然	3	B I c1	加善利 E II ~ III	縄文土器	
916	H19go	N-47°-E	不整楕円形	3.54×2.76	78	外傾	平坦	人為	4	B II c2	加善利 E III	縄文土器	SD-27→本跡
917	H19g9	N-56°-W	円形	2.75×2.52	32	外傾	平坦	自然		A II c1			
919	H20fz	N-30°-E	円形	0.75×0.71	18	緩斜	平坦			A I a1			
920	H19e7	N-19°-E	不整楕円形	[1.72]×1.32	22	外傾	平坦	自然	1	B II b1			
921	H20fz	N-56°-W	卵形	2.60×2.36	26	外傾	平坦	自然	1	B II c1			SD-35→本跡
923	H19b4	N-53°-W	楕円形	2.05×1.75	31	外傾	凸凹	自然		B II c1	中期		
925	H19cs	N-27°-E	楕円形	1.22×1.04	72	外傾	平坦	人為		B II b2			SD-38→本跡
930	H19ge	N-17°-W	楕円形	0.91×0.78	28	外傾	平坦	自然		B II a1			
962	H19e1	N-46°-W	円形	1.06×0.97	16	緩斜	凸凹	自然	1	A I b1			
963	H18eo	N-64°-W	不定形	2.76×1.23	21	緩斜	凸凹	自然		D I c1	中期	縄文土器	
964	H19gs	N-44°-W	[楕円形]	[1.81]×1.19	19	緩斜	凸凹	自然	1	B I b1	加善利 E	縄文土器	SK-973不明
966	H19g2	N-50°-W	円形	0.80×0.74	43	外傾	皿状	自然		A II a1			
968	H18eo	N-69°-W	楕円形	1.40×1.11	12	外傾	平坦	自然		B II b1	加善利 E	縄文土器	
971	H19ds	N-73°-W	不整楕円形	2.05×1.45	27	外傾	平坦		1	B II c1			
973	H19g5	[N-0°]	[不整長方形]	[2.61]×1.72	27	緩斜	平坦	自然	1	C I c1	加善利 E I ~ III	縄文土器	SD-39→本跡, SK-964不明
974	H18io	N-75°-W	[楕円形]	1.87×[1.27]	42	緩斜	平坦	自然		B I b1			SK-996不明
975	H19f1	N-25°-E	円形	1.70×1.55	22	緩斜	皿状	自然	1	A I b1	加善利 E III	縄文土器	SD-40不明
976	H19i1	N-19°-W	円形	1.52×1.40	38	外傾	平坦	自然		A II b1	中期	縄文土器	
977	H19g3	N-30°-E	[卵形]	[1.15]×1.12	50	外傾	皿状	人為	1	B II b2	中期	縄文土器	SK-1006不明
978	H19h3	[N-76°-W]	[楕円形]	[1.75]×1.38	25	外傾	平坦	自然		B II b1	加善利 E	縄文土器	SK-1007不明
979B	H19es	N-81°-W	卵形	1.50×1.46	57	外傾	平坦			B II b2			SK-979A→本跡
980	H19i3	N-6°-W	不定形	0.83×0.74	15	外傾	凸凹		3	D II a1			
981	H19i3	N-16°-W	楕円形	0.78×0.65	27	外傾	皿状			B II a1			
982	H19g4	N-35°-E	不整長方形	1.32×0.65	15	外傾	平坦	自然	2	C II b1	中期	縄文土器	
983	H19j2	N-63°-E	楕円形	1.92×1.62	44	外傾	平坦	自然		B II b1	加善利 E III	縄文土器	本跡→SK-986, SK-1029不明
984	H18co	N-47°-W	[長方形]	[1.99]×0.90	82	垂直	平坦	人為		C III c2			SD-38→本跡
985	H18fo	N-46°-W	楕円形	2.54×1.03	20	外傾	平坦	自然	3	C II c1			
986	H19i2	N-42°-E	楕円形	[3.46]×2.92	12	外傾	平坦	自然	5	B II c1	加善利 E	縄文土器	SK-983→本跡
988	H19f3	N-56°-W	不定形	2.21×[1.63]	21	外傾	平坦	自然		D II c1	中期	縄文土器	SK-987→本跡
989	H19h1	N-15°-E	楕円形	2.64×2.13	52	外傾	平坦	人為	1	B II c1	加善利 E III	縄文土器	

土坑 番号	位置	長径(軸) 方向	平面形	長径×短径 (m)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	P	分類	時期	出土遺物	備考 ※重複関係(新→旧)
990	H19h2	N-30°-E	不整楕円形	3.06×2.55	65	垂直	平坦	自然	2	B II c2	加曾利 E III	縄文土器	
991	H18h0	N-25°-W	楕円形	1.84×1.69	69	外傾	平坦	自然		B II b2	加曾利 E II ~ III	縄文土器	
992	H18g9	(N-52°-W)	[楕円形]	(3.05×1.93)	38	緩斜	凸凹	自然	5	B I c1	加曾利 E II	縄文土器	
993	H19j1	N-74°-E	[楕円形]	[2.42]×1.96	31	外傾	皿状	自然		B II c1	中期	縄文土器	本跡→SK-994
994	H19j2	N-48°-E	[楕円形]	[2.06×1.84]	35	外傾	皿状	自然	1	B II c1	加曾利 E	縄文土器	SK-993→本跡, SK-1029不明
996	H18i0	N-74°-W	楕円形	[2.01]×1.56	65	外傾	平坦	自然	2	B II c2	加曾利 E III	縄文土器	SK-974不明
998	H18i0	N-14°-W	楕円形	2.05×1.72	52	外傾	平坦	自然		B II c2			
999	I19a3	N-86°-W	[卵形]	[1.43×1.26]	31	外傾	平坦	自然		B II b1			本跡→SK-1000
1000	I19a2	N-3°-E	[楕円形]	1.85×[1.45]	30	外傾	平坦	自然		B II b1	加曾利 E	縄文土器	SK-995・999→本跡
1001	H19j4	N-71°-W	隅丸長方形	1.82×1.23	73	外傾	凸凹	人為		C II b2	加曾利 E	縄文土器	
1002	H19j4	N-69°-W	不定形	2.86×1.56	67	外傾	平坦	人為		D II c2	加曾利 E	縄文土器	本跡→SI-220, SK-1024不明
1003	H19i3	N-86°-W	不整楕円形	2.26×1.67	36	外傾	平坦	自然		B II c1	加曾利 E	縄文土器	本跡→SI-221
1004	I19a4	N-62°-W	楕円形	2.45×2.17	37	緩斜	凸凹	自然		B I c1	加曾利 E	縄文土器	
1005	I19b3	N-25°-W	卵形	1.94×1.82	37	外傾	平坦	自然	2	B II b1	加曾利 E	縄文土器	
1006	H19g3	N-57°-W	[楕円形]	1.28×[1.15]	33	外傾	皿状	自然		B II b1			SK-977不明
1007	H19h3	N-64°-W	円形	1.68×1.62	81	外傾	平坦	自然		A II b2	中期	縄文土器	SK-978不明
1011	I19a2	N-64°-W	[楕円形]	[1.60]×1.09	23	緩斜	平坦	自然	1	B I b1	中期	縄文土器	SK-1015不明
1012	I19b2	(N-16°-W)	[円形]	[1.90]×1.80	36	緩斜	皿状	自然	1	A I b1	加曾利 E II ~ III	縄文土器	SK-1013→本跡
1013	I19b2	N-20°-W	楕円形	2.75×2.15	75	外傾	平坦	人為	3	B II c2	加曾利 E II ~ III	縄文土器	本跡→SK-1012
1014	I18j2	N-18°-W	楕円形	1.74×1.41	124	外傾	平坦	人為		B II b3			
1015	I19a2	N-22°-E	楕円形	3.05×2.11	105	外傾	平坦	自然		B II c3	加曾利 E	縄文土器	SK-1016→本跡, SK-1011不明
1016	I19a1	N-85°-E	楕円形	1.30×1.02	25	外傾	平坦	自然		B II b1		縄文土器	本跡→SK-1015
1017	I19b5	N-26°-W	楕円形	3.06×2.53	75	外傾	平坦	自然		B II c2	加曾利 E III	縄文土器	本跡→SK-1033
1020	I19b4	N-36°-W	卵形	1.75×1.35	46	外傾	平坦	自然		B II b1	加曾利 E II	縄文土器	
1021	H18i9	(N-84°-E)	[円形]	[1.78]×1.65	88	外傾	平坦	人為		A II b2	加曾利 E III	縄文土器	SK-1026不明
1023	H19h4	N-2°-W	[楕円形]	[1.96]×1.68	23	外傾	平坦	自然	2	B II b1	中期	縄文土器	本跡→SI-220
1024	H19j5	N-28°-W	不整楕円形	3.02×2.26	34	緩斜	段差	自然	3	B I c1	中期	縄文土器	SK-1002不明
1025	H18a0	N-21°-W	不整長方形	1.36×0.82	11	緩斜	凸凹	自然	5	C I b1			
1026	H18i9	N-39°-W	楕円形	[1.39]×1.16	23	外傾	平坦	自然		B II b1	加曾利 E	縄文土器	SK-1021不明
1027	H18i9	N-67°-E	不整楕円形	2.63×2.13	25	外傾	平坦	自然	3	B II c1	加曾利 E I ~ II	縄文土器	
1028	H19j2	N-87°-E	[楕円形]	[1.96×1.16]	15	外傾	平坦	自然		B II b1			本跡→SI-221
1029	H19j2	N-78°-W	[楕円形]	2.54×[1.50]	48	外傾	平坦	自然		B II c1	加曾利 E II ~ III	縄文土器	SK-983・994不明
1030	H19a1	N-28°-W	[楕円形]	[1.74]×1.34	22	外傾	平坦	自然		B II b1			本跡→SK-1015
1032	I19a3	N-14°-W	楕円形	2.97×2.55	102	外傾	平坦	自然	5	B II c3	加曾利 E II	縄文土器	
1033	I19b4			2.23×(1.25)	40	外傾	平坦	自然		II c1	加曾利 E II ~ III	縄文土器	SK-1017→本跡
1034	I19c4	N-70°-W	不定形	2.69×2.59	45	外傾	平坦	自然		D II c1	加曾利 E II	縄文土器	SI-223不明
1035	I19c5	N-48°-W	不整楕円形	1.74×1.21	27	外傾	平坦	自然		B II b1	加曾利 E I	縄文土器	SI-223不明
1036	I19c5	N-14°-E	円形	2.55×2.42	45	外傾	皿状	自然	1	A II c1	加曾利 E III	縄文土器	北部に不定形のビット状の落ち込み
1039	I19d5	N-55°-W	不定形	1.91×0.95	27	外傾	平坦	自然		A II a1			
1042	H18f9	N-65°-W	(不整長方形)	(1.20)×0.74	35	緩斜	平坦	自然		C I b1			
1043	H20j5	N-3°-W	楕円形	1.66×1.32	33	緩斜	平坦	自然		B I b1		縄文土器, 古銭	

(5) 溝

E区では15条の溝を検出した。ほとんどの溝が掘り込みが浅く、遺物も極少量で、時期や性格等は不明である。ここでは形状に特徴が見られる1条についてのみ記述し、その他は一覧表に記載する。

なお、各溝の断面図はここで掲載するが、配置や全体の形状については付図を参照されたい。

第38号溝 (付図・第525図)

位置 調査区の北西部, H19b5~H18c0区。

重複関係 本跡は、第925号、969号及び984号土坑を掘り込んでいる。第27号溝と重複するが、新旧関係は不明である。

規模と形状 上幅1.6~2.3m, 下幅0.1~0.4mで、深さ50~77cm, 全長(35.3)mである。薬研掘りで、断面は「V」字状をしている。北東部(H15c5区付近)は中央に高まりがあり、断面形は「W」字状を呈する。方向 H15b5区から南(N-168°-W)へ直線的に延び、H19e4区ではほぼ直角に曲がって西方向に延び、H19d1区でクランク状に曲がった後、さらに西方向に延びている。

覆土 5層からなる。2層にロームブロックを多量含む。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック中量, 炭化物・ローム中ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
- 5 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック中量, ローム中ブロック少量

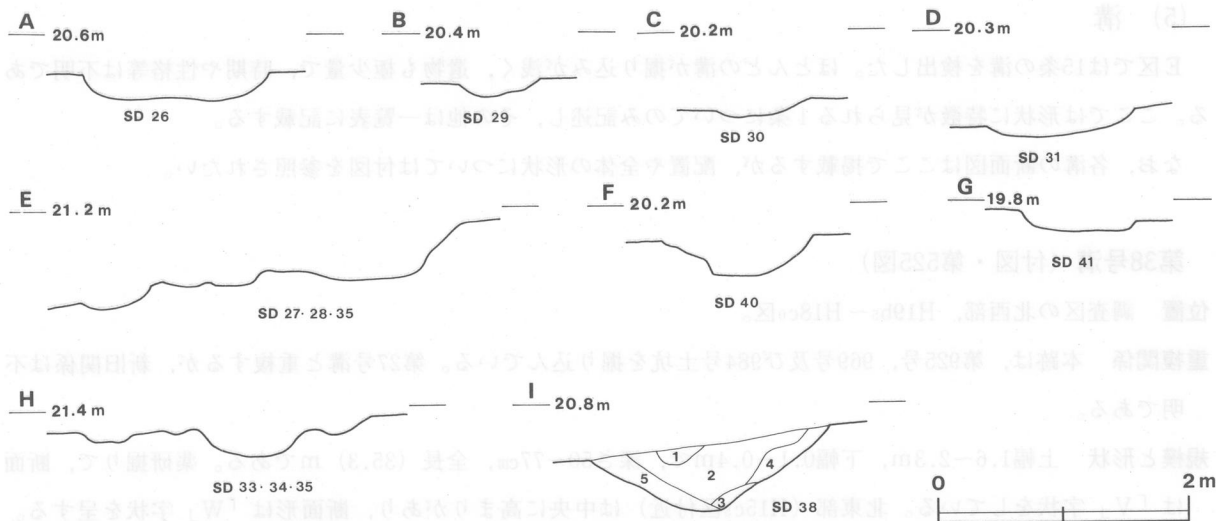
遺物 覆土中から極少量の縄文土器片と第526図1の磁器, 2の須恵器及び3の磨製石斧が出土している。

第526図2は須恵器片の拓影図である。器面に細かな平行敲きが見られる。

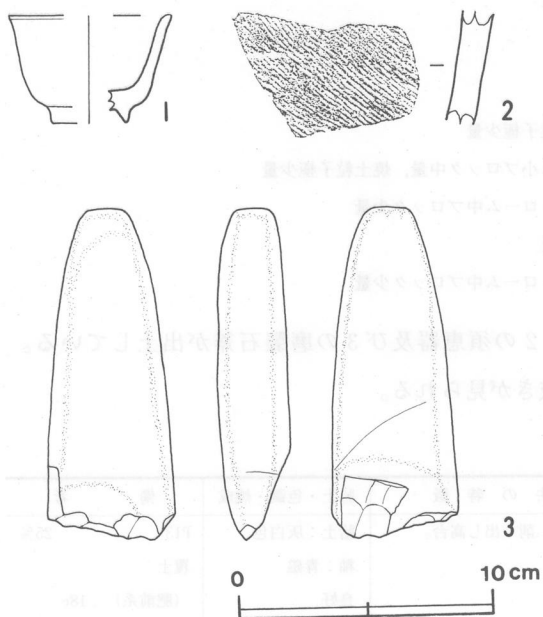
第38号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
第526図 1	碗 磁器	A〔6.4〕 B 4.3 D〔3.0〕 E 0.7	底部から口縁部にかけての破片。 高台は直立し、体部は外傾して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	ロクロ成形。削り出し高台。	胎土：灰白色 釉：青磁 良好	P13 25% 覆土 (肥前系) 18c	
図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第526図3	磨製石斧	(13.0)	5.1	2.9	(291.1)	砂岩	Q6 刃部欠損 覆土

所見 遺物は流れ込みと思われるものが極少量出土しているだけで、時期や性格は不明である。本跡は、E区に見られる他の溝と異なり、薬研掘りの深い溝でクランク状を呈している。本跡の西部はさらにF区に延びている。



第525図 溝土層・断面実測図



第526図 溝出土遺物実測・拓影図

表10 前田村遺跡E区溝一覧表

溝番号	位置	方向	形状	規模				壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 ※重複関係(新→旧)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	最深(cm)					
26	H20g8~120c9	北→南	直線状	25.0	1.3~2.5	0.8~2.1	22	外傾	平坦	自然		
27	H19d5~120c6	西→東→南→東→南	クランク状	70.9	0.6~1.5	0.2~0.8	38	緩斜	平坦	自然		本跡→SD-28・33~35, SK-912・914・916・922・924・979, SD-38不明, 部分的に底面皿状
28	H20i3~120c6	西→東→南	L字状	28.3	0.6~1.1	0.2~0.5	16	緩斜	平坦	自然		SD-27→本跡, SD-33と接続か
29	120a6~120c6	北→南	直線状	8.2	0.4~0.9	0.3~0.6	10	緩斜	皿状	自然		SK-902不明
30	120b5~120c5	北→南	直線状	6.6	0.5~0.8	0.3~0.5	10	緩斜	平坦	自然		
31	120a3~120c5	西→東→南	L字状	12.1	0.5~1.2	0.3~0.9	11	緩斜	平坦	自然		
33	H20e3~H20h3	北→南	直線状	12.9	0.8~1.1	0.2~0.3	25	緩斜	皿状	自然		SD-27→本跡, SD-28と接続か
34	H20e4~H20h3	北→南	直線状	12.7	0.3~0.6	0.1~0.2	16	緩斜	皿状	自然		SD-27・33→本跡
35	H20f3~H20i3	北→南→東	L字状	23.2	0.4~1.0	0.2~0.7	10	緩斜	平坦	自然		SD-27→本跡→SK-921
36	H19d7~H20e1	西→東	直線状	16.4	1.0~3.0	0.8~2.2	27	外傾	平坦	自然	縄文土器	SD-37→本跡→SK-909・911
37	H19c6~H19e3	西→東→南	L字状	10.2	1.0~2.9	0.8~2.2	24	外傾	平坦	自然	縄文土器	本跡→SD-36, SK-913・920・922
39	H19g4~H19h3	西→東	直線状	9.1	0.9~2.9	0.5~2.6	10	外傾	平坦	自然		本跡→SK-973, SK-965不明
40	H19g1~H18j0	北→南	直線状	8.7	0.6~1.3	0.4~0.9	31	緩斜	平坦	自然		SK-974・975不明
41	119d3~119d5	西→東	僅かに蛇行	11.1	0.6~1.3	0.4~0.8	15	外傾	平坦	自然		

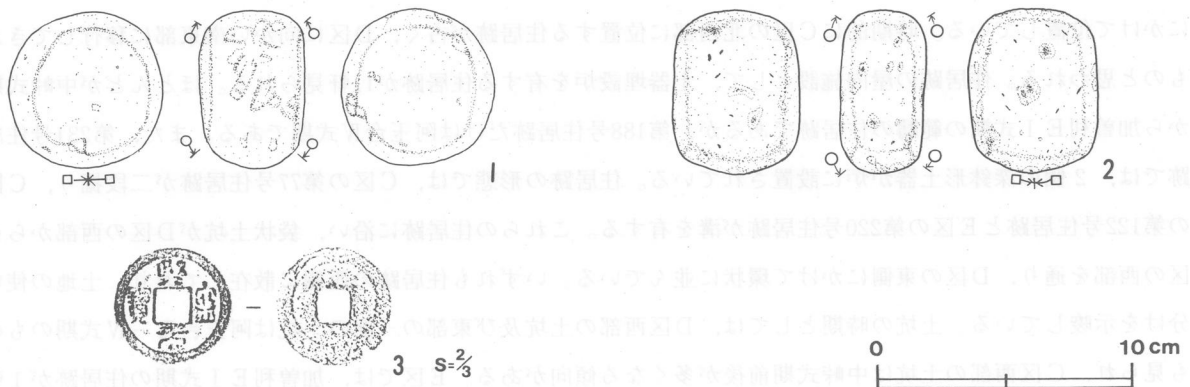
(6) 遺構外出土遺物

E区からも、直接遺構に伴わない土器片、石製品及び古銭が出土している。しかし、土器片は極少量でいずれも細片であり、ここでは石器2点の実測図と古銭1点の拓影図及びその観察表を掲載する。

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第527図1	磨石	6.2	6.0	4.1	253.5	安山岩	Q7 敲石兼用 表採
	磨石	6.5	5.2	3.5	180.4	安山岩	Q8 敲石兼用 表採

図版番号	器種	計測値		初鑄年		出土地点	備考
		直径(cm)	重量(g)	時代	年号		
第527図3	熙寧元寶	2.4	3.2	北宋	1068	表採	M2



第527図 遺構外出土遺物実測・拓影図

第4節 まとめ

当遺跡の調査により明らかになった遺構は、竪穴住居跡170軒（C区-84, D区-82, E区-4）,地下式竈7基（C区-4, D区-1, E区-2）,井戸3基（D区-1, E区-2）,土坑873基（C区-437, D区-330, E区-106）,溝23条（C区-8, E区-15）である。これらの遺構は、縄文時代中期から晩期にかけてのものと、中・近世のものがほとんどであるが、ここでは該当する時代の概要を述べ、まとめとしたい。

旧石器時代

旧石器時代の遺構及び遺物集中地点は確認されなかったが、D区東部の第1146号土坑から黒曜石製のナイフ形石器、第1098号土坑から頁岩製の彫器と見られる石器が出土している。いずれも覆土上層から出土しており、流れ込みと思われる。

縄文時代

当遺跡の中心となる時期で、遺物は縄文時代前期から晩期にかけて、遺構は縄文時代中期から晩期にかけて検出されている。前期の遺物はC区で黒浜式の土器片が、D区で浮島式の土器片が各1点出土しているだけで、この時期に該当する遺構は見られない。集落が営まれたのは中期中葉以降で、大きく6期に区分することができる。

I期 中期中葉前後 26軒（C区-18, D区-7, E区-1）

II期 中期後葉前後 69軒（C区-30, D区-36, E区-3）

III期 後期前葉前後 22軒（C区-13, D区-9）

IV期 後期中葉前後 3軒（D区-3）

V期 後期後葉前後 13軒（D区-13）

VI期 晩期前葉前後 6軒（D区-6）

※ 時期特定困難なものは除く。

I期（阿玉台式期～加曾利E I 式期）

該期の住居跡は26軒である。阿玉台式期はII式期1軒、III式期2軒、IV式期2軒の5軒だけであり、圧倒的に中峠式期以降の住居跡が多い。C区の北西部から中央部にかけてまとまりが1か所みられ、D区では西部に6軒、東部に2軒当該期の住居跡が散在しているが、中央部には見られない。阿玉台式期の住居跡の配列に位置的な規則性は見られないが、中峠式期から加曾利E I 式期の住居跡は、D区の窪地から見て北側から北東側にかけて位置している。時期的にC区の北西部に位置する住居跡が古く、D区に向かい南東部に移行してきたものと思われる。住居跡の屋内施設として、土器埋設炉を有する住居跡が11軒見られる。ほとんどが中峠式期から加曾利E I 式期の範疇の住居跡であるが、第188号住居跡だけは阿玉台IV式期である。また、第231号住居跡では、2個の深鉢形土器が炉に設置されている。住居跡の形態では、C区の第77号住居跡が二段掘り、C区の第122号住居跡とE区の第220号住居跡が溝を有する。これらの住居跡に沿い、袋状土坑がD区の西部からC区の西部を通り、D区の東側にかけて環状に並んでいる。いずれも住居跡の西側に散在しており、土地の使い分けを示唆している。土坑の時期としては、D区西部の土坑及び東部の一部の土坑は阿玉台III～IV式期のものも見られ、C区西部の土坑は中峠式期前後が多くなる傾向がある。E区では、加曾利E I 式期の住居跡が1軒検出されたが、D区の東部から未調査区を弧状に南下し、E区に伸びる可能性をうかがわせている。

Ⅱ期（加曽利EⅡ～Ⅳ式期）

該期の住居跡は69軒で、最も数が多い。C、D、E区に散在しており、D区の中央部の窪地を囲むように環状に住居跡が配列し、未調査区を挟んでE区まで達していると思われる。時期的には加曽利EⅢ式期の住居跡が最も多く、31軒である。次に加曽利EⅡ式期11軒、加曽利EⅣ式期8軒となっている。このほか、加曽利EⅠ～Ⅱ式期が5軒、加曽利EⅡ～Ⅲ式期が2軒、加曽利EⅢ～Ⅵ式期が4軒、時期の特定できない中期後半が8軒含まれている。加曽利EⅡ式期前後の住居跡は、D区の未調査部分を挟んでD区の中央部から東部にかけての北側とC区の中央部南側に点在しており、D区の窪地からは北東側に広がっている。加曽利EⅢ式期前後の住居跡は、D区の未調査部分が不明であるが、D区の窪地を囲んで環状に点在していると思われる。加曽利EⅢ式期の住居跡は、平成4年度調査のA区からも検出されており、A、C、D区にこの時代の集落が継続的に存在したと思われる。加曽利EⅣ式期の住居跡はC区の中央部やや西側にまとまって検出されているが、軒数的には加曽利EⅢ式期ほどの隆盛は見られない。住居跡の形態で特徴が見られるのは、C区の第76号住居跡、D区の第208号住居跡が壁溝を有していることである。また、炉の形態としては石囲い炉が2軒、土器片囲い炉が3軒、土器埋設炉が8軒、土器片囲い土器埋設炉が1軒、土器片石囲い炉が1軒、石囲い土器埋設炉が1軒見られる。土坑はこの時期になると袋状の形態が見られなくなり、円筒状に掘り込んで小ピットを有するものが多くなる。また、D区中央部からは加曽利EⅡ式期頃の人骨が出土していることから、この周辺に形態の似た土坑や人骨片を伴う土坑があることを考えると、墓域を形成していた可能性がある。位置的にはD区の窪地の北側で、加曽利EⅡ～Ⅲ式期の住居跡の南側にあたり、窪地に傾斜する境にまとまって見られる。

Ⅲ期（称名寺式期～堀之内式期）

該期の住居跡は22軒である。C区中央部やや西側のD区寄りに13軒、D区北西部に9軒まとまっている。D区の住居跡は称名寺式期から堀之内式期にかけてのものが多く、C区はすべて堀之内式期である。D区の住居跡が先行し、北東部に移行していったと思われる。C区の第62号、74B号、75号住居跡は柄鏡形住居である。また、C区の第75号住居跡とD区の第100号住居跡に土器埋設炉、同じくD区の第99号、187号住居跡に埋設土器が見られる。この時期のC区の住居跡の炉は、ほとんどがローム面と同レベルで確認されている。住居を構築する際、ローム面から下にはあまり掘り込まず、床をロームの上面付近の高さに作っていたと思われる。そのため壁の立ち上がりがとらえにくく、平面形のはっきりしないものが見られる。

Ⅳ期（加曽利B式期）

この時期の住居跡は、窪地を囲むように3軒が点在しているだけである。遺物も他の時期に比較して希薄であり、当遺跡での人々の活動がやや沈静化した時期と思われる。

Ⅴ期（曾谷式期～安行Ⅱ式期）

該期の住居跡は13軒である。再び集落が営まれるが、中期ほど拡散しない。窪地を囲むように、D区の北東部から北西部にコンパクトにまとまっている。第108号住居跡がこの時期の住居跡としては残りが良く、炉はローム面に構築されており、壁の立ち上がりもとらえることができた。しかし、他の住居跡は掘り込みが浅く、黒色土で止められているものが多い。遺物は異形土製品や土偶など祭祀に用いられたと思われるものも多く、108号住居跡からは異形台付土器がほぼ完全な形で出土している。土坑は、この時期から規模が径1m前後、深さ150cmほどの円筒状のものが目立つようになる。これらの土坑は、廃絶されたあと、廃棄遺物の投棄場所的な性格をもちながら埋没していったと思われ、覆土からは土器片に混じって獣骨片や貝、灰等が出土している。

Ⅵ期（安行Ⅲa～Ⅲb）

該期の住居跡は6軒である。これらは、D区の窪地の北側から北西部にかけてまとまっている。掘り込みはさらに浅く、壁の立ち上がりをとらえられないものがほとんどである。この時期の土坑の中でも、Ⅴ期に出現した円筒状の土坑はさらに深くなり、200cmを越えるものも数基見られる。これらの土坑も窪地を囲むように弧状に位置しているが、配列や間隔に規則性は見られない。また、この時期の第767号土坑からは、埋葬された胎児の遺体1個体分が出土している。このⅥ期をもって、C、D、E区における人々の活動の痕跡は見られなくなり、中世まで空白の期間となる。

最後に若干の付け加えをして縄文時代をまとめたい。D区の中央部からはおびただしい数の獣骨片と貝、魚骨片が出土している。これらの獣骨、貝、魚骨等は、前田村遺跡に集落跡が構成されたすべての時期に見られ、土坑等に廃棄されたものが多く、灰混じりの覆土から出土している。獣骨は、イノシシ、シカのほか、タヌキ、キツネ、ウサギ等の小型獣も見られる。出土した骨片には鳥類も含まれており、前田村遺跡の縄文時代に、これらの動物が食用とされていたことがうかがわれる。しかし、獣骨の出土が著しいのはD区に限られ、C区からは貝が少量、E区からは古代以降の馬骨が出土しているだけである。

中世

中世の遺物はほとんど出土していないが、形態から中世と思われる遺構が検出されている。C区の西端部及びD区の北西端部からは地下式墳が検出されている。また、C区の地下式墳の付近からは方形竪穴状遺構が検出されており、地下式墳とセットと考えられる。

E区からも地下式墳と方形竪穴状遺構のほかに、中世の墓墳に形態が類似している長方形の土坑が西部から検出されている。人骨が出土していないため根拠には欠けるが、中世の墓域がE区西部から、西側に隣接する平成6年度調査のF区にかけて形成されていた可能性を示唆していると思われる。また、E区北西部からは、F区に延びている薬研掘りのクランク状の溝も検出されている。これらE区の地下式墳と関連すると思われる他の遺構の性格については、F区の調査成果が報告されることによりさらに明らかになることと思われる。

近世

近世の遺構と思われるのはC区で検出された粘土張り遺構群である。C区の東端部と中央部やや東側に集中しており、これらは平成4年度調査のA区に点在した粘土張り遺構と形状や確認状況が酷似しており、同性格のものと思われる。

これらの粘土張り遺構は全部で18基検出されている。そのうち第362号、363号、364号土坑は1グループとして、第639号と666号土坑、第675号と685号土坑、第657号と658号土坑、第653号と654号土坑、第603号と605号土坑、第688号と689号土坑はそれぞれ対になって検出されていることから、これらは家族または親族単位の墓であった可能性が考えられる。この対になった第639号、666号、675号、685号、657号、658号、653号、654号土坑の8基は近接しており、大きなグループとしてとらえることもできる。また、第603号、605号、688号、689号土坑の4基も近接しており、同様の見方ができる。遺物は第654号、657号、675号、688号、689号土坑から陶磁器や土師質土器、煙管、砥石等が出土しており、副葬品と考えられる。

また、第369号、574号土坑は単独で検出されたが、副葬品と思われる染付の椀が第369号土坑から、染付の皿が第574号土坑から出土しており、墓墳と判断した。

このほか単独で検出され、副葬品と思われる遺物がなく、規模的にも小形のものは墓墳とは区別し「流し溜」

と判断した。

参考文献

- ・茨城県教育財団 『伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 西ノ脇遺跡 前田村遺跡』 「茨城県教育財団文化財調査報告第87集」 1994年3月
- ・茨城県教育財団 『茨城県自然博物館（仮称）建設用地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 高崎貝塚』 「茨城県教育財団調査報告第88集」 1994年3月
- ・茨城県教育財団 『水海道都市計画事業・小絹土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書3 大谷津A遺跡』 「茨城県教育財団文化財調査報告第28集」 1985年3月
- ・茨城県教育財団 『水海道都市計画事業・小絹土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書1 大谷津B遺跡』 「茨城県教育財団文化財調査報告第18集」 1983年3月
- ・茨城県教育財団 『水海道都市計画事業・小絹土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2 筒戸A・B遺跡』 「茨城県教育財団調査報告第24集」 1984年3月
- ・茨城県教育財団 『一般県道西小埜真岡線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 裏山遺跡』 「茨城県教育財団文化財調査報告第73集」 1992年3月
- ・茨城県教育財団 『竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書16 南三島遺跡3・4区(1)』 「茨城県教育財団調査報告第44集」 1987年3月
- ・茨城県教育財団 『（仮称）北条住宅団地建設工事地内埋蔵文化財調査報告書 中台遺跡』 「茨城県教育財団文化財調査報告第102集」 1995年12月
- ・縄文時代研究班 「関東地方における縄文時代中期の「有段式竪穴遺構」について」 『研究ノート5号』 茨城県教育財団 1996年6月
- ・吉原作平 「粘土張り遺構についての一考察—前田村遺跡の粘土張り遺構を取り上げて—」 『研究ノート3号』 茨城県教育財団 1994年6月
- ・新宿区内藤町遺跡調査会 『内藤町遺跡—放射5号線整備事業に伴う緊急発掘調査報告書—』 1992年3月
- ・東北大学文学部考古学研究会 『縄文時代晩期貝塚の研究2 中沢目貝塚Ⅱ』 1995年7月
- ・財団法人市原市文化財センター 『市原市能満上小貝塚』 「財団法人市原市文化財センター調査報告書第55集」 1995年3月
- ・取手市教育委員会 『取手市史 原始古代（考古）資料編』 1991年3月
- ・市立市川考古博物館 『堀之内貝塚資料図譜』 「市立市川考古博物館研究調査報告 第5冊」 1992年10月



作業風景（遺構確認）



作業風景（掘り込み・実測）

付 章

前田村遺跡出土の動物遺体について

国立歴史民俗博物館考古研究部助教授 西本豊弘

貯蔵穴や住居跡覆土から貝殻や魚骨・獣骨が少量ずつ出土した。それらの中には人骨も混じていた。これらの資料の大部分は縄文時代のものであるが、古代以降の資料も少量含まれている。これまでに判明した種は、表に示したとおりである。

1 貝 類

貝類では、ヤマトシジミがもっとも多く出土した。特に、467号土坑では左右の貝殻を合わせて1690個がまとまって出土した。殻長20～35mmのものが含まれており、そのうち25mm前後のものが多い。イシガイ・マツカサガイ・オオタニシなどの淡水産の貝類の他、アワビ類やハマグリ・シオフキ・サルボウなどの鹹水産貝類が含まれていることが注目される。

2 魚 類

ウナギ・フナ・ボラ・タイ類の4種が見られた。ウナギは、関東地方の川沿いの遺跡ではよく出土する種である。この遺跡での出土量は少ないが、実際には多く利用されていたであろう。フナは、811号土坑の注口土器内から出土したもので、体長数センチメートル程度の小さいフナの骨が1匹分であった。このような小さなフナは、岩井市高崎貝塚でも大量に出土しており、用途が分からない資料であった(注1)。この遺跡で、注口土器の中から出土したことが偶然の結果でないとしたら、フナの用途を示唆するものかもしれない。もう少し類例がほしいものである。タイ類の椎骨は体長40cm程度の大きなタイの椎骨であった。出土層位が①層であり、新しいものの混入の可能性もあるが、保存状態は縄文時代のものとして不自然ではない。ボラとタイ類は、ヤマトシジミの採取時に捕獲したものが、または交易で手に入れたのであろう。

3 哺乳類

シカ・イノシシ・ノウサギ・タヌキ・イヌ・ウマ・ヒトが出土している。この中ではシカとイノシシが主体であるが、大部分が断片的な出土である。しかし、イノシシは1056号土坑で頭蓋骨を含む若いメスの1個体分の骨が出土した。その中で、上腕骨は骨髄を食べるために割られていたが、その破片が接合した。イノシシを捕獲して解体し、食べた後の骨をまとめて捨てたのであろう。捕獲時の解体とその後の骨の処理を示す興味深い例である。ウマは古代以降のものである。

4 人 骨

人骨が土坑から少量出土した。その内、841号土坑は墓墳であり、屈葬人骨が出土した(第1図参照)。この人骨は保存状態が悪く、頭蓋骨・大腿骨・脛骨などの一部が残っただけである。上・下顎骨と歯は比較的よく残っていたが、触れると壊れる状態であった。成人であり、大腿骨が太くたくましいことから男性の可能性が高い。右側第2切歯が左右の歯よりも少し長いことから、右側上顎第2切歯が抜歯されていたかもしれない。

761号と785号・953号土坑でも人骨が出土しており、それらの土坑も墓壙であったかもしれない。なお、953号土坑は中世以降のものである。また、102号・190号住居跡の覆土でも人骨が出土しているが、なぜ人骨が含まれているのか分からない。1066号土坑からは子供の上腕骨が1点出土している。現存長は66mmであり、その大きさから胎児と判断した。

注1 西本豊弘・鶴見貞雄「高崎貝塚57号土壙出土の魚骨・獣骨の問題点」

研究ノート4号 茨城県教育財団 1995年

表 前田村遺跡出土動物遺存体種名表

- a 貝類
 - 巻貝類
 - 1 アワビ類 *Haliotis* sp.
 - 2 オオタニシ *Cipangopaludina japonica*
 - 3 ヒタチチリメンカワニナ *Semisulcospira libertina trachea*
 - 4 カワアイガイ *Cerithideopsisilla djadjariesis*
 - 二枚貝類
 - 5 サルボウガイ *Scapharca subcrenata*
 - 6 マツサカガイ *Inversidens japonensis*
 - 7 イシガイ *Unio douglasiae*
 - 8 ヤマトシジミ *Corbicula japonica*
 - 9 ハマグリ *Meretrix lusoria*
 - 10 シオフキガイ *Mectra veneriformis*
- b 魚骨
 - 1 ウナギ *Anguilla japonica*
 - 2 フナ *Carassius auratus*
 - 3 ボラ *Mugil Cephalus Cephalus*
 - 4 タイ類 *Sparidae* gen
- c 鳥類
 - 1 ガン類 *Anser* sp.
 - 2 カモ類 *Anas* sp.
- d 哺乳類
 - 1 ノウサギ *Lepus brachyurus*
 - 2 タヌキ *Nyctereutes procyonoides viverrinus*
 - 3 イヌ *Canis Familiaris*
 - 4 イノシシ *Sus scrofa leucomystax*
 - 5 シカ *Cervus nippon*
 - 6 ウマ *Equus caballus*
 - 7 ヒト *Homo sapiens sapiens*

骨角器

獣骨に混じって、5点の骨角器が出土した（第1図参照）。1は、鹿角製の鎌である。茎部が長いことから、本来の先端部はもっと長かったのであろう。現存長は54.2mmである。もし実用品であったとすると、鳥用の鎌であろうか。2も同様の鎌であり、先端は尖っていない。鹿角製で、現存長は54.7mmである。3は、断面が丸いことから、針の中間部分であろう。現存長70.5mmで、材質は鹿角と思われる。4は、シカの中手骨または中足骨製のヘラである。切断面はよく研磨されている。基部は少し破損し、先端部は折れている。現存長は100.4mmである。5は、サメの歯に1孔を開けた垂れ飾りである。側縁に鋸歯があり、三角形であることから、ホホジロザメの歯で作ったものであろう。現存長は26.1mmである。

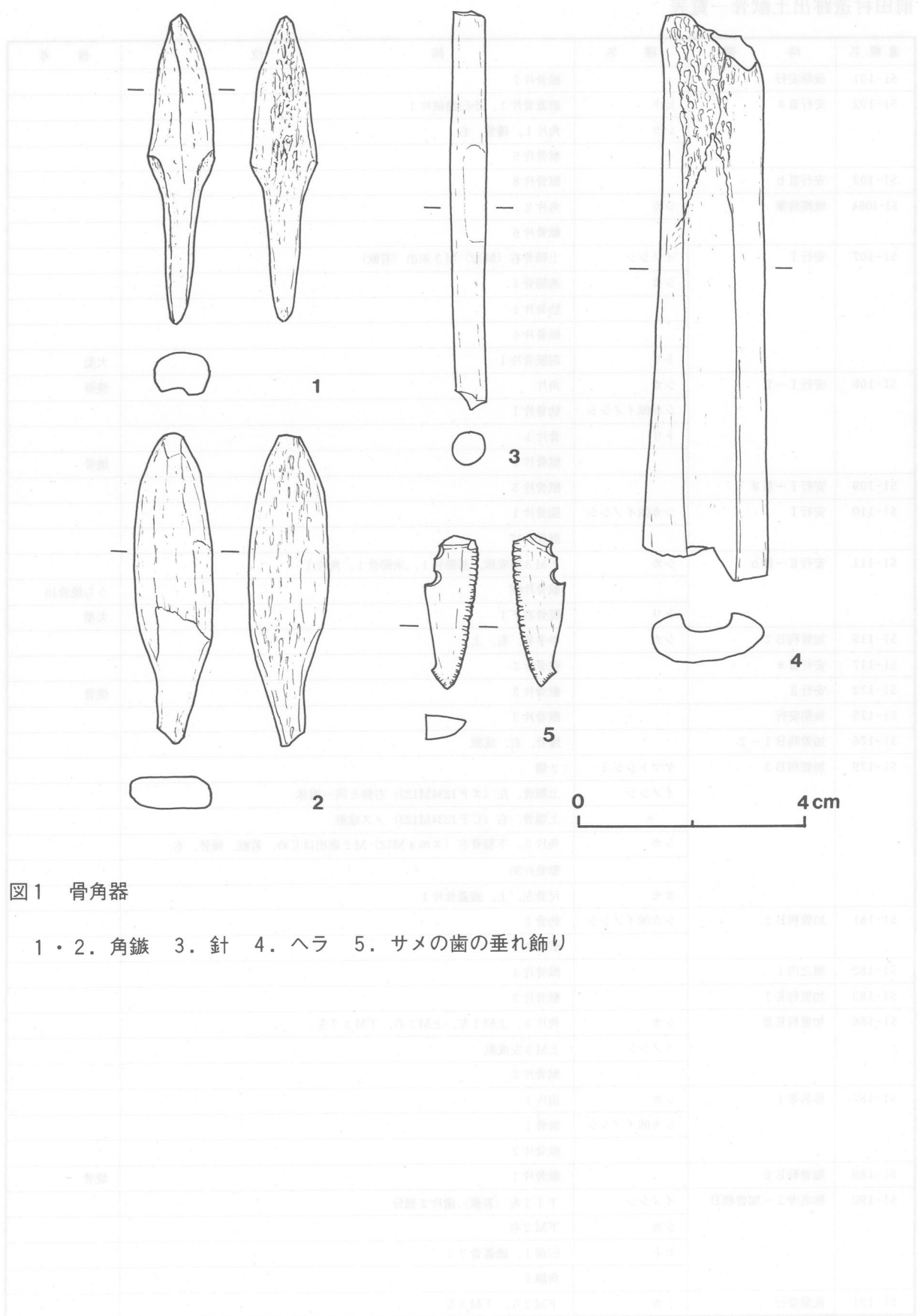


図1 骨角器

1・2. 角鏃 3. 針 4. ヘラ 5. サメの歯の垂れ飾り

前田村遺跡出土獣骨一覽表

遺構名	時期	種名	部位	備考
SI-101	後期安行		獣骨片7	
SI-102	安行Ⅲ a	ヒト	頭蓋骨片1, 小白歯破片1	
		シカ	角片1, 踵骨. 右	
			獣骨片5	
SI-103	安行Ⅲ b		獣骨片8	
SI-106A	晩期前葉	シカ	角片2	
			獣骨片6	
SI-107	安行Ⅰ	イノシシ	上顎骨右 (M12) M3 未出 (若獣)	
		シカ	基節骨1	
			肋骨片1	
			獣骨片6	
	トリ	四肢骨片1	大型	
SI-108	安行Ⅰ～Ⅱ	シカ	角片	焼骨
		シカORイノシシ	肋骨片1	
		トリ	骨片1	
			獣骨片9	焼骨
SI-109	安行Ⅰ～Ⅲ a		獣骨片3	
SI-110	安行Ⅰ	シカORイノシシ	肋骨片1	
			獣骨片17	
SI-111	安行Ⅱ～Ⅲ b	シカ	下M3左成獣, 基節骨1, 末節骨1, 角片1	
			獣骨片68	うち焼骨18
		トリ	脛骨右下1	大型
SI-115	加曾利B 2	シカ	中手骨. 右. 上	
SI-117	安行Ⅲ a		獣骨片7	
SI-172	安行Ⅱ		獣骨片3	焼骨
SI-175	後期安行		獣骨片3	
SI-176	加曾利B 1～2		踵骨. 右. 成獣	
SI-179	加曾利B 3	ヤマトシジミ	2個	
		イノシシ	上顎骨. 左 (x P1234M123) 右側と同一固体	
		〃	上顎骨. 右 (C P1234M123) メス成獣	
		シカ	角片3, 下顎骨右 (x m 4 M12) M2 萌出はじめ. 若獣. 頬骨. 右	
			獣骨片30	
	カモ	尺骨左. 上, 頭蓋骨片1		
SI-181	加曾利B 2	シカORイノシシ	肋骨1	
			獣骨片1	
SI-182	堀之内1		獣骨片1	
SI-183	加曾利E Ⅰ		獣骨片3	
SI-186	加曾利E Ⅲ	シカ	角片1, 上M1左, 上M3右, 下M3?左	
		イノシシ	上M3左成獣	
			獣骨片2	
SI-187	称名寺1	シカ	歯片1	
		シカORイノシシ	椎骨1	
			獣骨片2	
SI-189	加曾利E Ⅱ		獣骨片1	焼骨
SI-190	称名寺2～加曾利B	イノシシ	下I1左 (若獣), 歯片2個分	
		シカ	下M2右	
		ヒト	白歯1, 頭蓋骨?1	
			角鏃1	
SI-191	後期安行	シカ	下M2左, 下M3左	

遺構名	時期	種名	部位	備考
SI-197		フナ	棘破片1	
		サカナ	椎骨3 (小型)	小型壺内
SI-202	加曾利EⅢ		獣骨片2	
SI-204	加曾利B3		獣骨片9	
SI-205	加曾利EⅡ		獣骨片1	
SI-206	加曾利EⅢ		獣骨片3	
SI-207	加曾利EⅡ	シカ	角片1 (切断痕)	
SI-213	加曾利B～安行Ⅰ	イノシシ	下M3左成獣	
			獣骨片3	
SI-218	加曾利EⅢ		粉状骨片1	
SK-209	加曾利E～安行	ウナギ	椎骨2 (大)	台付鉢内
			魚骨小片約50	
SK-291	安行Ⅲa～Ⅲb	アワビ	破片1	
		イシガイ	12個	
		イノシシ	下. M2. 右. 成獣	
		イノシシ	下顎骨. 右. (m34M1)	
		イノシシ	尺骨. 右. 若獣?	
		イノシシ	尺骨. 左. 下. 成獣	
		イノシシ	脛骨. 右. 上. 成獣	
		イノシシ	腓骨. 破片	
		イノシシ	踵骨. 右. 成獣	
		イノシシ	踵骨. 左. 若獣?	
		サカナ	破片1	
		シカ	角? 製品 (破損品, 2条の溝を有する)	
		シカ	基節骨1	
		シカ	末節骨1	
		タニシ類	4個	
		ハマグリ	左殻1	
		マツカサガイ	4個	
ヤマトシジミ	104個			
SK-325	安行Ⅰ～Ⅱ	イノシシ	中手・中足骨片1	
			獣骨片約150片	焼骨
SK-467	中期		獣骨片1	
		ヤマトシジミ	1690個	
		カワアイガイ	3個	
SK-496	後期前葉	イヌ	頭蓋骨1個分, 下顎骨左 (P1～P3部分で, P4・M1のみ歯根残る)	
			寛骨左破片1, 橈骨片1, 齒破片3個分, 椎骨4, 肋骨片10	
SK-546	加曾利EⅣ～堀之内1		粉状骨	
SK-613	中期		獣骨片1	
SK-662	堀之内	オオタニシ	24個	
SK-717	阿玉台Ⅲ～Ⅳ		獣骨片1	
SK-734A	阿玉台Ⅲ		小骨片約100	台付鉢内
SK-736		シカ	大腿骨. 左. 下. 破片1	
		シカ	中足骨破片1	
SK-738	加曾利EⅡ～B2	大型巻貝	破片	アカニシ?
		シカ	角片1, 距骨右1, 末節骨1	
		イノシシ	中手・中足骨片1	
		トリ	尺骨片1	
		ガン	脛骨. 左. 下	ヒシクイと同大
			獣骨片20	

遺構名	時期	種名	部位	備考
SK-740	加曾利E I	イノシシ	踵骨. 左. 下. 成獣	
SK-761	加曾利E IV	イノシシ	下. I 1. 右. 成獣	
		イノシシ	下. I 1 (未出). 右. 若獣	
		イノシシ	下. I 2. 左	
		イノシシ	左. 第4巾節骨	
		イノシシ	上. M 2. 右. 成獣	
		イノシシ	下顎枝左・成獣	
		シカ	基節骨	
		シカ	基節骨1, 中節骨1	
		シカ	尺骨. 右	焼骨
		シカ	後頭部. 成獣 (左側側頭部から頭頂部にかけて人為的に壊されている)	
		タニシ	3個	オオタニシ?
		ヒト	大腿骨. 巾間	
		ヒト	中手OR中足骨	
		ヤマトシジミ	15個	
		中型陸獣	脛骨片1	
			獣骨片30	うち焼骨2
	陸獣肋骨破片1			
	イノシシ	上. I12 (未出). 切歯骨. 右. 若獣		
SK-762	加曾利E IV	イノシシ	下顎骨. 右 (I12)	同一個体
		イノシシ	下顎骨. 左 (I12) 成獣. オス	同一個体
		イノシシ	大腿骨. 右. 下. 成獣	同一個体
		イノシシ	大腿骨. 左. 下. 成獣	同一個体
		イノシシ	腓骨1	
		イノシシ	下顎右側犬歯1. メス. ほぼ成獣	
SK-763	中期		シカ距骨右1, 下顎関節突起右. 獣骨片18	
SK-766	加曾利E IV	イノシシ	中手OR中足骨	
		シカ	角破片4	
		シカ	基節骨1	
		シカ	上. P 3. 左	
		シカ	中節骨1	
		シカ	橈骨. 右. 上. 成獣	
		シカ	脛骨. 左. 下. 成獣	骨端焼
		シカ?	上腕骨. 右. 破片	
			獣骨片12	うち焼骨2
	陸獣肋骨破片1			
SK-767	安行III b	オオタニシ	3個	
		ヤマトシジミ	2個	
		シカ	角片1	
		イノシシ	上I 1左. 上M 3左 (摩滅小)	
			獣骨片11	
		ヒト	胎児一括. 下顎骨 (歯なし). 肩甲骨左・右. 上腕骨左・右 (左側の長さ62.0mm). 橈骨1 (左・右不明). 尺骨右. 大腿骨左・右 (右側の長さ74.7mm). 脛骨1 (左・右不明). 肋骨片13	
SK-769	堀之内	イノシシ	橈骨下右破片1 (若獣)	
SK-773	中期	イノシシ	中手OR中足骨	
		シカ	角破片1	
			獣骨片4	
			陸獣椎骨1	
SK-776	加曾利E IV	イノシシ	上顎骨右 (x x P34M123) メス成獣	

遺構名	時期	種名	部位	備考
SK-781	安行Ⅲ a	イノシシ	上顎骨. 左. (P 1 m234) m 4 不完全	
		イノシシ	中手骨	
		イノシシ	末節骨 1	
		ウサギ	大腿骨. 左. 下. 成獣	
		サカナ	破片 1	
		シカ	角破片 6	うち焼骨 1
		シカ	大腿骨. 左. 上. 成獣	
		タニシ	4 個	
		トリ	破片 1	
		ヤマトシジミ	5 個	
		獣骨片 12	うち焼骨 2	
SK-785	中期	ヒト	頭蓋骨片 (側頭部)	
SK-786	加曾利 E I ~ II	シカ	角破片 1	
		ヒト	臼歯片 2 個分 (成人), ヒト? 四肢骨片 1	
		イノシシ	上顎左側犬歯. ほぼ成獣	
		イノシシ	臼歯片 1	
SK-790	加曾利 E III ~ IV		焼骨小片約 30	
SK-791	加曾利 E III	シカ	中手骨片 1	
SK-793	加曾利 E III ~ 安行		獣骨片 3	
SK-795	加曾利 E III ~ IV	イノシシ	上顎骨. 右 (P1234M123) M 3 ほぼ出	
		イノシシ	上顎骨. 左 (P34M123)	
		イノシシ	頭蓋骨 1 個体分	雄獣
		シカ	下. M1. 右	
SK-796	堀之内	シカ	角片 2, 下顎関節突起右	
		イノシシ	上腕骨. 右. 下. 中手OR中足骨	
		カモ	尺骨右 (ほぼ完存)	中型マガモと同大
			獣骨片 7	
SK-797	中期 ~ 後期	シカ	歯片 1 個分	
SK-801	阿玉台 III ~ IV	タヌキ	下顎骨左・右, 頭蓋骨破片 1	
		シカ	基節骨 1	
		トリ	骨片 1	
		トリ	上腕骨左・右	中型 カモ?
			獣骨片 1	
SK-807	加曾利 E I ~ II	イノシシ	下 M 3 左	未出歯?
SK-810	加曾利 E II	イノシシ	上顎骨 (x P1x) メス成獣	
		シカ	角座部分 (切断品)	
			獣類肋骨 1	
SK-811	安行 I	フナ	鰓蓋骨. 左. 小, 椎骨 15, 咽頭歯 1, 前鰓蓋骨	
				獣骨片 2
SK-814	加曾利 E III		獣骨片 2	
SK-825	堀之内 1	イヌ	下顎骨. 右. 成獣	
		イノシシ	歯	
			獣骨片 3	
			肩甲骨. 右	
SK-837	加曾利 E II		粉状骨	
SK-841	中期	ヒト		墓
		イノシシ	下 M 3 右成獣	
SK-842	中期		獣骨片 10	
SK-845	安行 I		獣骨片 1	
SK-847			獣骨片 7	

遺構名	時期	種名	部位	備考
SK-850		イノシシ	歯1	
			獣骨片15	焼骨15
SK-854	加曾利B1～安行Ⅲ a	シカ	歯破片1	
			獣骨片1	
SK-865	後期中葉～後葉	イノシシ	肩甲骨. 左	焼骨
SK-866	加曾利EⅢ	シカ	橈骨. 右. 下. 成獣	
SK-867	加曾利EⅡ～Ⅲ	?	骨粉	
		イノシシ	下. M3	
SK-871	加曾利E		獣骨片1	
SK-881	後期		乳歯?粉状骨	
SK-886	中期末～後期	イノシシ	上顎骨. ? (P 1 m234M12) M2 不完全メス	
		シカ	基節骨1	
			獣骨片1	
SK-903		ウマ	下. 歯1. 老獣	
		ウマ	下顎骨. 右 (P 234M123) 老獣	
		ウマ	上. 歯8. 老獣	
		ウマ	大腿骨?. 脛骨. 中手OR中足骨	
SK-944		シカ	中手骨上左, 獣骨片1	
SK-947	後期中葉	イノシシ	歯片1, 中手・中足骨片1	
SK-949	安行Ⅲ a	イノシシ	上顎骨. 右 (P 4 M123) M3 不完全メス	
		イノシシ	上顎骨. 左 (C P 24M123) M3 不完全メス	
		イノシシ	下顎骨. 関節突起1. 右. 老獣	
		イノシシ	下顎骨. 関節突起1. 右. 若獣	
		イノシシ	中手OR中足骨2個	
		イノシシ	頭蓋骨1個体分	
			獣骨片40	
SK-950	安行Ⅱ		シカ	上腕骨下右成獣
SK-951	阿玉台Ⅳ～加曾利EⅠ	タニシ	1個	オオタニシ
		ヒタチチリメンカワニナ	1個	
		ヤマトシジミ	8個	
		ボラ	主鰓蓋骨右中型1	
		シカ	角片1, 獣骨片6	
		カモ	中手骨. 右	中小タイプ
SK-953	加曾利E	ヒト	頭蓋骨 (縫合すべて明瞭. 青年?)	
SK-1044	加曾利B・安行Ⅰ	シカ	角. 右	
			獣骨片3	焼け1
SK-1049	〔中期〕	シカ	角片1	
			獣骨片1	
SK-1056	安行Ⅲ a		椎骨破片1	
		イノシシ	下顎骨. 右 (I 123C P 1234M123) M3 不完全メス	同一個体
		イノシシ	下顎骨. 左 (I 12C P 234M123) M3 不完全メス	同一個体
		イノシシ	寛骨1. 右. 成獣	
		イノシシ	寛骨1. 左. 成. 小	
		イノシシ	胸椎4	
		イノシシ	肩甲骨1. 右. 成	
		イノシシ	腰椎3	
		イノシシ	尺骨. 右. 若獣	同一個体
		イノシシ	上腕骨. 右. 上. 若獣	同一個体
		イノシシ	上腕骨. 左. 若獣	同一個体
		イノシシ	仙椎1	

遺構名	時期	種名	部位	備考
SK-1056	安行Ⅲ a	イノシシ	大腿骨 1. 若獣	
		イノシシ	大腿骨. 左. 上. 若獣	
		イノシシ	中手OR中足骨 2個	
		イノシシ	膝蓋骨. 左?	
		イノシシ	橈骨. 右. 下. 老獣?	
		イノシシ	橈骨. 右. 若獣	同一個体
		イノシシ	脛骨. 右. 上	
		イノシシ	脛骨 1. 左. 下. 成獣	
		イノシシ	腓骨. 老獣?	
		サカナ	骨片 1	
		シカ	角. 左. 成獣	
		シカ	基節骨 1. 若獣	
		シカORイノシシ	腰椎 1	
			陸獣胸骨 2	
	獣骨片 8			
	陸獣肋骨片 6			
SK-1065	安行 I	サカナ	3個	
SK-1066	安行Ⅲ a	ヤマトシジミ	4個	
		ハマグリ	1個	
		シオフキ	1個	
		サルボウ	1個	
		オオタニシ	1個	
		キツネ	上腕骨左成獣	
		ヒト	上腕骨左	(胎児?)
		カモ	中手骨右	中小
		イノシシ	肩甲骨左若獣. 中手骨または中足骨 1	
			獣骨片 3	
	家畜?破片 1			
SK-1067A	[中期]	ヤマトシジミ	1 (長さ45mm. 大型)	
		オオタニシ	2個	
SK-1090	阿玉台Ⅲ~Ⅳ	シカ	下顎関節突起右若獣. 中手骨または中足骨下 1	
		イノシシ	尺骨左・右	
		イノシシ	第3後臼歯右	未出歯
			獣類椎骨 1, 獣類片15	
SK-1091	安行Ⅱ	イノシシ	歯片 1	
SK-1104	中期中葉		獣骨片 1	
SK-1111	後期		獣骨片 4	
SK-1124	阿玉台Ⅳ	イノシシ	肩甲骨. 右. 若獣	
SK-1139	中期中葉		獣骨片 1	
SK-1153	加曾利 E I	イノシシ	上M3左	

茨城県教育財団文化財調査報告第116集
伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画
整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 2
前田村遺跡C・D・E区
(中 巻)

平成9 (1997) 年3月19日印刷
平成9 (1997) 年3月25日発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310 水戸市見和1丁目356番地の2
TEL 029-225-6587

印刷 株式会社高野高速印刷
〒310 水戸市東原2-8-1
TEL 029-231-0989

前田村遺跡C・D区遺構配置図



前田村遺跡 E 区遺構配置図

